桑名市
「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」
「子ども・若者の生活実態・意識調査」
結果報告書

令和6（2024）年7月

目　　次

調査の概要

1　調査の目的 1
2　調査方法、回収結果等 1
3　集計・分析にあたって 2

第１部　子ども・子育て支援に関するニーズ調査

Ⅰ　就学前の子どもの保護者調査

1　子どもと家族の状況等 6
2　保護者の就労状況 11
3　平日の定期的な教育・保育事業 21
4　地域の子育て支援事業 39
5　土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業 46
6　子どもが病気の時の対応 51
7　不定期な教育・保育事業等 56
8　小学校就学後の放課後の過ごし方 62
9　仕事と子育ての両立 66
10　相談・情報提供 70
11　子育てに対して感じていること 72
12　子育てと地域との関わりや自主的な活動 77
13　子どもの権利について 78

Ⅱ　小学生の保護者調査

1　子どもと家族の状況等 82
2　子どもの生活状況 87

3　保護者の就労状況..... 89
4　放課後等の子どもの居場所 99
5　子どもが病気の時の対応 105
6　仕事と子育ての両立.....111
7　子育てに対して感じていること.....113
8　相談・情報提供.....118
9　子育てと地域との関わり 120
10　子どもの権利について 123

第２部　子ども・若者の生活実態・意識調査

（13～29 歳の市民）

1　本人の生活状況等.....126
2　働くこと（仕事）について 133
3　将来について 136
4　人とのかかわりについて 138
5　居場所について.....142
6　家族のケア 144
7　子どもの権利について 149
8　住みやすい町について 151

第３部　調査票

1　子ども・子育て支援に関するニーズ調査
○　就学前の子どもの保護者用.....160
○　小学生の保護者用 179
2　子ども・若者の生活実態・意識調査.....192

調査の概要

1　調査の目的

(1)　子ども・子育て支援に関するニーズ調査

この調査は、子ども・子育て支援法に基づく「子ども・子育て支援事業計画」を策定するための基礎資料を得ることを目的に小学校６年生以下の児童のいる保護者を対象に実施しました。

①　就学前の子どもの保護者調査

就学前の子どもの保護者に対しては、教育・保育事業の利用状況や利用意向、病気・病後の対応、子育て支援事業の利用状況や利用意向、小学校就学後の放課後の過ごし方、仕事と子育てなどについてたずねました。

②　小学生の保護者調査

小学生の保護者に対しては、放課後児童クラブの利用状況や利用意向、病気・病後の対応、仕事と子育てなどについてたずねました。

(2)　子ども・若者の生活実態・意識調査

この調査は、こども基本法に基づく「こども計画」を策定するための基礎資料を得ることを目的に、こども・若者の当事者である13～29歳の市民を対象に実施しました。

2　調査方法、回収結果等

(1)　調査方法等

調査の種類	子ども・子育て支援に関するニーズ調査		子ども・若者の生活実態・意識調査
	就学前の子どもの保護者調査	小学生の保護者調査	
調査対象者	令和６年２月１日現在、就学前の子どもの保護者（全世帯）※	令和６年２月１日現在、小学生の保護者（抽出）	令和６年２月１日現在、13～29歳の市民
調査方法	配付：郵送 回収：webおよび郵送	配付：学校（一部郵送） 回収：webおよび郵送	配付：郵送 回収：webおよび郵送
調査期間	令和６年２月８日～29日		

※世帯に就学前の子どもが複数いる場合には、いずれか一人の子どもの状況等を調査

(2)　回収結果

調査の種類			子ども・子育て支援に関するニーズ調査		子ども・若者の生活実態・意識調査
			就学前の子どもの保護者調査	小学生の保護者調査	
回収結果	配布数		4,722	2,000	3,000
	回収数	郵送	964	513	181
		Web	1,443	899	620
		計	2,407	1,412	801
	比率	郵送	(40.0%)	(36.3%)	(22.6%)
		Web	(60.0%)	(63.7%)	(77.4%)
		計	(100.0%)	(100.0%)	(100.0%)
	回収率		51.0%	70.6%	26.7%

3　集計・分析にあたって

1)　図表中のｎ（Number of Caseの略）は回答数を示しています。

2)　選択項目別の回答の比率は、その設問の回答数（ｎ）を基数として算出しました。したがって、複数回答の設問については、すべての比率を合計すると100%を超えます。

3)　回答率（%）は、小数点第２位以下を四捨五入しました。したがって、単数回答の場合であっても比率の合計が100%にならない場合があります。

4)　調査項目によっては、2008年度、2013年度および2018年度に実施した調査と比較分析をしました。本文及び図表中、「2008年」とあるのは2008年度の調査結果、「2013年」とあるのは2013年度の調査結果、「2018年」とあるのは2018年度の調査結果、「2023年」とあるのは2023年度に実施した今回の調査結果を指します。

5)　分析項目となる属性について、不詳は有効な比較対象とならないため図表及び分析から省略しています。したがって、属性の合計と全体（ｎ）は一致しません。各調査には、次表のとおり年齢、配偶関係、母親の就労状況等について不詳があります。

①　子ども・子育て支援に関するニーズ調査

区　分	子どもの生年月・学年	同居者（世帯状況）	母親の就労状況	教育・保育利用状況	居住地区
就学前保護者	37	6	24	8	36
小学生保護者	2	3	8		1

② 子ども・若者の生活実態・意識調査

区　　分	性別	年齢	就労・就学状況	子育ての状況	居住地区
13～29歳市民	13	4	2	3	28

6) 就学前の子どもの年齢については次の区分で集計しました。

2023年４月以降生まれ	０歳
2022年４月～2023年３月生まれ	１歳
2021年４月～2022年３月生まれ	２歳
2020年４月～2021年３月生まれ	３歳
2019年４月～2020年３月生まれ	４歳
2018年４月～2019年３月生まれ	５歳
2017年４月～2018年３月生まれ	６歳

第１部　子ども・子育て支援に関するニーズ調査

Ⅰ　就学前の子どもの保護者調査

1　子どもと家族の状況等

(1)　居住地区［Ｑ１］

回答のあった子どもの居住地区は、図表１－１・２のとおりです。

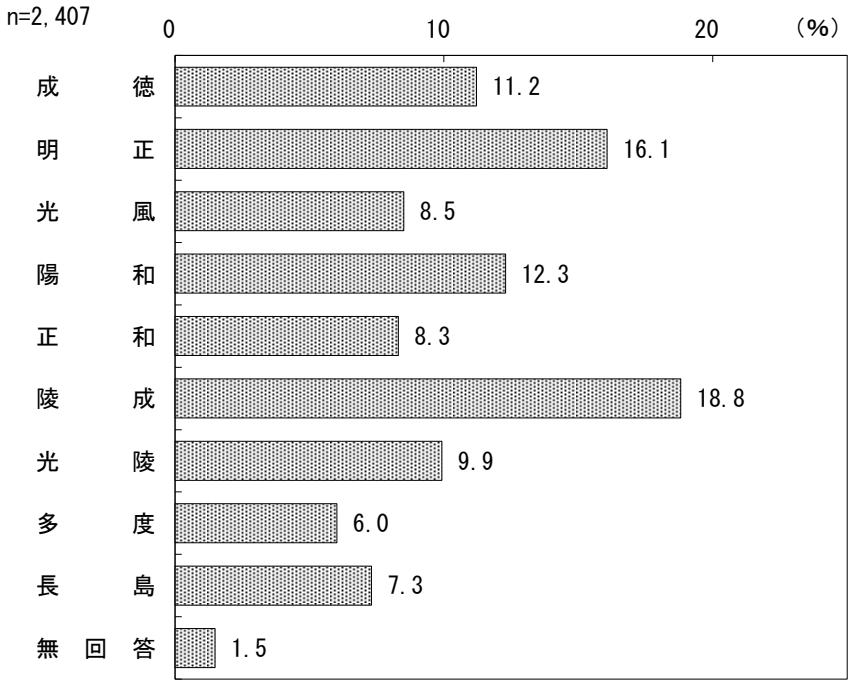
図表１－１　居住地区〈小学校区〉

地区	日進	精義	立教	城東	益世	修徳	大成	桑部	在良	七和	久米	深谷	城南
人	94	78	52	21	198	127	204	71	118	112	88	34	129
%	3.9	3.2	2.2	0.9	8.2	5.3	8.5	2.9	4.9	4.7	3.7	1.4	5.4

地区	大和	大山田東	大山田北	大山田西	大山田南	藤が丘	星見ヶ丘	多度東	多度中	多度北	多度青葉	長島北部	長島中部
人	32	224	108	36	94	135	95	15	85	26	19	45	112
%	1.3	9.3	4.5	1.5	3.9	5.6	3.9	0.6	3.5	1.1	0.8	1.9	4.7

地区	伊曽島	わからない・無回答	全体
人	19	36	2,407
%	0.8	1.5	100.0

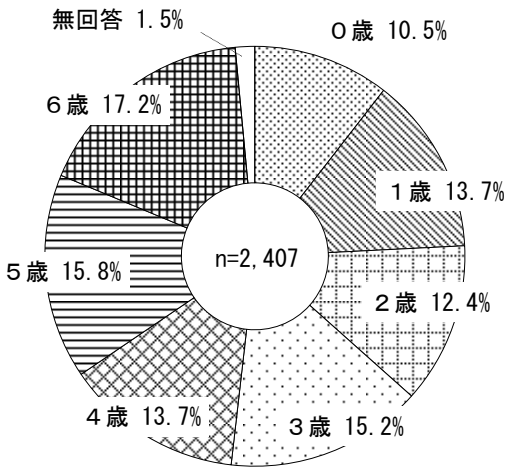
図表１－２　居住地区〈中学校ブロック〉



(2)　子どもの年齢［Ｑ２］

回答のあった子どもの年齢は、図表１－３のとおりです。

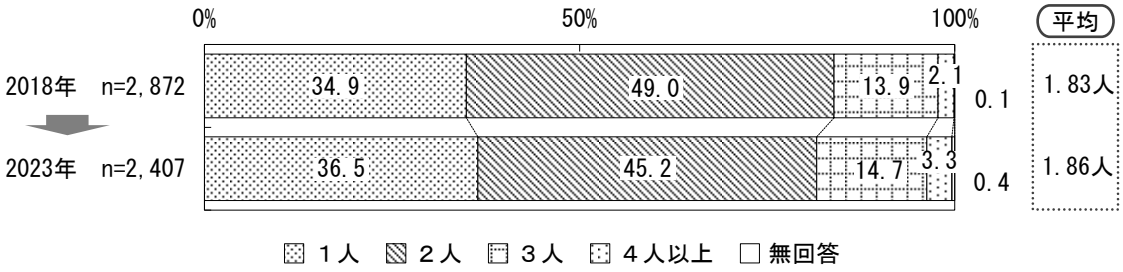
図表１－３　子どもの年齢



(3)　子どもの人数［Ｑ３］

子どもの人数は、「２人」が45.2%を占めており、「１人」「３人」「４人以上」の順となっています。子ども数の平均は1.86人です。

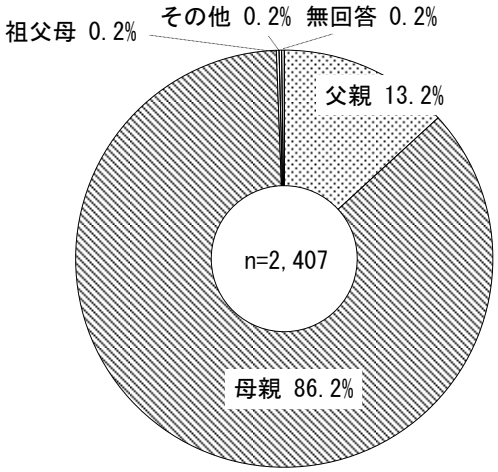
図表１－４　子どもの人数



(4)　調査の回答者［Ｑ４］

本調査の回答者は、「母親」が86.2%を占めています。

図表１－５　調査の回答者

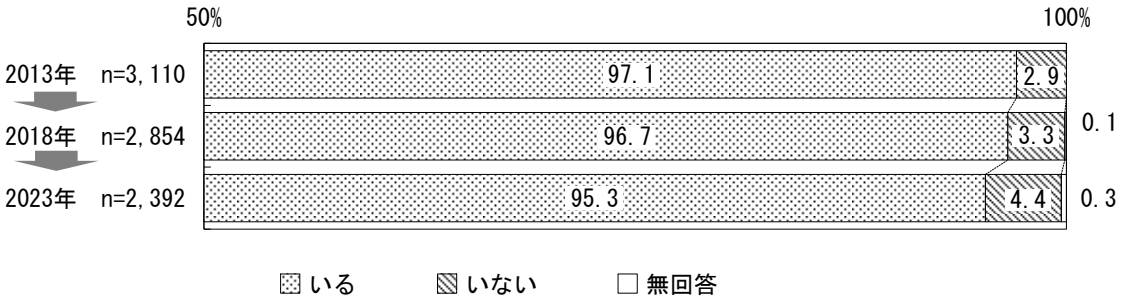


(5)　配偶関係［Ｑ５］

回答者の配偶関係をたずねたところ、配偶者が「いる」が95.2%、「いない」が4.4%となっています。

過去の調査結果との比較では、「いない」が毎回上昇しており、2018年からは1.1ポイント上昇しています。

図表１－６　配偶関係

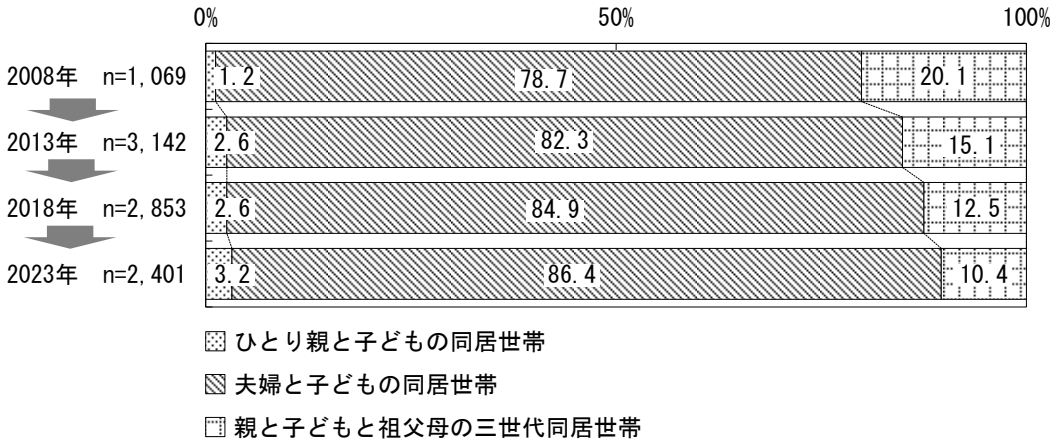


(6)　同居家族（世帯構成）［Ｑ６］

同居者から世帯構成をみると、夫婦と子どもの同居世帯が86.4%と圧倒的に高く、親と子どもと祖父母の三世代同居世帯が10.4%、ひとり親と子どもの同居世帯は3.2%です。

過去の調査結果との比較では、夫婦と子どもの同居世帯が上昇する一方、親と子どもと祖父母の三世代同居世帯が低下しています。

図表１－７　世帯構成



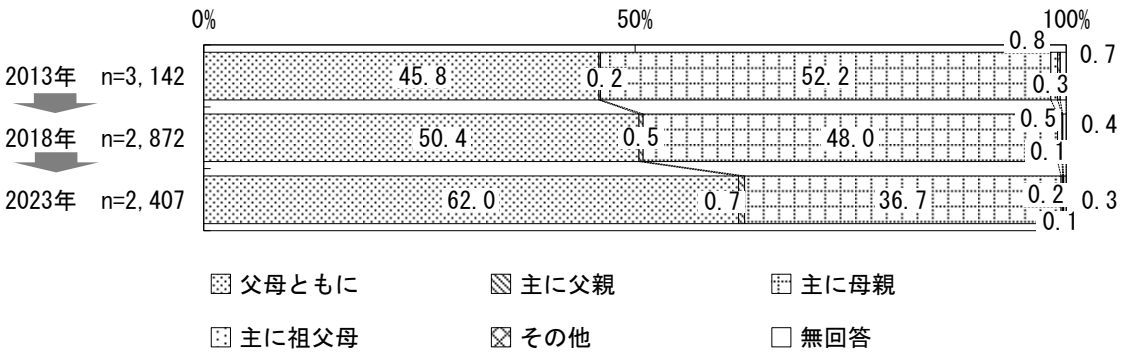
注：無回答等を除く

(7)　子育てを主に行っている人［Ｑ７］

子育てを主に行っているのは、「父母ともに」が62.0%と最も高く、次いで「主に母親」が36.7%、「主に父親」が0.7%、「主に祖父母」が0.2%です。2018年の調査結果との比較では、「父母ともに」が10ポイント以上上昇しています。

「その他」として、「母と祖父母が協力して」「父母と義母」の記載がありました。

図表１－８　子育てを主に行っている人

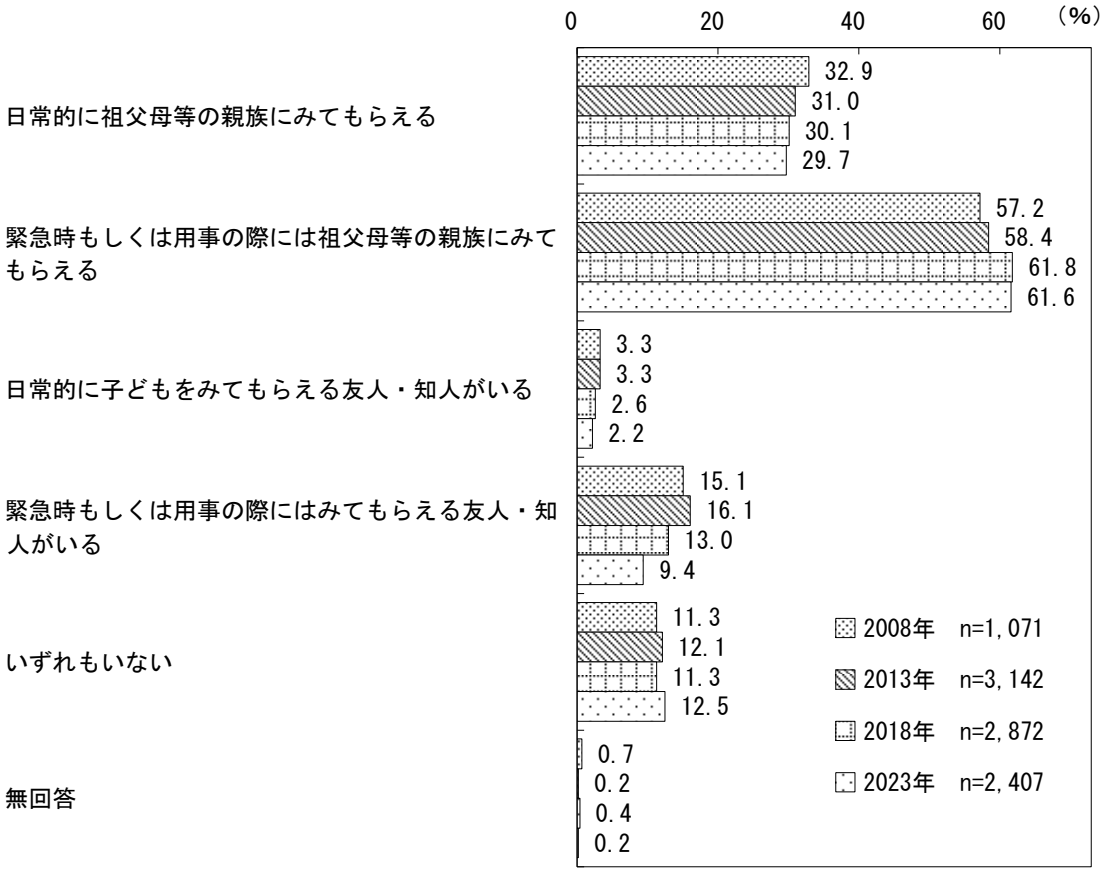


(8)　子どもをみてもらえる親族・知人の有無［Ｑ８］

子どもをみてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 61.6%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 29.7%、「いずれもいない」が 12.5%となっています。

過去の調査結果との比較では、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」「緊急時もしくは用事の際にはみてもらえる友人・知人がいる」および「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が低下しています。

図表１－９　子どもをみてもらえる親族・知人の有無（複数回答）



2 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

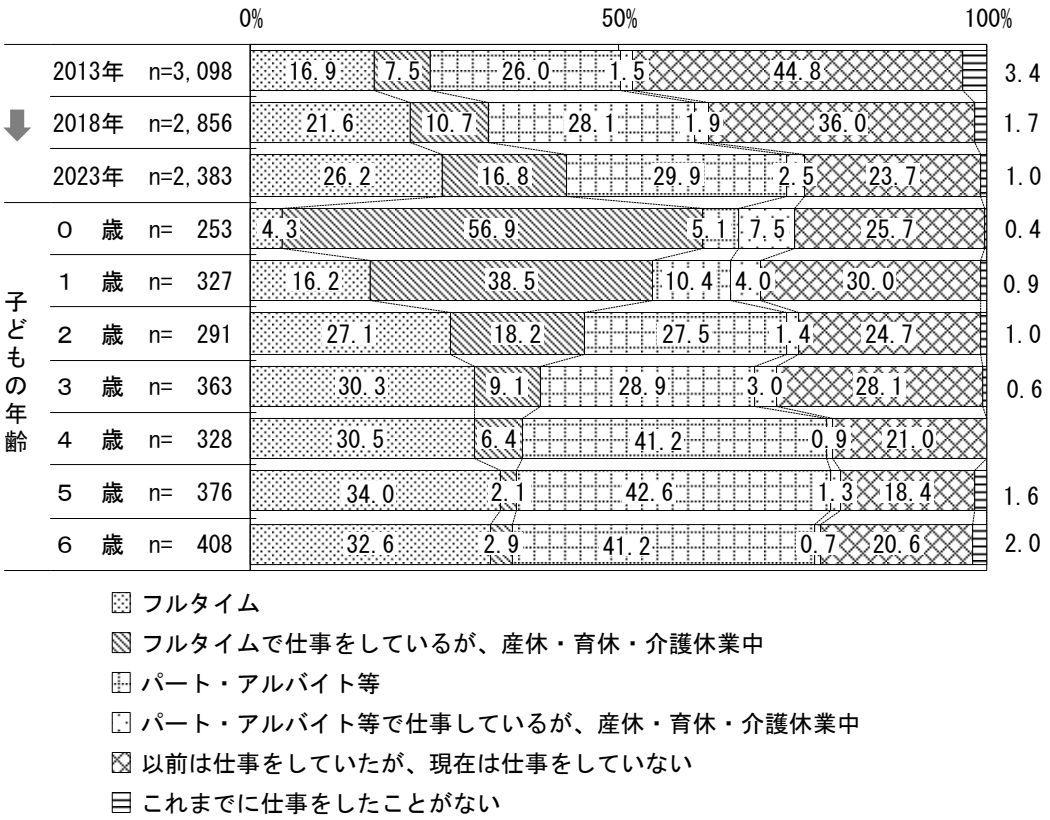
① 就労状況［Ｑ９］

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が29.9%と最も高く、次いで「フルタイム」が26.2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が23.7%です。

過去の調査結果との比較では、「フルタイム」「パート・アルバイト等」など〈仕事をしている〉が上昇しています。特に「フルタイムで仕事をしているが、産休・育休・介護休業中」が2018年から2023年にかけて５ポイント以上大きく上昇しています。

子どもの年齢別にみると、０・１歳では「フルタイムで仕事をしているが、産休・育休・介護休業中」が最も高くなっているのに対し、２歳以降では「フルタイム」または「パート、アルバイト等」が最も高くなっています。

図表１－10　母親の就労状況



② 平均就労日数［Q10－１］

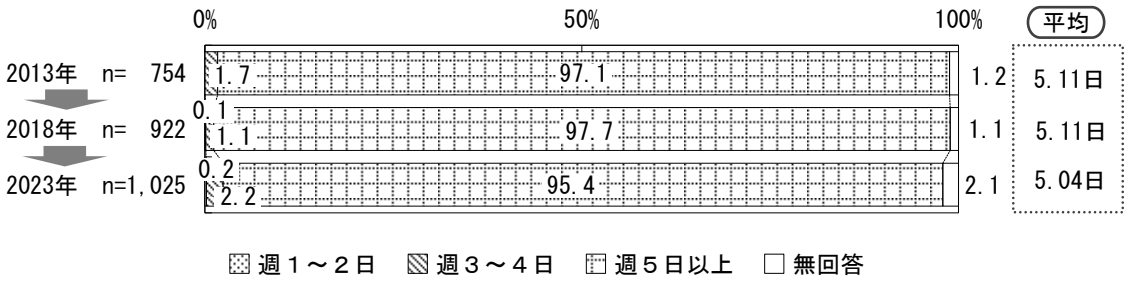
フルタイムの就労日数は、「週５日以上」が95.4%を占めています。

パート・アルバイト等の母親の就労日数は、「週３～４日」が52.3%と最も高く、次いで「週５日以上」が36.8%となっており、１週あたりの平均就労日数は4.03日です。

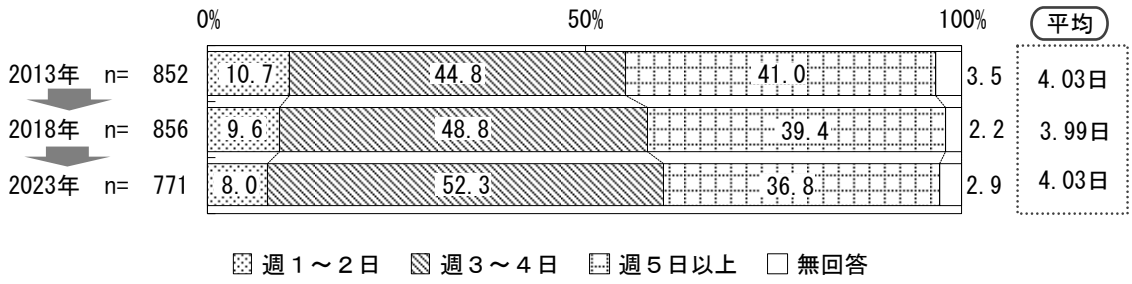
過去の調査結果との比較では、フルタイムには大きな差異は見られませんが、パート・アルバイト等は「週５日以上」が低下する一方、「週３～４日」が上昇しています。

図表１－11　母親の就労日数

＜フルタイム＞



＜パート・アルバイト等＞



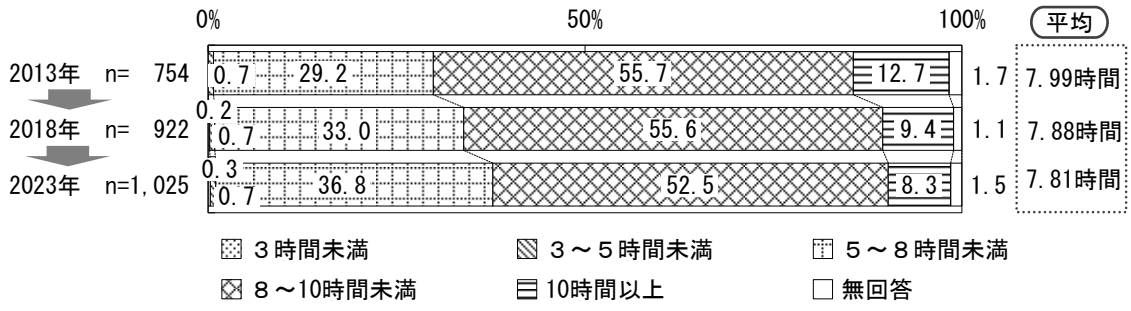
③ 就労時間［Q10－２］

フルタイムの１日あたりの就労時間は、「８～10時間未満」が52.5%と最も高く、次いで「５～８時間未満」が36.8%、「10時間以上」が8.3%となっています。就労時間の平均は7.81時間です。過去の調査結果との比較では、「10時間以上」が低下し、平均時間も減少しています。

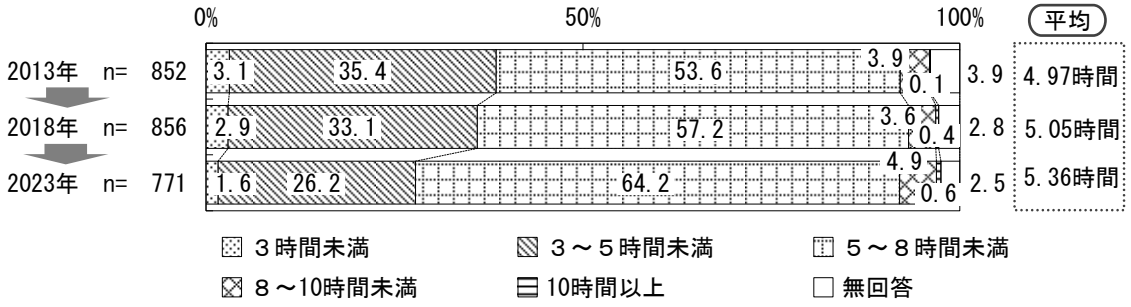
パート・アルバイト等の１日あたりの就労時間は、「５～８時間未満」が64.2%を占めており、次いで「３～５時間」が26.2%となっています。就労時間の平均は5.36時間となっています。過去の調査結果との比較では、「５～８時間未満」が上昇する一方、「３～５時間」が低下しており、平均時間は増加しています。

図表１－12　母親の就労時間

＜フルタイム＞



＜パート・アルバイト等＞

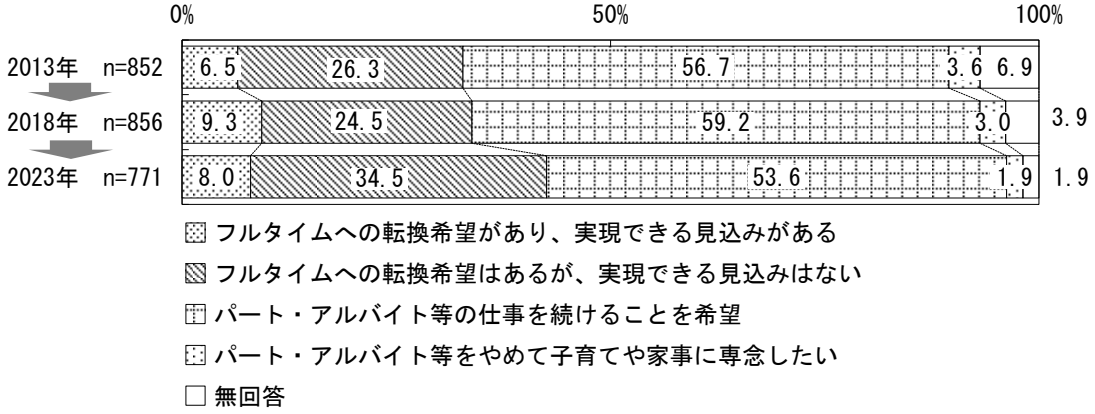


④　フルタイムへの転換希望［Q11］

パート・アルバイト等と回答した人にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が53.6%を占めています。「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みがない」が34.5%、「フルタイムへの希望があり、実現できる見込みがある」が8.0%であり、合わせて《フルタイムへの転換希望がある》は42.5%となっています。「パート・アルバイト等をやめて、子育てや家事に専念したい」は1.9%です。

過去の調査結果との比較では、2018年に比べ、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みがない」が10ポイント上昇しています。

図表１－13　フルタイムへの転換希望



(2) 現在、仕事をしていない母親の就労意向［Q12］

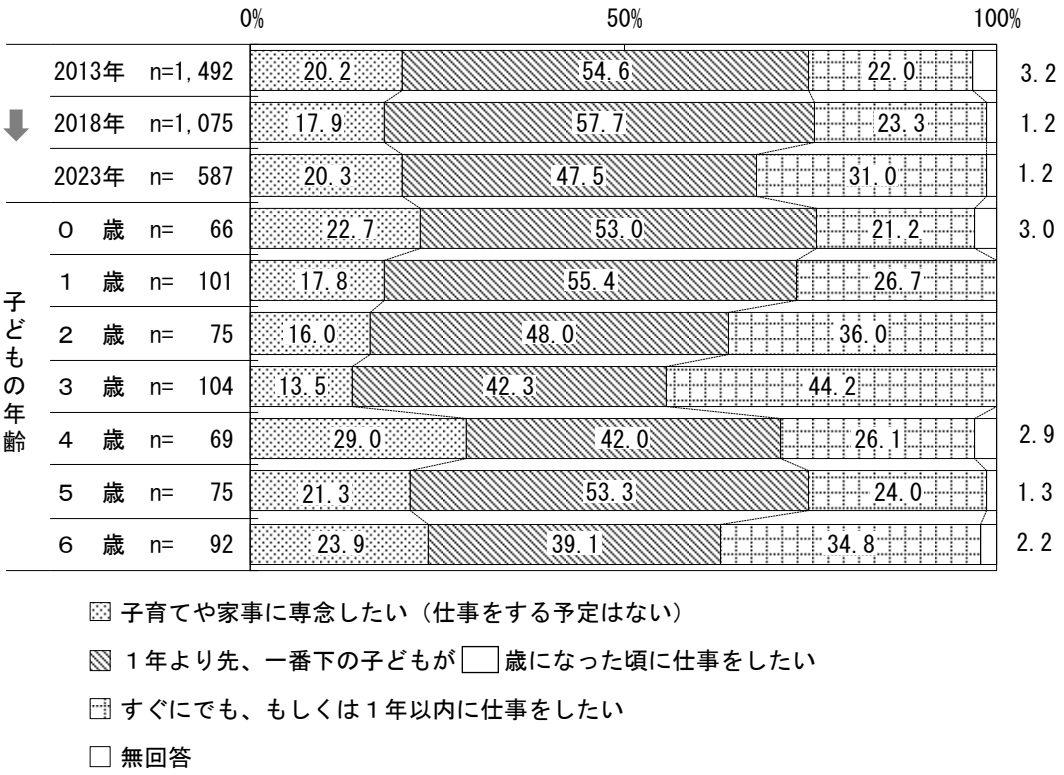
① 就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「１年より先、一番下の子どもが □ 歳になった頃に就労したい」が47.5%と最も高く、次いで「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が31.0%、「子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）」が20.3%となっています。「１年より先、一番下の子どもが □ 歳になった頃に就労したい」および「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」の合計《就労したい》は78.5%になります。

過去の調査結果との比較では、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が大幅に上昇しています。

子どもの年齢別にみると、２歳、３歳および６歳では「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が30%以上の高い率を示しており、特に３歳では40%を超えています。

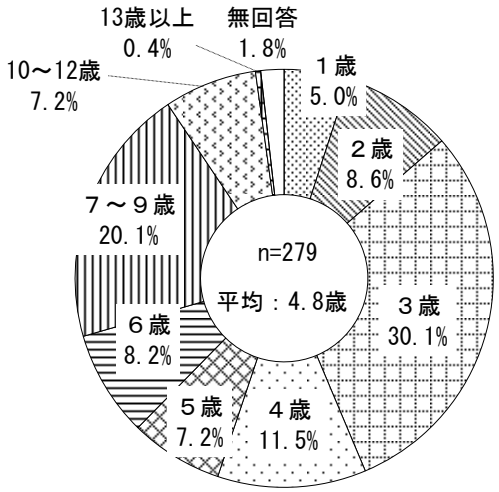
図表１－14　母親の就労意向



② 子どもが何歳になったら就労したいか

①で、「１年より先、一番下の子どもが □歳になった頃に就労したい」と回答した279人に、子どもが何歳になったら就労したいかをたずねたところ、「３歳」が30.1%を占めています。次いで「７～9歳」が20.1%、「４歳」が11.5%となっており、平均は4.8歳です。

図表１－15　子どもが何歳になったら就労したいか

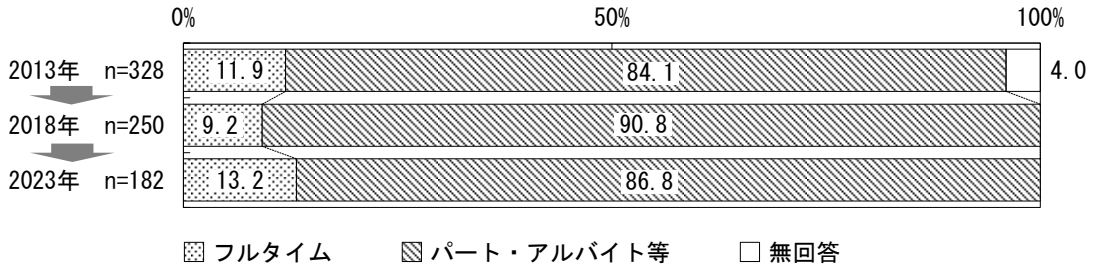


③ 希望する就労形態

①で、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」と回答した182人に、希望する就労形態をたずねたところ、「パート・アルバイト等」が86.8%を占めています。

過去の調査結果との比較では、2018年に比べ「フルタイム」が４ポイント上昇しています。

図表１－16　希望する就労形態



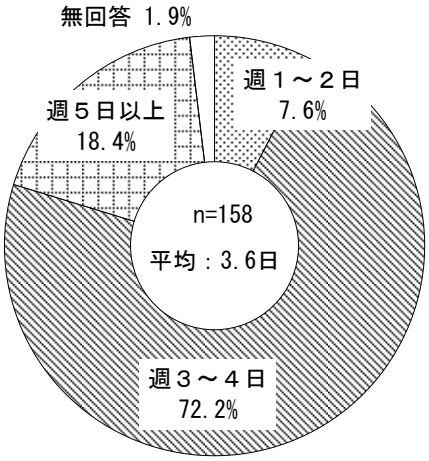
④　希望する就労日数、就労時間

③で、「パート・アルバイト等」と回答した158人に、希望する就労日数をたずねたところ、「週３～４日」が72.2%を占めています。次いで「週５日以上」が18.4%となっており、希望就労日数の平均は3.6日です。

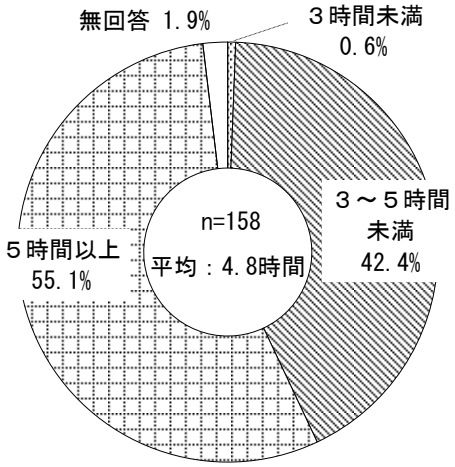
希望する１日あたりの就労時間は、「５時間以上」が55.1%、「３～５時間未満」が42.4%で、平均は4.8時間となります。

図表１－17　希望する就労日数、就労時間

■就労日数



■就労時間



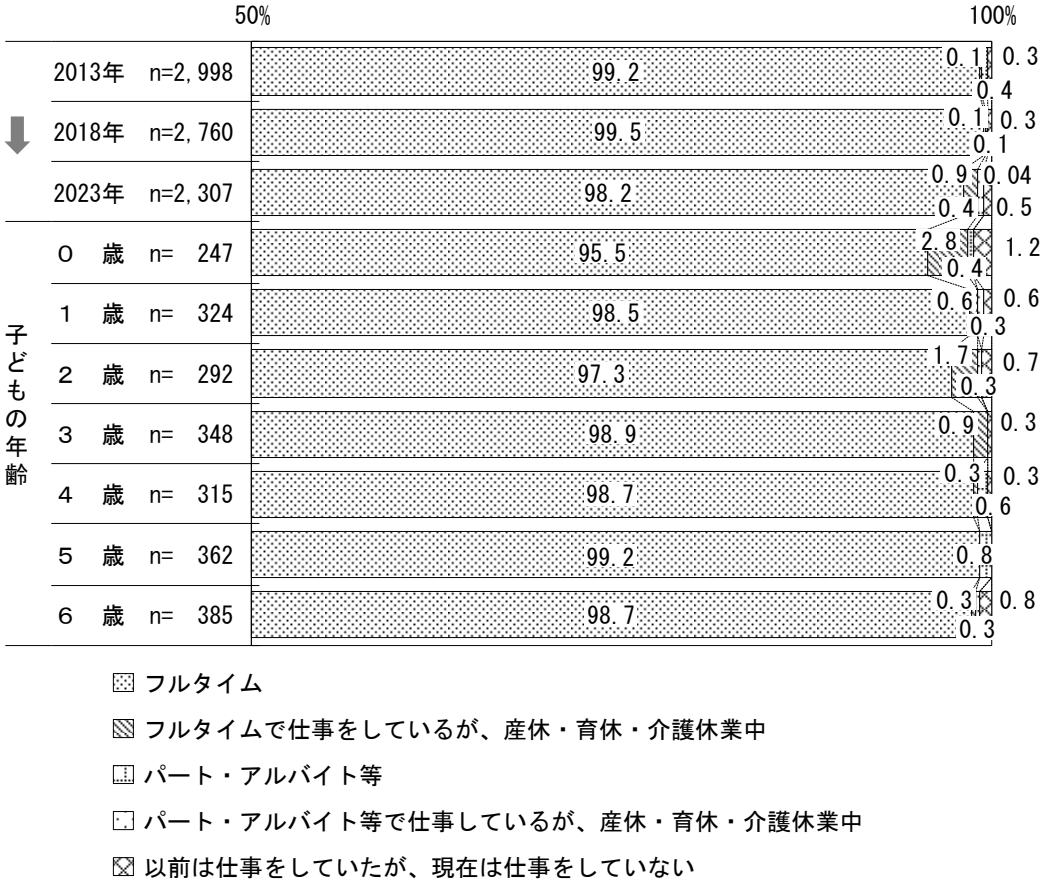
(3) 父親の就労状況

① 就労状況[Q13]

父親の就労状況は、「フルタイム」が98.2%を占めており、「フルタイムで仕事をしているが、育休・介護休業中」が0.9%、「以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」が0.5%、「パート・アルバイト等」が0.4%、「パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中」が0.04%（１人）です。「これまでに仕事をしたことがない」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

過去の調査結果との比較では、「～育休・介護休業中」がわずかですが、高くなってきています。

図表１－18　父親の就労状況



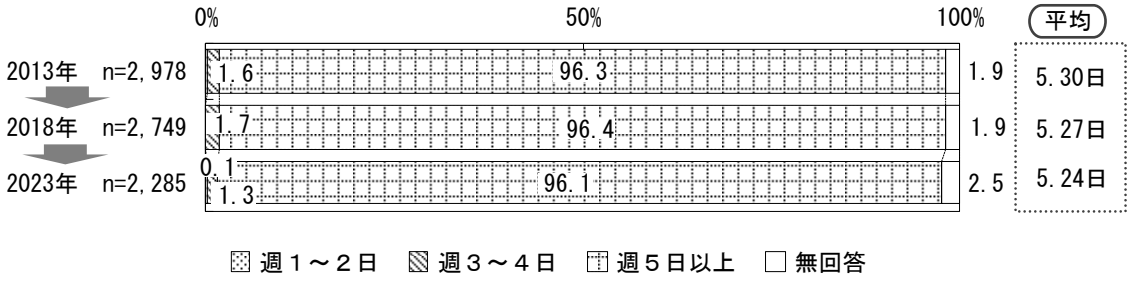
② 平均就労日数［Q14－1］

フルタイムの就労日数は、「週５日以上」が96.1%を占めており、平均は5.24日です。

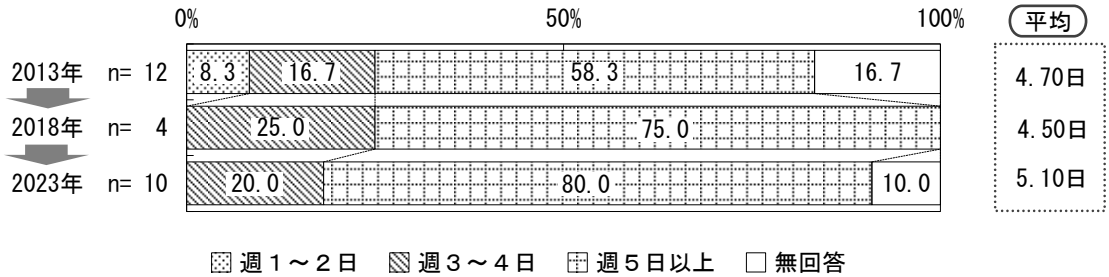
パート・アルバイト等の就労日数は、「週５日以上」が80.0%、「週３～４日」が20.0%となっています。なお、１週あたりの就労日数の平均は5.10日です。

図表１－19　父親の平均就労日数

＜フルタイム＞



＜パート・アルバイト等＞



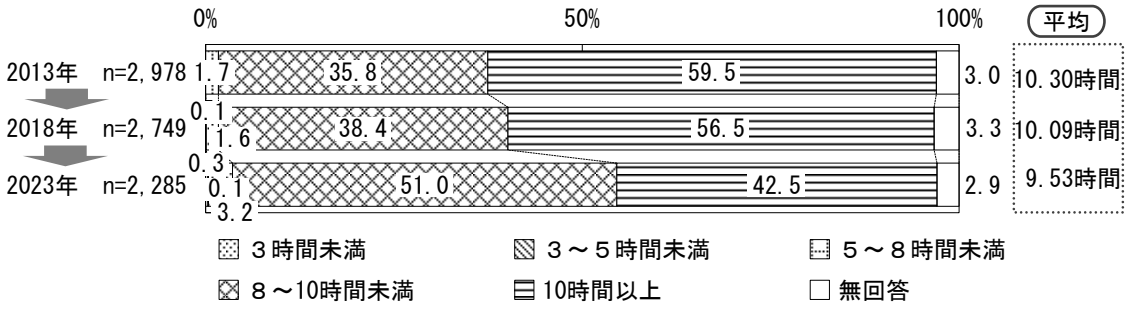
③ 就労時間［Q14－2］

フルタイムの１日あたりの就労時間は、「８～10時間未満」が51.0%と最も高く、次いで「10時間以上」が42.5%となっています。就労時間の平均は9.53時間です。パート・アルバイト等の就労時間は、「５～８時間」が50.0%、「３時間未満」「８～10時間未満」および「10時間以上」がそれぞれ20.0%で、１日あたりの就労時間の平均は6.90時間となっています。

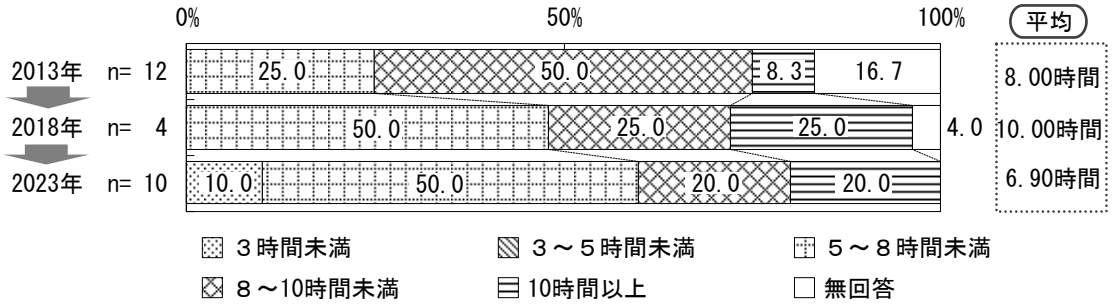
過去の調査結果との比較では、平均就労時間がフルタイム、パート・アルバイト等ともに短くなってきています。

図表１－20　父親の平均就労時間

＜フルタイム＞



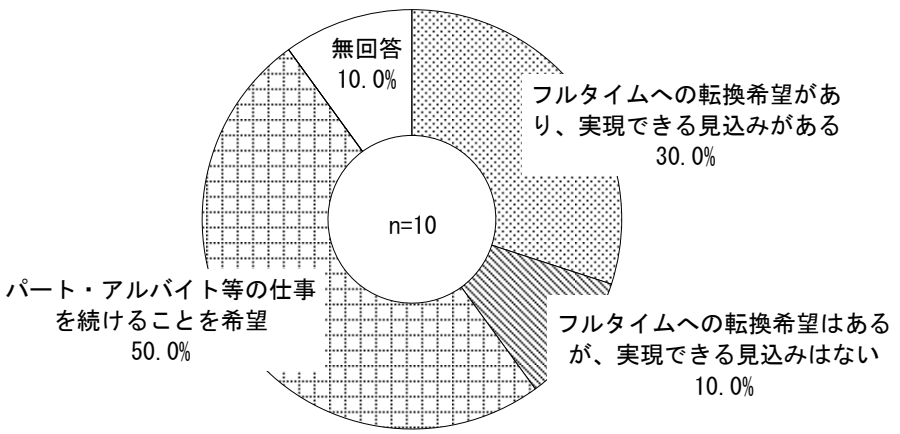
＜パート・アルバイト等＞



④　フルタイムへの転換希望［Q15］

パート・アルバイト等と回答した10人にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が50.0%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が30.0%、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が10.0%となっています。「パート・アルバイト等をやめて、子育てや家事に専念したい」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

図表１－21　フルタイムへの転換希望



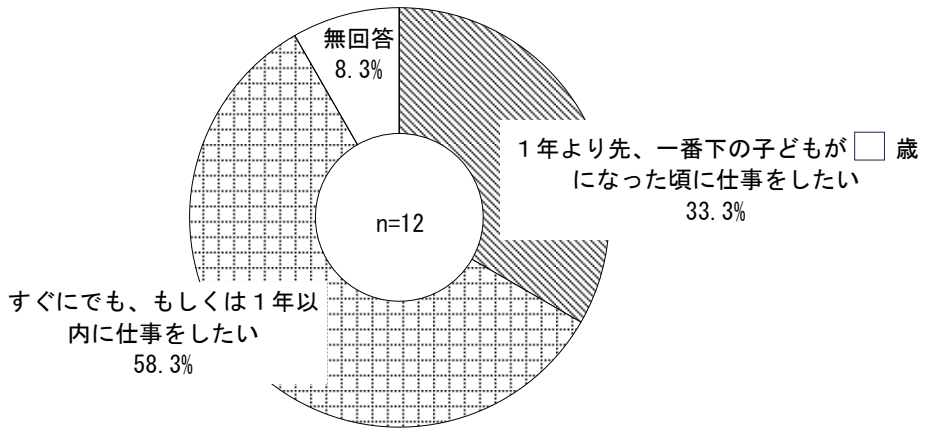
(4) 父親の就労意向[Q16]

現在、仕事をしていない父親（Q13で「以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」と回答した12人）の就労意向は、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が58.3%（７人）、「１年より先、一番下の子どもが □ 歳になった頃に就労したい」が33.3%（４人）です。「子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

「１年より先、一番下の子どもが □ 歳になった頃に就労したい」と回答した４人が就労したいと考える子どもの年齢は、「１歳」「10～12歳」「13歳以上」および無回答が各１人です。

また、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」と回答した７人のうち６人が「フルタイム」を、１人が「パート・アルバイト等」で「週５日以上」の就労を希望しています。

図表１－22　父親の就労意向

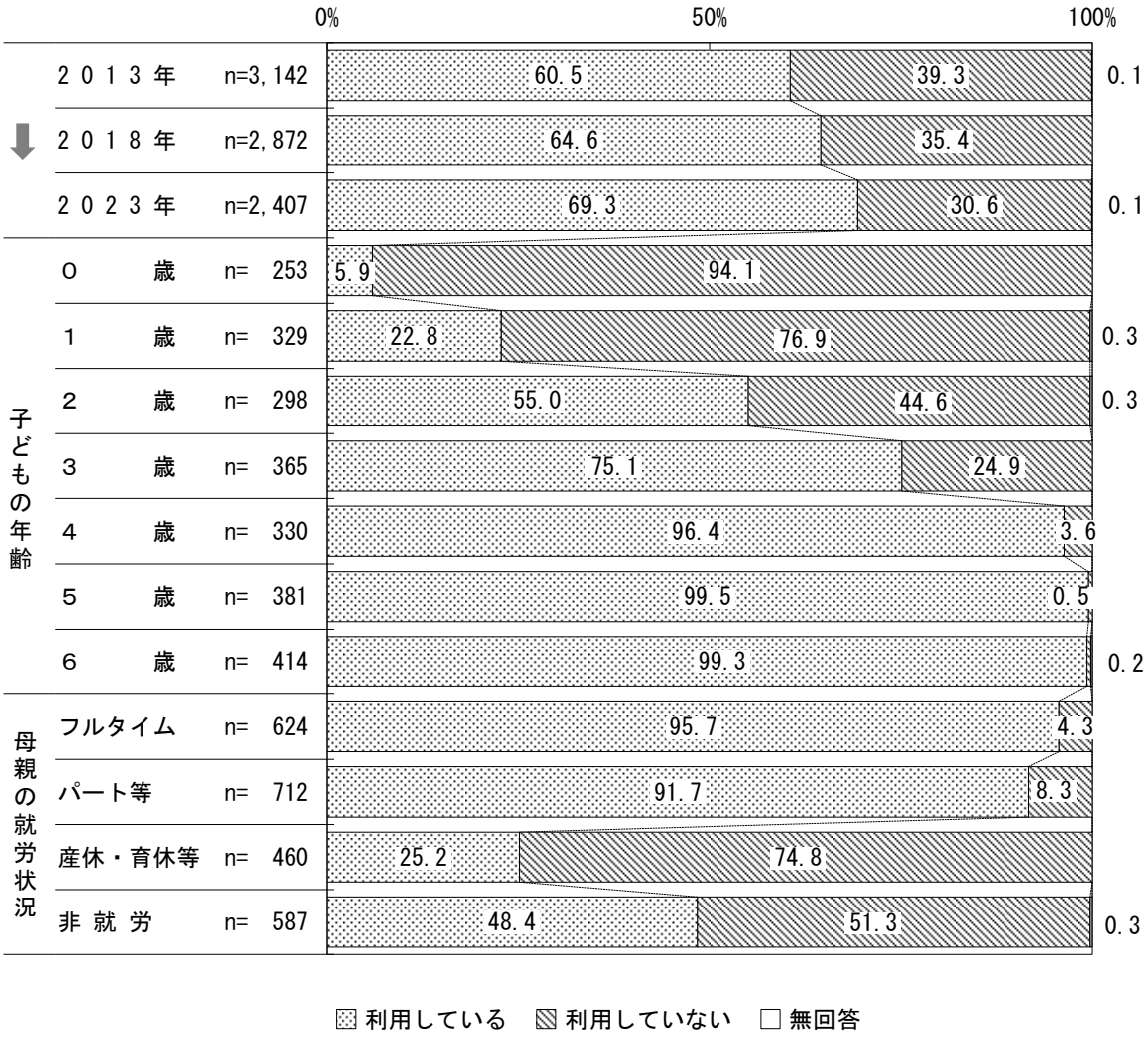


3　平日の定期的な教育・保育事業

(1)　定期的な教育・保育事業の利用の有無［Q17］

定期的な教育・保育事業は、調査回答者の69.3%が利用しています。子どもの年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがい高くなる傾向にあり、４歳では96.4%となり、５・６歳では99%を超えます。母親の就労状況別にみると、フルタイムおよびパート等では90%を超えています。

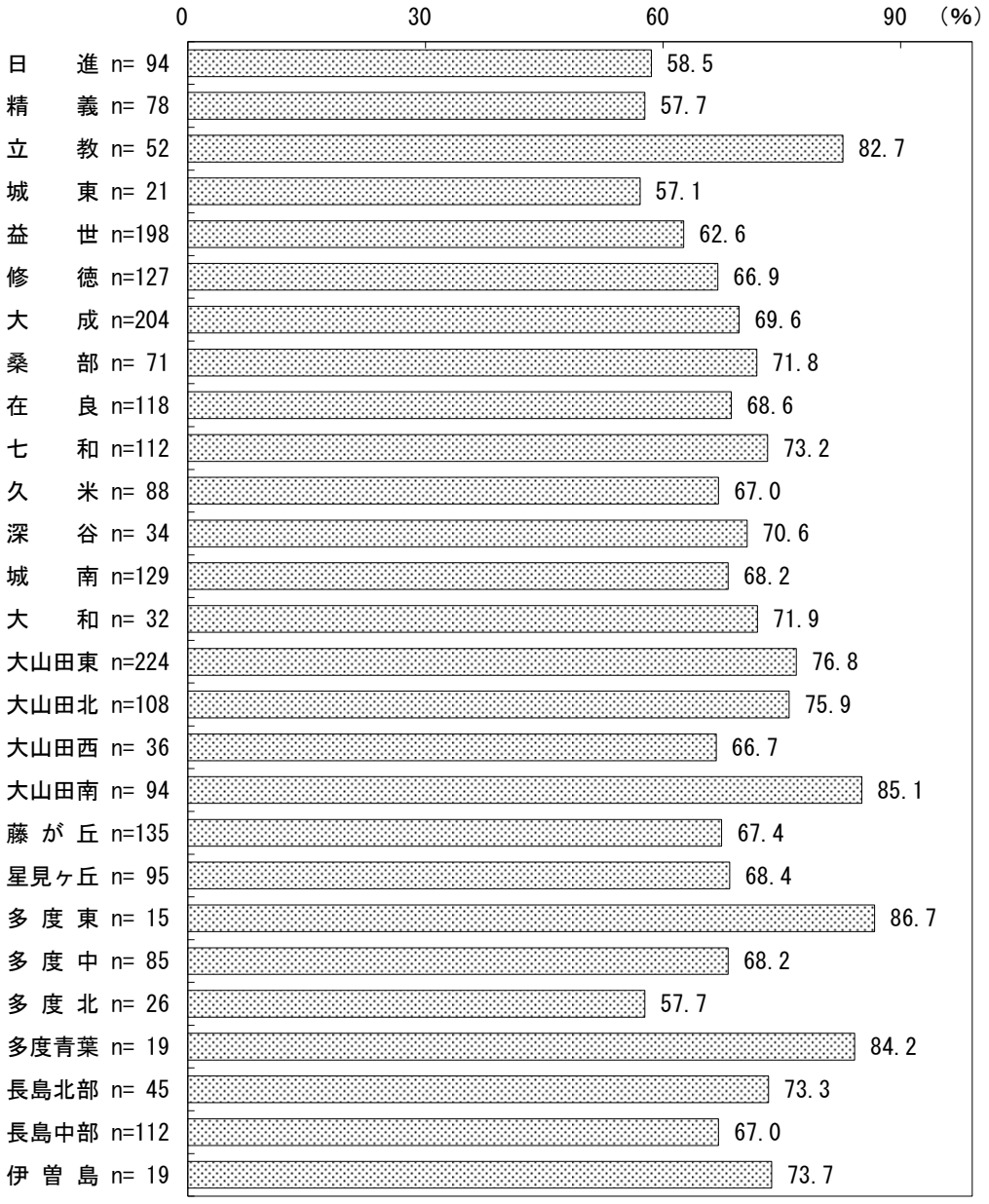
図表１－23　定期的な教育・保育事業の利用の有無



注：本調査における「定期的な教育・保育事業」とは、幼稚園、幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業）、保育所・保育園（認可保育所）、認定こども園、小規模保育施設、事業所内保育施設（企業や病院等が従業員のために運営する施設）、一時保育（私用など理由を問わずに保育所などで一時的に子どもを保育する事業）、その他認可外の保育施設、ファミリーサポートセンター（地域住民による子どもの預かり事業）、その他で、年間を通じて定期的に利用している事業を指します。

小学校区別に利用率（「利用している」の割合）をみると、80%を超えているのが多度東、大山田南、多度青葉および立教です。最も高い多度東と最も低い城東の間には30ポイント近い差があります。

図表１－24　定期的な教育・保育事業の小学校区別利用率（「利用している」の割合）



(2)　利用している事業の種類［Q18－1］

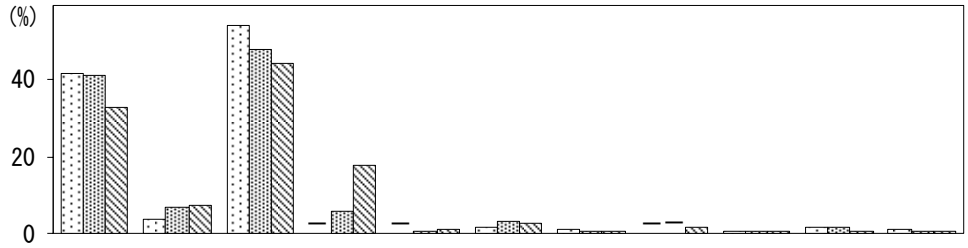
定期的に利用している教育・保育事業の種類は、「保育所・保育園」が43.9%と最も高く、次いで「幼稚園」が32.5%などなっていますが、これらは「認定こども園」等の上昇に伴い低下しています。

子どもの年齢別にみると、３歳未満では「保育所・保育園」が圧倒的に高くなっていますが、３歳以上では「幼稚園」の割合も30%代後半まで上昇します。

母親の就労状況別にみると、非就労は「幼稚園」、それ以外は「保育所・保育園」が高くなっています。

「その他」として、「児童発達支援」「ベビーシッター」「託児所」「プレ幼稚園」などの記載がありました。

図表１－25　利用している事業の種類（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



区分		ｎ	幼稚園	幼稚園の預かり保育	保育所・保育園	認定こども園	小規模保育施設	事業所内保育施設	一時保育	その他の認可外保育施設	ファミリーサポートセンター	その他	無回答
⁘	２０１３年	1,902	41.3	3.6	54.0			1.5	1.4		0.5	1.9	1.0
▦	２０１８年	1,854	40.9	6.7	47.7	5.6	0.3	3.1	0.8		0.4	1.6	0.5
▨	２０２３年	1,667	32.5	7.6	43.9	17.9	1.1	2.5	0.4	1.6	0.4	0.9	0.3
年齢	３歳未満	254	5.5	0.4	55.1	22.8	4.3	9.1	0.8	1.2	－	0.4	0.8
	３歳以上	1,382	37.3	8.9	41.8	17.0	0.6	1.3	0.3	1.7	0.4	0.9	0.2
母親の就労状況	フルタイム	597	8.5	3.5	61.6	22.9	1.2	4.4	0.2	1.7	0.7	0.5	0.3
	パート等	653	34.3	12.9	43.5	16.7	1.5	1.8	0.5	1.5	0.2	0.8	0.3
	産休・育休等	116	23.3	4.3	49.1	25.0	1.7	－	－	0.9	0.9	－	－
	非就労	284	82.4	6.0	5.6	7.4	－	0.7	0.7	1.4	－	2.5	0.4

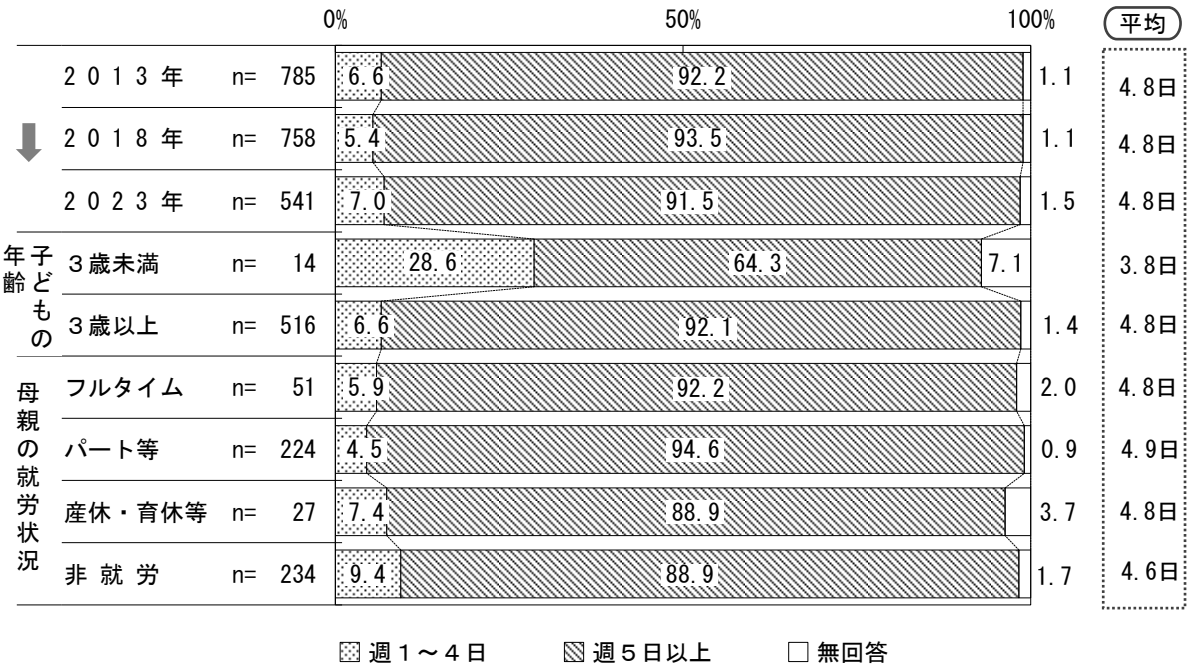
(3) 幼稚園の利用日数と利用時間［Q18－２］

① 利用日数（現在と希望）

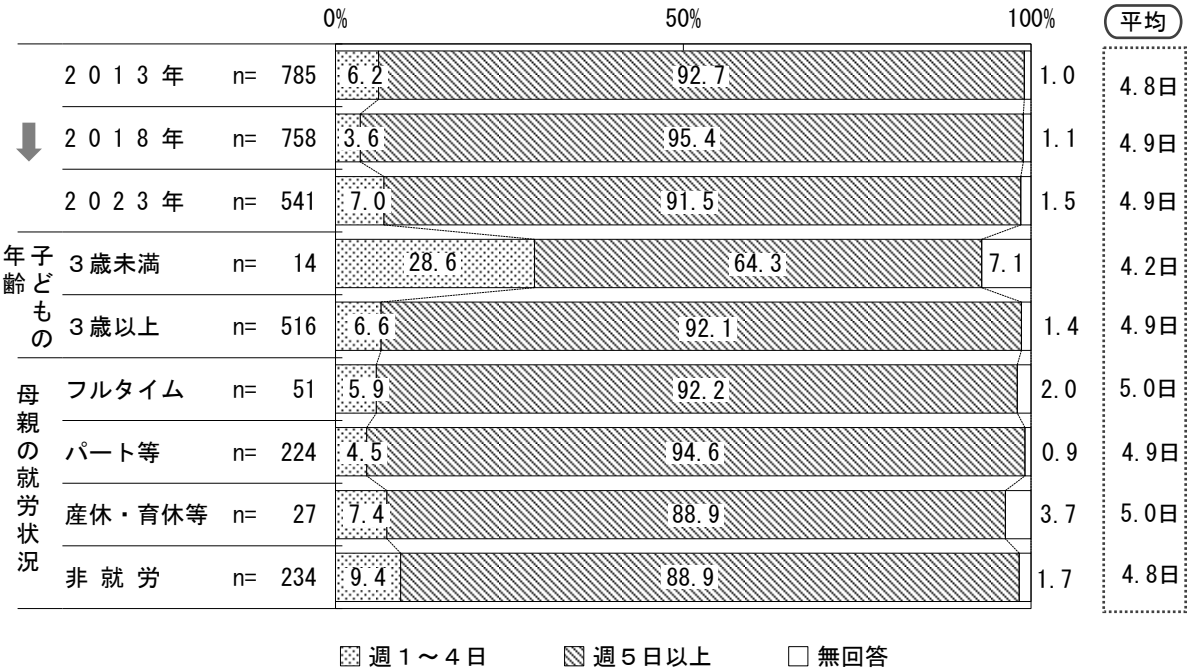
現在の利用日数は、「週５日以上」が91.5%を占めており、平均は4.8日です（図表１－26）。

希望する利用日数は、実際の利用日数とほぼ同様で「週５日以上」が91.5%を占めており、平均は4.9日です（図表１－27）。

図表１－26　幼稚園の現在の利用日数



図表１－27　幼稚園の利用希望日数

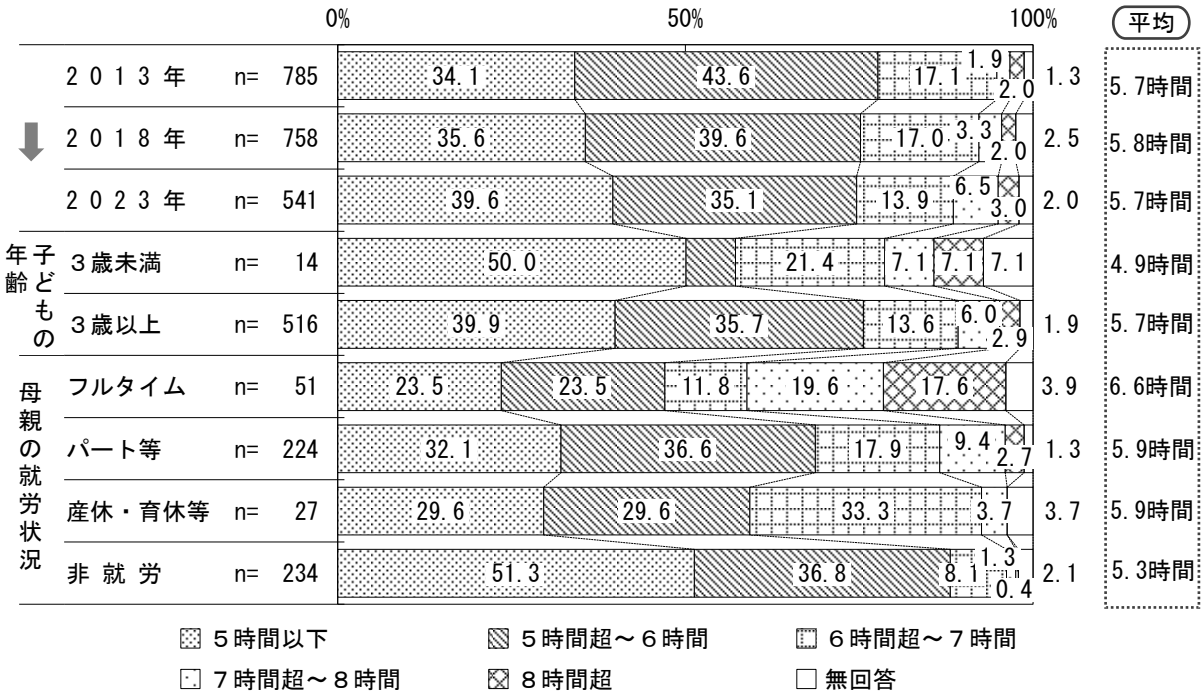


② 利用時間（現在と希望）

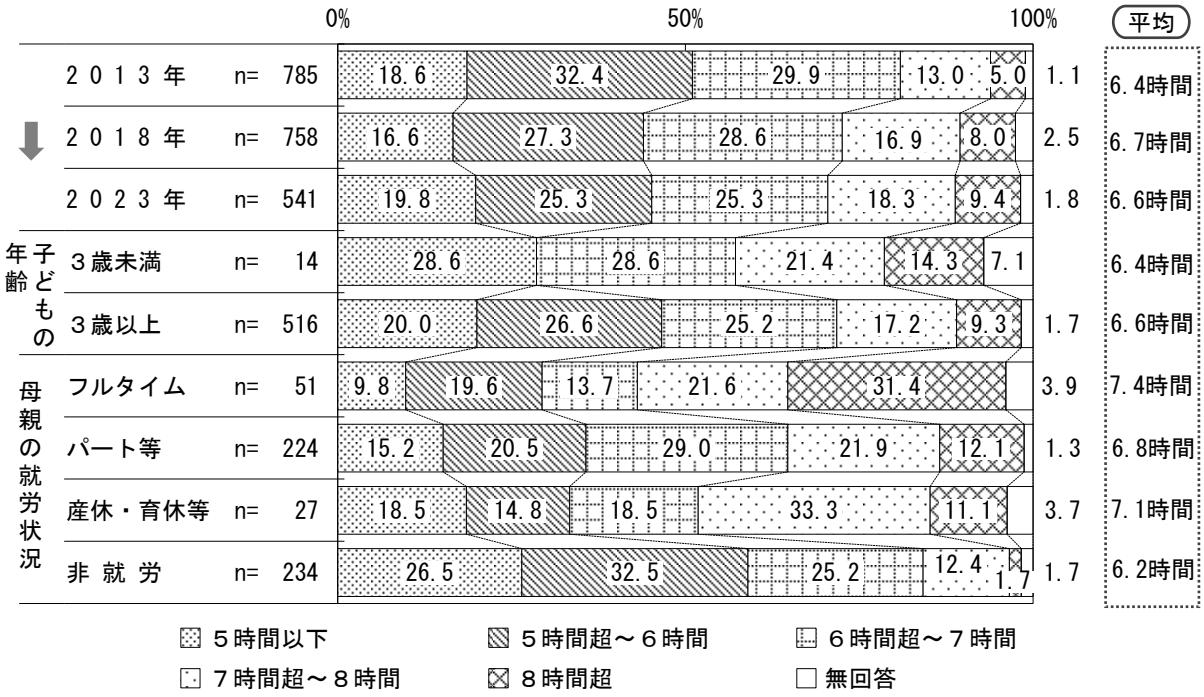
現在の利用時間は「５時間以下」が39.6%と最も高く、次いで「５時間超～６時間」が35.1%となっており、平均は5.7時間です（図表１－28）。

希望する利用時間は「５時間超～６時間」および「６時間超～７時間」がそれぞれ25.3%と最も高くなっています。過去の調査結果に比べ、「５時間以下」および７時間超が上昇しており、平均は6.6時間です（図表１－29）。

図表１－28　幼稚園の現在の利用時間



図表１－29　幼稚園の利用希望時間

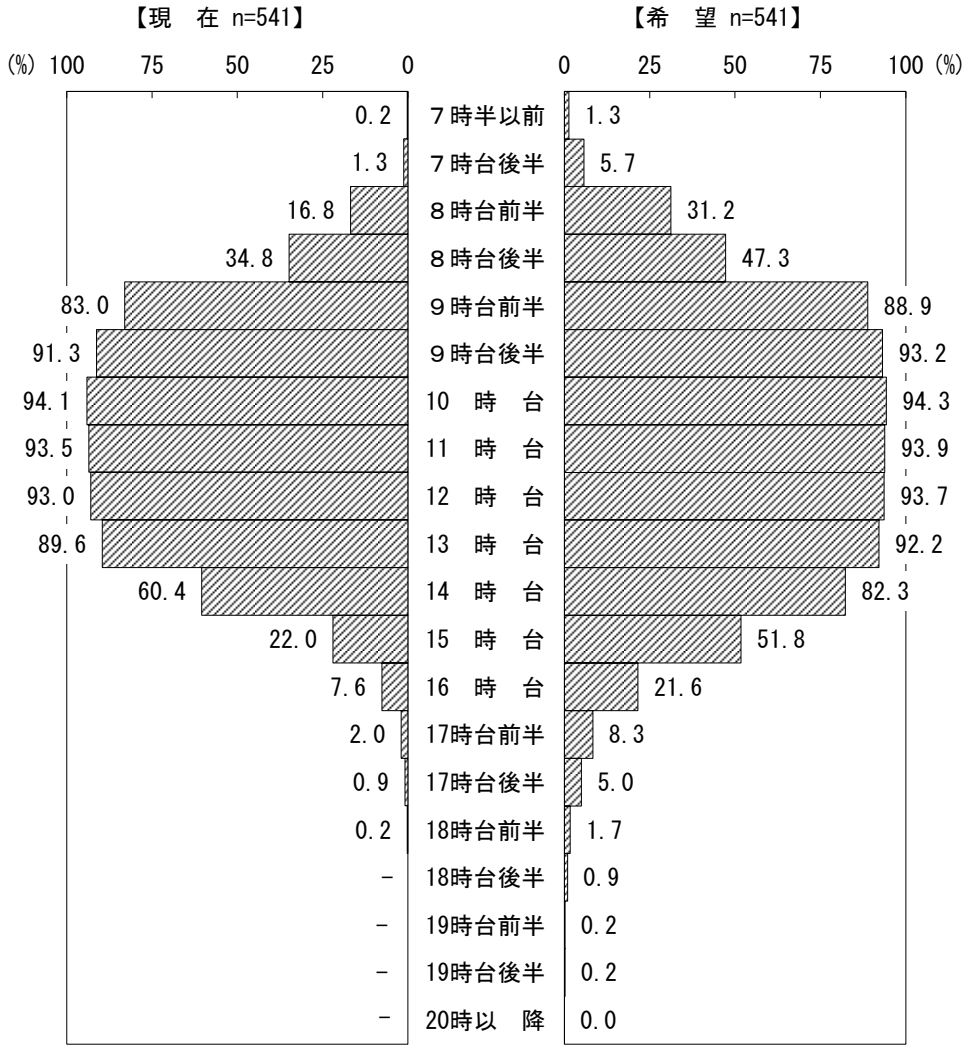


③　利用時間帯（現在と希望）

現在の利用時間帯は、８時台前半には16.8%、８時台後半には34.8%、９時台には80%を超え、９時台後半から12時台は90%を超えます。

希望する利用時間帯は、すべての時間帯で現在を上回っています。特に14時台では21.9ポイント、15時台では29.8ポイントと現在を大きく上回っています。

図表１－30　幼稚園の利用時間帯（現在・希望）



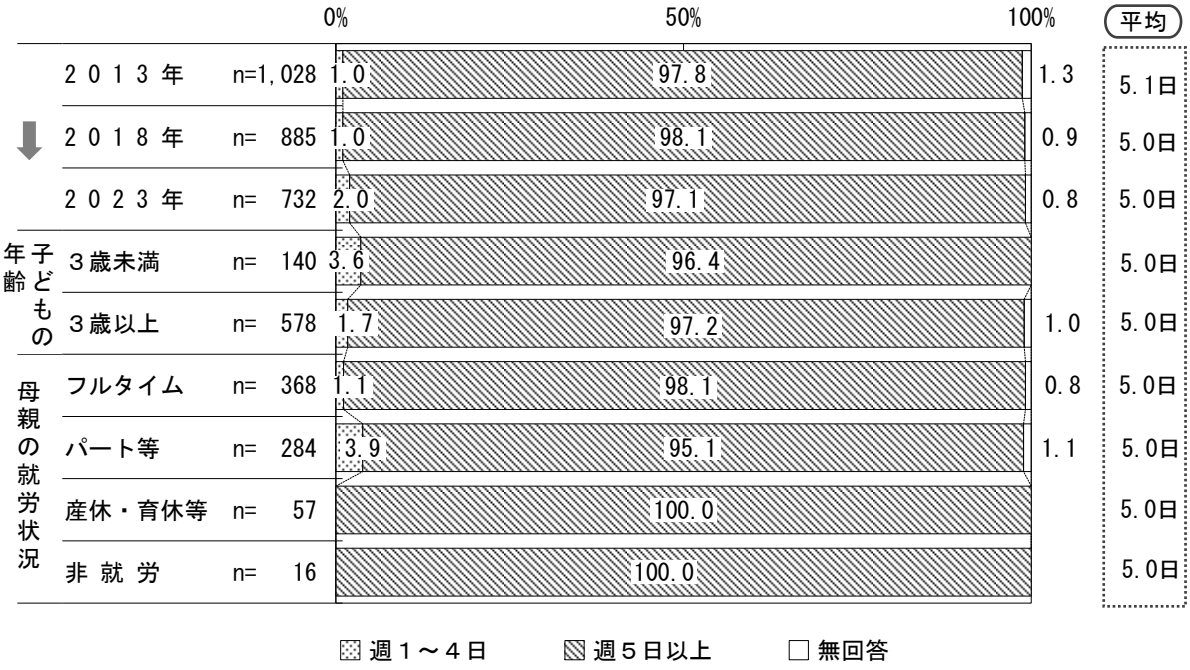
(4) 保育所・保育園の利用日数と利用時間［Q18-2］

① 利用日数（現在と希望）

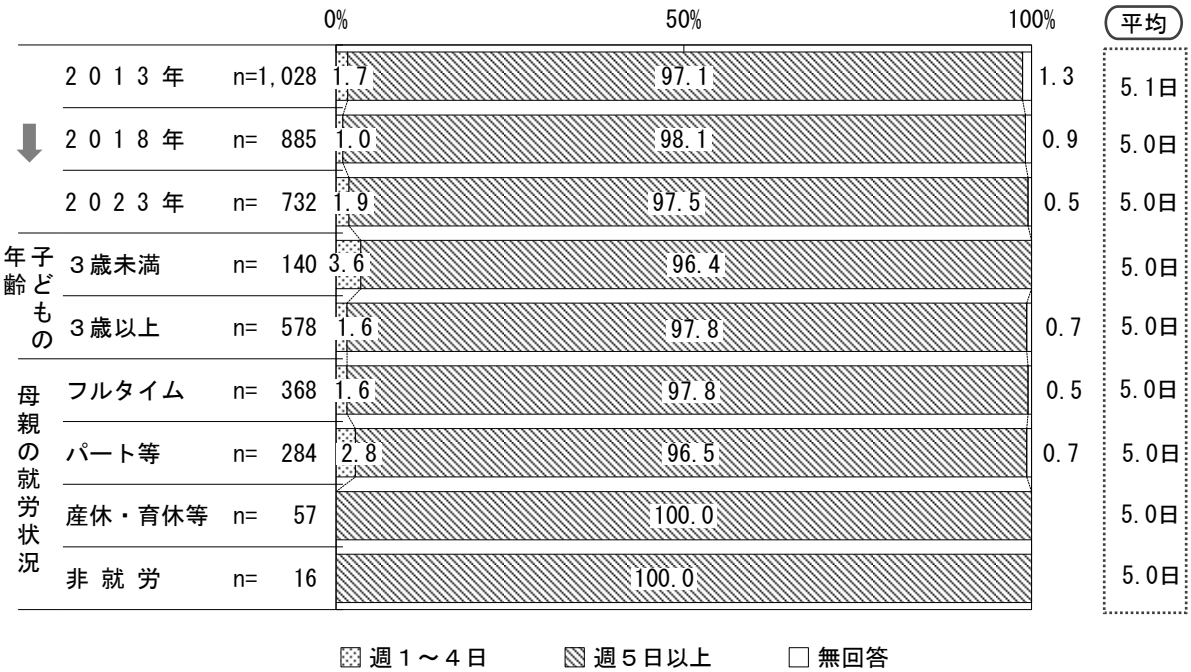
現在の利用日数は、「週５日以上」が97.1%を占めており、平均は5.0日です（図表１－31）。

希望する利用日数は、「週５日以上」が97.5%を占めており、平均は5.0日です（図表１－32）。

図表１－31　保育所・保育園の現在の利用日数



図表１－32　保育所・保育園の利用希望日数

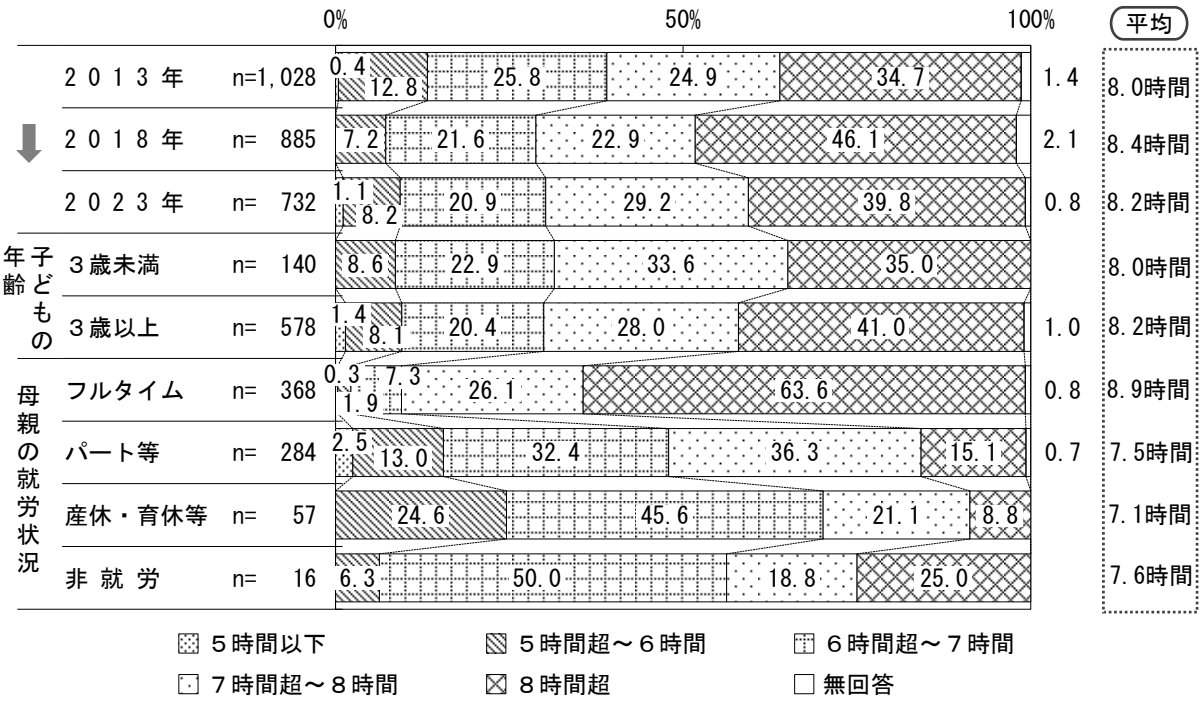


② 利用時間（現在と希望）

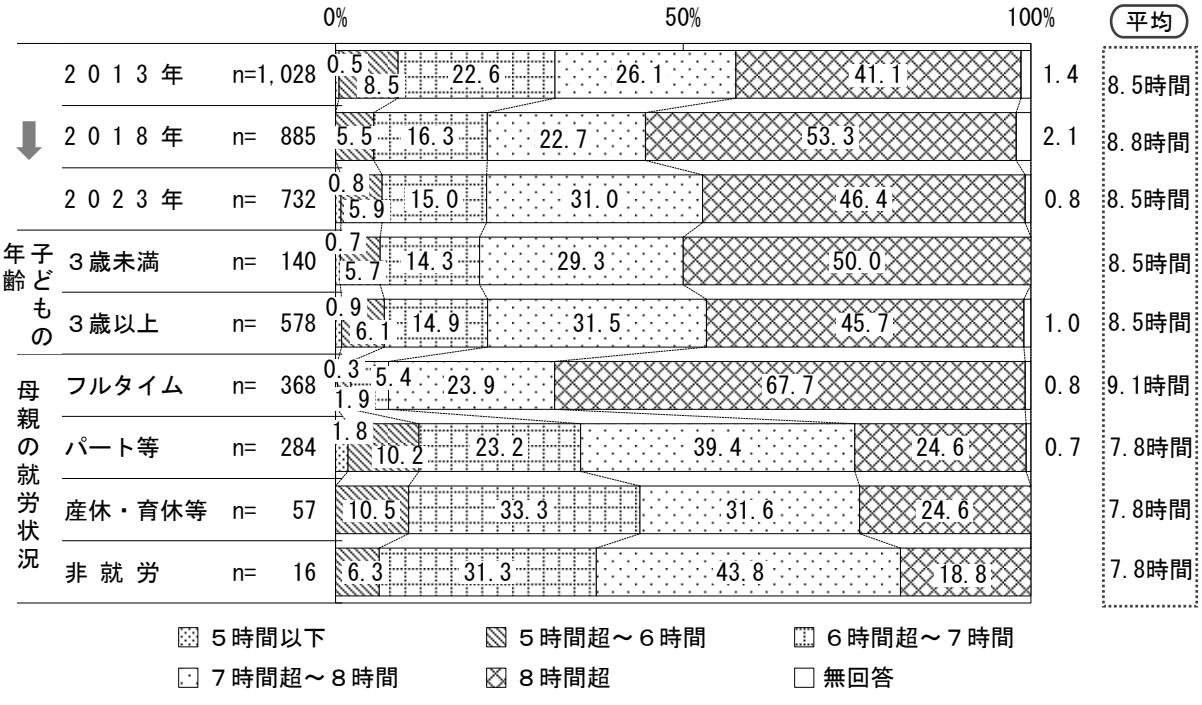
現在の利用時間は「８時間超」が39.8%と最も高く、次いで「７時間超～８時間」が29.2%、「６時間超～７時間」が20.9%となっており、平均は8.2時間です。（図表１－33）。

希望する利用時間は「８時間超」が46.4%を占めており、現在に比べ6.6ポイント高くなっています。平均は現在より0.3時間長く8.5時間です（図表１－34）。

図表１－33　保育所・保育園の現在の利用時間



図表１－34　保育所・保育園の利用希望時間

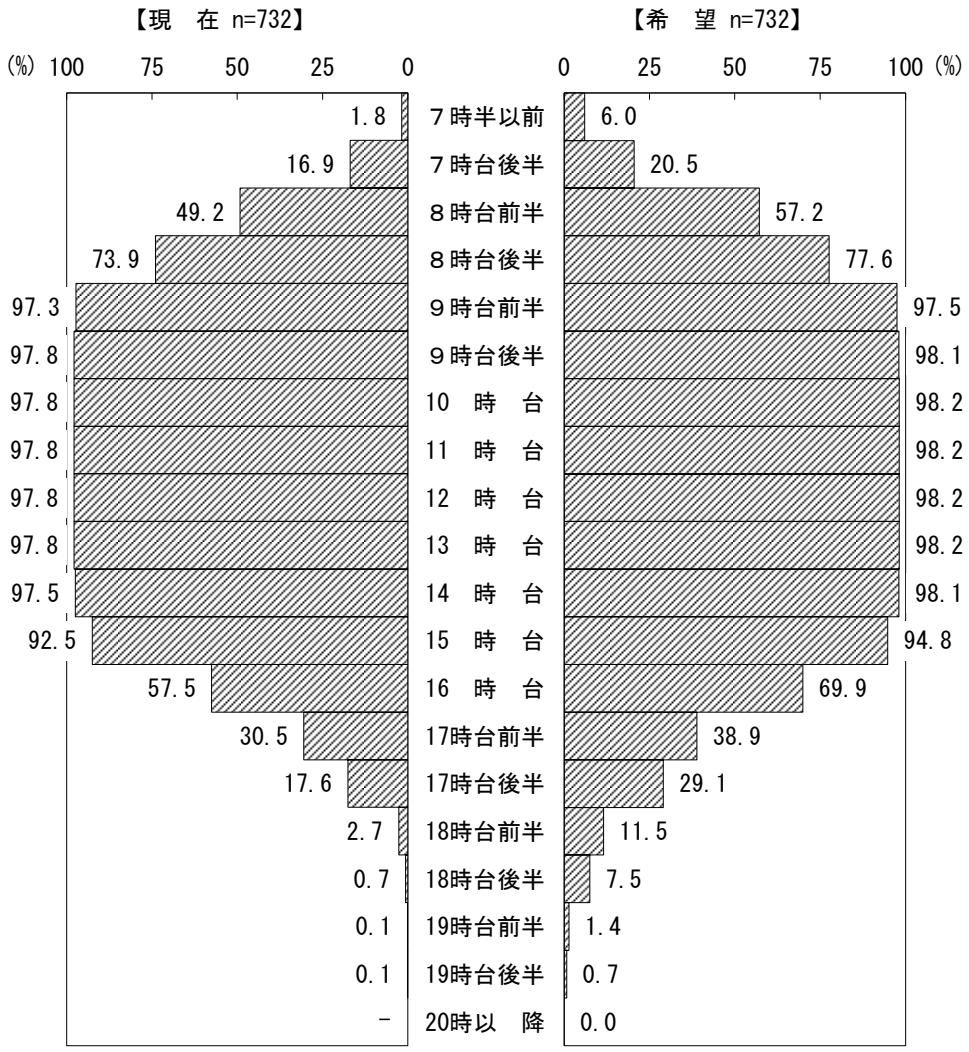


③　利用時間帯（現在と希望）

現在の利用時間帯は、８時台前半には49.2%、８時台後半には73.9%となり、９時台前半から14時台は97%台となっています。

希望する利用時間帯は、すべての時間帯で現在を上回っています。特に16時台および17時台後半では10ポイント以上の差があります。

図表１－35　保育所・保育園の利用時間帯（現在・希望）



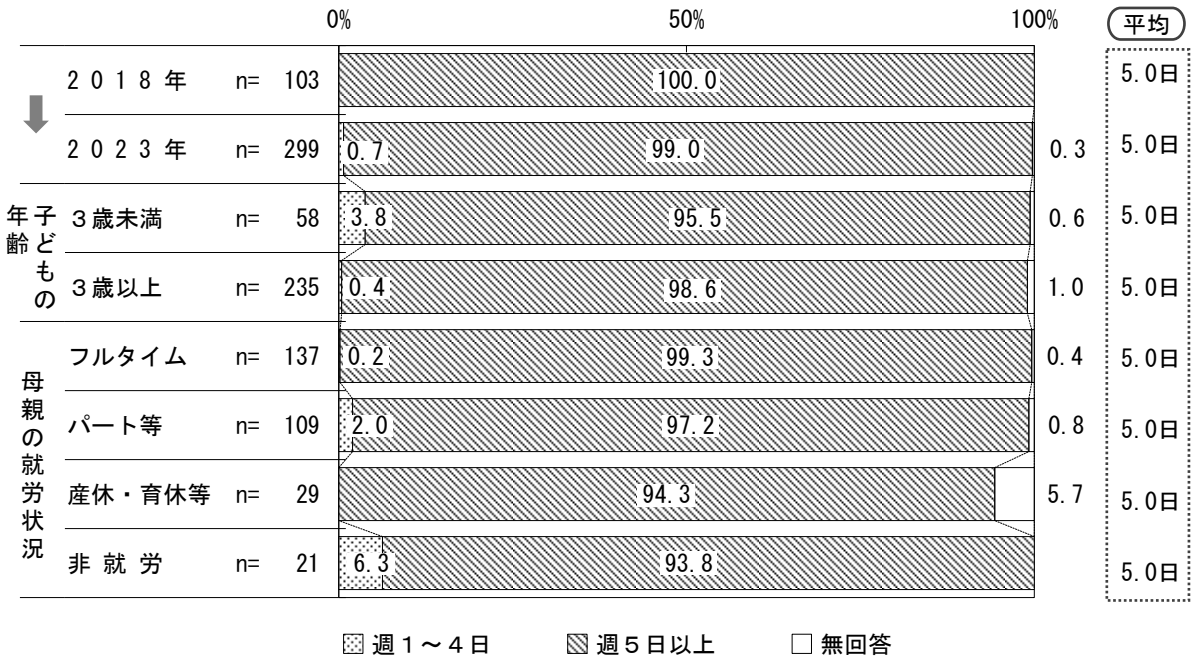
(5) 認定こども園の利用日数と利用時間［Q18-2］

① 利用日数（現在と希望）

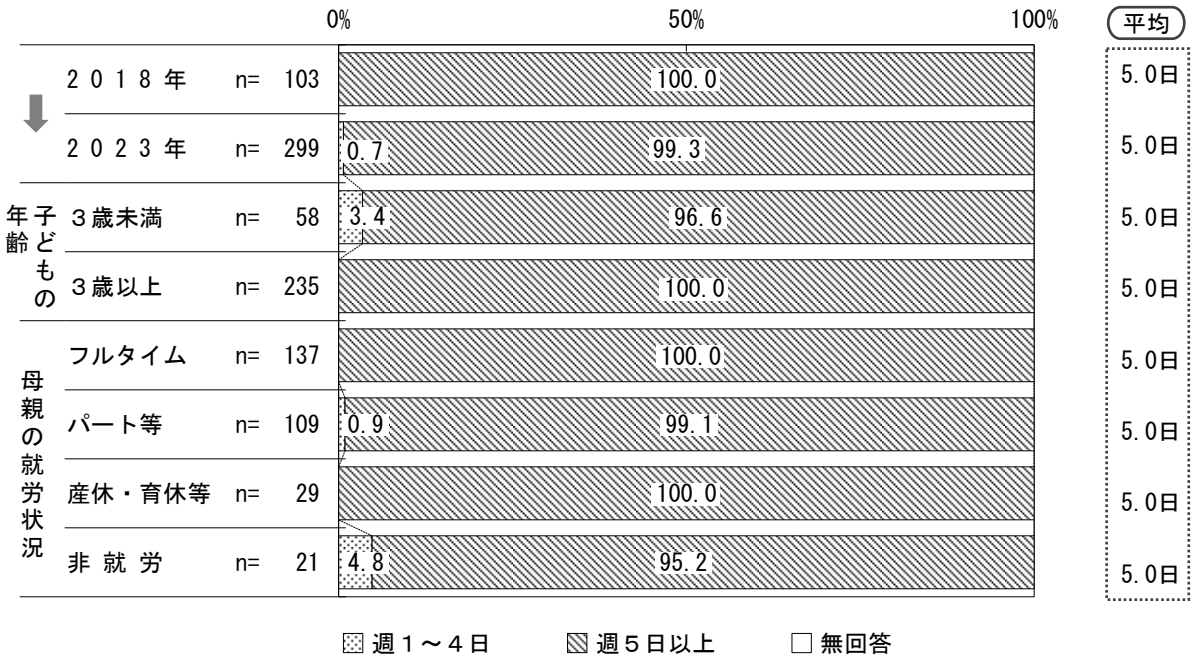
現在の利用日数は、「週５日以上」が99.0%を占めており、平均は5.0日です（図表１－36）。

希望する利用日数は、「週５日以上」が99.3%を占めており、平均は5.0日です（図表１－37）。

図表１－36　認定こども園の現在の利用日数



図表１－37　認定こども園の利用希望日数

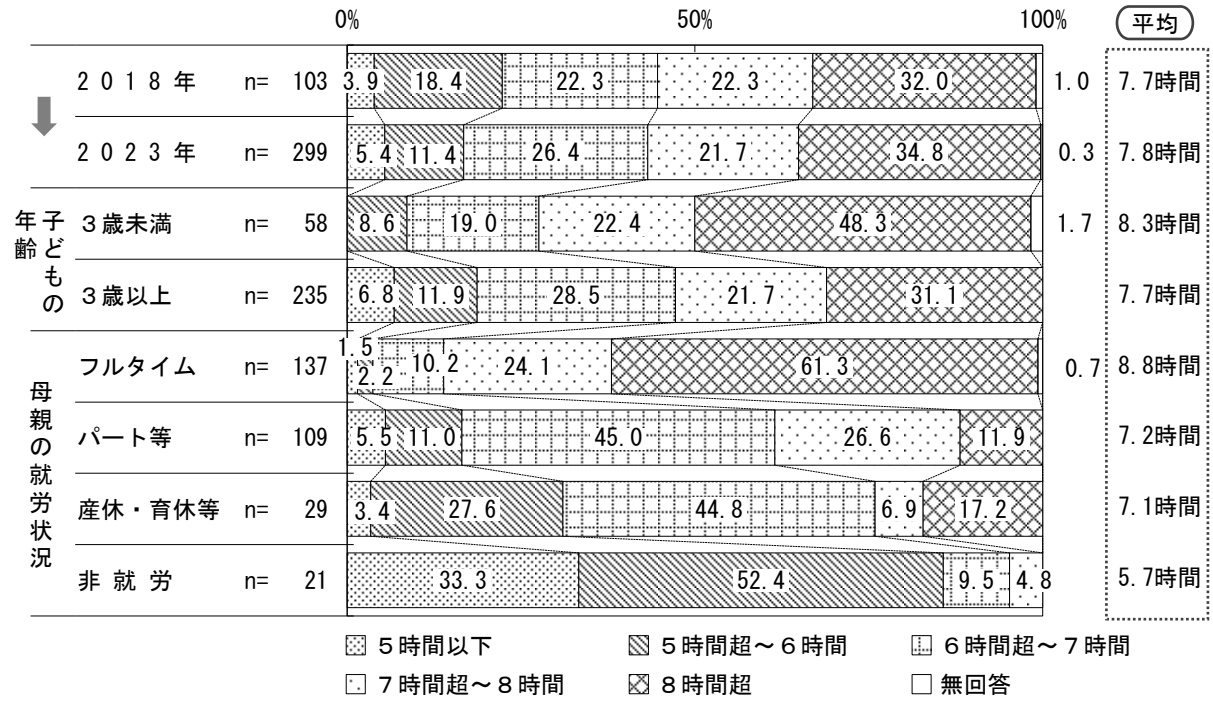


② 利用時間（現在と希望）

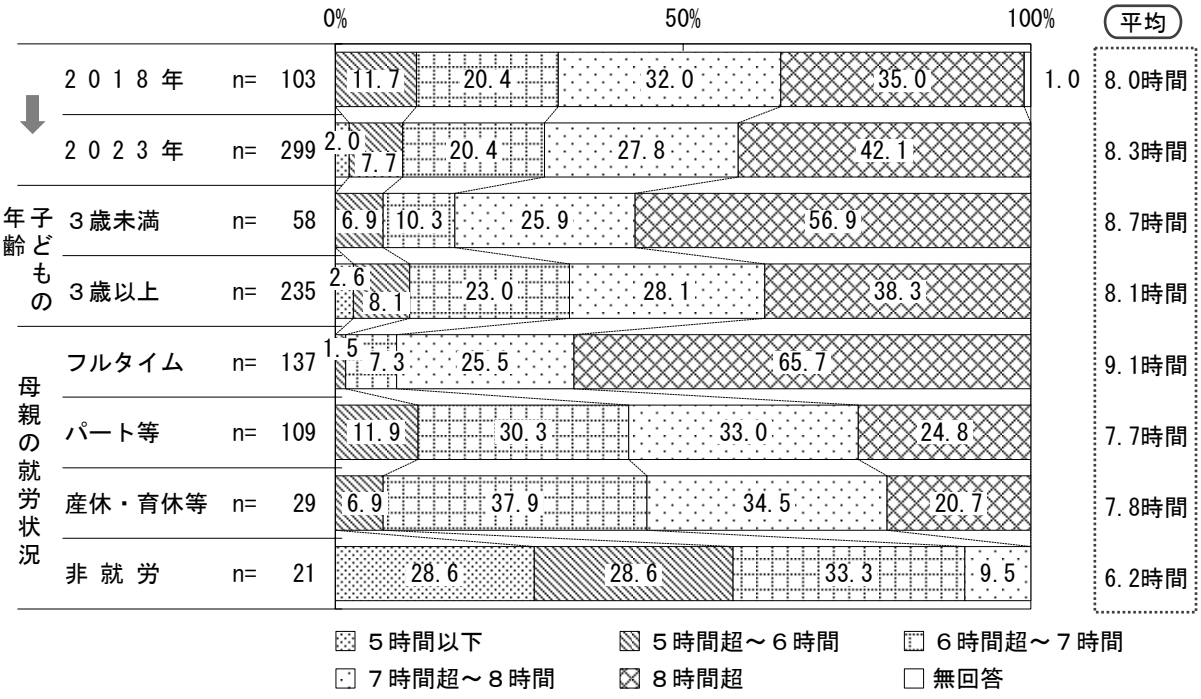
現在の利用時間は、「８時間超」が34.8%と最も高く、次いで「６時間超～７時間」が26.4%、「７時間超～８時間」が21.7%となっており、平均は7.8時間です（図表１－38）。

希望する利用時間は、「８時間超」が42.1%と最も高くなっており、現在に比べ7.3ポイント高くなっています。平均は現在よりも0.5時間長く8.3時間です（図表１－39）。

図表１－38　認定こども園の現在の利用時間



図表１－39　認定こども園の利用希望時間

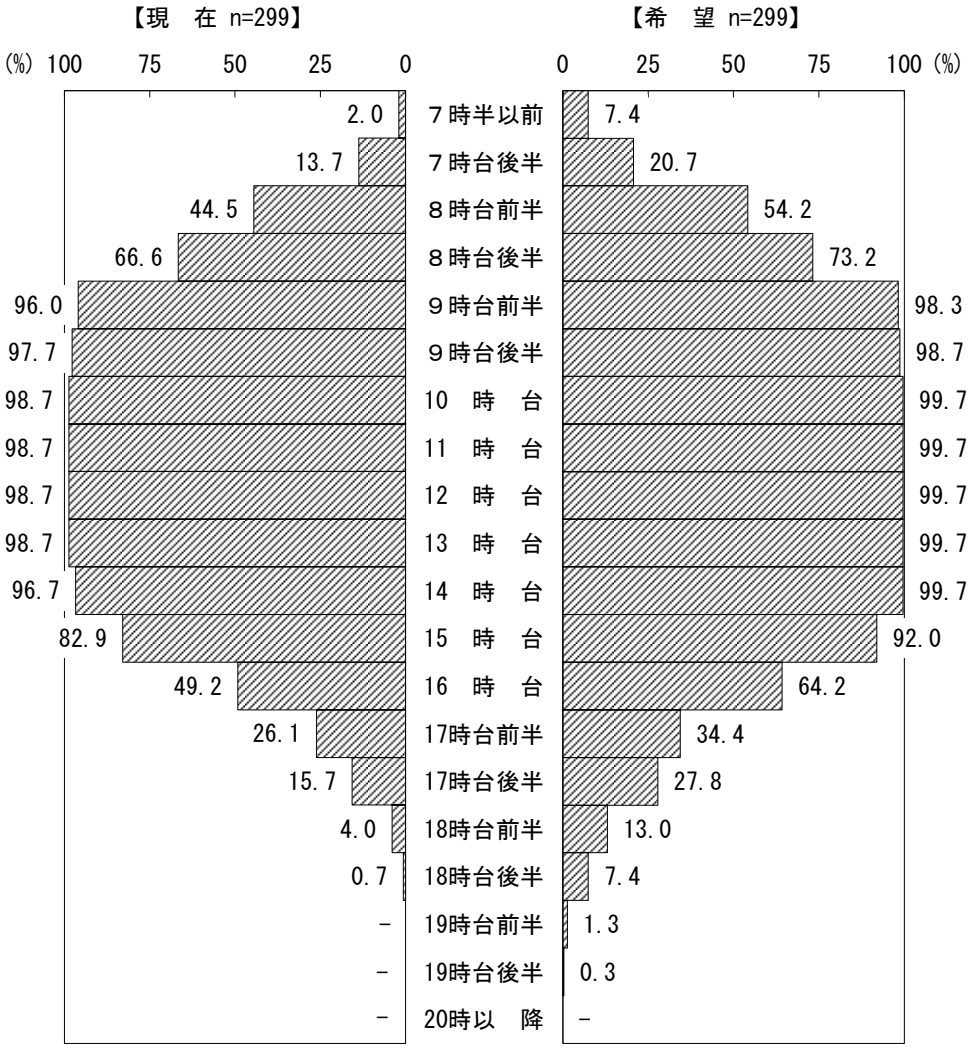


③　利用時間帯（現在と希望）

現在の利用時間帯は、８時台前半には40%、８時台後半には60%を上回り、９時台前半から14時台は95%を上回っています。

希望する利用時間帯は、すべての時間帯で現在を上回っています。特に16時台および17時台後半では10ポイント以上の差があります。

図表１－40　認定こども園の利用時間帯（現在・希望）



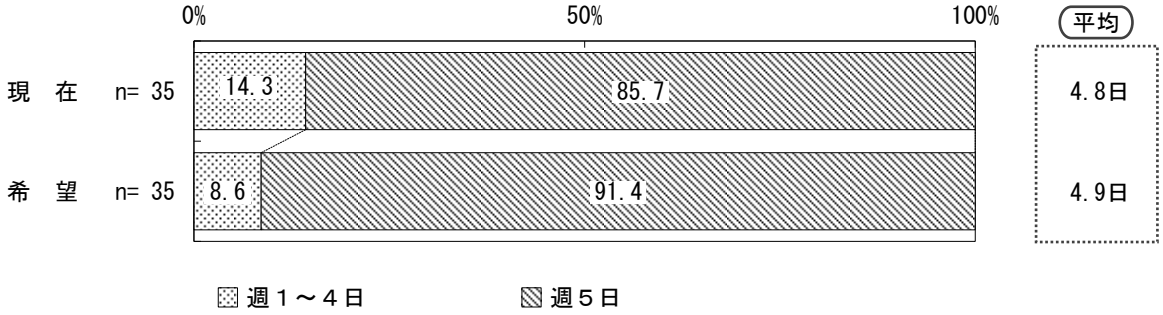
(6) 事業所内保育施設の利用日数と利用時間［Q18-2］

① 利用日数（現在と希望）

現在の利用日数は、「週５日以上」が85.7%、「週１～４日」が14.3%となっています。平均は4.8日です。

希望する利用日数は、「週５日以上」が91.4%と現在に比べ5.7ポイント上昇しています。平均は4.9日です。

図表１－41　事業所内保育施設の利用日数（現在・希望）

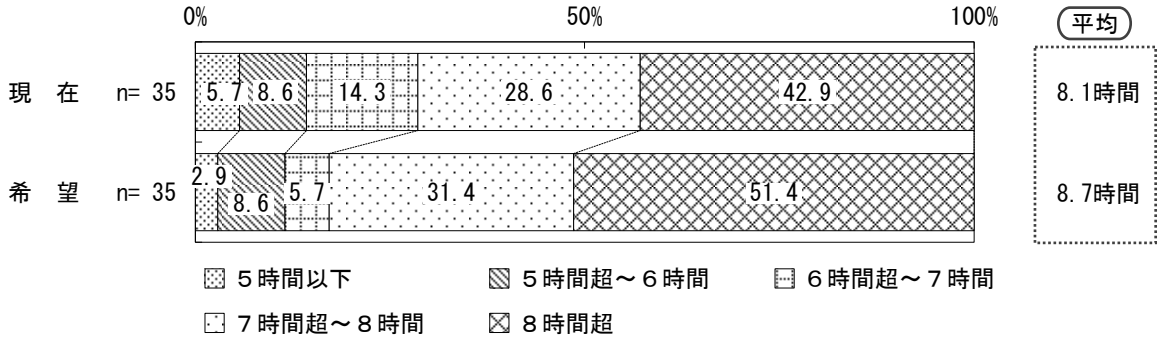


② 利用時間（現在と希望）

現在の利用時間は、「８時間超」が42.9%を占めています。平均は8.1時間です。

希望する利用時間は、「８時間超」が51.4%と最も高くなっており、現在に比べ8.5ポイント高くなっています。平均は現在より0.6時間長く8.7時間です。

図表１－42　事業所内保育施設の利用時間（現在・希望）

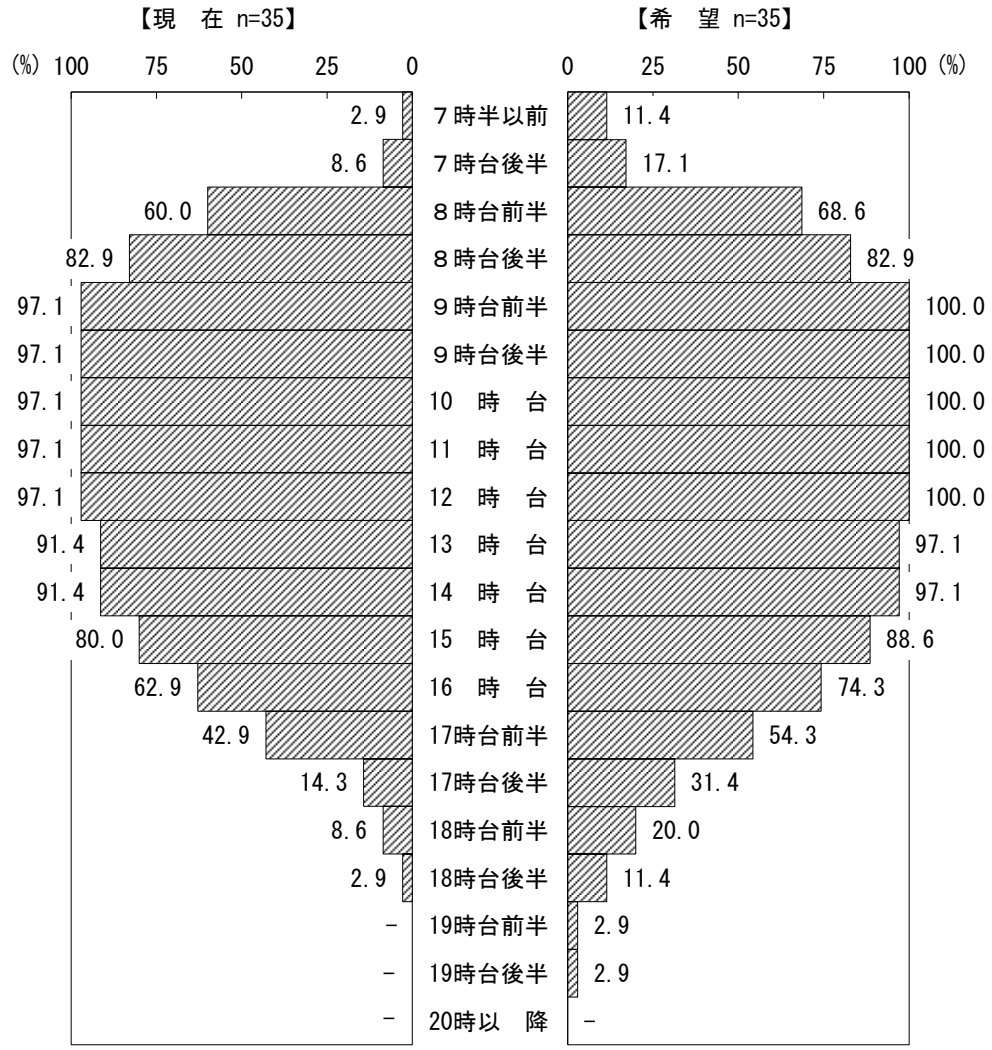


③　利用時間帯（現在と希望）

現在の利用時間帯は、８時台前半には60.0%となり、８時台後半には80%を超え、９時台前半から12時台は97.1%、13時台及び14時台は91.4%となっています。

希望する利用時間帯は、すべての時間帯で現在を上回っています。特に16時台から18時台前半では10ポイント以上の差があります。

図表１－43　事業所内保育施設の利用時間帯（現在・希望）



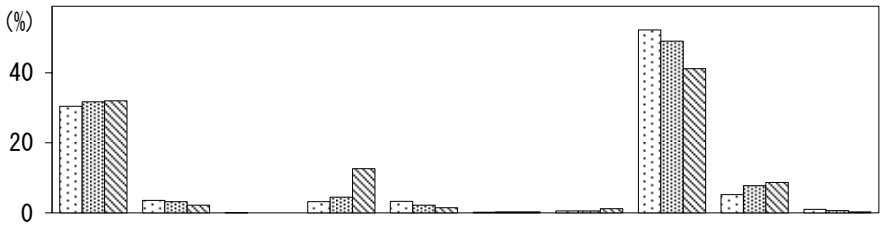
(7) 定期的な教育・保育事業を利用していない理由［Q19］

Q17で定期的な教育・保育事業を「利用していない」と回答した737人を対象に、その理由をたずねたところ、「子どもがまだ小さいため」が41.2%と最も高く、次いで「利用する必要がない」が32.0%となっています。「子どもの祖父母や親戚がみている」は2.2%です。利用したいにもかかわらずできていないのは、「～事業に空きがない」が12.6%、「～経済的な理由で事業が利用できない」が1.5%、「～事業の質や場所など、納得できる事業がない」が1.2%です。

過去の調査結果との比較では、「～事業に空きがない」が大きく上昇しています。

「その他」として、「次年度から利用予定」「育児休業中」「保育所申請中」などの記載がありました。

図表１－44　定期的な教育・保育事業を利用していない理由（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%

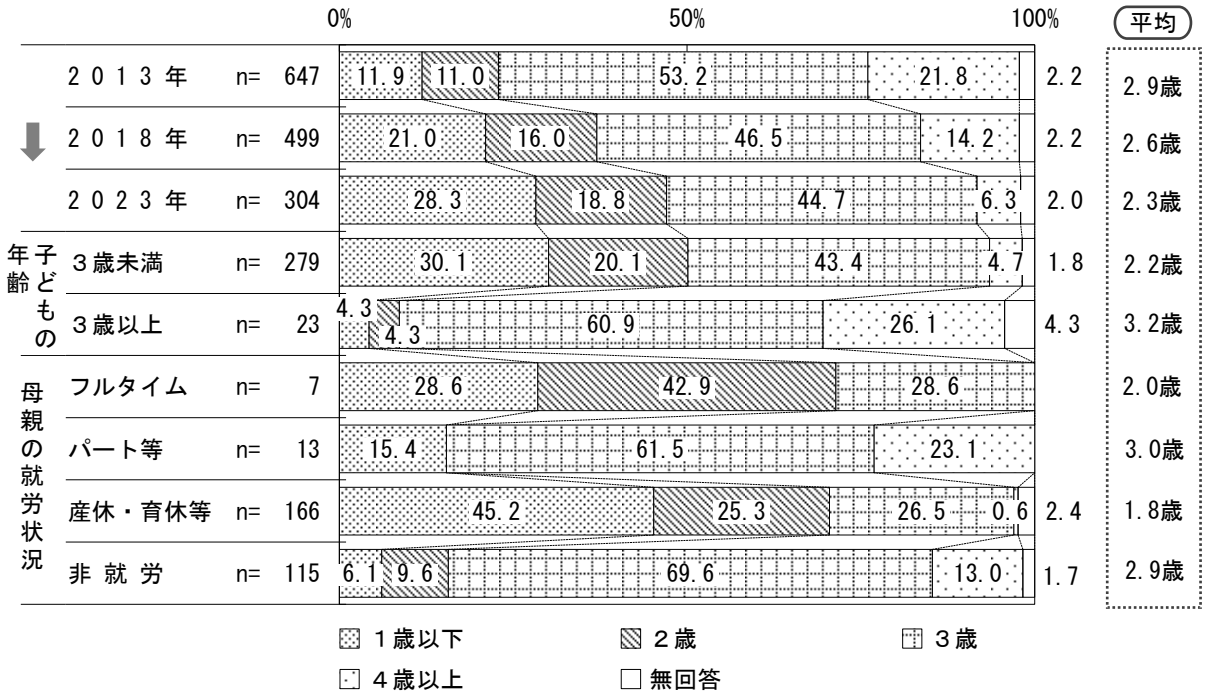


区分		n	利用する必要がない	子どもの祖父母や親戚の人がみている	近所の人や父母の友人・知人がみている	利用したいが、保育・教育の事業に空きがない	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない	利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない	子どもがまだ小さいため	その他	無回答
	２０１３年	1,236	30.4	3.6	0.1	3.2	3.3	0.2	0.6	52.3	5.2	1.0
	２０１８年	1,017	31.7	3.2	－	4.5	2.2	0.3	0.6	49.1	7.8	0.7
	２０２３年	737	32.0	2.2	－	12.6	1.5	0.3	1.2	41.2	8.7	0.3
子どもの年齢	３歳未満	624	29.8	1.9	－	12.2	1.8	0.3	1.1	44.7	8.0	0.2
	３歳以上	107	43.9	3.7	－	15.0	－	－	1.9	21.5	13.1	0.9
母親の就労状況	フルタイム	27	18.5	11.1	－	25.9	－	－	－	25.9	18.5	－
	パート等	59	15.3	10.2	－	22.0	6.8	1.7	5.1	22.0	16.9	－
	産休・育休等	344	29.4	0.9	－	12.8	－	－	0.9	48.3	7.8	－
	非就労	301	40.2	0.7	－	9.6	2.3	0.3	1.0	38.2	7.0	0.7

「子どもがまだ小さいため」と回答した304人に、子どもが何歳になったら利用したいかをたずねたところ、「３歳」が44.7%と最も高く、次いで「１歳以下」が28.3%となっており、平均は2.3歳です。

過去の調査結果との比較では、「１歳以下」が上昇しており、平均でも毎回0.3歳低くなっています。

図表１－45　子どもが何歳になったら利用したいか



(8) 定期的に利用したい教育・保育事業［Q20］

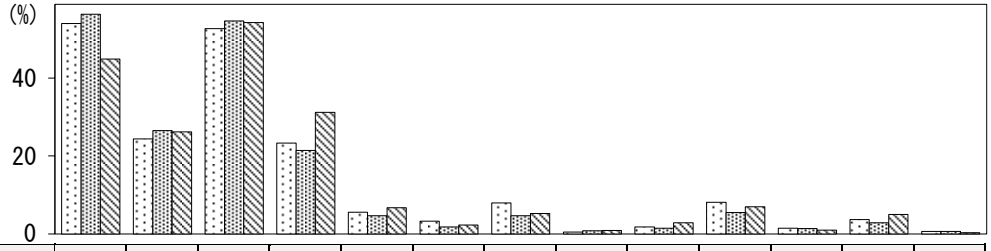
現在、利用している、利用していないにかかわらず、定期的に利用したい教育・保育事業は、「保育所・保育園」が54.3%と最も高く、次いで「幼稚園」が44.9%、「認定こども園」が31.2%、「幼稚園の預かり保育」が26.2%などとなっています。

子どもの年齢別にみると、３歳未満は「保育所・保育園」が圧倒的に高くなっていますが、３歳以上では「幼稚園」の割合も40%代後半まで上昇します。

利用事業別にみると、幼稚園、保育所・保育園および認定こども園ではそれぞれ現在利用している事業が最も高く、事業所内保育施設、その他および未利用者では「保育所・保育園」が最も高くなっています。

「その他の認可外の保育施設」として、「自然保育」「森のようちえん」「インターナショナルスクール」などの記載がありました。また、「その他」としては、「児童発達支援」「ベビーシッター」などの記載がありました。

図表１－46　定期的に利用したい教育・保育事業（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



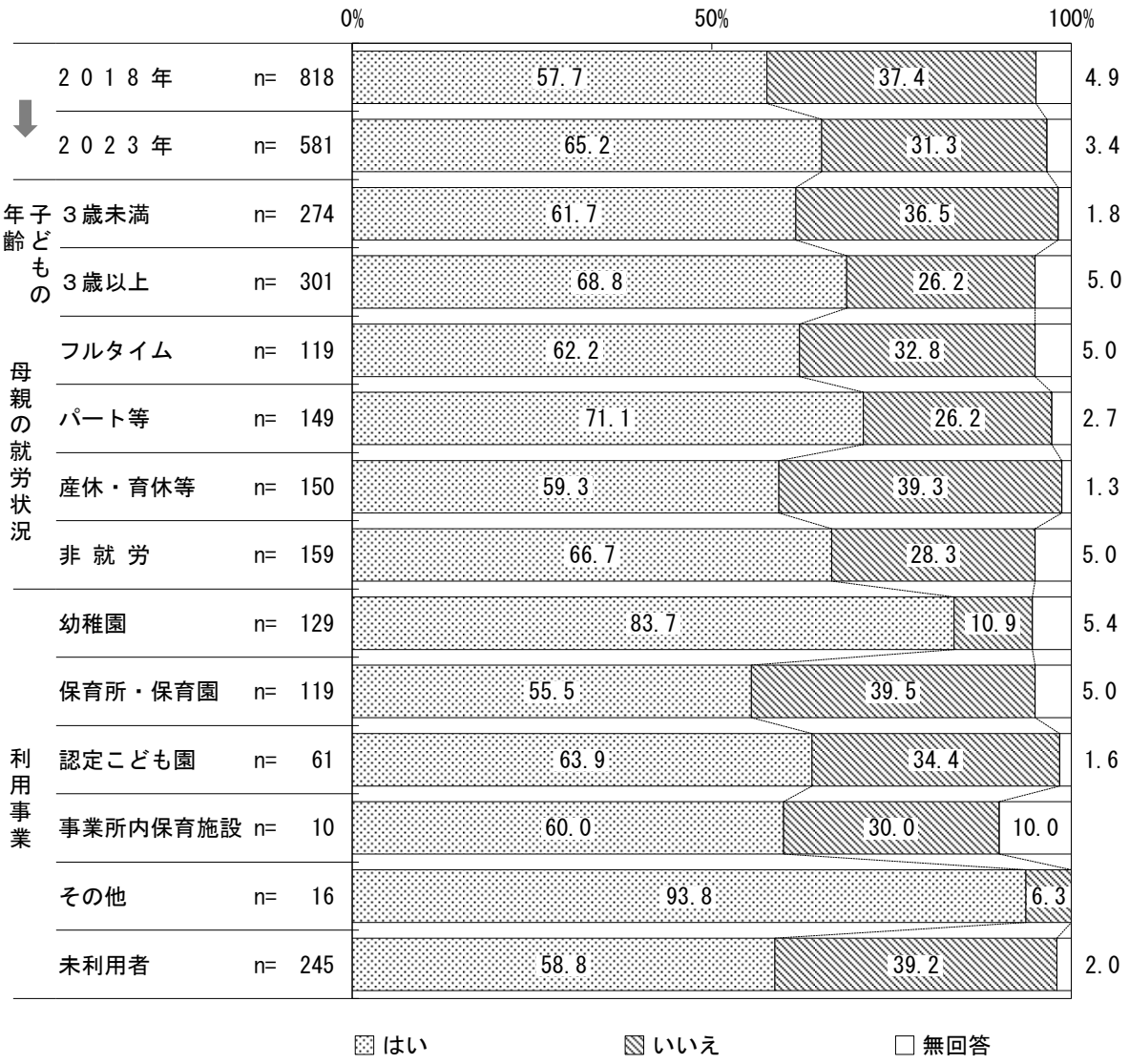
区分		n	幼稚園	幼稚園の預かり保育	保育所・保育園	認定こども園	小規模保育施設	家庭的保育	事業所内保育施設	その他の認可外保育施設	居宅訪問型保育	ファミリーサポートセンター	その他	特にない	無回答
	２０１３年	3,142	54.0	24.4	52.7	23.3	5.6	3.3	8.0	0.5	1.8	8.1	1.5	3.7	0.7
	２０１８年	2,872	56.4	26.5	54.7	21.4	4.7	1.8	4.7	0.8	1.5	5.5	1.4	2.9	0.7
	２０２３年	2,407	44.9	26.2	54.3	31.2	6.7	2.3	5.3	0.9	2.9	7.0	1.0	5.0	0.3
年齢	３歳未満	880	43.4	22.2	66.0	40.6	12.6	2.4	7.0	0.7	3.2	5.8	0.7	5.8	0.6
年齢	３歳以上	1,490	46.0	28.5	47.4	25.7	3.4	2.3	4.4	1.0	2.8	7.8	1.1	4.6	0.1
母親の就労状況	フルタイム	624	23.4	18.9	66.7	30.9	2.6	2.1	6.7	1.4	3.8	10.3	1.0	5.0	0.2
母親の就労状況	パート等	712	44.5	29.9	50.8	28.1	5.2	2.4	3.5	0.6	2.8	5.9	1.0	4.2	0.1
母親の就労状況	産休・育休等	460	38.0	23.3	76.5	46.5	13.7	3.7	8.3	1.1	3.0	7.0	0.7	3.9	0.2
母親の就労状況	非就労	587	73.9	32.2	28.1	23.5	7.7	1.5	3.4	0.7	1.7	4.9	1.0	6.8	0.5
利用事業	幼稚園	541	90.6	52.7	10.7	10.4	2.8	3.1	5.2	0.2	4.4	7.4	1.1	3.0	－
利用事業	保育所・保育園	732	15.6	12.0	87.3	14.2	2.3	1.9	4.0	0.3	2.7	8.2	0.8	5.5	－
利用事業	認定こども園	299	20.7	13.7	35.8	86.6	2.3	2.0	4.0	1.0	3.0	8.7	0.3	4.0	－
利用事業	事業所内保育施設	35	40.0	22.9	60.0	28.6	8.6	－	37.1	－	2.9	17.1	2.9	－	－
利用事業	その他	55	41.8	32.7	45.5	40.0	25.5	1.8	1.8	18.2	3.6	1.8	1.8	3.6	－
利用事業	未利用者	737	51.2	25.8	61.3	40.3	14.4	2.4	6.1	0.8	1.9	4.9	1.1	6.8	0.7

(9)　幼稚園利用ニーズ［Q20－１］

Q20で「１．幼稚園」または「２.幼稚園の預かり保育」と回答し、かつ「３．」～「11．」のいずれかを選んだ581人を対象に、「幼稚園」の利用を強く希望するかたずねたところ、「はい」が65.2%です。

母親の就労状況別にみると、いずれも「はい」が50%を大きく超えており、特にパート等では70%を超えています。また、利用事業別にみると、その他および幼稚園では「はい」が80%を超えています。

図表１－47　幼稚園の利用を強く希望するか



4 地域の子育て支援事業

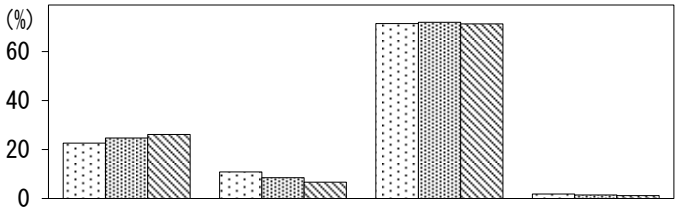
(1) 子育て支援センター等の利用状況［Q21－1］

① 利用状況

市内８か所で実施している子育て支援センターおよび類似した事業(あおぞら出前保育など）の利用状況をたずねたところ、「利用していない」（71.4%）と無回答（1.2%）を除いた27.4%が、いずれかまたは複数の事業を利用していることになります。また、定期的な教育・保育事業の未利用者に限ってみると利用率は56.2%（100%－42.9%（利用していない）－0.9%（無回答））です。

過去の調査結果との比較では、「子育て支援センター」は毎回上昇しています。

図表１－48　地域子育て支援拠点事業の利用状況（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



区分		n	子育て支援センター	類似した事業	利用していない	無回答
▒	2013年	3,142	22.6	10.9	71.5	1.8
▒	2018年	2,872	24.7	8.5	72.0	1.4
▒	2023年	2,407	26.1	6.7	71.4	1.2
子どもの年齢	３歳未満	880	46.3	11.3	51.5	1.1
	３歳以上	1,490	14.5	4.2	82.9	1.3
母親の就労状況	フルタイム	624	13.8	1.4	84.5	1.1
	パート等	712	11.5	3.2	85.5	1.8
	産休・育休等	460	51.5	14.1	47.0	0.4
	非就労	587	37.0	10.7	59.6	1.2
利用事業	幼稚園	541	14.8	4.3	82.6	0.9
	保育所・保育園	732	13.0	2.2	84.8	1.6
	認定こども園	299	10.7	2.0	88.3	0.3
	事業所内保育施設	35	2.9	－	91.4	5.7
	その他	55	29.1	7.3	65.5	1.8
	未利用者	737	54.4	15.2	42.9	0.9

※子育て支援センターは保育所・幼稚園等を利用していない就学前の子どもが主な利用対象者となります。

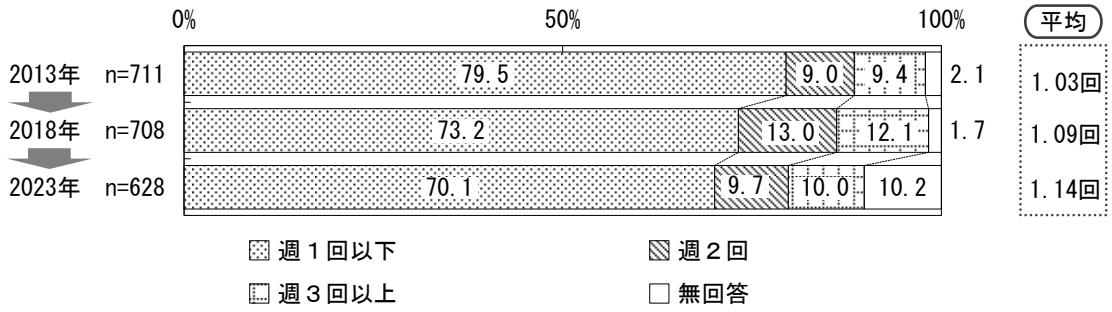
② 利用回数

子育て支援センターおよび類似した事業の利用者に、その利用頻度をたずねたところ、子育て支援センターは、「週１回以下」が70.1%を占めています。１週あたりの平均は1.14回となっており、2013年に比べ、平均で0.05回増加しています。

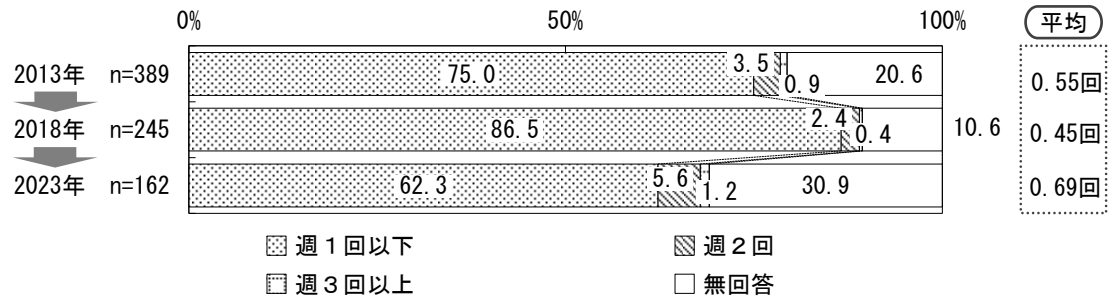
類似した事業は、「週１回以下」が62.3%を占めています。１週あたりの平均は0.69回となっており、2018年に比べ0.24回上昇しています。

図表１－49　利用回数（回／週）

■子育て支援センター



■類似する事業

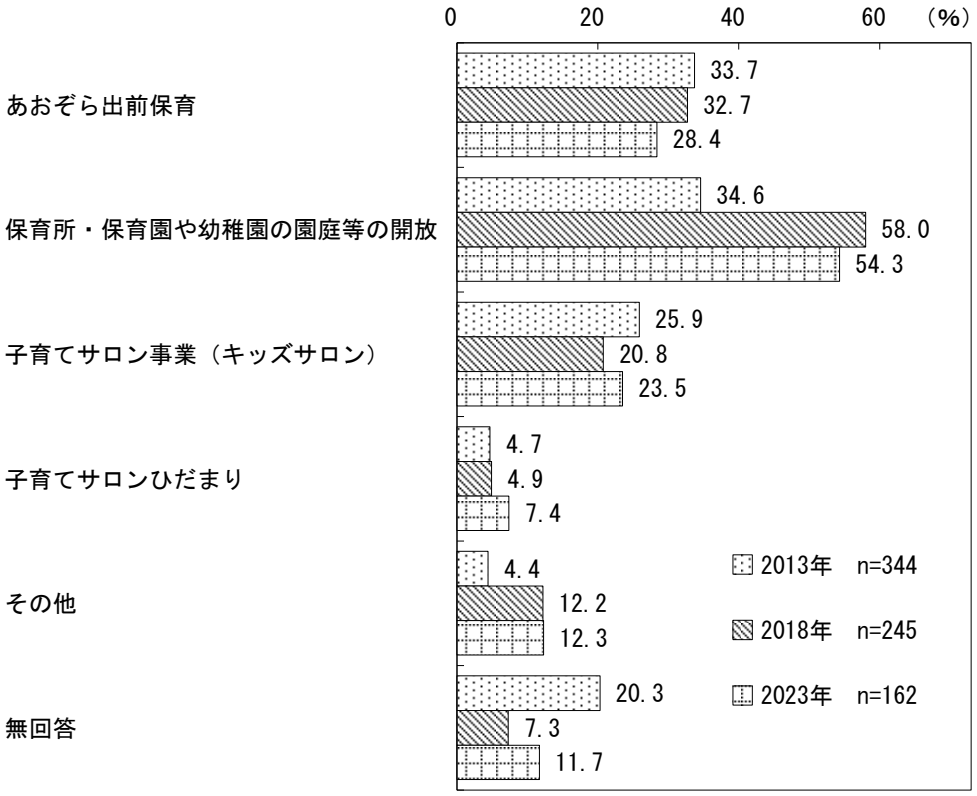


③　利用している類似事業の種類

類似した事業の利用者に、その種類をたずねたところ、「保育所・保育園や幼稚園の園庭等の開放」が54.3%、「あおぞら出前保育」が28.4%、「子育てサロン事業（キッズサロン）」が23.5%などとなっています。

「その他」として、「にこにこ広場」「大型遊具であそぼう」「いこいキッズサロン」等が記載されていました。

図表１－50　利用している類似事業の種類（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%

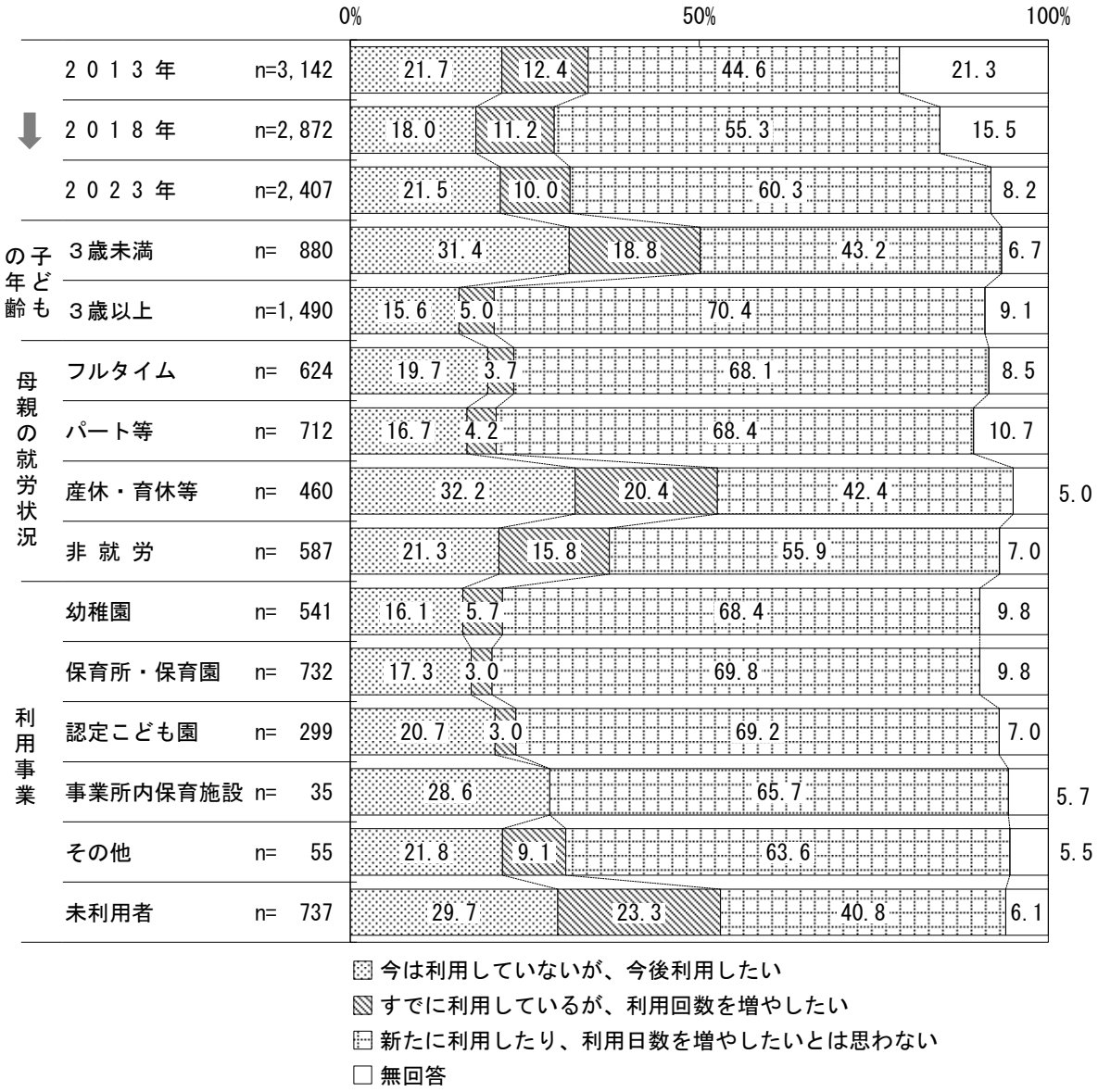


(2) 子育て支援センターの利用意向［Q21－２］

① 利用意向

子育て支援センター等の利用意向をたずねたところ、「今は利用していないが、今後利用したい」が21.5%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が10.0%あります。定期的な教育・保育事業の未利用者に限ってみると、「今は利用していないが、今後利用したい」が29.7%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が23.3%となっています。

図表１－51　子育て支援センターの利用意向



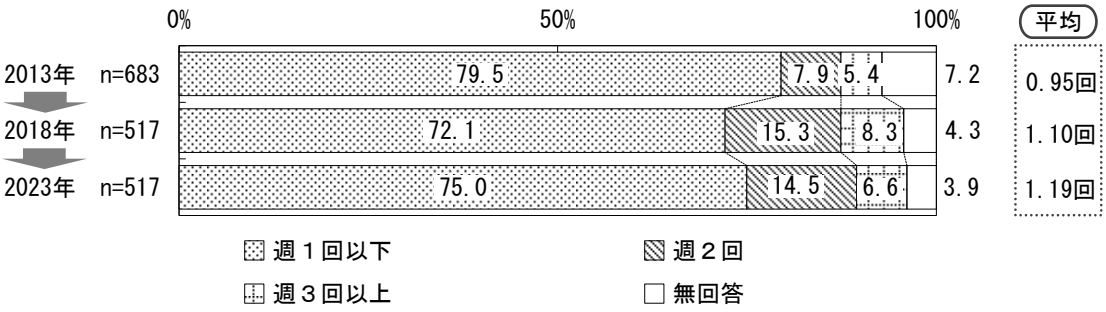
② 利用したい回数

①で、利用意向のあった回答者に利用したい回数をたずねたところ、利用していない人が今後利用したい回数は、１週あたり平均1.19回で、2018年の調査結果に比べ0.09回増加しています。

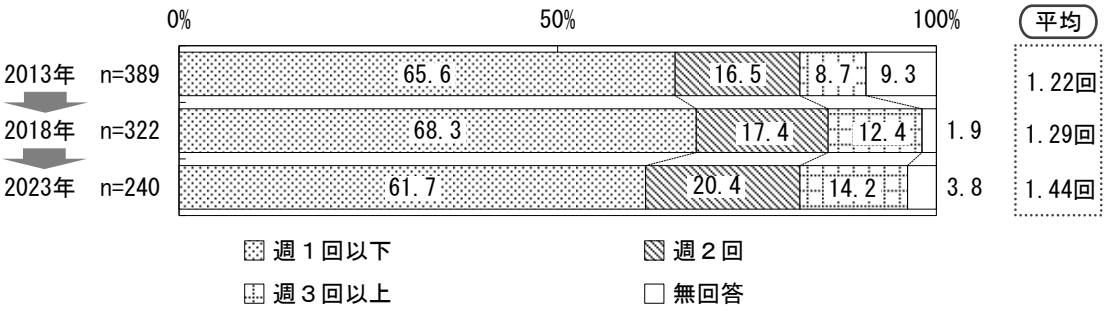
すでに利用している人が今後増やしたい回数は、１週あたり平均1.44回で、2018年の調査結果に比べ0.15回増加しています。

図表１－52　利用したい回数

■利用していない人（利用したい回数）



■すでに利用している人（増やしたい回数）

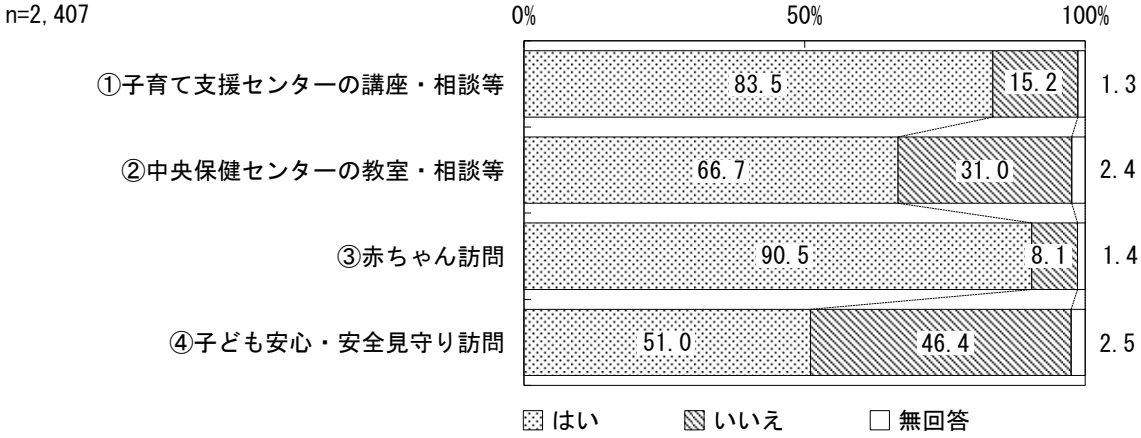


(3) その他の子育て支援事業［Q22］

① 認知度

本市が実施しているその他の子育て支援事業の認知度は、〈赤ちゃん訪問〉が90.5%、〈子育て支援センターの講座・相談等〉が83.5%、〈中央保健センター（子ども総合センター）の教室・相談等〉が66.7%、〈子ども安心・安全見守り訪問〉が51.0%となっています。

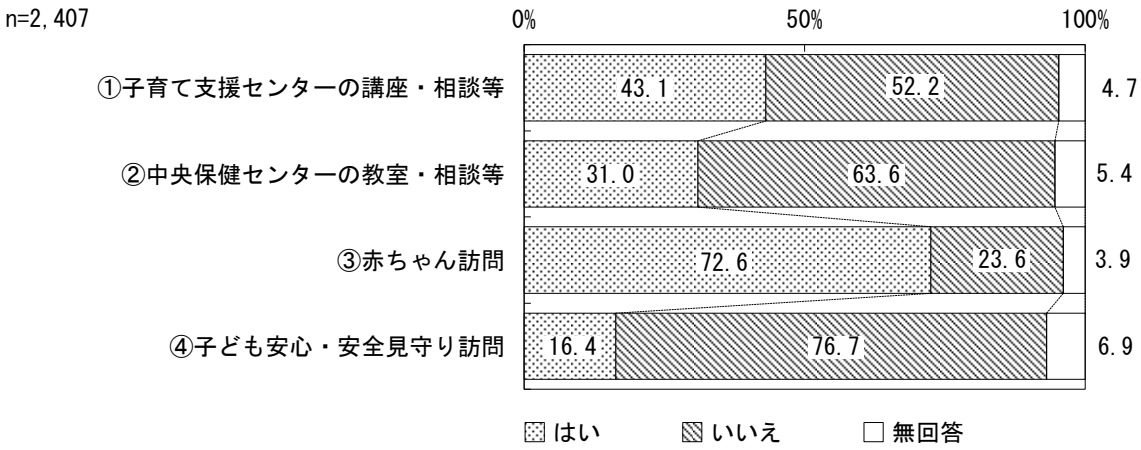
図表１－53　認知度（「知っている」）



② 利用経験

本市が実施しているその他の子育て支援事業の利用経験は、認知度に比べて全般的に低くなっています。認知度が90%を超えていた〈赤ちゃん訪問〉は72.6%ですが、他の事業は50%未満となっています。

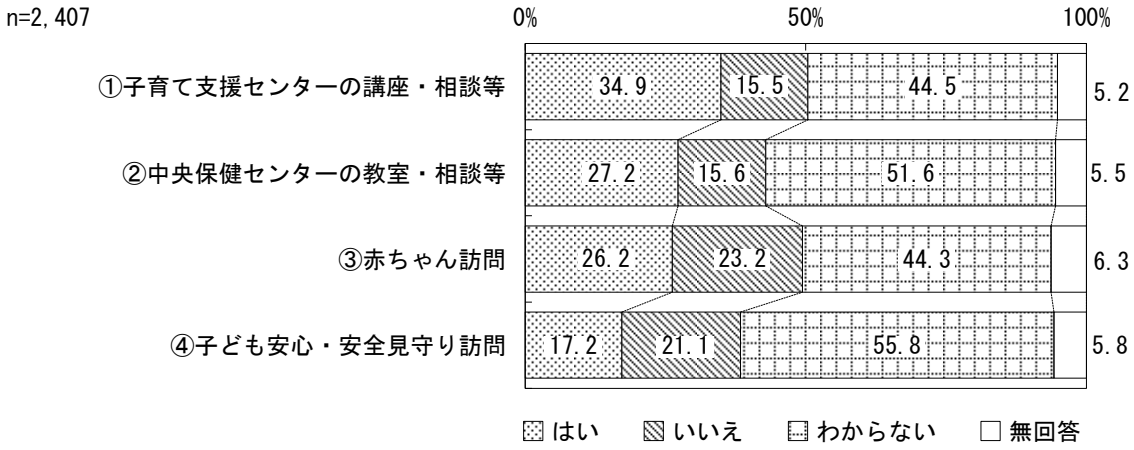
図表１－54　利用経験（「これまでに利用したことがある」）



③　利用意向

本市が実施しているその他の子育て支援事業の利用意向は、〈子育て支援センターの講座・相談等〉が34.9%と最も高くなっています。〈中央保健センター（子ども総合センター）の教室・相談等〉および〈赤ちゃん訪問〉は20%台、〈子ども安心・安全見守り訪問〉は17.2%です。

図表１－55　利用意向（「今後利用したい」）



5 土曜・休日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業

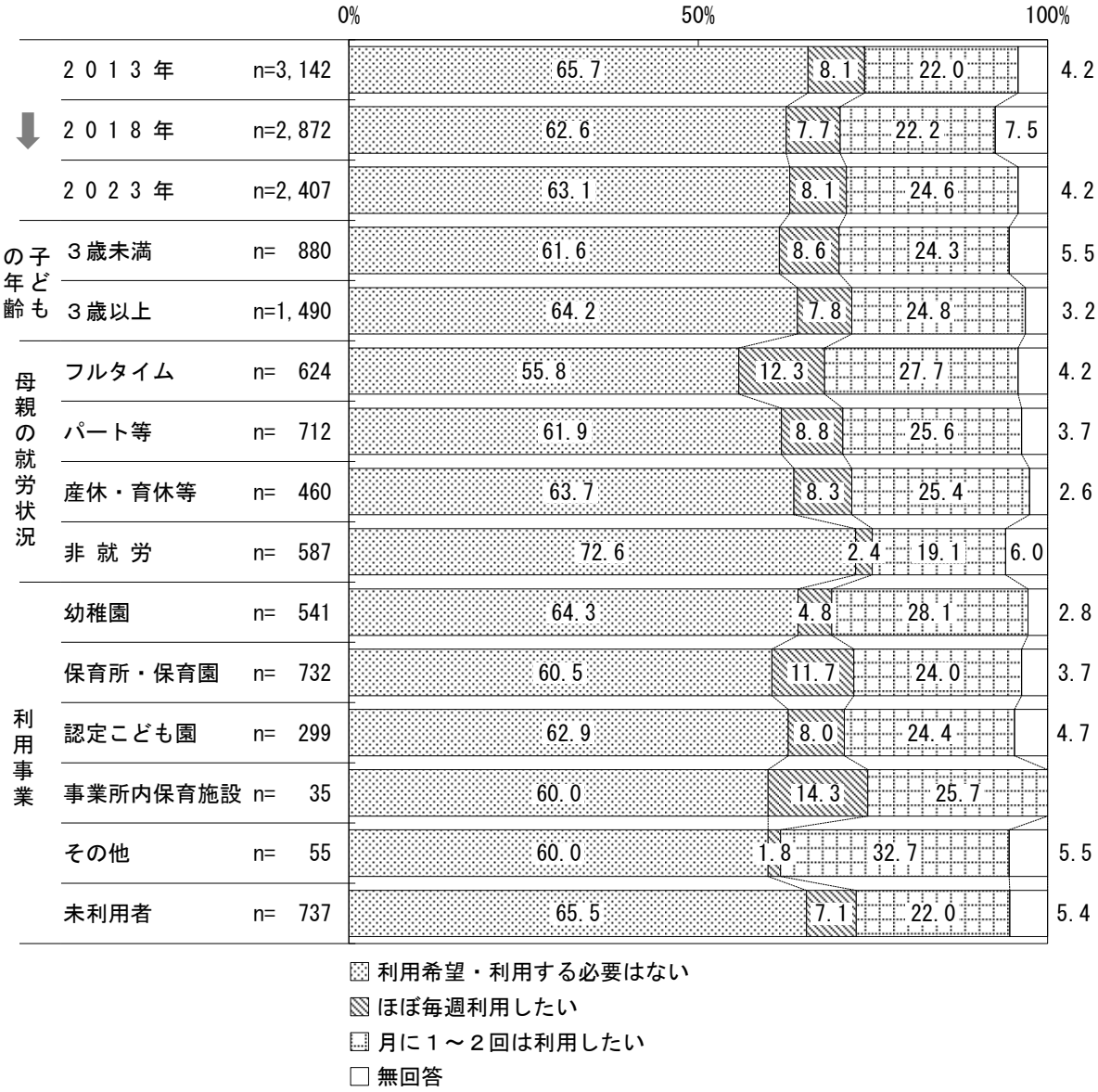
(1) 土曜日の定期的な教育・保育事業[Q23(1)]

① 利用意向

土曜日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が63.1%を占めています。「ほぼ毎週利用したい」（8.1%）と「月に１～２回は利用したい」（24.6%）を合計した《利用したい》は32.7%です。

母親の就労状況別にみると、フルタイムの利用意向が高く、《利用したい》が40.0%となっています。

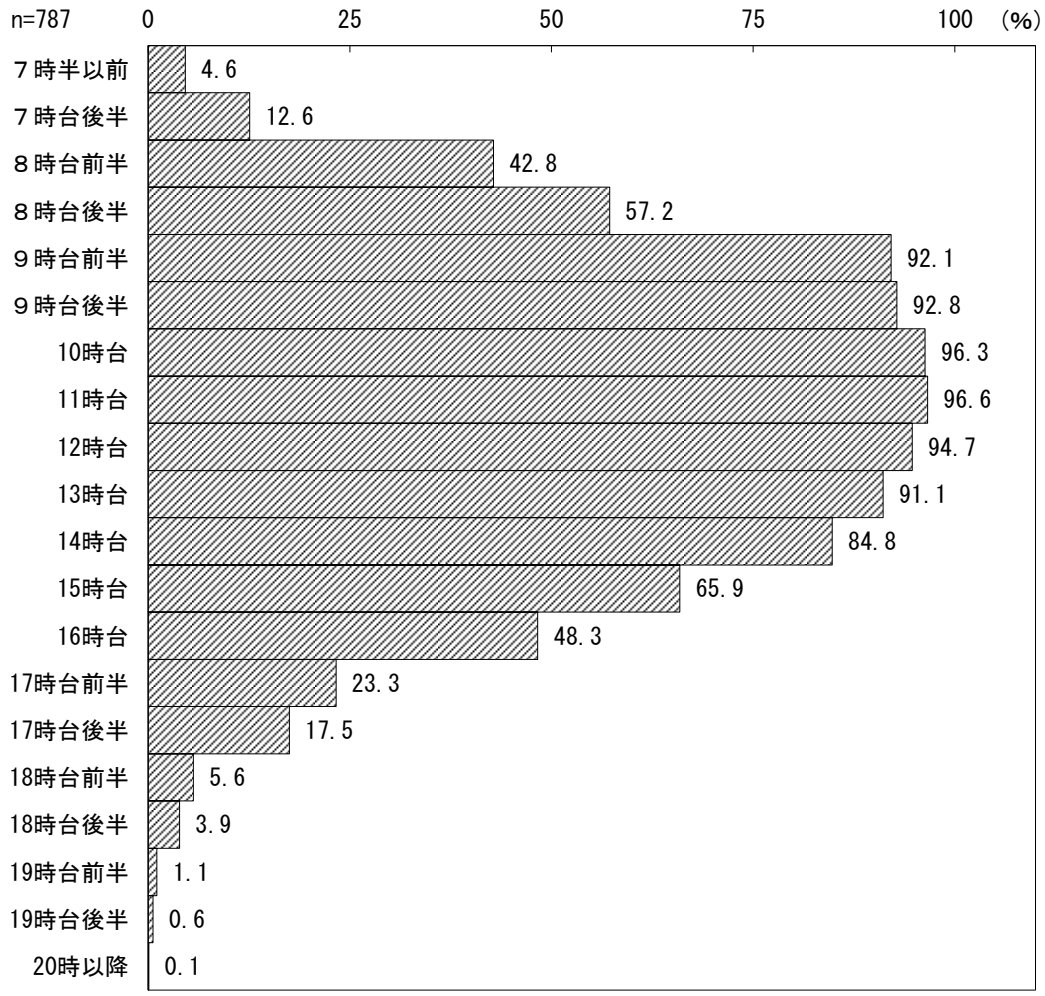
図表１－56　土曜日の定期的な教育・保育事業の利用意向



② 利用希望時間帯

土曜日の定期的な教育・保育事業を、「ほぼ毎週利用したい」または「月に１～２回は利用したい」と回答した人の利用希望時間帯は、８時台前半から40%を超え、９時台前半～13時台までは90%台となっています。その後は徐々に低下しますが、17時台で15%以上あります。

図表１－57　利用希望時間帯（土曜日）



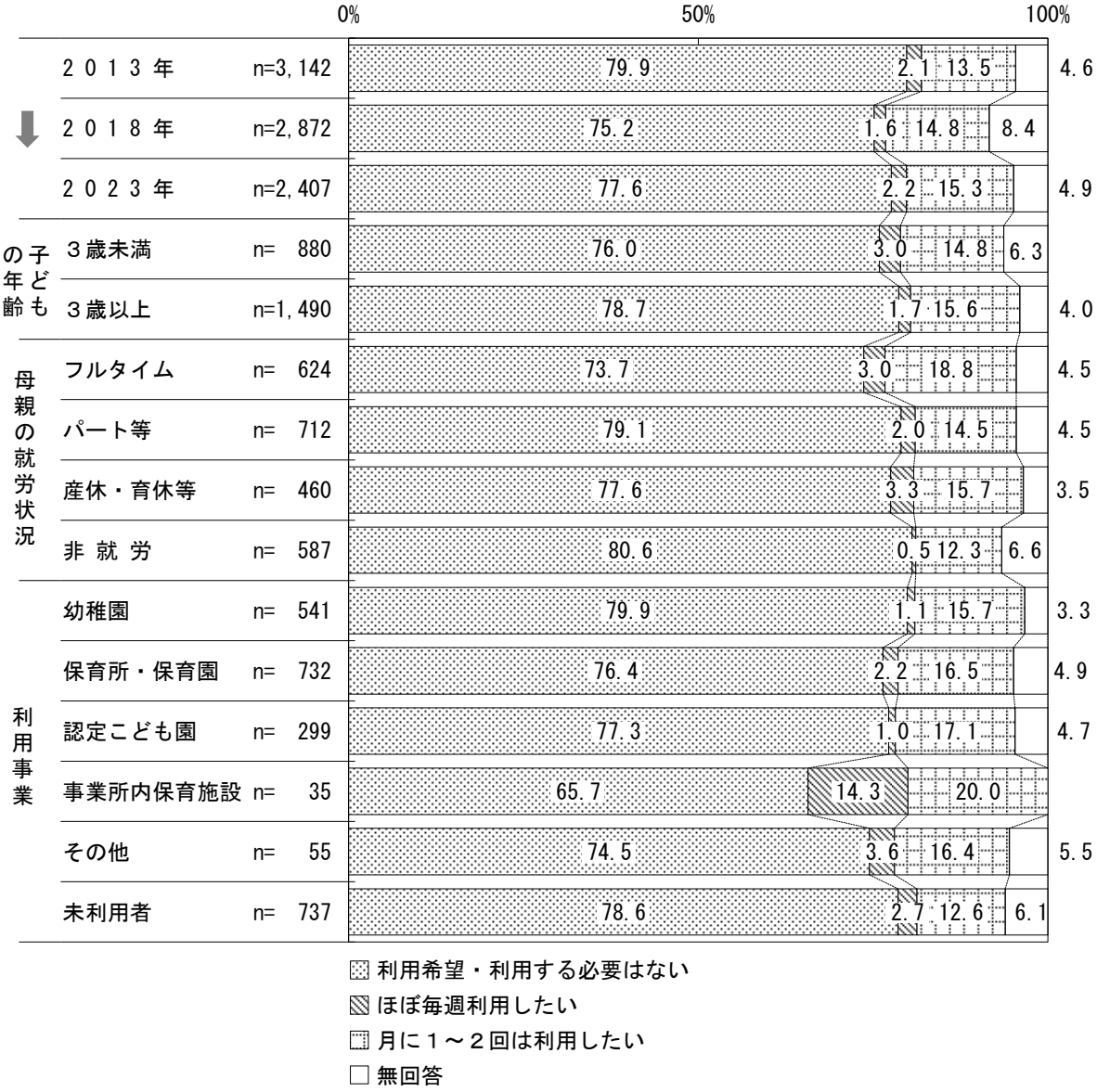
(2)　日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業[Q23(2)]

①　利用意向

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業については、「利用する必要はない」が77.6%を占めています。「ほぼ毎週利用したい」（2.2%）と「月に１～２回は利用したい」（15.3%）を合計した《利用したい》は17.5%です。

母親の就労状況別にみると、フルタイムの利用意向が高く、《利用したい》は21.8%です。また、定期的な教育・保育事業別にみると、事業所内保育施設の《利用したい》が30%を超えています。

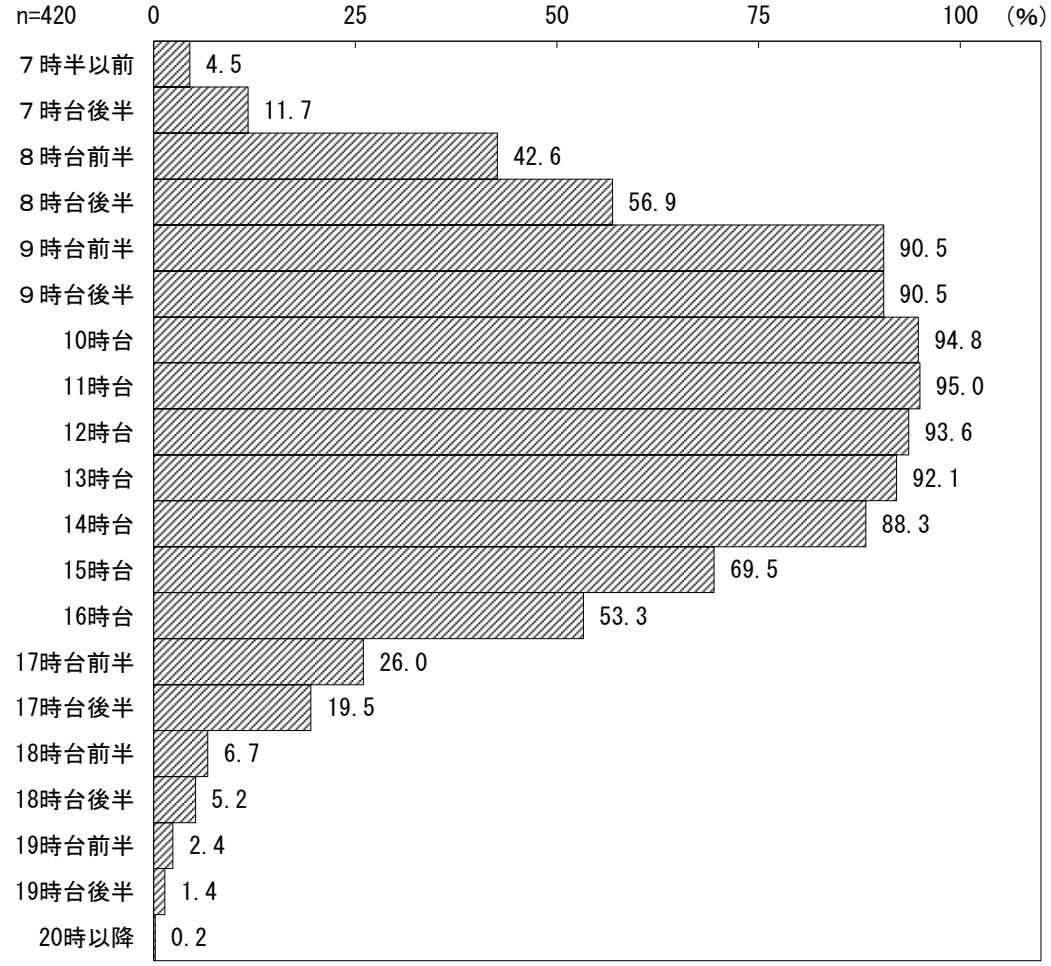
図表１－58　日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用意向



② 利用希望時間帯

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業を、「ほぼ毎週利用したい」または「月に１～２回は利用したい」と回答した人の利用希望時間帯は、土曜日における利用希望時間帯と同様に、８時台前半から40%を超え、９時台前半～13時台までは90%台となっています。その後は徐々に低下しますが、17時台後半でも20%近くあります。

図表１－59　利用希望時間帯（日曜日・祝日）



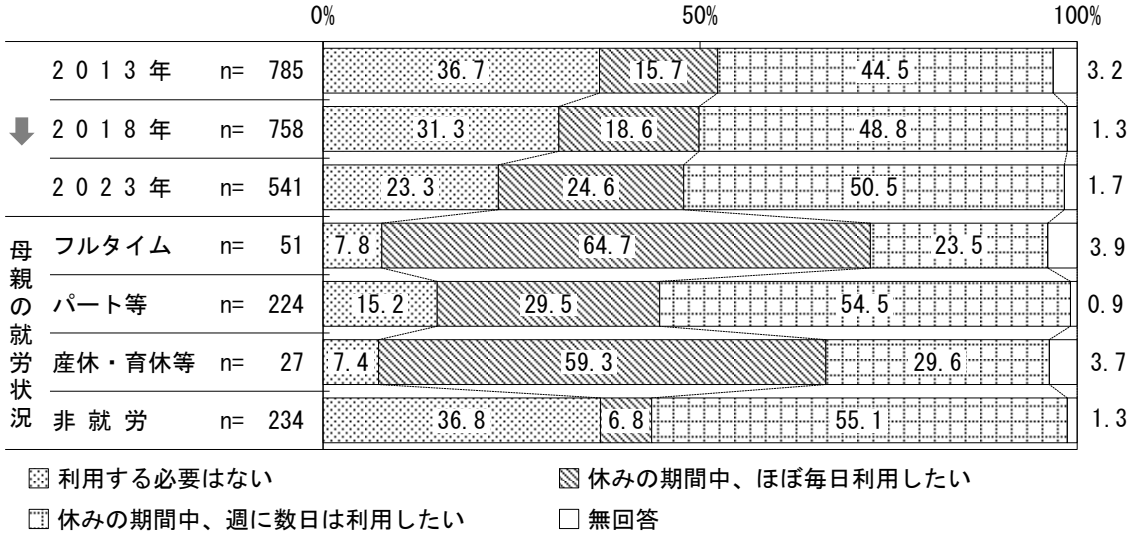
(3) 長期休暇期間中の定期的な教育・保育事業（幼稚園利用者）［Q24］

① 利用意向

幼稚園の利用者に、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中における教育・保育事業の利用意向についてたずねたところ、「休みの期間中、週に数日利用したい」が50.5%を占めており、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」（24.6%）との合計《利用したい》は75.1%となっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムの利用意向が高く、《利用したい》は88.2%です。

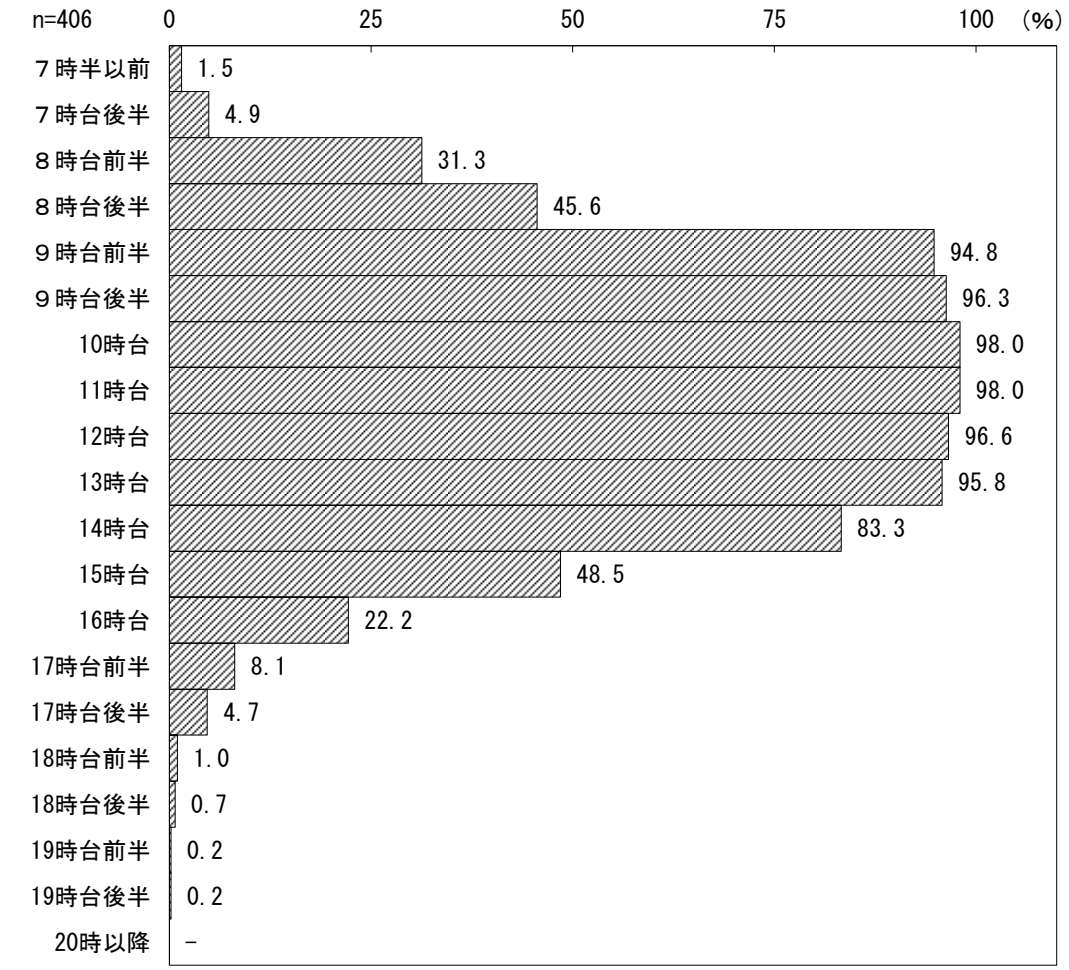
図表１－60　長期休暇期間中の定期的な教育・保育事業の利用意向



② 利用希望時間帯

長期休暇期間中における教育・保育事業の利用希望時間帯は、９時台前半～13時台までは90%台となっています。

図表１－61　利用希望時間帯（長期休暇期間中）



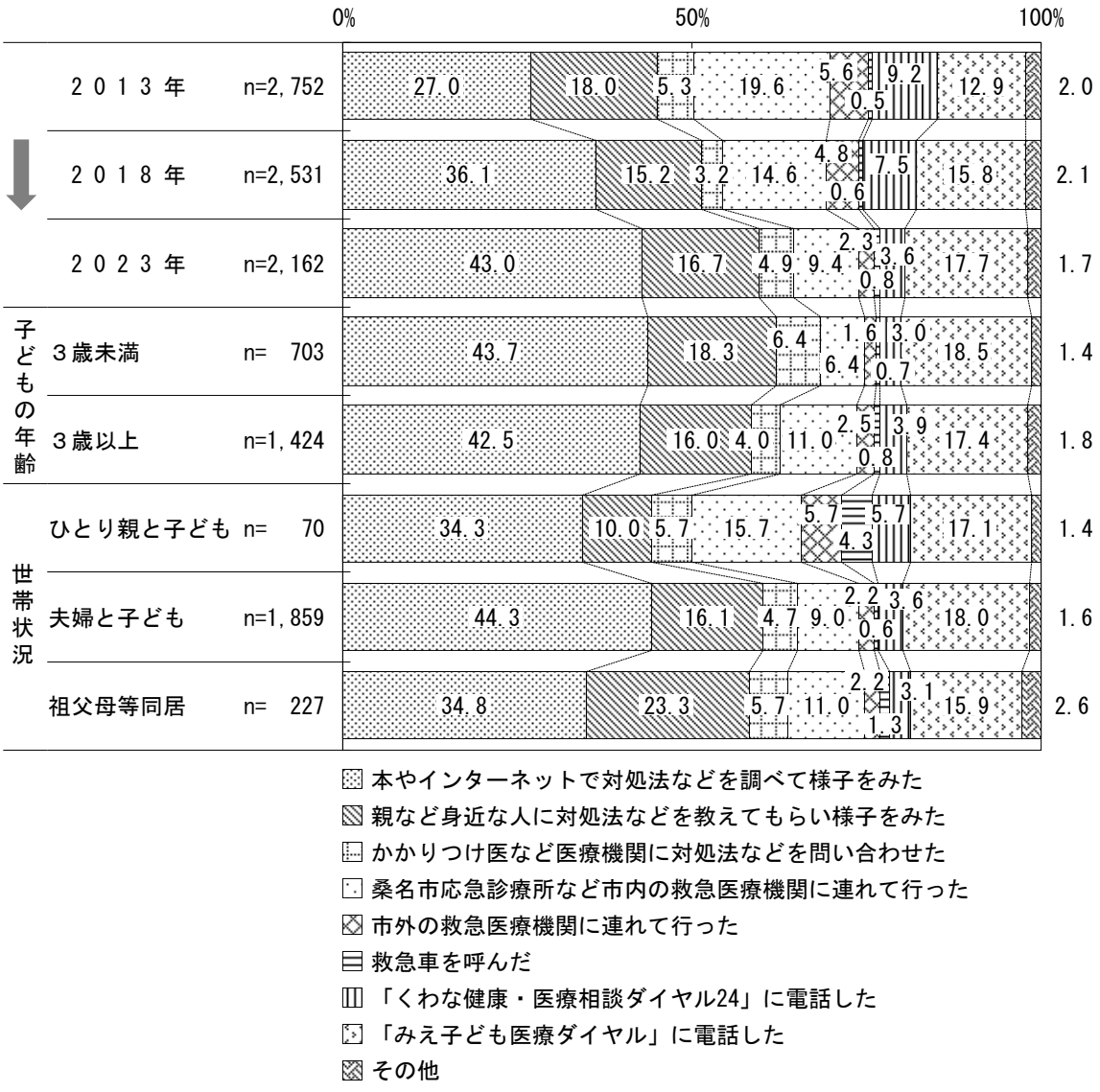
6 子どもが病気の時の対応

(1) 子どもが休日・夜間に病気になった時の対応[Q25]

子どもが休日・夜間に病気になった時の対応としては、「家庭用の医学書やインターネットで対処法などを調べて様子をみた」が43.0%と最も高く、次いで「「みえ子ども医療ダイヤル」に電話した」が17.7%、「自分や配偶者の親など身近な人に対処法などを教えてもらい様子をみた」が16.7%などとなっています。

過去の調査結果との比較では、「本やインターネットで対処法などを調べて様子をみた」が大幅に上昇する一方、「桑名市応急診療所など市内の救急医療機関に連れて行った」が低下しています。世帯状況別にみると、祖父母等同居では「自分や配偶者の親など身近な人に対処法などを教えてもらい様子をみた」が23.3%と比較的高くなっています。

図表１－62　子どもが休日・夜間に病気になった時の対応



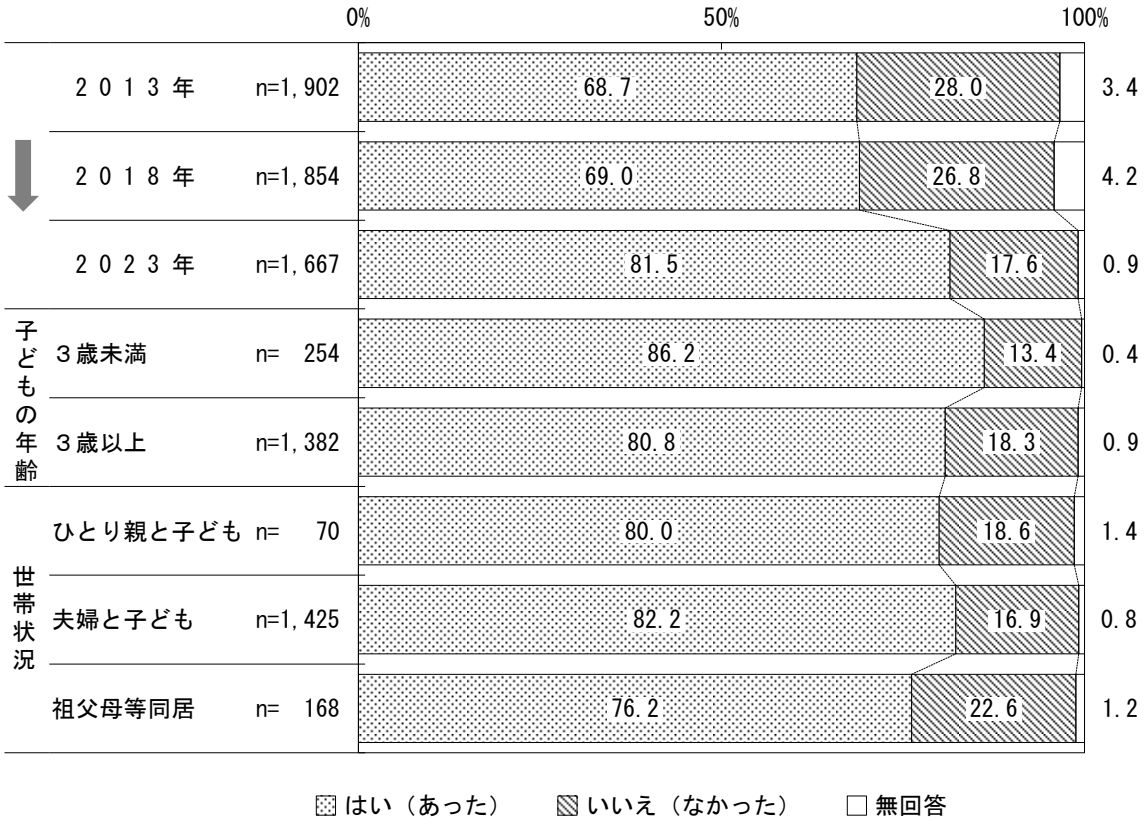
注：「今まで、子どもが休日や夜間に病気になったことがない」および無回答を除く。

⑵　子どもが病気等で平日の定期的な教育・保育事業を利用できなかったことの有無[Q26]

平日の定期的な教育・保育事業を利用している人に、「この１年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったこと」があるかをたずねたところ、「はい（あった）」が81.5%、「いいえ（なかった）」が17.6%となっています。2018年の調査結果との比較では、「はい（あった）」が10ポイント以上上昇しています。

世帯状況別にみると、祖父母等同居では「はい（あった）」が若干低くなっています。

図表１－63　子どもが病気等で平日の定期的な教育・保育事業を利用できなかったことの有無



⑶　子どもが病気等で平日の定期的な教育・保育事業を利用できなかった時の対処法[Q27]

子どもが病気等で平日の定期的な教育･保育事業を利用できなかった時の対処法については、「母親が休んだ」が81.1%と突出して高く、次いで「父親が休んだ」が37.4%、「親族・知人に預けた（同居者を含む）」が29.8%などの順となっています。

対処が必要だった年間の日数の平均は20.7日です。

子どもの年齢別にみると、3歳未満では「母親が休んだ」が90%以上を占めています。世帯状況別にみると、祖父母等同居では「親族・知人に預けた（同居者を含む）」が若干高くなっています。

図表１－64　子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかった時の対処法（複数回答）



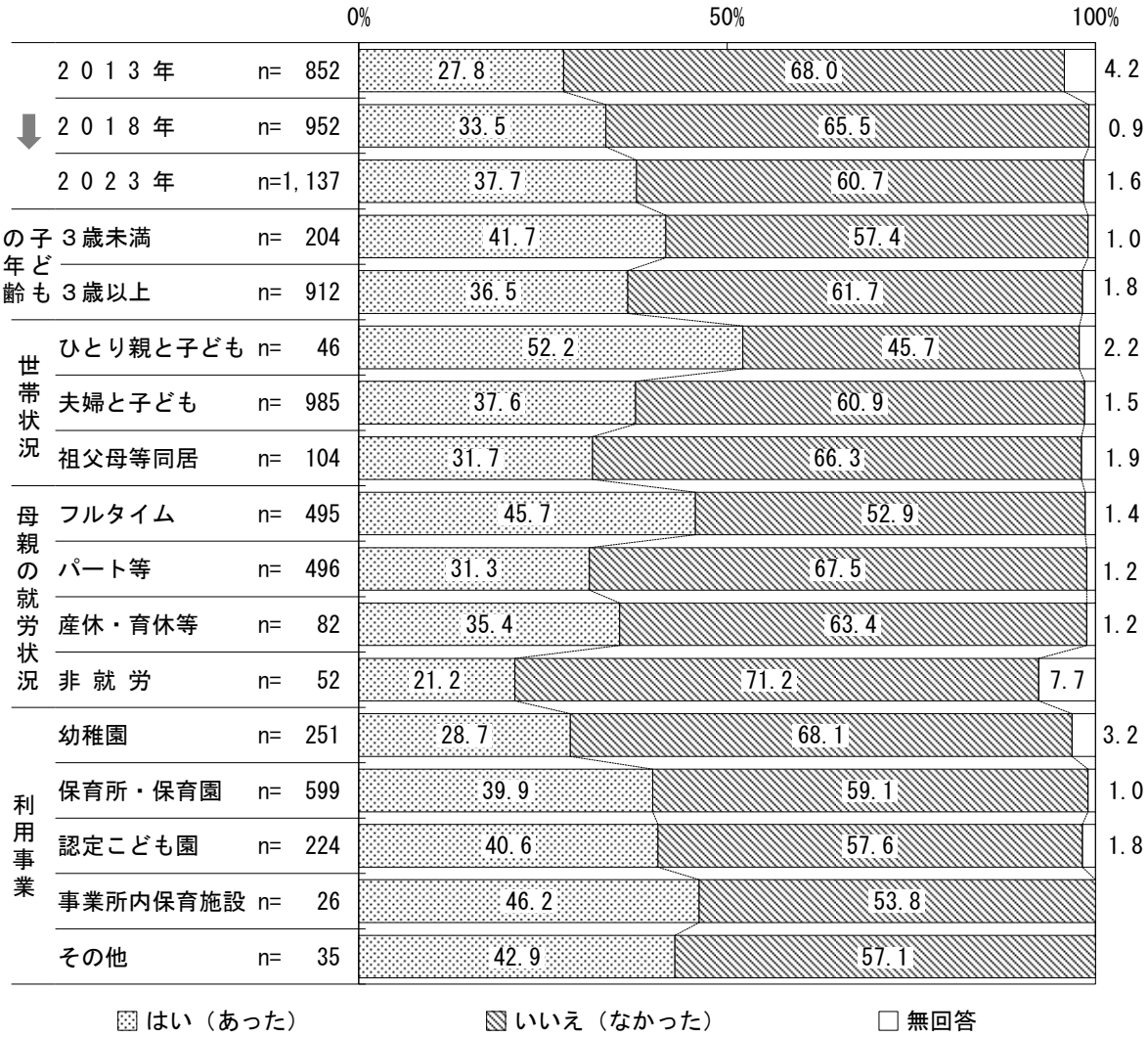
区分		n	父親が休んだ	母親が休んだ	親族・知人に預けた（同居者を含む）	仕事をしていない保護者がみた	病児・病後児保育を利用した	ベビーシッターを利用した	ファミリーサポートセンターを利用した	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	その他	年間の対処日数の平均（日／年）
	２０１３年	1,306	15.9	63.5	33.3	25.7	6.8	0.1	0.5	0.6	1.8	9.5
	２０１８年	1,280	20.5	72.9	31.5	22.0	6.5	－	0.1	0.5	1.6	9.6
	２０２３年	1,358	37.4	81.1	29.8	17.2	5.2	0.2	－	0.8	3.4	20.7
子どもの年齢	３歳未満	219	48.9	91.8	41.6	4.6	7.3	－	－	－	3.7	23.3
	３歳以上	1,116	35.2	78.9	27.4	19.8	4.7	0.3	－	0.9	3.4	20.4
世帯状況	ひとり親と子ども	56	12.5	73.2	30.4	16.1	10.7	1.8	－	1.8	3.6	20.9
	夫婦と子ども	1,172	40.3	82.0	29.2	17.0	4.9	0.2	－	0.6	3.5	21.2
	祖父母等同居	128	21.1	76.6	35.9	20.3	5.5	－	－	1.6	2.3	16.6
母親の就労状況	フルタイム	522	58.0	93.9	44.8	2.5	9.2	0.2	－	1.0	5.6	19.5
	パート等	520	23.7	95.0	23.8	6.2	3.1	0.4	－	1.2	2.3	17.0
	産休・育休等	106	45.3	71.7	25.5	29.2	2.8	－	－	－	3.8	26.7
	非就労	195	13.3	17.9	6.2	80.0	0.5	－	－	－	0.5	31.7
利用事業	幼稚園	407	20.9	58.5	15.5	41.5	1.7	0.5	－	1.5	2.7	22.4
	保育所・保育園	631	45.3	92.4	36.8	5.1	6.8	0.2	－	0.6	3.5	19.2
	認定こども園	252	39.7	87.3	36.5	11.1	4.4	－	－	－	3.6	20.7
	事業所内保育施設	26	65.4	100.0	30.8	－	15.4	－	－	－	3.8	17.6
	その他	40	47.5	82.5	25.0	12.5	12.5	－	－	2.5	7.5	30.1
年間の対処日数の平均（日／年）			5.4	12.8	8.2	30.3	5.1	77.0	－	1.7	8.7	

(4)　病児・病後児保育施設の利用［Q28］

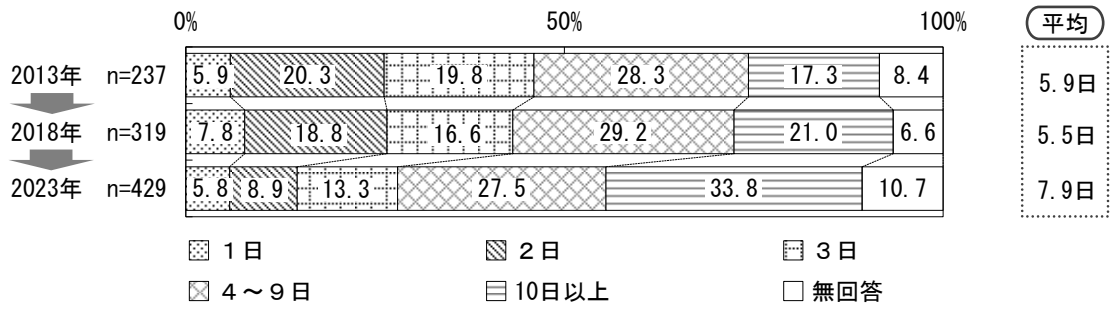
子どもが病気等で教育・保育事業を利用できなかった時の対処法として、「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した1,137人の病児・病後児保育施設の利用意向（利用したいと思ったことはありましたか⇒「はい」と回答）は37.7%です。過去の調査結果に比べ上昇しています（図表１－65）。

病児・病後児保育施設の年間の利用希望日数は、「10日以上」が33.8%と最も高く、平均は7.9日と、2018年の調査結果に比べ2.4日増加しています（図表１－66）。

図表１－65　病児・病後児保育施設等の利用意向



図表１－66　病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数

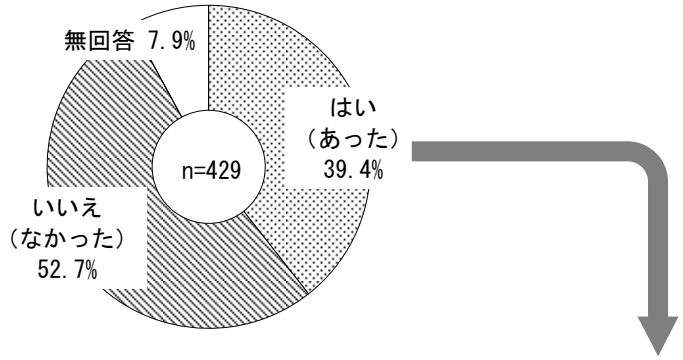


⑸　病児・病後児保育施が利用できなかったことの有無[Q29・30]

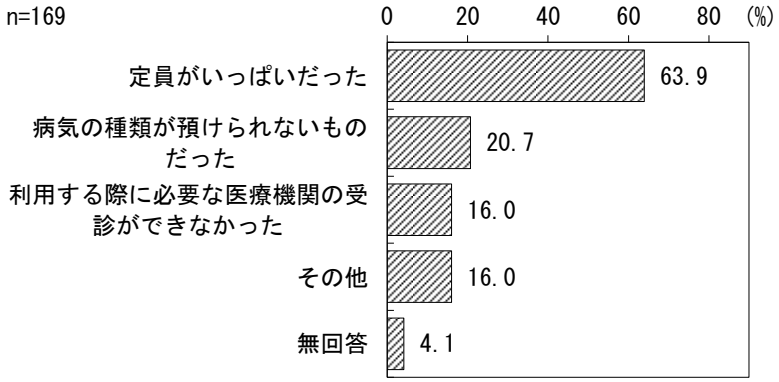
病児・病後児保育施設の利用意向があった人に、病児・病後児保育施設を利用できなかったことの有無についてたずねたところ、「はい（あった）」が39.4%、「いいえ（なかった）」が52.7%です（図表１－67）。

病児・病後児保育施設を利用できなかった理由としては、「定員がいっぱいだった」が63.9%と最も高く、次いで「病気の種類が預けられないものだった」が20.7%などとなっています。「その他」として「存在を知らなかった」（４人）「利用方法が分からなかった」（３人）「急な対応では、手続きができなかった」（３人）等の記載がありました（図表１－68）。

図表１－67　病児・病後児保育施設が利用できなかったことの有無



図表１－68　病児・病後児保育施設等が利用できなかった理由（複数回答）



7 不定期な教育・保育事業等

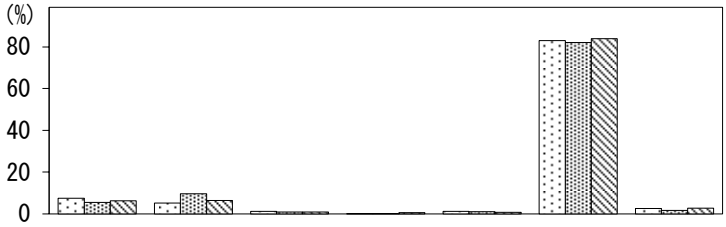
(1) 不定期な教育・保育事業の利用経験の有無［Q31］

私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している教育・保育事業の利用経験の有無をたずねたところ、「幼稚園の預かり保育」が6.4%、「一時保育」が6.2%、「ファミリーサポートセンター」が0.9%で、「利用していない」が80%以上です。

利用した年間の平均日数は、過去の調査結果に比べ大幅に増加し、23.9日となっています。母親の就労状況別にみると、フルタイムが37.5日、パート等が32.9日となっています。

「その他」として、「くわなメディアライヴのプレイルーム」「事業所内託児所の休日利用」「児童発達支援」などの記載がありました。

図表１－69　不定期の教育・保育事業の利用の有無（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



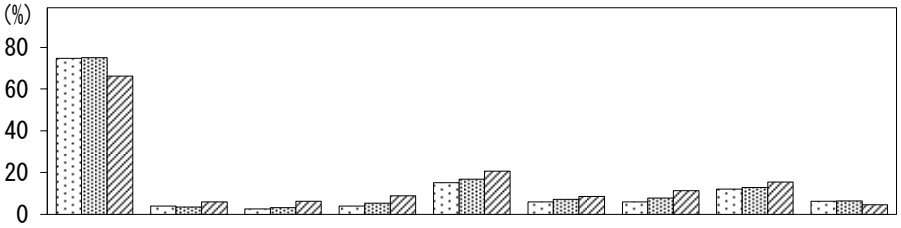
区分		ｎ	一時保育	幼稚園の預かり保育	ファミリーサポートセンター	ベビーシッター	その他	利用していない	無回答	利用した平均日数（日／年）
	２０１３年	3,142	7.5	5.1	1.2	0.1	1.2	83.0	2.5	12.7
	２０１８年	2,872	5.5	9.6	0.9	0.1	1.0	82.1	1.7	18.8
	２０２３年	2,407	6.2	6.4	0.9	0.5	0.7	84.0	2.7	23.9
子どもの年齢	３歳未満	880	9.0	0.5	0.5	0.5	0.7	86.1	3.3	12.2
	３歳以上	1,490	4.7	10.0	1.1	0.5	0.8	82.5	2.2	28.7
世帯状況	ひとり親と子ども	78	3.8	6.4	2.6	1.3	2.6	84.6	2.6	11.7
	夫婦と子ども	2,074	6.6	6.4	0.9	0.4	0.5	83.8	2.7	23.7
	祖父母等同居	249	4.0	6.4	－	－	2.0	85.9	2.0	29.0
母親の就労状況別	フルタイム	624	4.2	1.9	1.9	0.5	0.6	89.7	2.2	37.5
	パート等	712	4.8	11.5	0.7	0.6	1.0	81.7	2.0	32.9
	産休・育休等	460	8.0	1.3	0.4	0.7	0.7	86.1	3.5	11.4
	非就労	587	8.9	9.0	0.3	0.2	0.7	78.9	2.9	14.2
利用した平均日数（日／年）			11.9	34.9	12.5	17.4	17.1			

(2) 不定期な教育・保育事業を利用していない理由[Q32]

不定期な教育・保育事業等を「利用していない」と答えた人に、その理由をたずねたところ、「特に利用する必要がない」が66.1%と最も高くなっています。一方、「利用したい事業が地域にない」「地域の事業の質に不安がある」「地域の事業の利便性（立地や利用可能時間・日数など）がよくない」「利用料がかかる・高い」を合計した《条件が合わない》は41.5%、「利用料がわからない」「自分が事業の対象者になるのかどうかわからない」「事業の利用方法（手続き等）がわからない」を合計した《条件がわからない》は35.5%です。過去の調査結果との比較では、「特に利用する必要がない」が低下した反面、《条件が合わない》および《条件がわからない》は大きく上昇しています。

「その他」として、「手続きが面倒」「祖父母に預けている」「子どもが嫌がる」等が多く記載されていました。

図表１－70　子どもを預けない理由（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



区分		ｎ	特に利用する必要がない	利用したい事業が地域にない	地域の事業の質に不安がある	地域の事業の利便性（立地や利用可能時間・日数など）がよくない	利用料がかかる・高い	利用料がわからない	自分が事業の対象者になるのかどうかわからない	事業の利用方法（手続き等）がわからない	その他
	２０１３年	2,608	74.7	4.0	2.5	4.0	15.2	5.9	5.9	12.0	6.3
	２０１８年	2,358	75.0	3.5	3.2	5.3	16.8	7.1	7.8	12.8	6.4
	２０２３年	2,021	66.1	5.9	6.2	8.8	20.6	8.6	11.3	15.4	4.5
子どもの年齢	３歳未満	758	67.8	5.3	7.1	8.4	19.9	8.6	10.9	15.4	5.4
	３歳以上	1,229	64.9	6.2	5.8	9.0	21.0	8.8	11.5	15.6	3.9
世帯状況	ひとり親と子ども	66	48.5	3.0	6.1	13.6	34.8	10.6	9.1	22.7	9.1
	夫婦と子ども	1,737	66.0	6.3	6.3	8.7	20.7	8.3	11.5	15.4	4.6
	祖父母等同居	214	72.9	3.7	4.7	7.5	15.0	10.3	11.2	14.0	1.9
母親の就労状況別	フルタイム	560	58.6	8.6	8.6	12.0	19.6	9.3	12.3	19.5	5.5
	パート等	582	64.6	5.2	4.1	8.1	24.9	8.6	11.2	14.4	2.4
	産休・育休等	396	73.0	4.3	5.8	7.3	17.2	8.6	9.3	12.4	7.3
	非就労	463	71.1	5.4	6.5	7.1	18.8	8.0	12.1	14.0	3.2

(3) 不定期な教育・保育事業の利用意向[Q33]

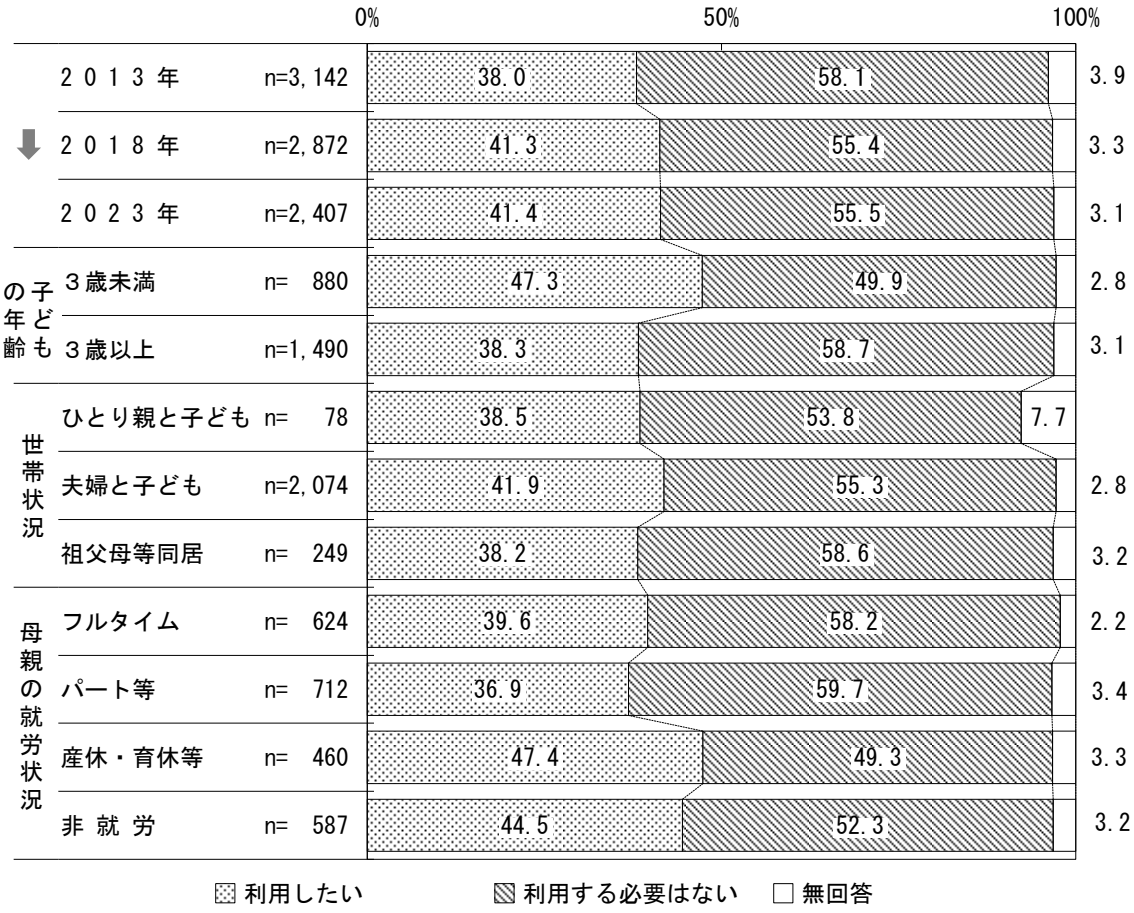
① 利用意向

不定期な教育・保育事業の利用意向は41.4%です。2018年の調査結果とほぼ同じです。

世帯状況別にみると、夫婦と子どもの世帯では41.9%と若干高くなっています。

母親の就労状況別にみると、産休・育休等および非就労では45%を超えています。

図表１－71　不定期な教育・保育事業の利用意向



② 利用したい理由

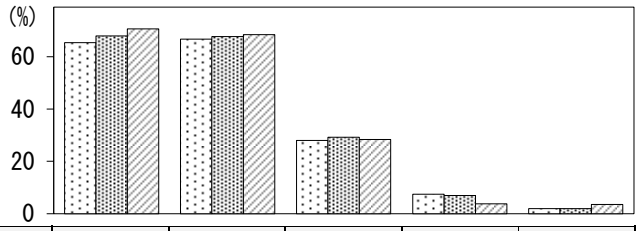
不定期な教育・保育事業を利用したい理由は、「私用、リフレッシュ目的」が70.6%と最も高く、次いで「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が68.5%、「不定期の就労」が28.3%の順となっています。子どもの年齢別にみると、3歳未満では「私用、リフレッシュ目的」、３歳以上では「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」が最も高くなっています。

過去の調査結果との比較では、「私用、リフレッシュ目的」が2018年に比べ2.6ポイント上昇しています。

「その他」として、「妊婦健診・健康診査」「長期休暇中の就労」「きょうだいの習い事・イベント等」などの記載がありました。

利用したい年間の平均日数は20.0日です。理由別にみると、「不定期の就労」が22.5日と多くなっています。

図表１－72　不定期な教育・保育事業の利用目的（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



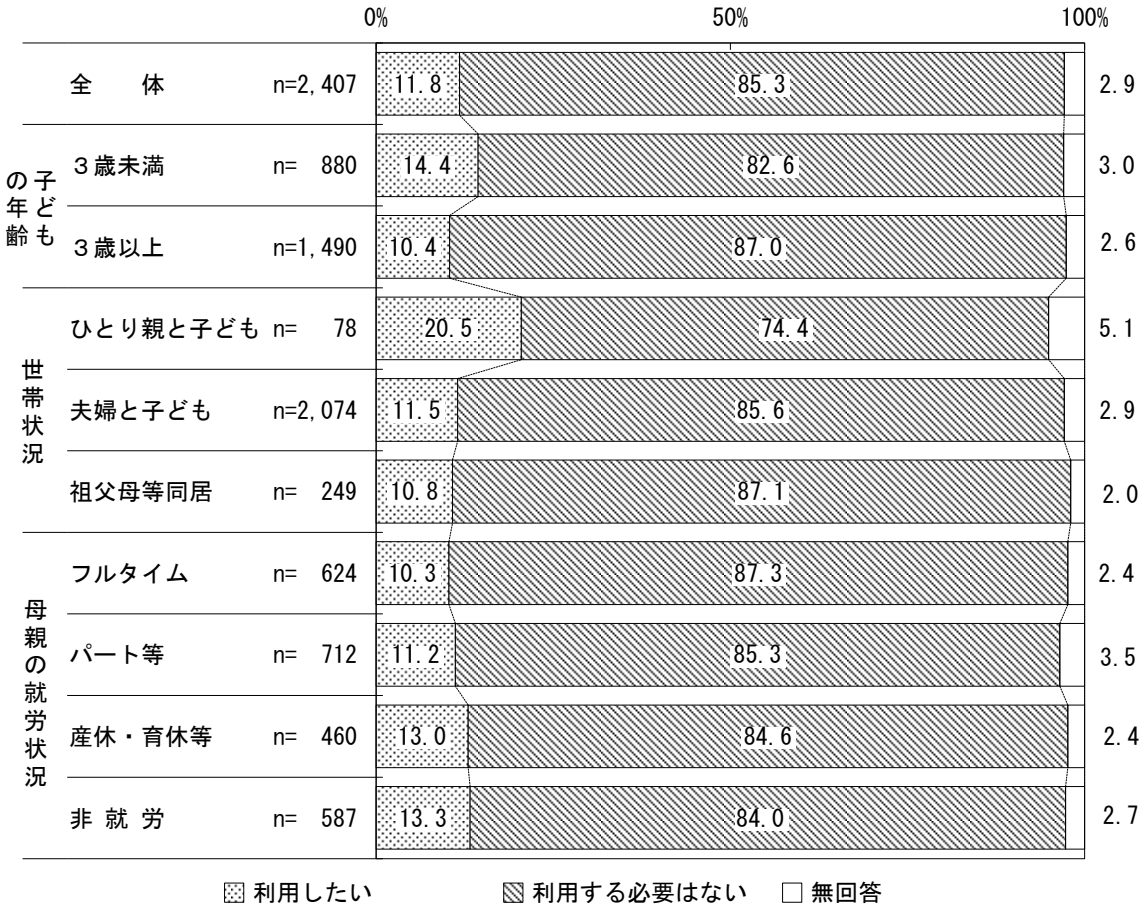
区分		ｎ	私用、リフレッシュ目的	冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等	不定期の就労	その他	無回答	利用したい平均日数（日／年）
	２０１３年	1,195	65.4	66.7	28.0	7.4	1.9	20.2
	２０１８年	1,185	68.0	67.7	29.2	6.9	1.9	20.7
	２０２３年	997	70.6	68.5	28.3	3.8	3.5	20.0
子どもの年齢	３歳未満	416	75.2	65.6	23.6	3.4	4.3	21.4
	３歳以上	570	67.2	70.5	31.8	4.2	2.8	19.1
世帯状況	ひとり親と子ども	30	73.3	56.7	40.0	3.3	6.7	15.6
	夫婦と子ども	869	70.7	69.7	27.7	3.3	3.2	19.8
	祖父母等同居	95	70.5	61.1	29.5	8.4	5.3	23.9
母親の就労状況	フルタイム	247	71.3	61.5	27.9	4.0	5.3	12.6
	パート等	263	63.1	71.1	41.1	2.3	4.2	24.2
	産休・育休等	218	73.9	72.5	22.9	3.7	2.3	19.4
	非就労	261	75.1	69.7	20.3	4.6	2.3	23.3
利用したい平均日数（日／年）			10.2	8.0	22.5	16.7		

(4)　短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向[Q34]

保護者の用事などにより、子どもを泊りがけで家族以外の人に預ける必要の有無を想定して、短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向（「利用したい」）をたずねたところ11.8%でした。

世帯状況別にみると、ひとり親と子どものみの世帯では20%を超えています。また、母親の就労状況別では、就業している人に比べ産休・育休等および非就労の利用意向が高くなっています。

図表１－73　　短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用意向



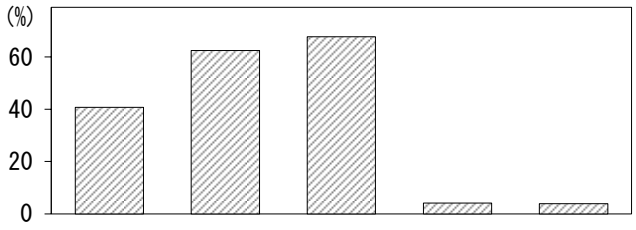
(5) 短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的[Q34]

短期入所生活援助事業を利用したい理由は、「保護者や家族の病気」が67.7%と最も高く、次いで「保護者や家族の育児疲れ・不安」が62.5%、「冠婚葬祭」が40.7%の順となっています。子どもの年齢別にみると、3歳未満は3歳以上に比べて「保護者や家族の育児疲れ・不安」が16.9ポイントと大幅に高くなっています。

「その他」として、「宿泊を伴う出張」「きょうだいの行事・部活」などの記載がありました。

利用したい年間の平均日数は11.7日です。理由別にみると、「保護者や家族の育児疲れ・不安」が8.1日と多くなっています。

図表１－74　短期入所生活援助事業（ショートステイ）の利用目的（複数回答）　単位：ｎは人、他は%



区分		n	冠婚葬祭	保護者や家族の育児疲れ・不安	保護者や家族の病気	その他	無回答	利用したい平均日数（日／年）
全体		285	40.7	62.5	67.7	4.2	3.9	11.7
子どもの年齢	３歳未満	127	40.2	71.7	71.7	1.6	4.7	14.6
	３歳以上	155	41.3	54.8	64.5	6.5	3.2	9.3
世帯状況	ひとり親と子ども	16	25.0	56.3	62.5	12.5	6.3	10.8
	夫婦と子ども	239	41.0	63.6	68.6	4.2	3.3	12.1
	祖父母等同居	27	44.4	51.9	66.7	－	7.4	6.4
母親の就労状況	フルタイム	64	37.5	46.9	59.4	10.9	4.7	11.2
	パート等	80	38.8	65.0	70.0	5.0	1.3	10.1
	産休・育休等	60	40.0	71.7	75.0	1.7	5.0	12.0
	非就労	78	43.6	66.7	66.7	－	5.1	13.8
利用したい平均日数（日／年）			3.0	8.1	6.8	4.9		

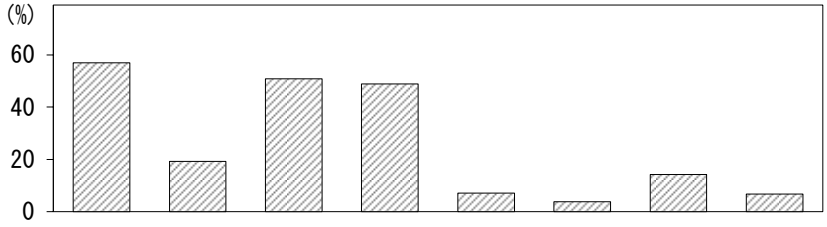
8 小学校就学後の放課後の過ごし方

(1) 低学年のうちの放課後の過ごし方［Q35］

子どもの年齢が５歳以上の人を対象に、子どもが小学校へ就学後、低学年（１～３年生）のうちは、放課後の時間をどこで過ごさせたいと考えているかをたずねたところ、「自宅」が56.9%と最も高く、次いで「習い事」が50.8%、「放課後児童クラブ（学童保育）・放課後子ども教室」が48.8%、「祖父母宅や友人・知人宅」が19.2%などの順となっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムおよび産休・育休等は「放課後児童クラブ（学童保育）・放課後子ども教室」が最も高くなっています。

図表１－75　低学年のうちの放課後の過ごし方（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%

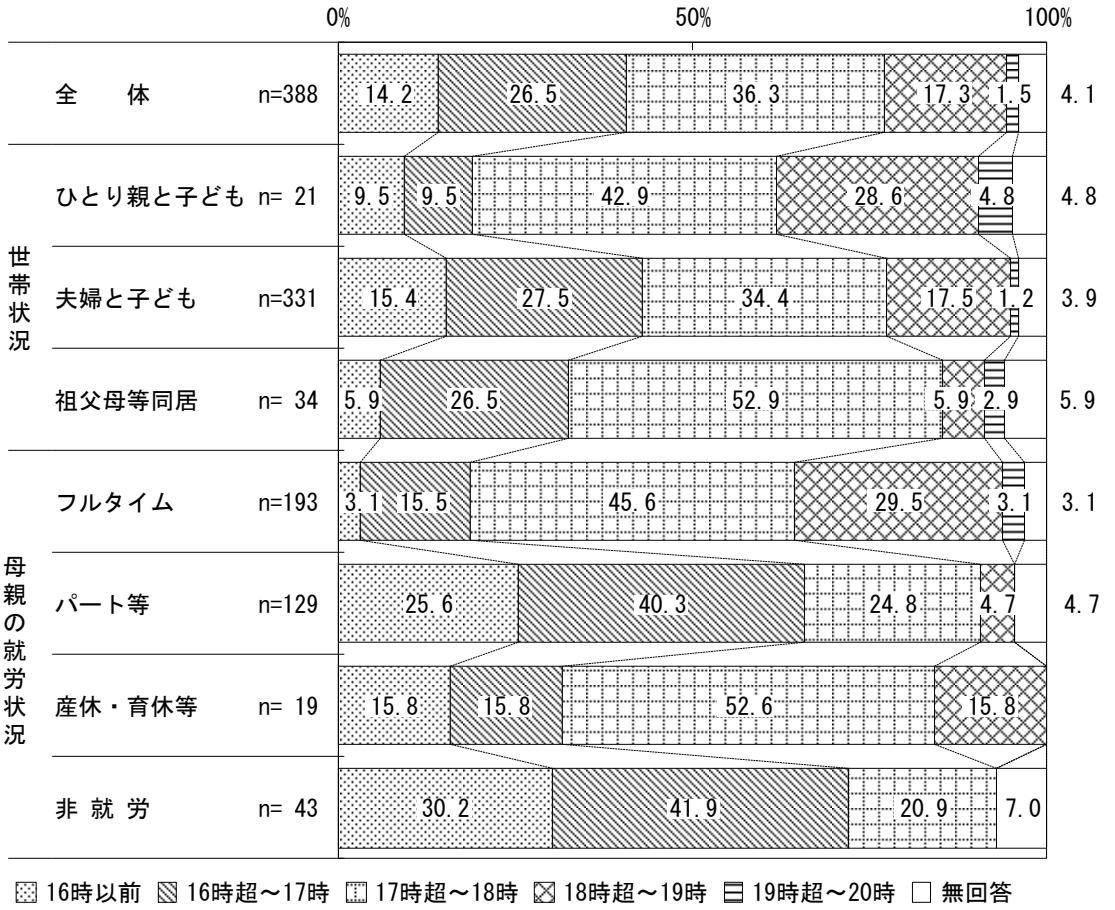


区分		n	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	習い事	放課後児童クラブ・放課後子ども教室	児童センター	ファミリーサポートセンター	その他	無回答
全体		795	56.9	19.2	50.8	48.8	7.2	3.8	14.3	6.8
世帯状況	ひとり親と子ども	42	35.7	9.5	35.7	50.0	7.1	－	9.5	4.8
	夫婦と子ども	667	57.9	20.1	51.7	49.6	6.6	3.7	14.1	6.3
	祖父母等同居	84	59.5	17.9	52.4	40.5	11.9	6.0	19.0	11.9
母親の就労状況別	フルタイム	261	31.0	15.3	39.8	73.9	6.5	4.6	5.4	5.4
	パート等	328	67.4	22.9	54.0	39.3	7.6	3.0	14.9	7.0
	産休・育休等	28	46.4	21.4	42.9	67.9	3.6	7.1	7.1	7.1
	非就労	167	77.8	18.0	64.7	25.7	7.8	3.0	27.5	7.8
希望する平均日数（日／週）			3.4	2.3	2.0	3.8	2.2	2.0	2.0	

放課後児童クラブの利用希望者に、下校時から何時まで利用したいかをたずねたところ、「17時超～18時」が36.3%と最も高く、次いで「16時超～17時」が26.5%などとなっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムおよび産休・育休等は17時以降、パート等および非就労は17時までの意向が高くなっています。

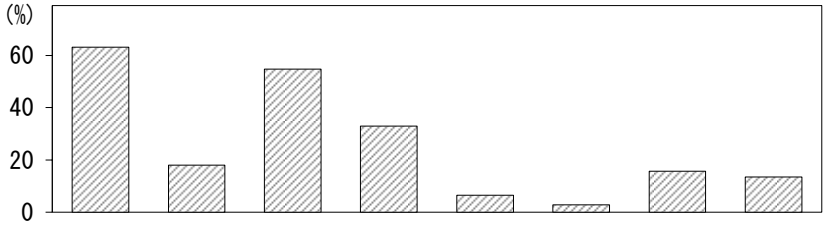
図表１－76　放課後児童クラブを何時まで利用したいか（低学年）



(2) 高学年になった時の放課後の過ごし方［Q35］

子どもの年齢が５歳以上の人を対象に、子どもが小学校高学年（４～６年生）になったら、放課後の時間をどこで過ごさせたいと考えているかをたずねたところ、「自宅」が63.1%と最も高く、次いで「習い事」が54.7%、「放課後児童クラブ（学童保育）・放課後子ども教室」が33.0%、「祖父母宅や友人・知人宅」が18.0%などの順となっています。

図表１－77　高学年になった時の放課後の過ごし方（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%

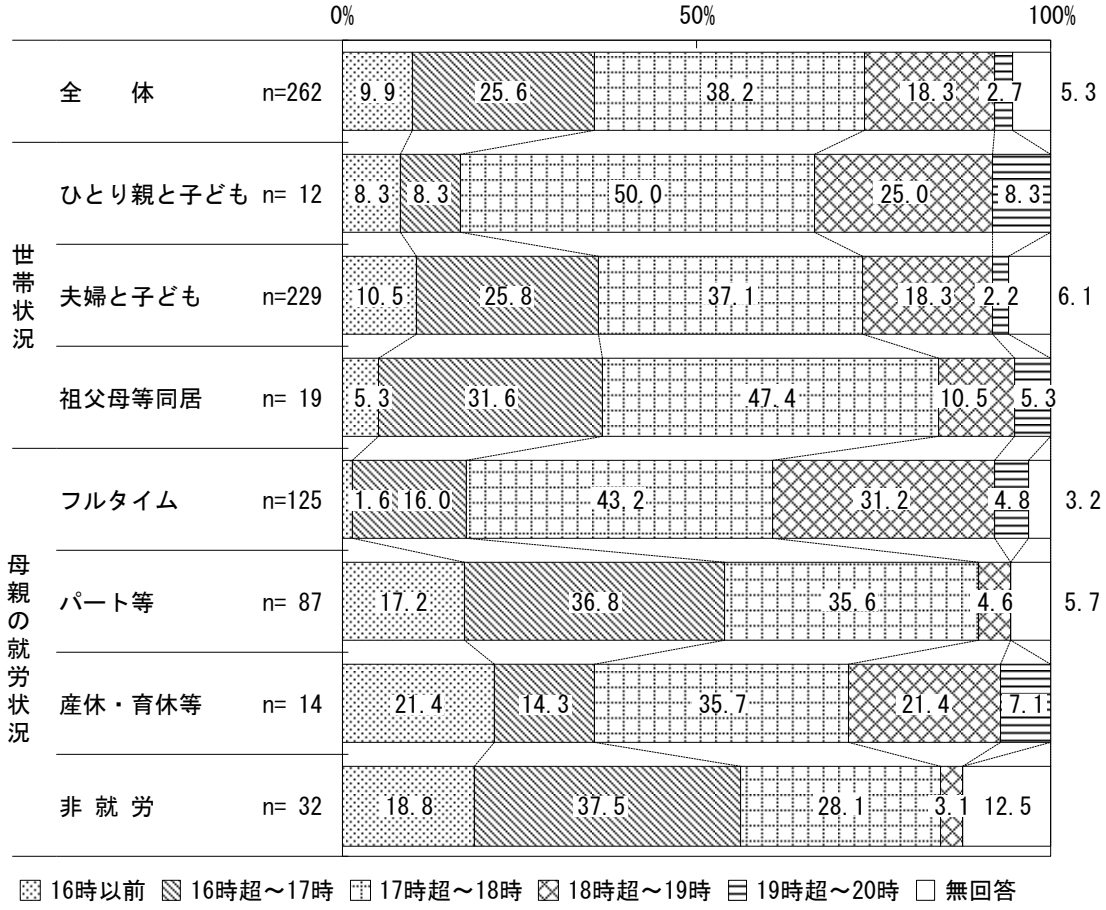


区分		n	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	習い事	放課後児童クラブ・放課後子ども教室	児童センター	ファミリーサポートセンター	その他	無回答
全体		795	63.1	18.0	54.7	33.0	6.5	2.9	15.7	13.5
世帯状況	ひとり親と子ども	42	50.0	9.5	38.1	28.6	4.8	－	9.5	16.7
	夫婦と子ども	667	64.2	19.0	55.9	34.3	6.4	3.0	15.9	12.3
	祖父母等同居	84	61.9	14.3	53.6	22.6	8.3	3.6	17.9	21.4
母親の就労状況別	フルタイム	261	49.0	15.3	47.1	47.9	6.1	3.4	7.3	14.2
	パート等	328	68.3	19.5	57.9	26.5	7.0	2.4	16.8	12.8
	産休・育休等	28	60.7	25.0	50.0	50.0	3.6	7.1	7.1	7.1
	非就労	167	75.4	18.0	62.3	19.2	6.6	2.4	27.5	14.4
希望する平均日数（日／週）			3.4	2.4	2.4	3.5	2.4	2.2	2.1	

放課後児童クラブの利用希望者に下校時から何時まで利用したいかをたずねたところ、「17時超～18時」が38.2%と最も高く、次いで「16時超～17時」が25.6%などとなっています。

母親の就労状況別にみると、フルタイムおよび産休・育休等は17時以降、パート等および非就労は17時までの意向が高くなっています。

図表１－78　放課後児童クラブを何時まで利用したいか（高学年）



9 仕事と子育ての両立

(1) 仕事と子育ての両立が難しいと感じたこと［Q36］

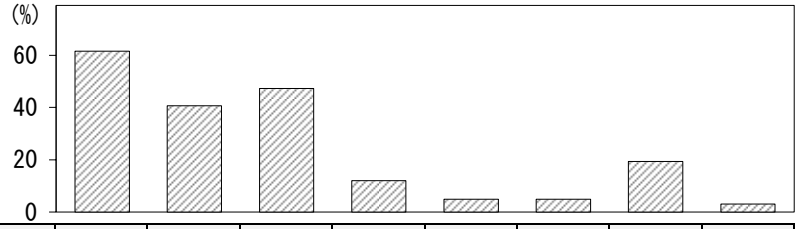
仕事と子育てを両立させる上で難しいと感じたことについてたずねたところ、「子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」が61.6%と最も高く、次いで「家事をしなければならないこと」が47.2%、「家族や職場の理解を得ること」が40.6%などとなっています。

世帯状況別にみると、祖父母等同居では他の世帯状況に比べ「子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」をはじめ困難要因が低くなっています。

母親の就労状況別にみると、困難要因はフルタイムが「子どもの面倒をみてくれる保育所・保育園などが見つからない」を除き他の状況に比べ高くなっています。

「その他」として、「子どもとの時間が取れない」「自分の体調が悪いとき」「有給休暇が足りなくなる」「自分の体力が持たない」「時間が足りない」「生活のため夫婦共働きせざるを得ない」などの記載がありました。

図表１－79　仕事と子育てを両立させる上で難しいと感じたこと(複数回答)　単位：ｎは人、他は%



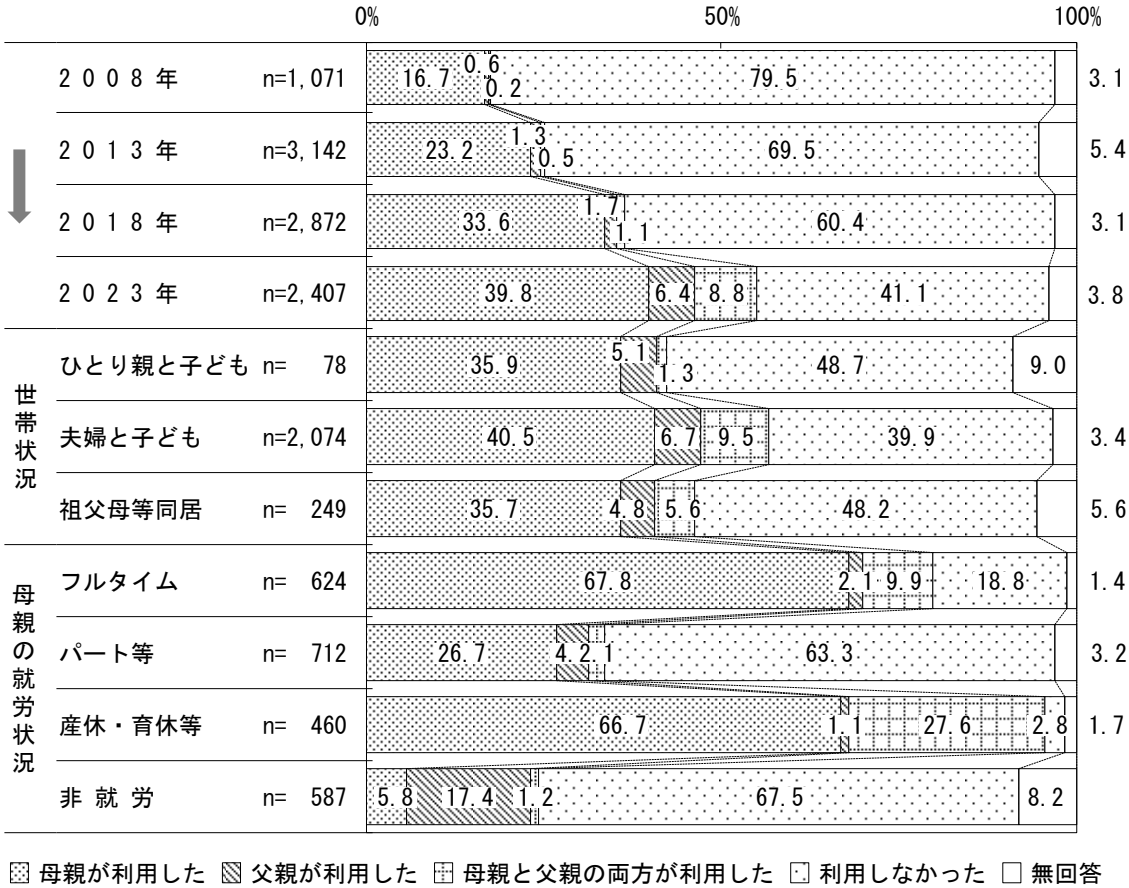
区分		n	子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない	家族や職場の理解を得ること	家事をしなければならないこと	子どもの面倒をみてくれる保育所・保育園などが見つからない	その他	特にない	子育てをしながら仕事をしたことがない	無回答
全体		2,407	61.6	40.6	47.2	12.1	4.9	4.9	19.4	3.1
子どもの年齢	３歳未満	880	50.3	36.7	44.1	16.5	3.8	3.5	33.2	4.2
	３歳以上	1,490	68.1	43.4	48.9	9.5	5.8	5.8	11.6	2.5
世帯状況	ひとり親と子ども	78	70.5	47.4	55.1	14.1	3.8	6.4	9.0	2.6
	夫婦と子ども	2,074	62.5	41.2	47.4	12.5	5.1	4.7	19.6	3.1
	祖父母等同居	249	50.6	34.5	42.6	7.2	3.6	6.8	21.3	3.6
母親の就労状況別	フルタイム	624	74.0	47.3	57.9	11.2	7.4	5.4	1.1	1.4
	パート等	712	73.5	41.3	52.1	9.7	5.1	7.9	0.3	2.1
	産休・育休等	460	47.8	40.4	44.8	17.0	4.6	1.5	37.6	2.4
	非就労	587	45.0	33.2	31.9	11.9	2.6	3.7	48.2	6.5

(2) 育児休業制度の利用状況［Q37］

育児休業制度については、「利用しなかった」が41.1%と最も高くなっていますが、次いで「母親が利用した」が39.8%、「母親と父親の両方が利用した」が8.8%、「父親が利用した」が6.4%となっており、これらの合計《利用した》は55.0%です。過去の調査との比較では回を追うごとに《利用した》が高くなっており、2013年に比べ18.6ポイント上昇しています。また、「父親が利用した」および「母親と父親の両方が利用した」は、2018年まではそれぞれ２%未満の非常に低い率でしたが、今回の調査ではともに５%を超えており、父親の育児休業の利用が増えていることが読み取れます。

母親の就労状況別にみると、フルタイムでは《利用した》が79.8%と80%近い率を示しています。

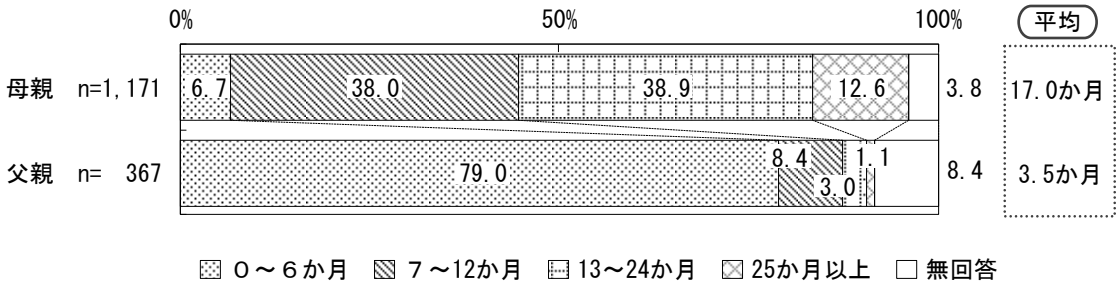
図表１－80　育児休業制度の利用状況



(3) 育児休業の期間［Q37－１］

育児休業制度を利用した人に、その期間をたずねたところ、母親は「13～24か月」が38.9%と最も高く、次いで「７～12か月」が38.0%となっており、平均は17.0か月です。一方、男性は「０～６か月」が79.0%を占め、７か月以上の合計は12.5%、平均は3.5か月です。

図表１－81　育児休業の取得期間



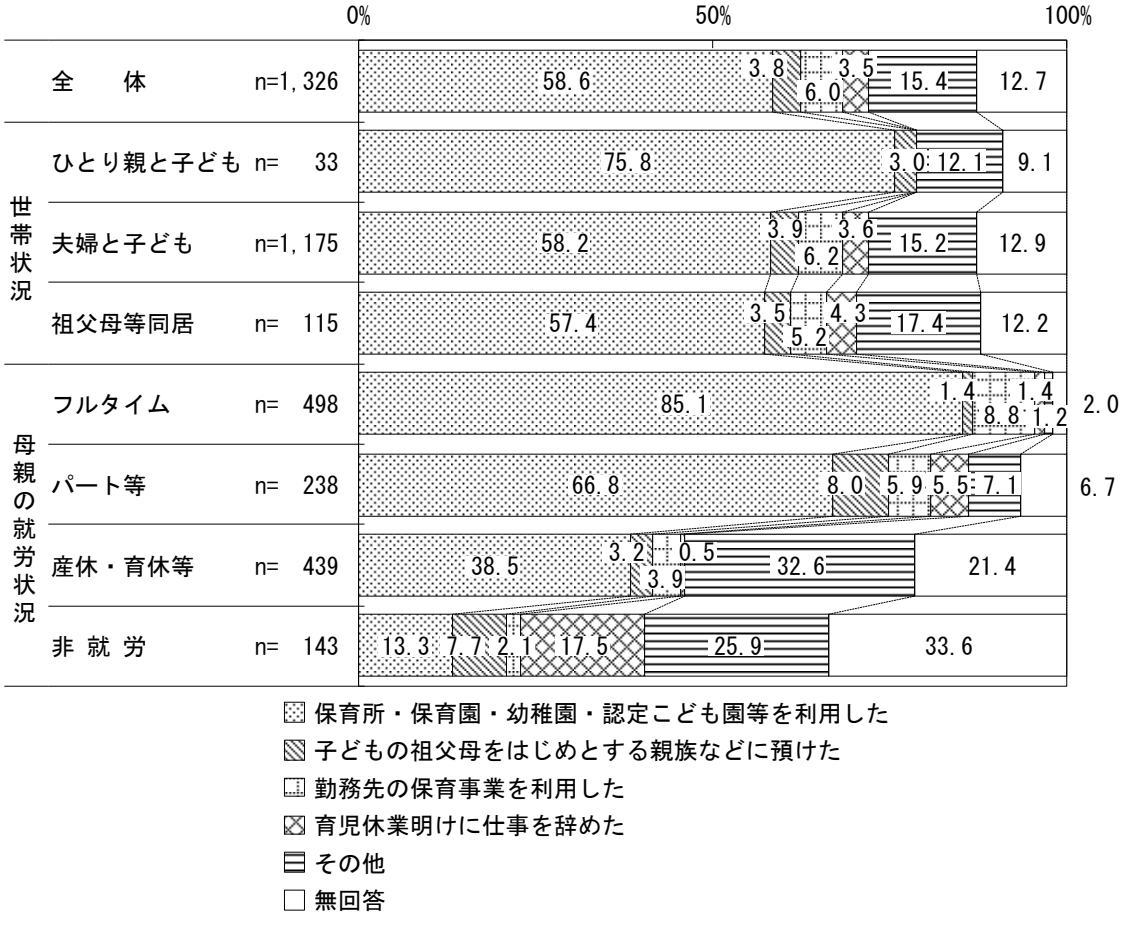
(4)　育児休業明けの保育事業の利用［Q38］

育児休業制度を利用した人に、休業明けに、保育事業等を利用して子どもを預けたかについてたずねたところ、「保育所・保育園・幼稚園・認定こども園等を利用した」が58.6%と最も高く、次いで「その他」が15.4%、「勤務先の保育事業を利用した」が6.0%となっています。

「その他」として、「育休中」「第２子出産のためそのまま産休、育休を継続取得」などが多数記載されていました。

母親の就労状況別にみると、フルタイムでは「保育所・保育園・幼稚園・認定こども園等を利用した」が85.1%、パート等では66.8%を占めています。

図表１－82　育児休業明けの保育事業等の利用

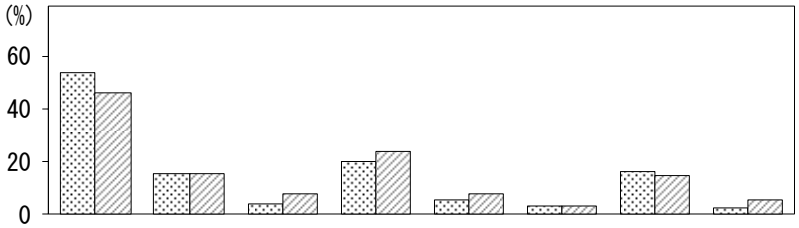


(5) 育児休業明けに保育事業を利用しなかった人の理由［Q39］

Q37で育児休業明けに保育事業を利用しなかった人に、その理由をたずねたところ、「子育てに専念するため退職したから」が46.1%と最も高く、次いで「職場・仕事のことで取得できなかった」が23.8%、「祖父母等にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が15.5%などとなっています。

「その他」として、「自営・フリーランスだから」「新型コロナウイルス感染症拡大によりリモートワークができたから」「配偶者が転勤になったから」などの記載がありました。

図表１－83　育児休業明けに保育事業を希望しなかった理由（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



区分		ｎ	子育てに専念するため退職したから	祖父母等にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった	保育所・保育園等に預けることができた	職場・仕事のことで取得できなかった	経済的なことで取得できなかった	育児休業の制度を知らなかった・取得方法がわからなかった	その他	無回答
▒	２０１８年	1,736	53.7	15.2	4.2	20.2	5.3	3.3	15.9	2.4
▨	２０２３年	989	46.1	15.5	7.5	23.8	8.1	2.9	14.7	5.3
世帯状況	ひとり親と子ども	38	60.5	15.8	13.2	23.7	10.5	－	7.9	2.6
	夫婦と子ども	828	47.0	13.8	6.9	24.8	7.7	2.9	15.1	5.3
	祖父母等同居	120	35.8	27.5	10.0	15.8	9.2	4.2	14.2	5.8
母親の就労状況別	フルタイム	117	23.1	17.1	23.9	16.2	11.1	5.1	24.8	5.1
	パート等	451	48.3	14.2	8.0	23.7	6.9	3.1	14.2	4.0
	産休・育休等	13	23.1	23.1	－	30.8	15.4	7.7	－	23.1
	非就労	396	51.8	15.4	2.3	26.5	8.3	2.0	12.1	6.3

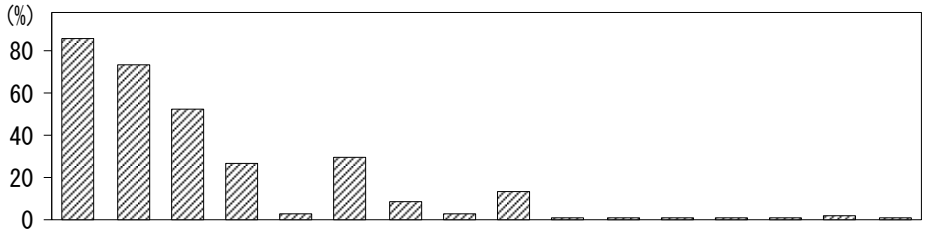
10 相談・情報提供

(1) 子育てに関する悩みや不安の相談相手［Q40］

身近な地域における子育てに関する悩みや不安の相談相手としては、「配偶者・パートナー」が85.7%と最も高く、次いで「その他の親族（親・きょうだいなど）」が73.7%、「地域の知人・友人」が53.1%、「保育士、幼稚園の先生」が29.3%、「職場の同僚」が26.4%、「子育て支援センター」が13.2%などとなっています。「その他」として「療育センター」「インターネット・ＳＮＳ」などの記載がありました。

世帯状況別にみると、ひとり親のみの世帯では他の世帯類型に比べ「相談相手がいない」が高くなっています。

図表１－84　子育てに関する悩みや不安の相談相手（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%

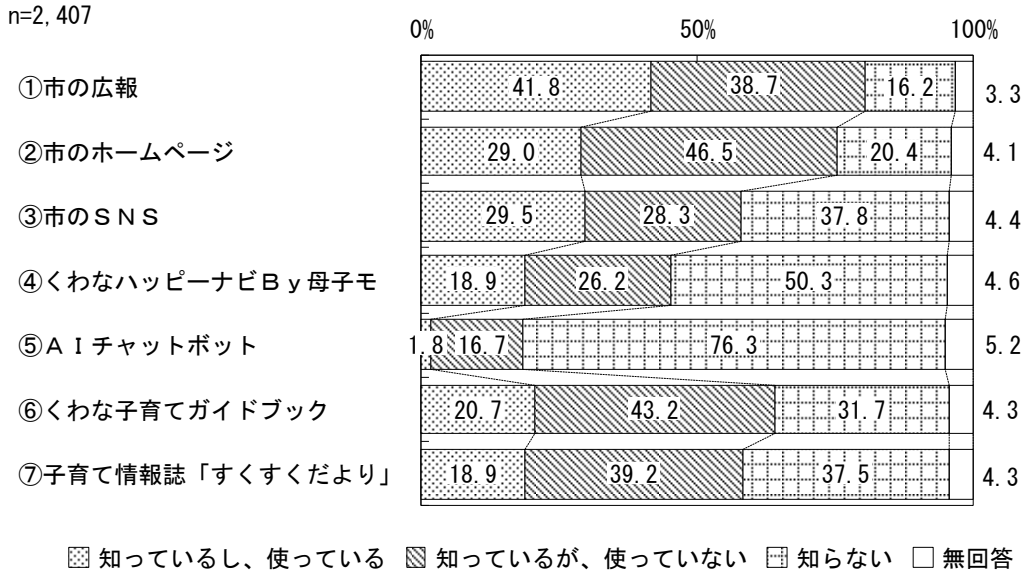


区分		n	配偶者・パートナー	その他の親族（親、兄弟姉妹など）	地域の知人・友人	職場の同僚	子育てサークルの仲間	保育士、幼稚園の先生	医療機関・保健所	子ども総合センター	子育て支援センター	福祉なんでも相談センター	子育てサロン等の地域のつどいの場	民生委員・児童委員、主任児童委員	ＮＰＯによる相談窓口・民間の電話相談	相談相手がいない	その他	無回答
全体		2,407	85.7	73.7	53.1	26.4	2.8	29.3	8.6	2.4	13.2	0.2	0.8	0.5	0.3	1.0	1.7	1.2
子どもの年齢	３歳未満	880	88.6	77.5	48.3	22.5	3.6	17.6	11.4	2.3	20.9	0.2	1.1	0.5	0.3	1.0	1.7	1.1
	３歳以上	1,490	84.0	71.7	56.0	28.7	2.3	36.2	7.1	2.5	8.8	0.1	0.7	0.5	0.3	1.0	1.7	1.2
世帯状況	ひとり親と子ども	78	25.6	67.9	50.0	23.1	1.3	26.9	－	5.1	5.1	－	－	－	1.3	6.4	5.1	3.8
	夫婦と子ども	2,074	89.2	73.1	53.1	26.2	2.9	28.7	8.7	2.3	13.5	0.2	0.6	0.4	0.3	0.8	1.5	1.0
	祖父母等同居	249	75.5	81.5	55.0	29.7	2.4	36.1	11.2	2.0	13.7	－	2.4	1.2	－	0.4	2.4	2.0
母親の就労状況別	フルタイム	624	84.1	74.4	44.4	41.2	1.6	37.8	7.2	1.0	7.2	0.2	0.3	0.3	0.3	1.3	1.0	0.5
	パート等	712	82.6	73.0	61.0	32.2	2.5	36.4	7.2	1.8	6.9	0.3	0.3	0.7	0.3	1.1	1.5	1.0
	産休・育休等	460	92.0	79.3	52.0	25.7	4.3	19.1	11.5	4.1	26.1	0.2	2.0	0.9	0.4	－	1.5	1.3
	非就労	587	87.4	69.8	54.2	4.8	3.4	20.6	10.1	3.2	17.2	－	0.9	－	0.2	1.0	2.6	1.9

(2)　子育てに関する情報発信の認知度［Q41］

市の子育てに関する情報発信の認知度について、「知っているし、使っている」が最も高いのは、①市の広報で41.8%、次いで③市のＳＮＳが29.5%、②市のホームページが29.0%、⑥くわな子育てガイドブックが20.7%などとなっています。「ＡＩチャットボット」を活用した対話型の情報提供システムについては、「知らない」が76.3%を占めています。

図表１－85　子育てに関する情報発信の認知度



※くわなハッピーナビＢｙ母子モ

妊娠から出産、育児までの子育てを応援するための母子手帳アプリです。

※ＡＩチャットボット

ＡＩチャットボットを活用し、忙しい子育て世代の方が 24 時間 365 日いつでも子育てに関する知りたいことや疑問を解決するためのツールです。

※くわな子育てガイドブック

桑名市の子育てに関する事業・施設等の情報がまとめて掲載されている電子版のガイドブックです。

※子育て情報誌「すくすくだより」

市内の子育て支援関連施設の行事スケジュールや子育てに関する情報を掲載した、月 1 回発行する情報誌です。

11 子育てに対して感じていること

(1) 子育てに対して感じていること［Q42］

子育てに関する13の項目について、「そう思う」を４点、「思わない」を１点とした場合、最もあてはまる点数をつけてもらいました。

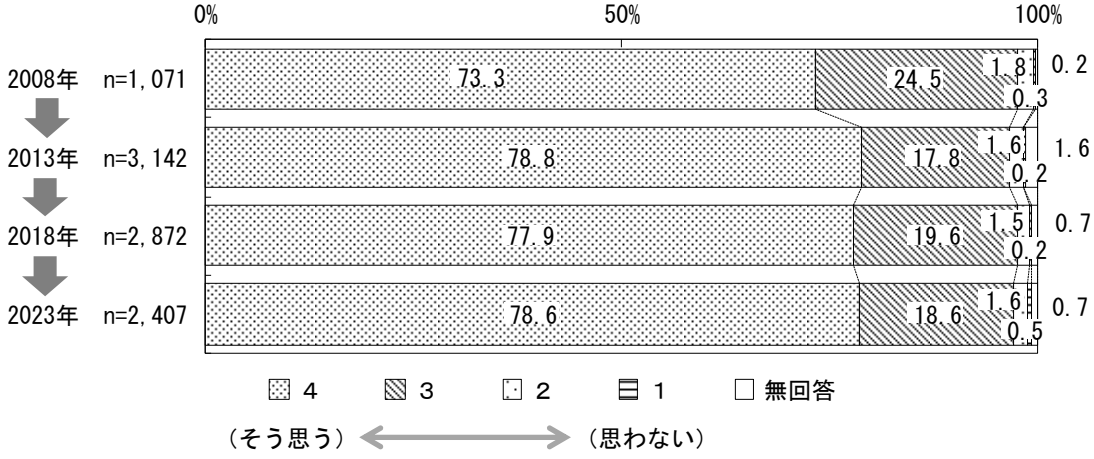
①～⑦の項目は、主に子育てに対する“思い”や“気持ち”に関する項目であり、⑧～⑬の項目は、子育てによる心身への負担に関する項目です。

① ①～⑦について

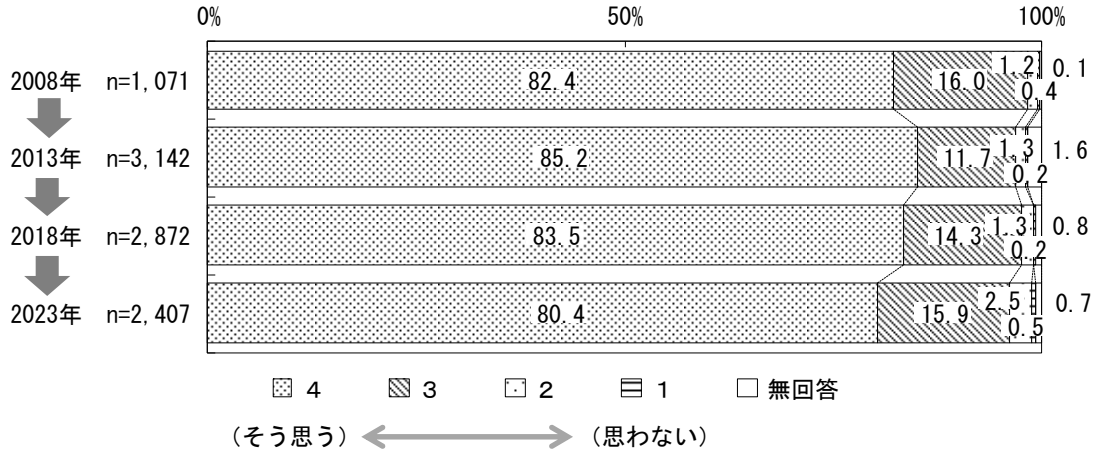
①～③の項目について「そう思う」（4点）が70%を超えており、子どもの存在が自分の人生や生活に対してプラスに働いていると感じている人が多いことがわかります。また、「⑦子どもに強く当たったり、強い口調で言ってしまっている」は「そう思う」が2018年の調査結果に比べ低下していますが、20%を超える高い率となっています。

図表１－86　子育てに対して感じていること（①～⑦／過去の調査結果との比較）

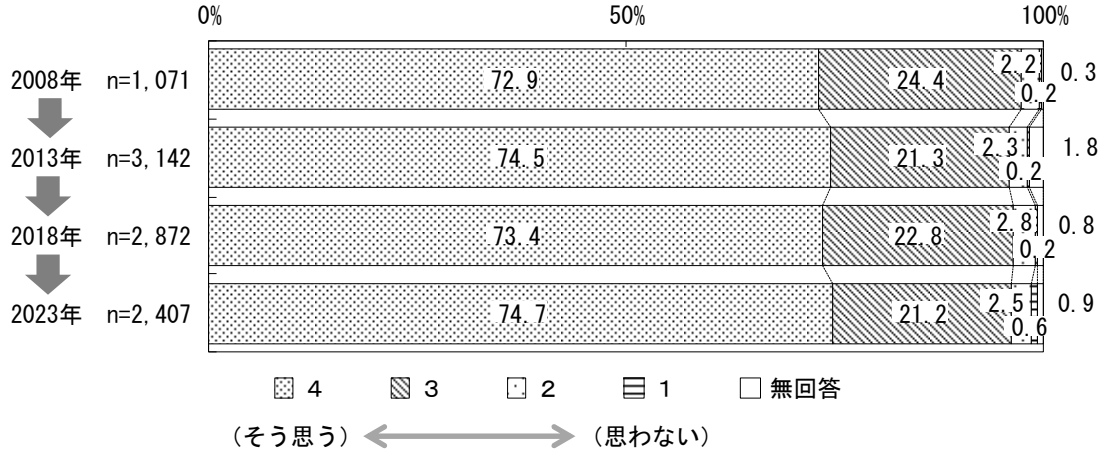
①子どもがいると生活が楽しい



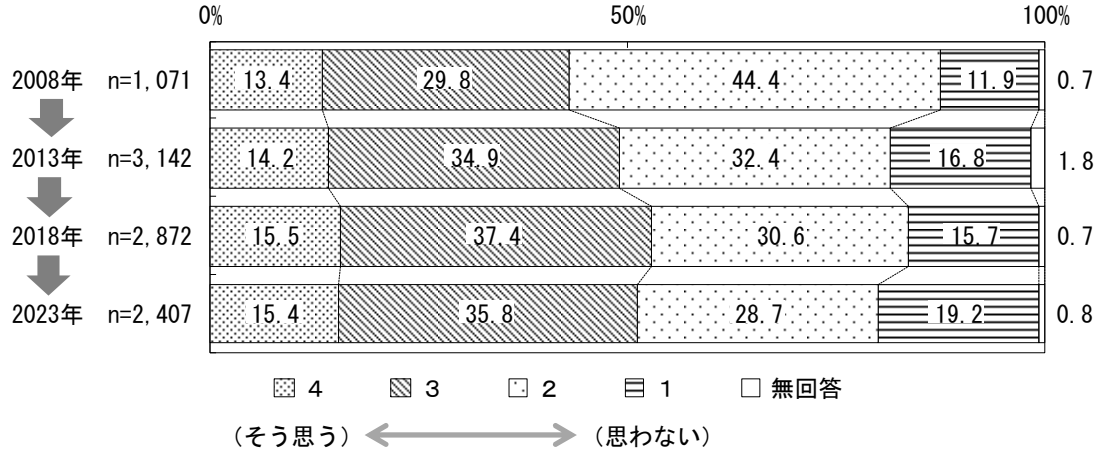
②子育てを通じて自分も成長すると思う



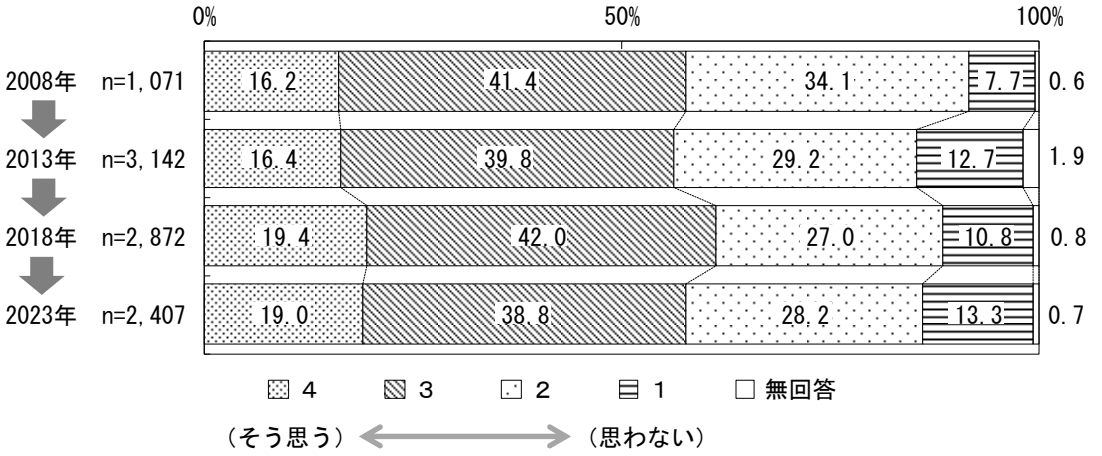
③子どもは心のやすらぎや生きがいを与えてくれると思う



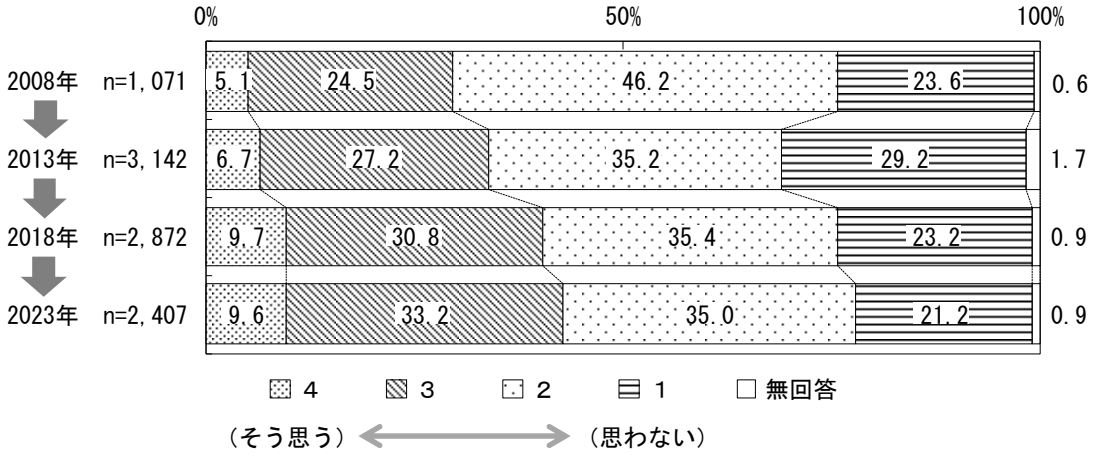
④子育てに対して不安を感じている



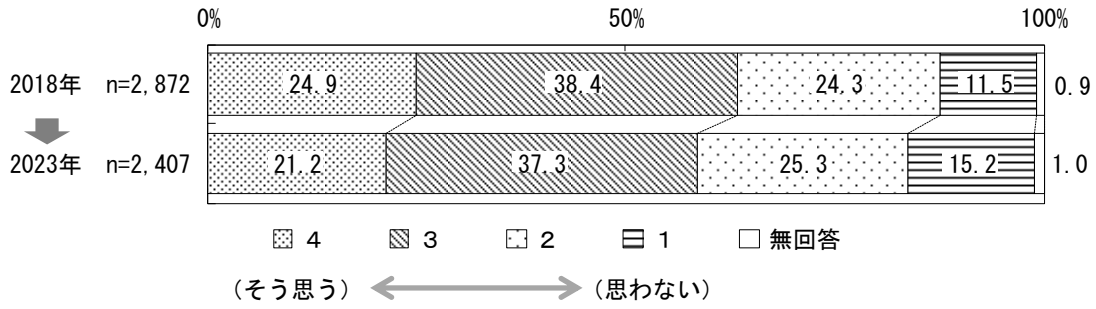
⑤仕事や自分のやりたいことができない



⑥子どもがいると生活や気持ちにゆとりがなくなる



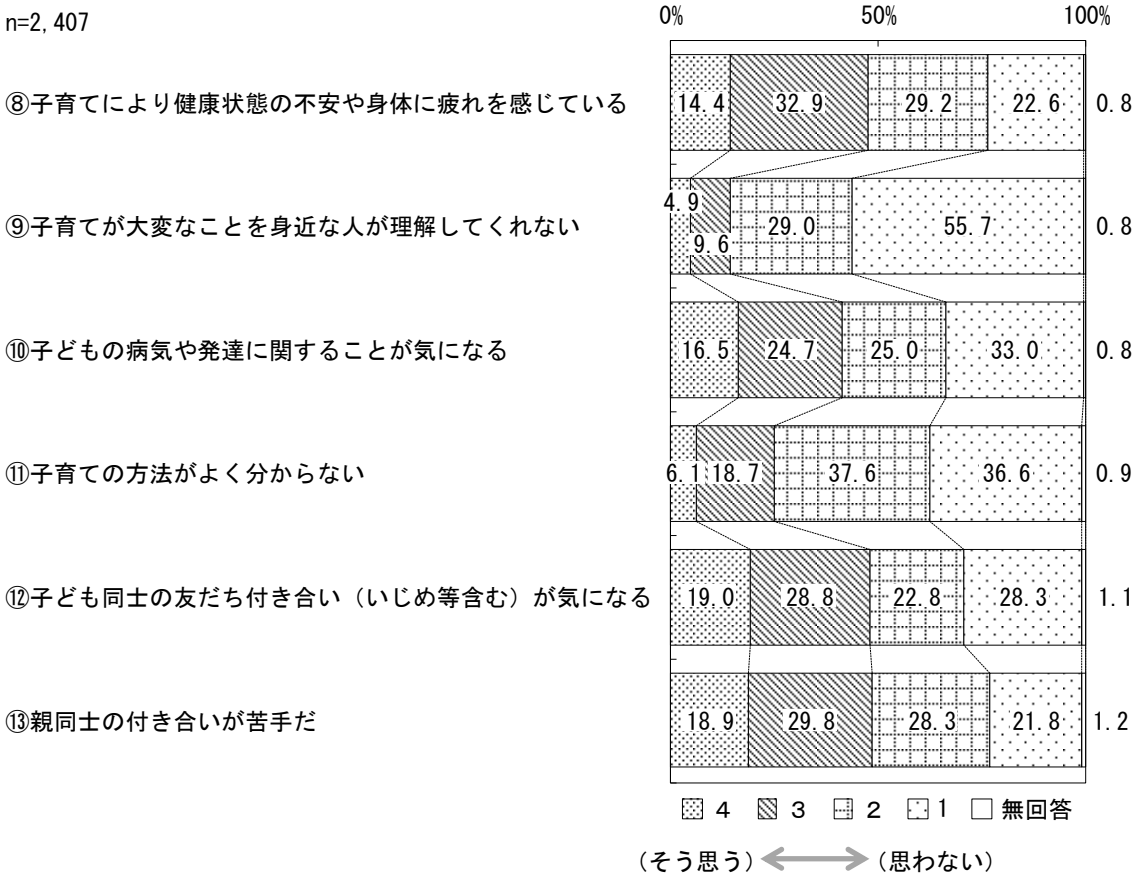
⑦子どもに強く当たったり、強い口調で言ってしまっている



② ⑧～⑬について

⑧～⑬の項目のうち、子ども同士や親同士の付き合いに関する「⑫子ども同士の友だち付き合い（いじめ等含む）が気になる」および「⑬親同士の付き合いが苦手だ」は「そう思う」（4点）が20%弱の比較的高い率を示しています。一方、周りの理解や子育ての方法に関する「⑨子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない」および「⑪子育ての方法がよく分からない」は５%前後の低い率となっています。

図表１－87　子育てに対して感じていること（⑧～⑬）



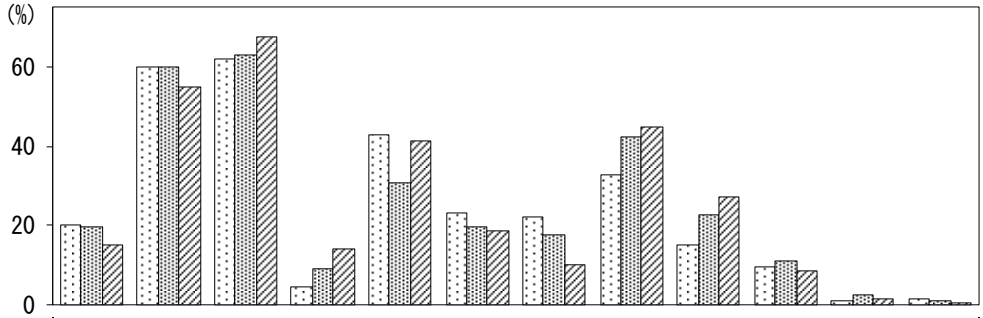
(3) 子どもを育てる環境として重要だと思うこと［Q43］

子ども育てる環境として重要だと思うことについては、「治安がよく安全に生活できるまち」が67.4%と最も高く、次いで「自由にのびのび遊べる場所」が54.9%、「充実した学校や教育施設」が44.9%、「医療機関の充実」が41.5%などとなっています。

過去の調査結果との比較では、「治安がよく安全に生活できるまち」「利便性のある居住環境」「充実した学校や教育施設」や「充実した保育施設や放課後児童クラブ」が上昇した一方で、「豊かな自然」「自由にのびのび遊べる場所」「同年代の子どもの多いまち」「地域の人達とのつながり」が低下しています。

「その他」として「経済的な支援」「市の子育て支援」「家庭環境」「親の労働環境」「公園の充実」などの記載がありました。

図表１－88　子どもを育てる環境として重要だと思うこと（複数回答・３つまで）単位：ｎは人、他は%



区分		n	豊かな自然	自由にのびのび遊べる場所	治安が良く安全に生活できるまち	利便性のある居住環境	医療機関の充実	同年代の子どもの多いまち	地域の人達とのつながり	充実した学校や教育施設	充実した保育施設や放課後児童クラブ	子育て支援センターや児童センターなど充実した公共施設	その他	無回答
	２０１３年	3,142	20.0	60.0	62.1	4.7	42.9	23.0	21.9	32.8	15.1	9.5	0.8	1.3
	２０１８年	2,872	19.7	59.7	62.8	9.1	30.9	19.5	17.5	42.5	22.5	10.9	2.4	0.9
	２０２３年	2,407	15.0	54.9	67.4	14.2	41.5	18.5	10.0	44.9	27.0	8.6	1.6	0.5
子どもの年齢	３歳未満	880	14.2	54.2	66.7	14.7	43.2	18.2	9.4	42.2	28.1	11.4	2.0	0.6
	３歳以上	1,490	15.5	55.3	67.9	14.1	40.3	18.8	10.3	46.4	26.2	7.1	1.3	0.5
母親の就労状況別	フルタイム	624	13.3	52.2	66.5	14.4	40.7	17.6	8.8	45.5	40.9	4.8	1.8	0.2
	パート等	712	16.9	55.3	69.5	14.2	42.1	20.8	11.2	45.6	24.6	7.4	1.4	0.3
	産休・育休等	460	12.8	53.5	63.5	12.8	41.1	13.9	8.9	44.1	33.0	12.2	2.2	0.9
	非就労	587	15.7	58.1	69.3	15.3	42.2	20.4	10.6	44.1	10.7	11.2	1.4	0.9

注：2013・2018年の選択肢では「医療機関の充実」は「地域医療の充実」、「子育て支援センターや児童センターなど充実した公共施設」は「児童館など充実した公共施設」

12 子育てと地域との関わりや自主的な活動

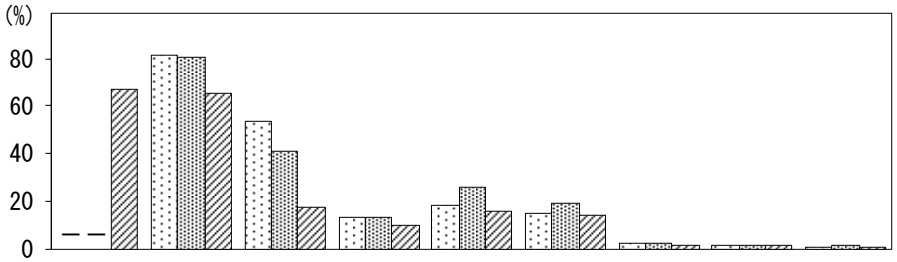
◎子育てに関して地域に望むこと［Q44］

子育てに関して地域に望むことについては、「子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること」が66.8%と最も高く、次いで「子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること」が65.8%などとなっています。

過去の調査結果との比較では、今回、「子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること」という選択肢が設けられた影響も考えられますが、「子どもが危険なことや人に迷惑のかかることをしていたら、注意したりしかってくれること」などが大きく低下しています。

「その他」として、「経済的支援の充実」「放課後児童クラブの充実」「医療の充実」「親子で地域に関わることができる居場所」などの記載がありました。

図表１－89　子育てに関して地域に望むこと（複数回答・２つまで）単位：ｎは人、他は%



区分		n	子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること	子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること	子どもが危険なことや人に迷惑のかかることをしていたら、注意したりしかってくれること	子育てについて相談にのってくれること	子どもに遊びや工作、スポーツなどの指導をしてくれること	緊急時に子どもを預かってくれること	その他	特にない	無回答
▒	２０１３年	3,142		81.0	54.0	12.8	18.0	14.8	2.1	1.1	0.8
▒	２０１８年	2,872		80.8	40.7	13.1	26.2	18.7	2.1	1.3	1.1
▒	２０２３年	2,407	66.8	65.8	17.5	10.0	15.7	14.4	1.5	1.0	0.6
子どもの年齢	３歳未満	880	68.1	65.8	15.0	12.2	13.9	15.3	1.3	0.6	0.6
	３歳以上	1,490	66.2	65.8	18.9	8.7	16.9	14.0	1.6	1.2	0.6
母親の就労状況別	フルタイム	624	64.6	66.8	19.2	6.7	17.9	14.3	2.4	1.0	0.3
	パート等	712	64.9	65.9	21.2	9.0	16.6	15.0	1.1	1.0	0.3
	産休・育休等	460	71.7	65.0	12.6	11.5	14.6	15.4	0.9	0.4	0.4
	非就労	587	68.7	65.9	15.0	13.6	13.3	12.4	1.4	1.4	1.0

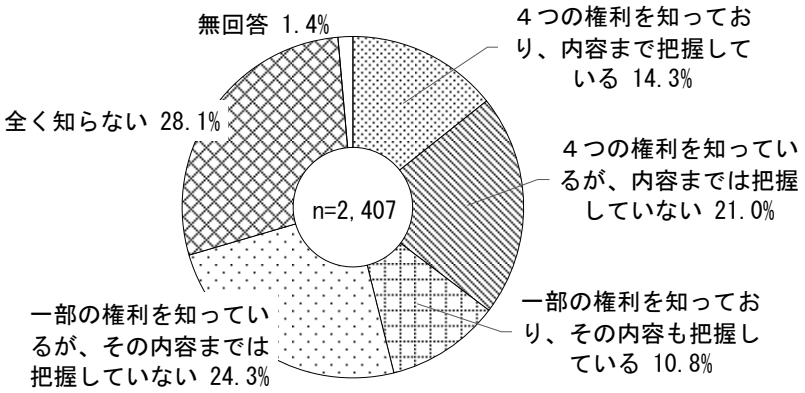
注：2013・2018年は「子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること」という選択肢はありませんでした。

13 子どもの権利について

(1) 子ども権利条約に基づく４つの権利の認知度［Q45］

子ども権利条約に定められている４つの権利※の認知度は、「全く知らない」が28.1%、「一部の権利を知っているが、その内容までは把握していない」が24.3%、「４つの権利を知っているが、内容までは把握していない」が21.0%などとなっています。

図表１－90　子ども権利条約に基づく４つの権利の認知度



※参考

① 生きる権利

住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなど、命が守られること

② 育つ権利

勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できること

③ 守られる権利

紛争に巻き込まれず、難民になったら保護され、また、あらゆる暴力や搾取、有害な労働、いじめや虐待など、苦しいことから守られること

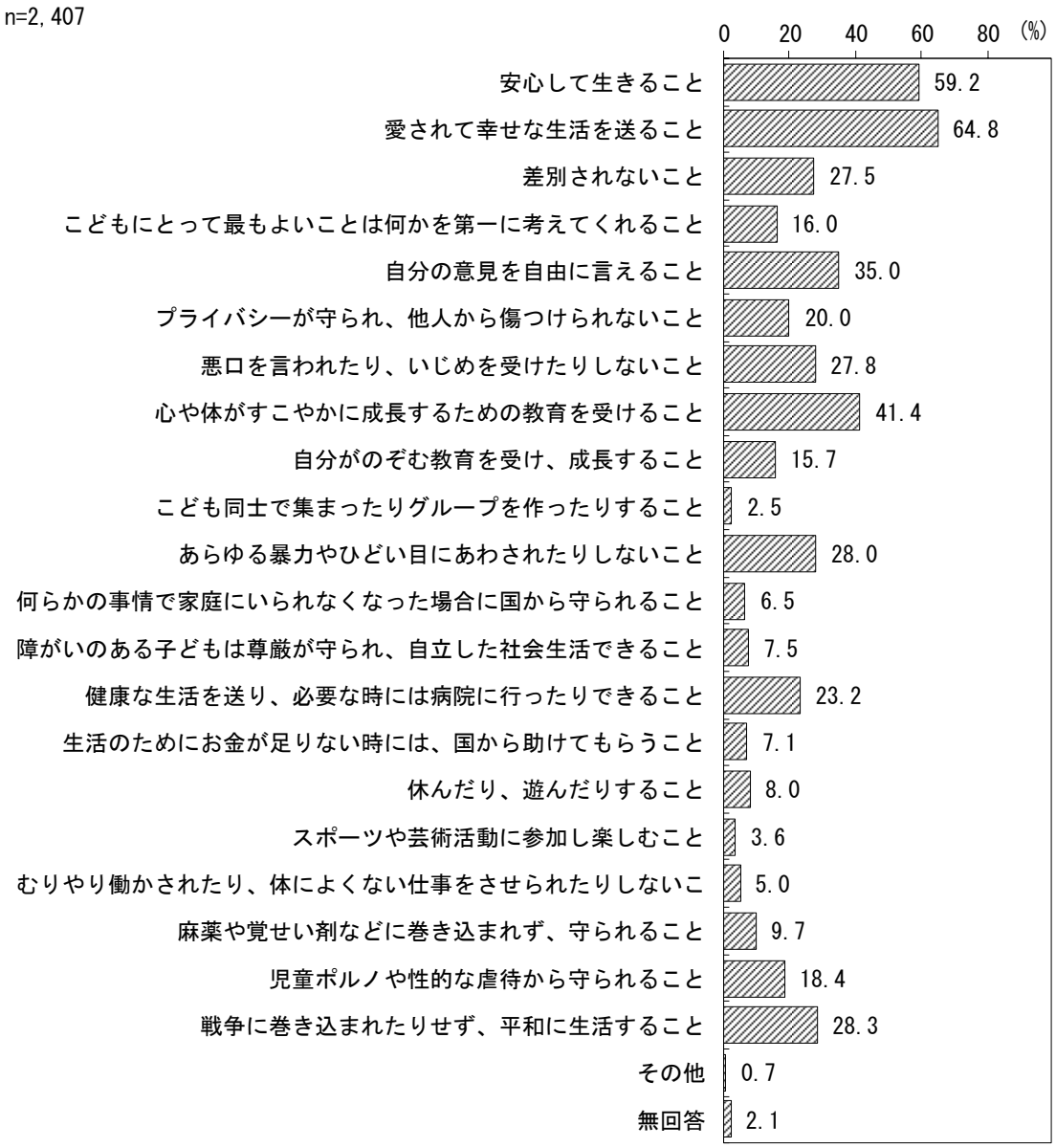
④ 参加する権利

自由に意見を表したり、団体を作ったりできること

(2)　特に大切にしなければならない権利［Q46］

特に大切にしなければならないと思う子どもの権利については、「愛されて幸せな生活を送ること」が64.8%と最も高く、次いで「安心して生きること」が59.2%と、<生きる権利>にかかる項目が高くなっています。さらに「心や体がすこやかに成長するための教育を受けること」（41.4%）「自分の意見を自由に言えること」（35.0%）「戦争に巻き込まれたりせず、平和に生活すること」（28.3%）などが続いており、子ども権利条約に定められている４つの権利はすべて重要であることがわかります。

図表１－91　特に大切にしなければならない権利（複数回答・５つまで）



Ⅱ　小学生の保護者調査

1　子どもと家族の状況等

(1)　居住地区［Ｑ１］

回答のあった子どもの居住地区は、図表２－１・２のとおりです。

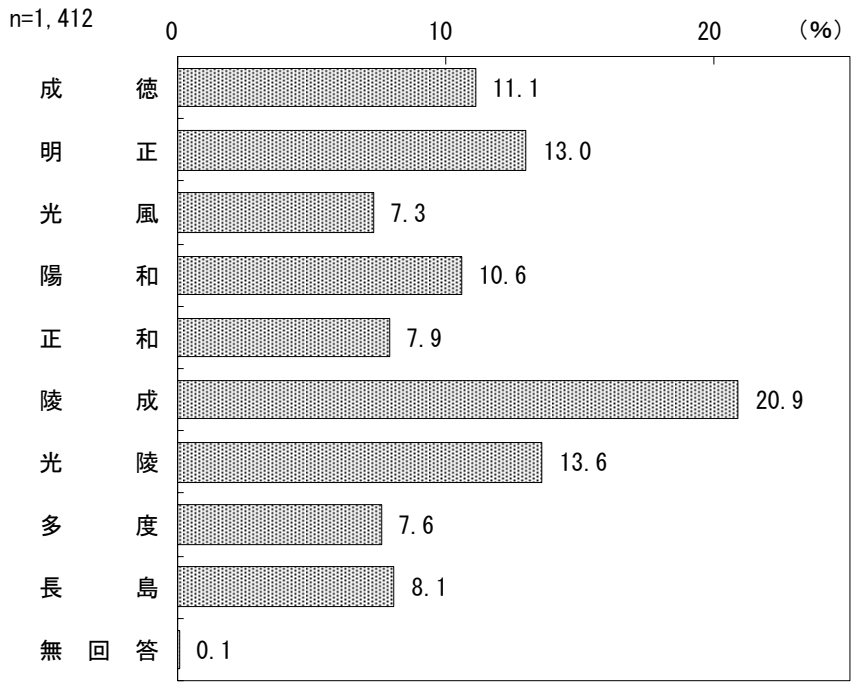
図表２－１　居住地区〈小学校区〉

地区	日進	精義	立教	城東	益世	修徳	大成	桑部	在良	七和	久米	深谷	城南
人	36	40	21	6	75	63	112	38	70	63	48	23	86
%	2.5	2.8	1.5	0.4	5.3	4.5	7.9	2.7	5.0	4.5	3.4	1.6	6.1

地区	大和	大山田東	大山田北	大山田西	大山田南	藤が丘	星見ヶ丘	多度東	多度中	多度北	多度青葉	長島北部	長島中部
人	22	169	114	19	49	77	59	9	70	15	13	16	74
%	1.6	12.0	8.1	1.3	3.5	5.5	4.2	0.6	5.0	1.1	0.9	1.1	5.2

地区	伊曽島	無回答	全体
人	24	1	1,412
%	1.7	0.1	100.0

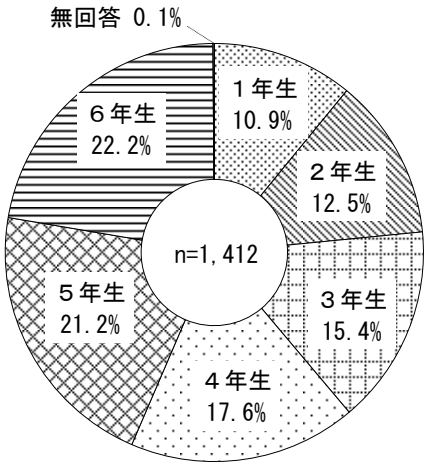
図表２－２　居住地区〈中学校ブロック〉



(2)　学年［Ｑ２］

回答のあった子どもの学年は、図表２－３のとおりです。

図表２－３　子どもの年齢

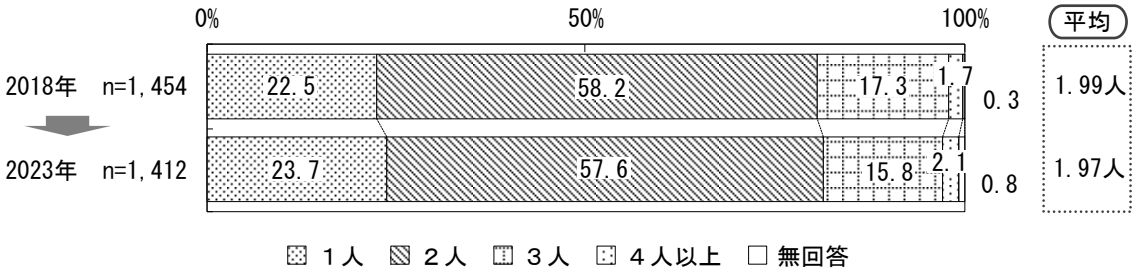


(3)　子どもの人数［Ｑ３］

子どもの人数は、「２人」が57.6%を占めており、「１人」「３人」「４人以上」の順となっています。平均の子ども数は1.97人です。

2018年の調査結果との比較では、「1人」が上昇する一方、「3人」が低下しており、平均で0.02人少なくなっています。

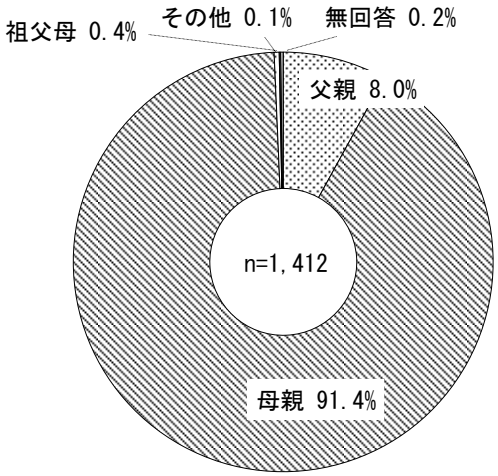
図表２－４　子どもの人数



(4)　調査の回答者［Ｑ４］

本調査の回答者は、「母親」が91.4%を占めています。

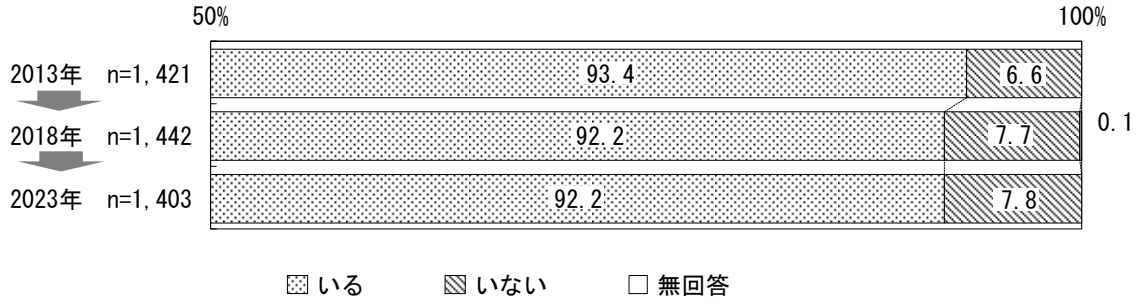
図表２－５　調査の回答者



(5)　配偶関係［Ｑ５］

回答者の配偶関係をたずねたところ、配偶者が「いる」が92.2%、「いない」が7.8%となっています。

図表２－６　配偶関係

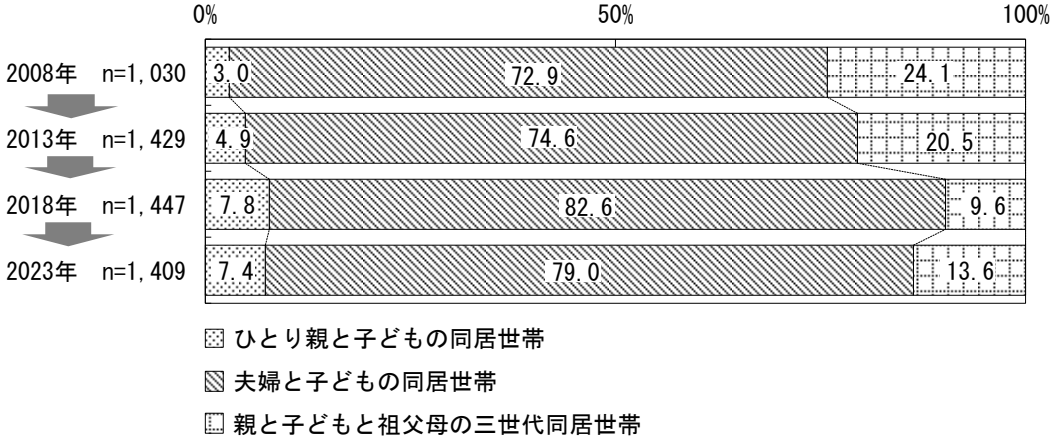


(6)　同居家族（世帯構成）［Ｑ６］

同居者から世帯構成をみると、夫婦と子どもの同居世帯が79.0%と圧倒的に高く、親と子どもと祖父母の三世代同居世帯が13.6%、ひとり親と子どもの同居世帯は7.4%です。

これまでの調査結果の経緯をみると、2018年にまでは夫婦と子どもの同居世帯およびひとり親と子どもの同居家族世帯が上昇する一方、親と子どもと祖父母の三世代同居世帯が低下していましたが、今回は2018年に比べ、夫婦と子どもの同居世帯およびひとり親と子どもの同居家族世帯が低下し、親と子どもと祖父母の三世代同居世帯が上昇しています。

図表２－７　世帯構成



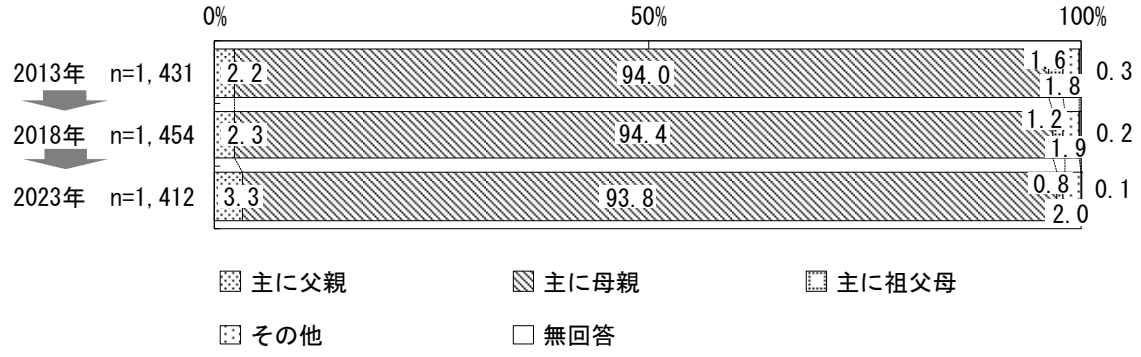
注：無回答等を除く

(7)　子育てを主に行っている人［Ｑ７］

子育てを主に行っているのは、「主に母親」が93.8%を占めており、「主に父親」は3.3%、「主に祖父母」は0.8%です。

「その他」として、「父母ともに」（23人）「家族全員」等の記載がありました。

図表２－８　子育てを主に行っている人

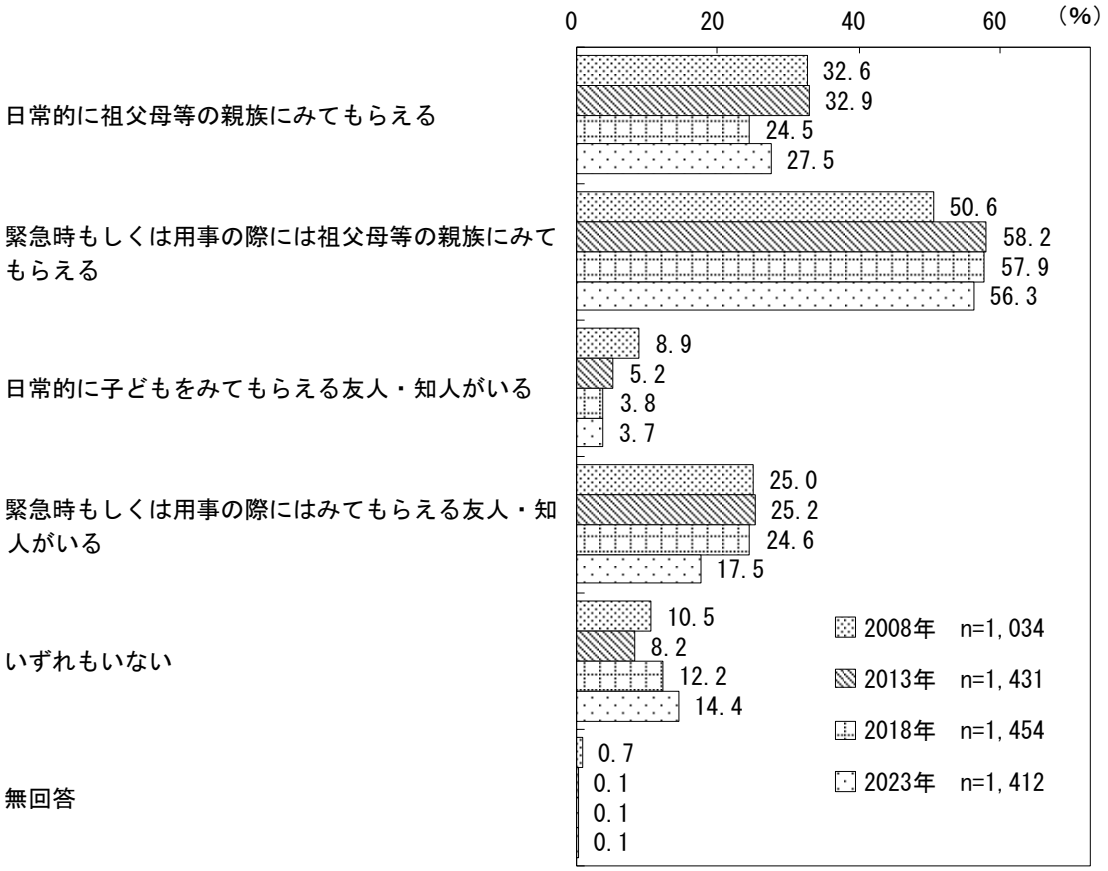


(8)　子どもをみてもらえる親族・知人の有無［Ｑ８］

子どもをみてもらえる親族・知人の有無については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が 56.3%と最も高く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が 27.5%、「緊急時もしくは用事の際にはみてもらえる友人・知人がいる」が 17.5%となっています。

過去の調査結果との比較では、〈祖父母等〉、〈友人・知人〉にみてもらえるが低下傾向にあり、「いずれもいない」が上昇傾向にあります。

図表２－９　子どもをみてもらえる親族・知人の有無（複数回答）



2 子どもの生活状況

(1) 朝食の摂食状況［Ｑ９］

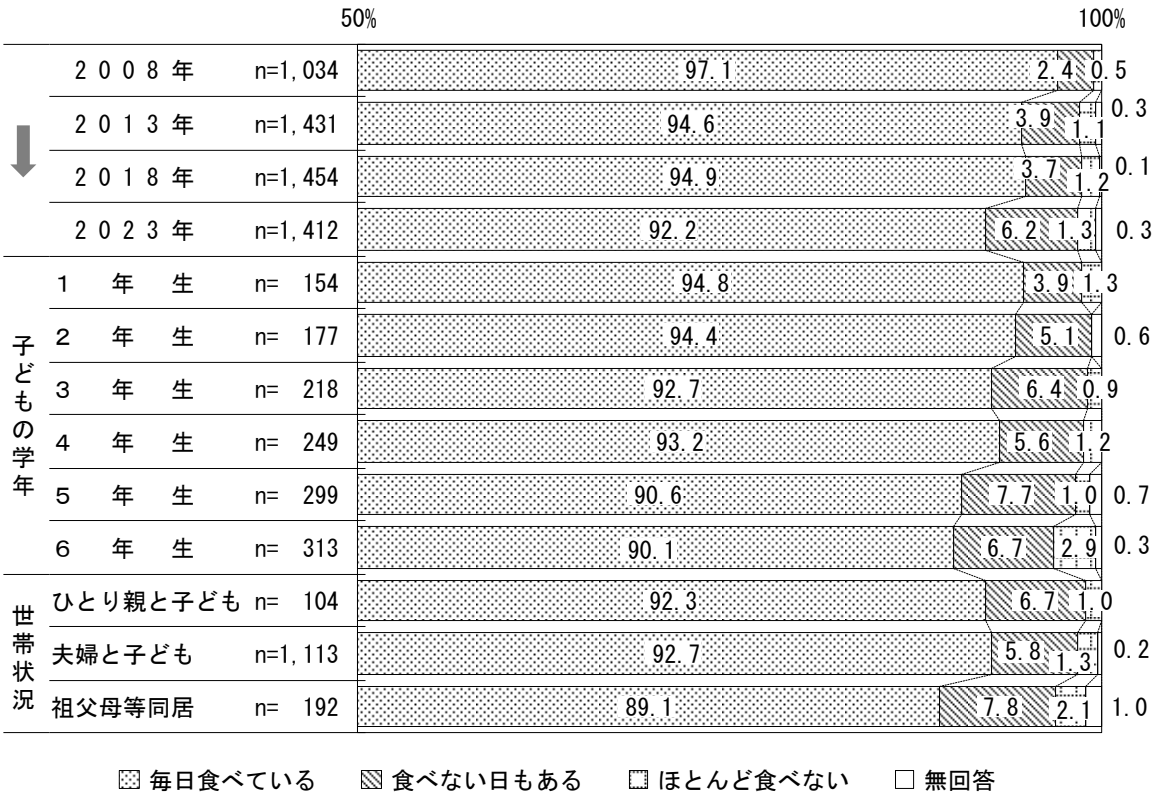
ふだんの朝食の摂取については、「毎日食べている」が92.2%を占めていますが、「食べない日もある」が6.2%、「ほとんど食べない」が1.3%あります。

過去の調査結果との比較では、「食べない日もある」および「ほとんど食べない」が上昇傾向にあり、特に「食べない日もある」は2018年に比べ2.5ポイント上昇しています。

学年別にみると、低学年に比べ高学年が「食べない日もある」および「ほとんど食べない」の合計が高くなる傾向にあります。

世帯状況別にみると、祖父母等同居の世帯では「毎日食べている」が、他の世帯に比べ３ポイント以上低くなっています。

図表２－10　朝食の摂取状況



(2) 朝食を食べない理由［Q10］

子どもが朝食をほとんど食べないと回答した19人に、食べない理由をたずねたところ、「子どもが食べたがらない」が63.2%（12人）、「子どもが朝食をとる時間がない」が10.5%（２人）、「朝食をとる習慣がない」が5.3%（１人）でした。

「食事の用意をする時間がない」「子どもがダイエット中」が用意されていましたが、回答はありませんでした。

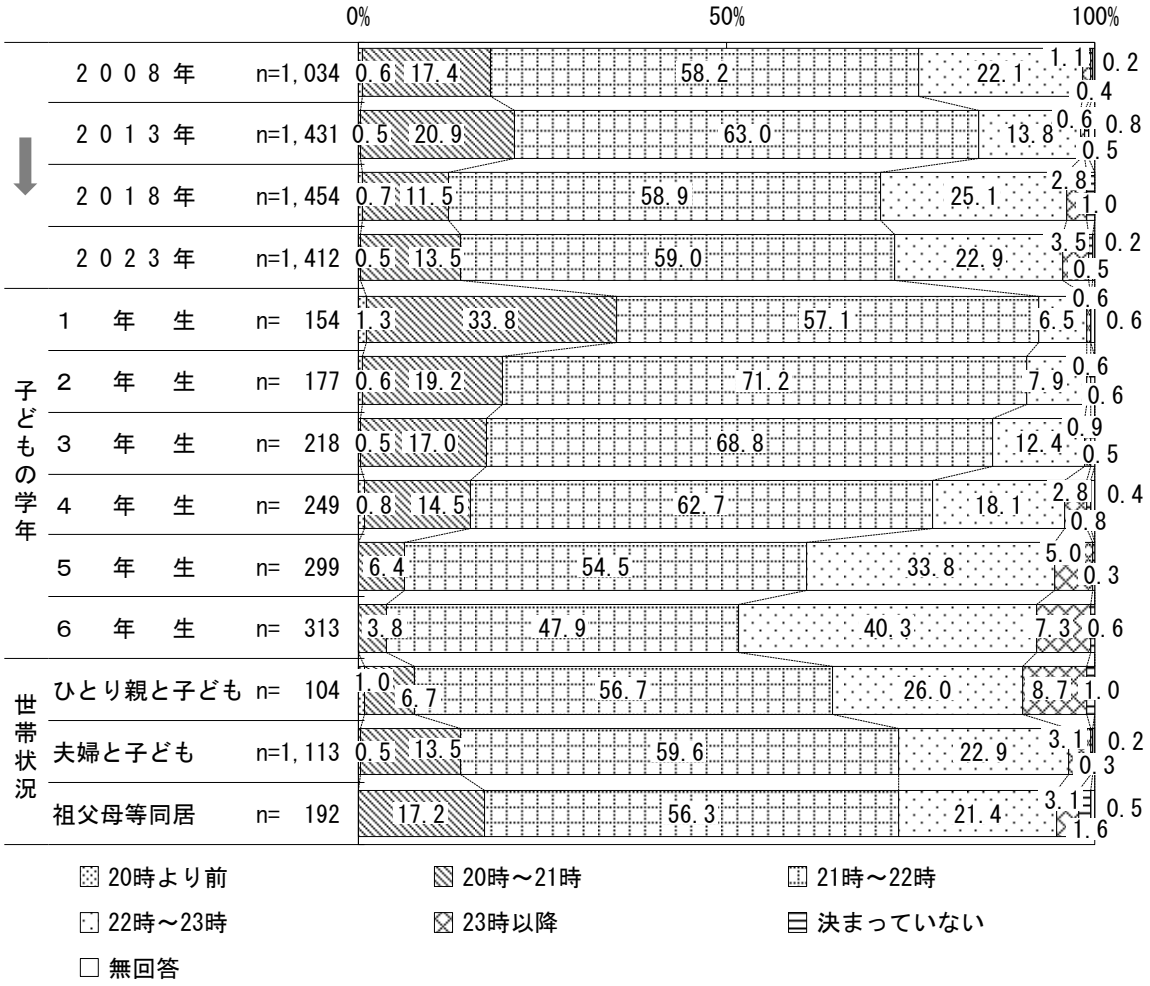
(3) 子どもの就寝時間［Q11］

子どもの就寝時間は「21時～22時」が59.0%と最も高くなっています。

学年別にみると、いずれの学年も「21時～22時」が最も高くなっていますが、学年が上がるにしたがい、遅くなる傾向にあり、６年生になると「22時～23時」が40%を超え、「23時以降」が7.3%となります。

世帯状況別にみると、ひとり親と子どもの世帯では他の世帯に比べ就寝時間が遅くなっています。

図表２－11　子どもの就寝時間



3 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

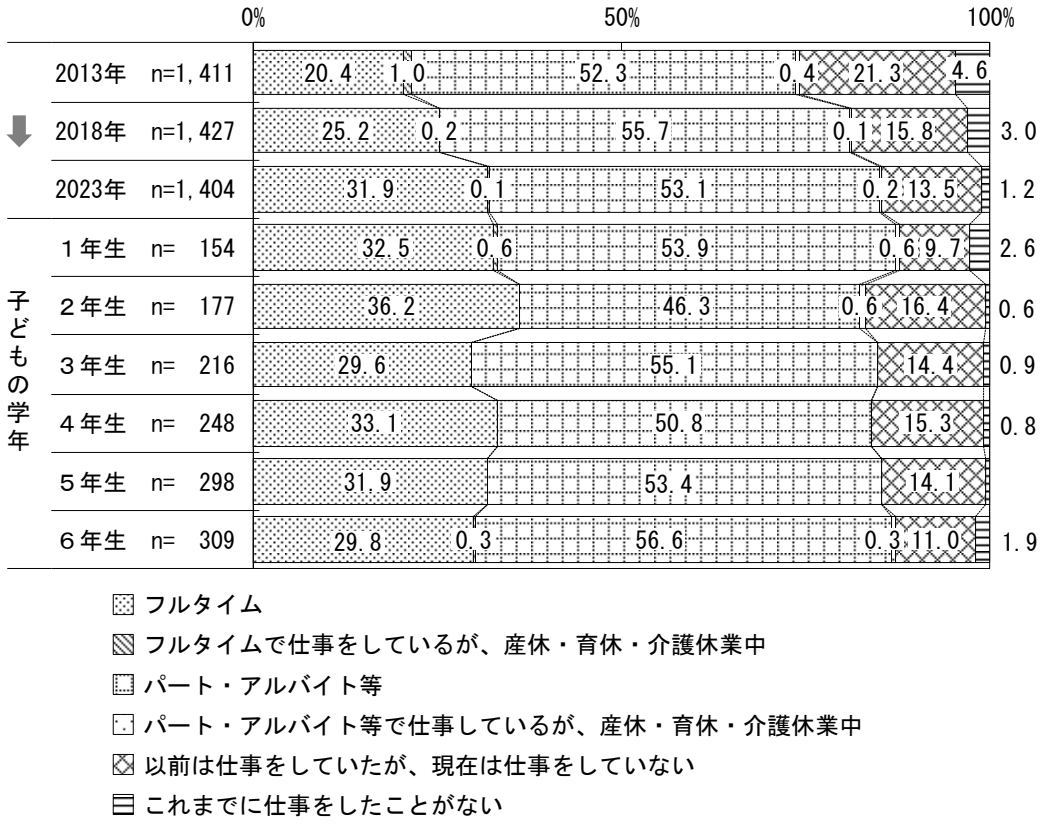
① 就労状況［Q12］

母親の就労状況は、「パート・アルバイト等」が53.1%と最も高く、次いで「フルタイム」が31.9%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が13.5%です。

過去の調査結果との比較では、「フルタイム」が大きく上昇し、「以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」および「これまでに仕事をしたことがない」が低下しています。

子どもの学年別にみると、学年が上がるにしたがい「パート・アルバイト等」が高くなる傾向にあり、６年生では56.6%となります。

図表２－12　母親の就労状況



② 平均就労日数［Q13－１］

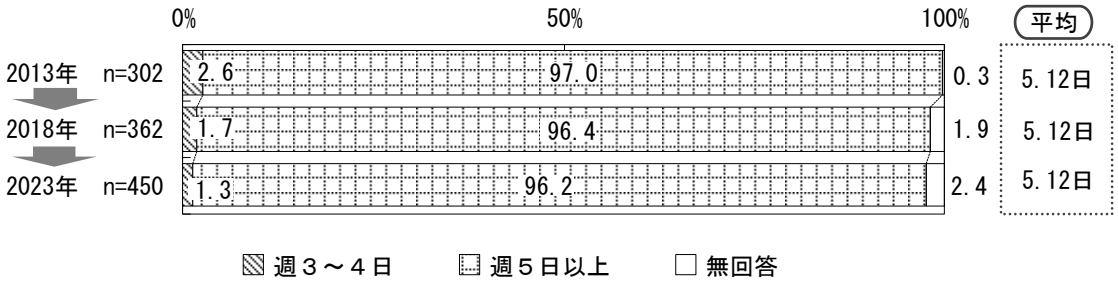
フルタイムの就労日数は、「週５日以上」が96.2%を占めています。

パート・アルバイト等の就労日数は、「週３～４日」が58.6%と最も高く、次いで「週５日以上」が35.4%となっており、１週あたりの就労日数の平均は4.06日です。

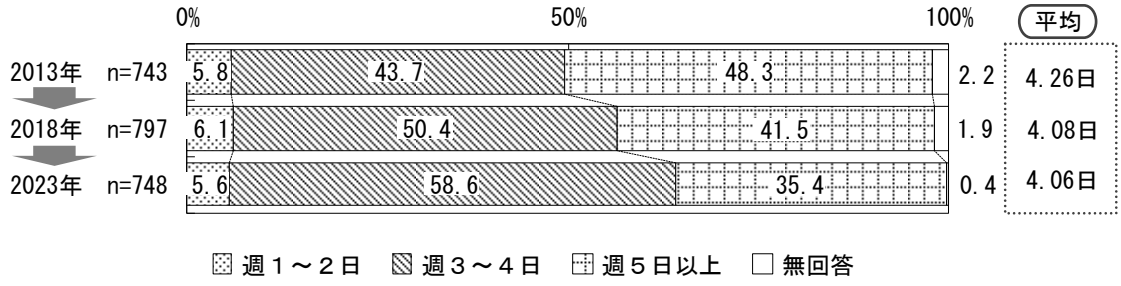
過去の調査結果との比較では、フルタイムには大きな差異は見られませんが、パート・アルバイト等は「週５日以上」が低下する一方、「週３～４日」が上昇しており、平均日数も減少しています。

図表２－13　母親の就労日数

＜フルタイム＞



＜パート・アルバイト等＞



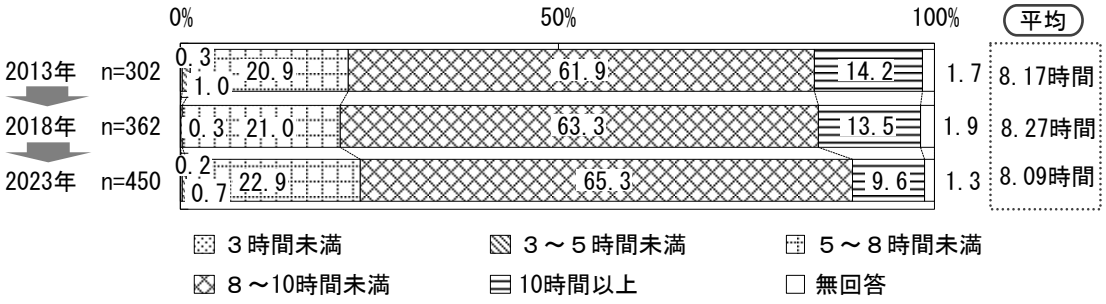
③　就労時間［Q13－２］

フルタイムの１日あたりの就労時間は、「８～10時間未満」が65.3%と最も高く、次いで「５～８時間未満」が22.9%、「10時間以上」が9.6%となっています。平均就労時間は8.09時間であり、過去の調査結果との比較では、2018年に比べ0.18時間短くなっています。

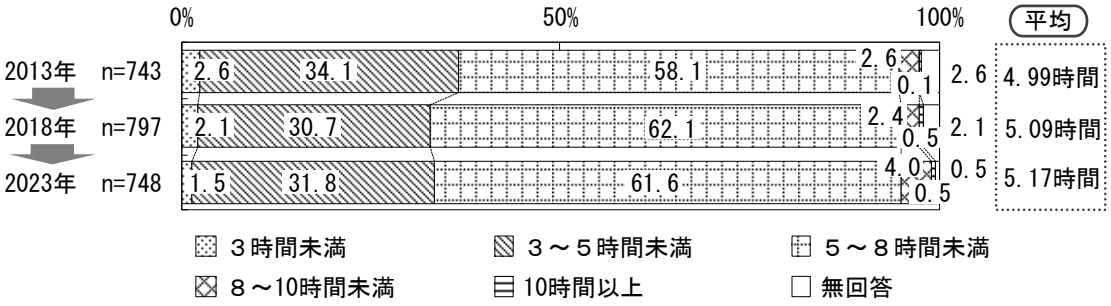
パート・アルバイト等の１日あたりの就労時間は、「５～８時間未満」が61.6%を占めており、次いで「３～５時間」が31.8%となっています。平均就労時間は5.17時間であり、過去の調査結果との比較では、わずかですが長くなってきています。

図表２－14　母親の就労時間

＜フルタイム＞



＜パート・アルバイト等＞

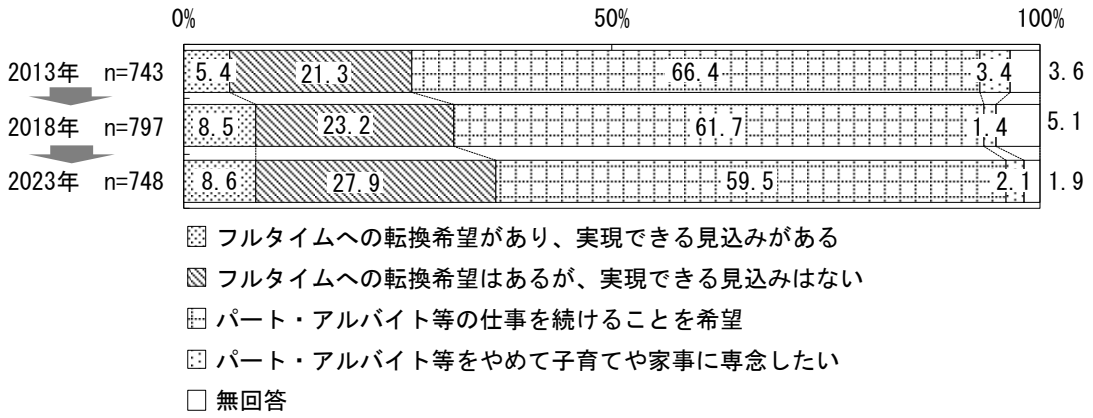


④　フルタイムへの転換希望［Q14］

パート・アルバイト等と回答した人にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が59.5%を占めています。「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みがない」が27.9%、「フルタイムへの希望があり、実現できる見込みがある」が8.6%であり、合わせて《フルタイムへの転換希望がある》は36.5%となっています。「パート・アルバイト等をやめて、子育てや家事に専念したい」は2.1%です。

過去の調査結果との比較では、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みがない」が上昇しています。

図表２－15　フルタイムへの転換希望



(2)　現在、仕事をしていない母親の就労意向［Q15］

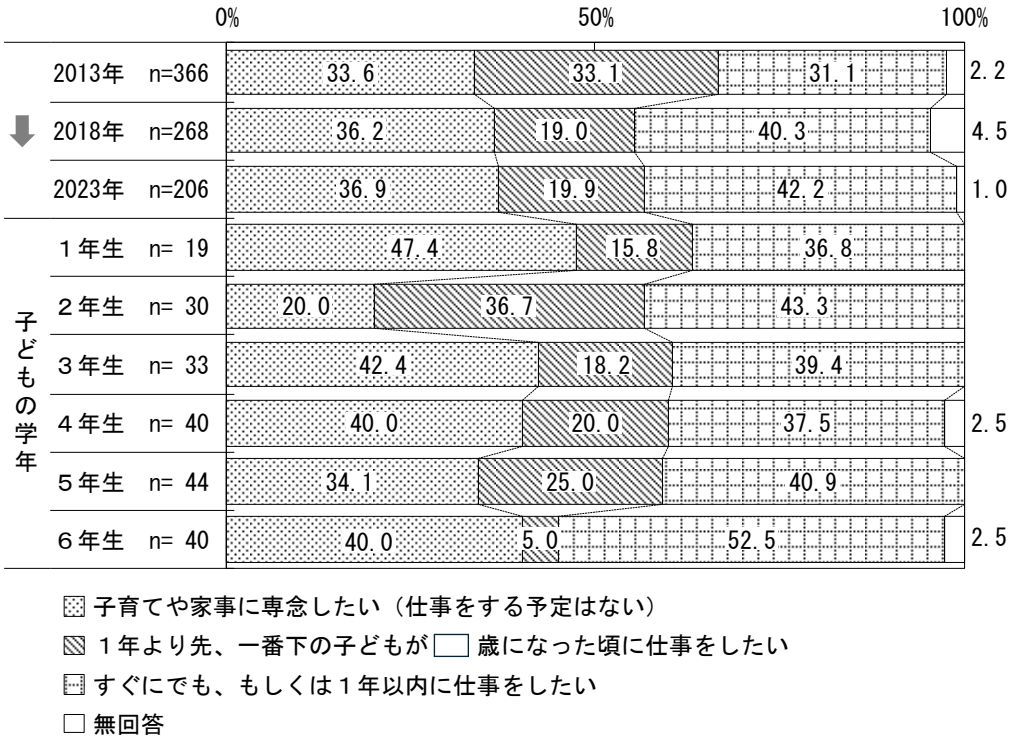
①　就労意向

現在、仕事をしていない母親の就労意向は、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が42.2%と最も高く、次いで「子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）」が36.9%、「１年より先、一番下の子どもが□歳になった頃に就労したい」が19.9%となっています。「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」および「１年より先、一番下の子どもが□歳になった頃に就労したい」の合計《就労したい》は62.1%になります。

過去の調査結果との比較では、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が上昇しています。

子どもの学年別にみると、２年生および５・６年生は「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が最も高く、特に６年生は50%以上を占めています。

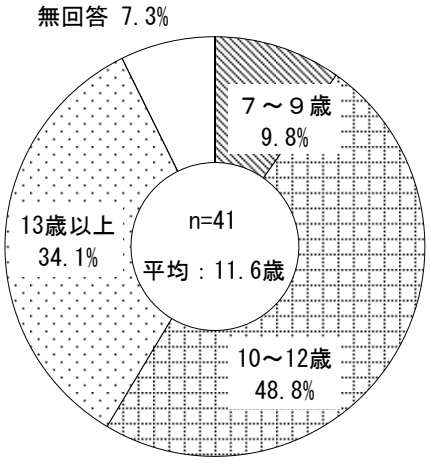
図表２－16　母親の就労意向



② 子どもが何歳になったら就労したいか

①で、「１年より先、一番下の子どもが□歳になった頃に就労したい」と回答した41人に、子どもが何歳になったら就労したいかをたずねたところ、「10～12歳」が48.8%を占めており、次いで「13歳以上」が34.1%、「７～9歳」が9.8%となっています。平均は11.6歳です。

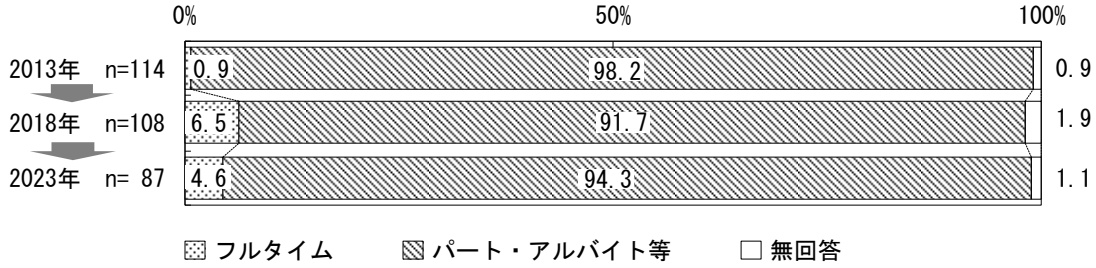
図表２－17　子どもが何歳になったら就労したいか



③　希望する就労形態

①で、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」と回答した87人に、希望する就労形態をたずねたところ、「パート・アルバイト等」が94.3%を占めています。

図表２－18　希望する就労形態



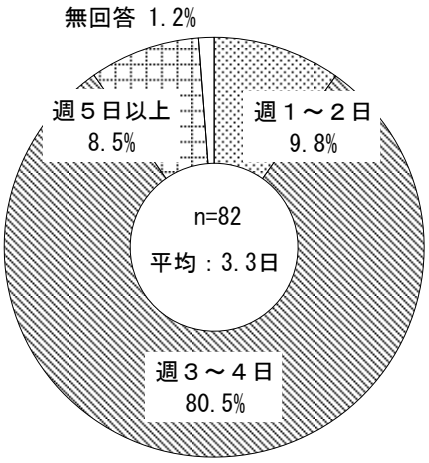
④　希望する就労日数、就労時間

③で、「パート・アルバイト等」と回答した82人に、希望する就労日数をたずねたところ、「週３～４日」が80.5%を占めています。次いで「週１～２日」が9.8%、「週５日以上」が8.5%となっており、希望就労日数の平均は3.3日です。

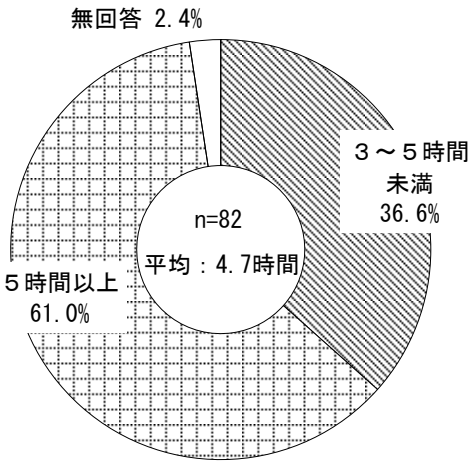
希望する１日あたりの就労時間は、「５時間以上」が61.0%、「３～５時間未満」が36.6%で、平均は4.7時間となります。

図表２－19　希望する就労日数、就労時間

■就労日数



■就労時間

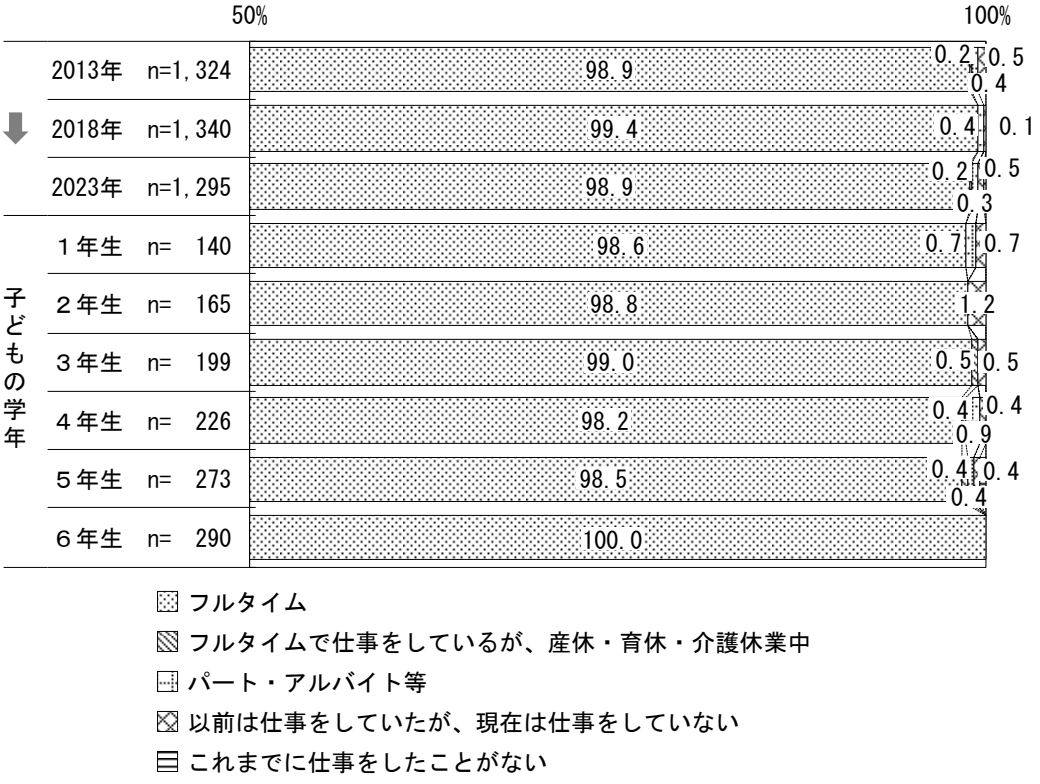


(3) 父親の就労状況

① 就労状況[Q16]

父親の就労状況は、「フルタイム」が98.9%を占めており、「以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」が0.5%（６人）、「パート・アルバイト等」が0.3%（４人）、「フルタイムで仕事をしているが、育休・介護休業中」が0.2%（３人）、「これまでに仕事をしたことがない」が0.1%（１人）です。「パート・アルバイト等で就労しているが、育休・介護休業中」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

図表２－20　父親の就労状況



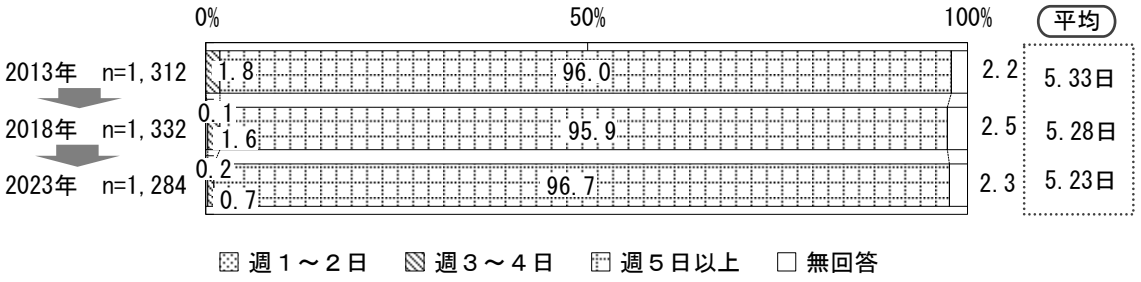
② 平均就労日数［Q17－１］

フルタイムの就労日数は、「週５日以上」が96.7%を占めており、平均は5.23日です。

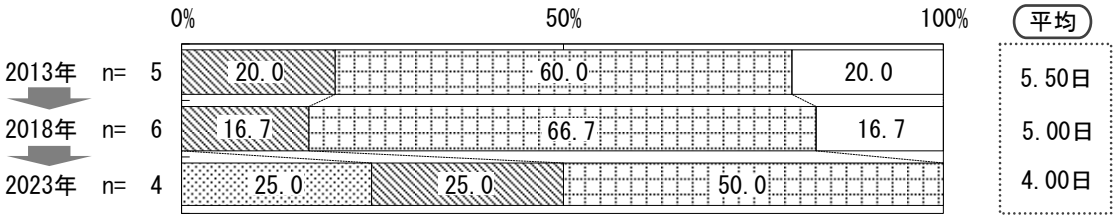
パート・アルバイト等の就労日数は、「週５日以上」が50.0%（２人）、「週１～２日」および「週３～４日」が各25.0%（1人）となっています。１週あたりの就労日数の平均は4.00日です。

図表２－21　父親の平均就労日数

＜フルタイム＞



＜パート・アルバイト等＞



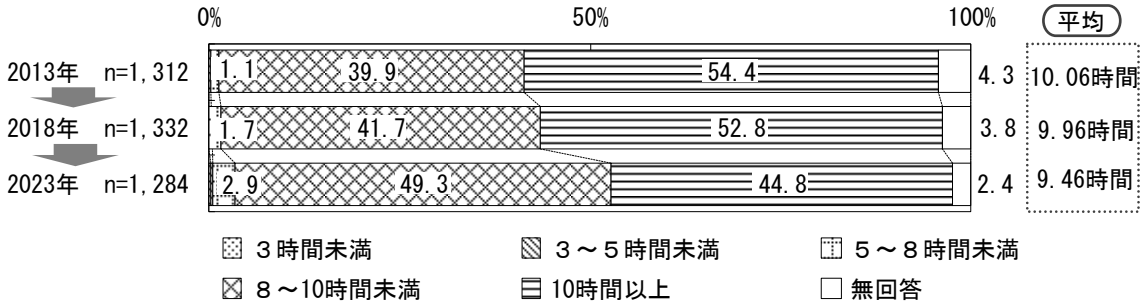
③　就労時間［Q17－２］

フルタイムの１日あたりの就労時間は、「８～10時間未満」が49.3%と最も高く、次いで「10時間以上」が44.8%となっています。就労時間の平均は9.46時間です。過去の調査結果との比較では、「10時間以上」が低下しており、平均就労時間も短くなってきています。

パート・アルバイト等の就労時間は、「８～10時間」が50.0%（２人）で、「３～５時間」および「５～８時間」が各25.0%（１人）です。１日あたりの平均就労時間は6.25時間となっています。

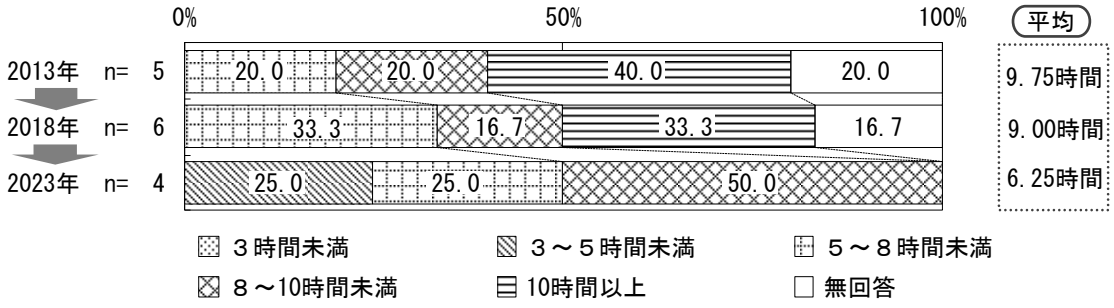
図表２－22　父親の平均就労時間

＜フルタイム＞



注：1.0%未満の数値の表記を省略

＜パート・アルバイト等＞



④　フルタイムへの転換希望［Q18］

パート･アルバイト等と回答した４人にフルタイムへの転換希望をたずねたところ、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」および「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が各１人で、２人は無回答でした。「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」および「パート・アルバイト等をやめて、子育てや家事に専念したい」という選択肢が用意されていましたが、回答はありませんでした。

⑷　父親の就労意向［Q19］

現在、仕事をしていない父親（Q16で「以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」と回答した７人）の就労意向は、「すぐにでも、もしくは１年以内に就労したい」が最も多く４人となっており、希望する就労形態は「フルタイム」が３人、「パート・アルバイト等」が１人です。

「１年より先、一番下の子どもが□歳になった頃に就労したい」は２人で、１人は「９歳」、もう１人は「13歳」と回答しています。

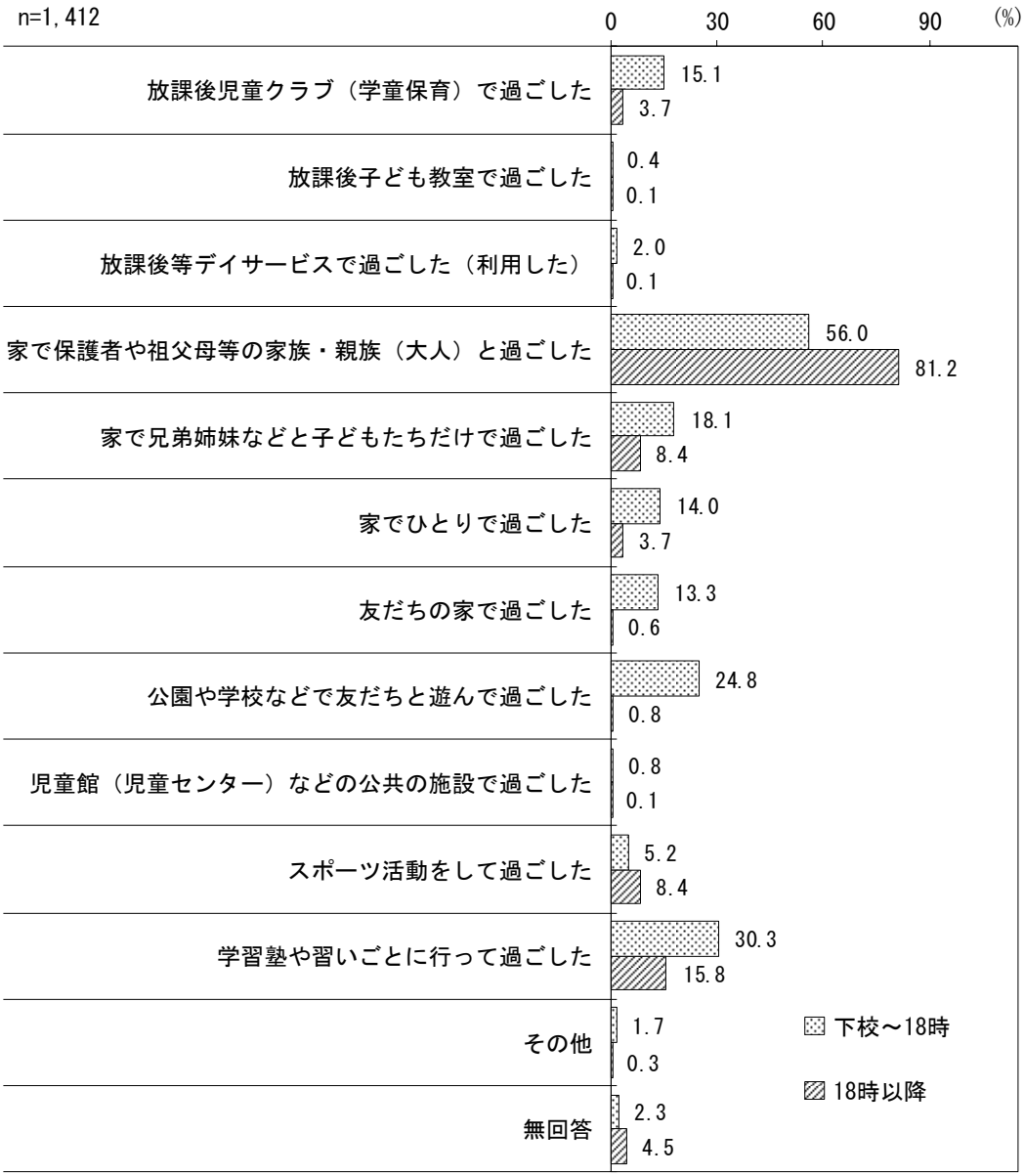
4 放課後等の子どもの居場所

(1) 平日の放課後の過ごし方［Q20］

平日の放課後の子どもの過ごし方として一番多いものを、時間帯（下校から18時、18時以降）ごとにたずねたところ、下校～18時および18時以降ともに「家で保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした」が最も高く、18時以降では80%以上を占めていますが、下校～18時では56.0%です。

下校～18時の時間帯は、「学習塾や習いごとに行って過ごした」が30.3%、「公園や学校などで友だちと遊んで過ごした」が24.8%、「家で兄弟姉妹などと子どもたちだけで過ごした」が18.1%、「放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした」が15.1%などとなっています。

図表２－23　平日の放課後の過ごし方（全体）



子どもの学年別にみると、いずれの学年、いずれの時間帯においても「家で保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした」が最も高くなっています。

それ以外で20%以上の比較的高い項目は、全学年の下校～18時における「学習塾や習いごとに行って過ごした」、１・２年生の下校～18時における「放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした」、３～６年生の下校～18時における「公園や学校などで友だちと遊んで過ごした」、５・６年生の下校～18時における「家で兄弟姉妹などと子どもたちだけで過ごした」、６年生の下校～18時における「家でひとりで過ごした」、５・６年生の18時以降における「学習塾や習いごとに行って過ごした」です。

図表２－24　平日の放課後の過ごし方（複数回答・学年別）　　単位：ｎは人、他は%

区分		放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした	放課後子ども教室で過ごした	放課後等デイサービスで過ごした（利用した）	家で保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした	家で兄弟姉妹などと子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家で過ごした	公園や学校などで友だちと遊んで過ごした	児童館（児童センター）などの公共の施設で過ごした	スポーツ活動をして過ごした	学習塾や習いごとに行って過ごした	その他	無回答
１年生 n=154	下校～18時	27.3	0.6	5.2	51.9	8.4	3.9	9.1	17.5	－	5.2	22.7	1.9	3.2
	18時以降	7.1	－	－	82.5	4.5	1.3	－	－	－	3.9	7.1	－	5.8
２年生 n=177	下校～18時	29.9	0.6	0.6	52.0	13.6	6.2	9.6	18.6	1.7	4.0	22.0	1.7	3.4
	18時以降	5.1	－	－	83.1	6.8	1.1	1.1	1.7	－	5.6	11.9	0.6	6.2
３年生 n=218	下校～18時	15.6	0.5	2.8	58.7	17.0	11.5	16.1	27.1	0.9	4.6	31.7	1.4	1.4
	18時以降	4.6	－	0.5	86.2	4.6	2.3	0.5	0.5	－	6.0	12.8	－	2.8
４年生 n=249	下校～18時	16.1	0.4	2.4	58.6	17.3	12.0	13.7	22.1	0.8	6.8	36.5	0.8	0.4
	18時以降	3.2	－	－	84.3	6.8	3.2	0.4	0.4	－	8.4	13.7	0.4	2.4
５年生 n=299	下校～18時	8.0	0.3	1.7	57.9	20.1	16.7	12.4	29.4	0.7	4.7	33.8	3.7	3.7
	18時以降	2.3	0.3	0.3	79.6	10.7	4.3	0.3	0.3	0.3	10.7	20.7	0.7	5.7
６年生 n=313	下校～18時	6.4	－	0.6	54.3	24.9	24.3	16.3	28.1	1.0	5.4	29.7	0.6	1.9
	18時以降	2.2	－	－	75.4	12.8	6.7	1.3	1.9	－	11.8	21.4	－	4.8

※　　は20%以上

母親の就労状況別にみると、フルタイムの下校～18時においては「放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした」が最も高くなっています。

図表２－25　平日の放課後の過ごし方（複数回答・母親の就労状況別）　　単位：ｎは人、他は%

区分		放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした	放課後子ども教室で過ごした	放課後等デイサービスで過ごした（利用した）	家で保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした	家で兄弟姉妹などと子どもたちだけで過ごした	家でひとりで過ごした	友だちの家で過ごした	公園や学校などで友だちと遊んで過ごした	児童館（児童センター）などの公共の施設で過ごした	スポーツ活動をして過ごした	学習塾や習いごとに行って過ごした	その他	無回答
フルタイム ｎ=448	下校～18時	33.3	0.7	0.9	28.6	22.5	22.3	10.0	17.4	1.1	4.7	21.4	3.1	2.7
	18時以降	9.6	0.2	－	69.9	12.5	7.1	0.9	0.4	－	7.1	13.6	0.7	5.6
パート等 ｎ=745	下校～18時	7.8	0.1	2.3	66.4	18.9	12.1	16.4	28.7	0.7	5.2	34.4	1.2	1.9
	18時以降	1.2	－	0.3	85.8	7.2	2.3	0.3	0.9	0.1	9.9	17.7	－	4.0
産休・育休等 ｎ=5	下校～18時	20.0	－	－	80.0	－	20.0	－	20.0	20.0	－	20.0	－	－
	18時以降	－	－	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－
非就労 ｎ=206	下校～18時	1.5	0.5	3.4	75.7	5.3	2.4	10.2	26.2	0.5	6.3	35.9	0.5	2.9
	18時以降	－	－	－	88.3	3.4	1.0	1.5	1.5	－	6.3	14.1	0.5	4.4

※　　は最も高い項目

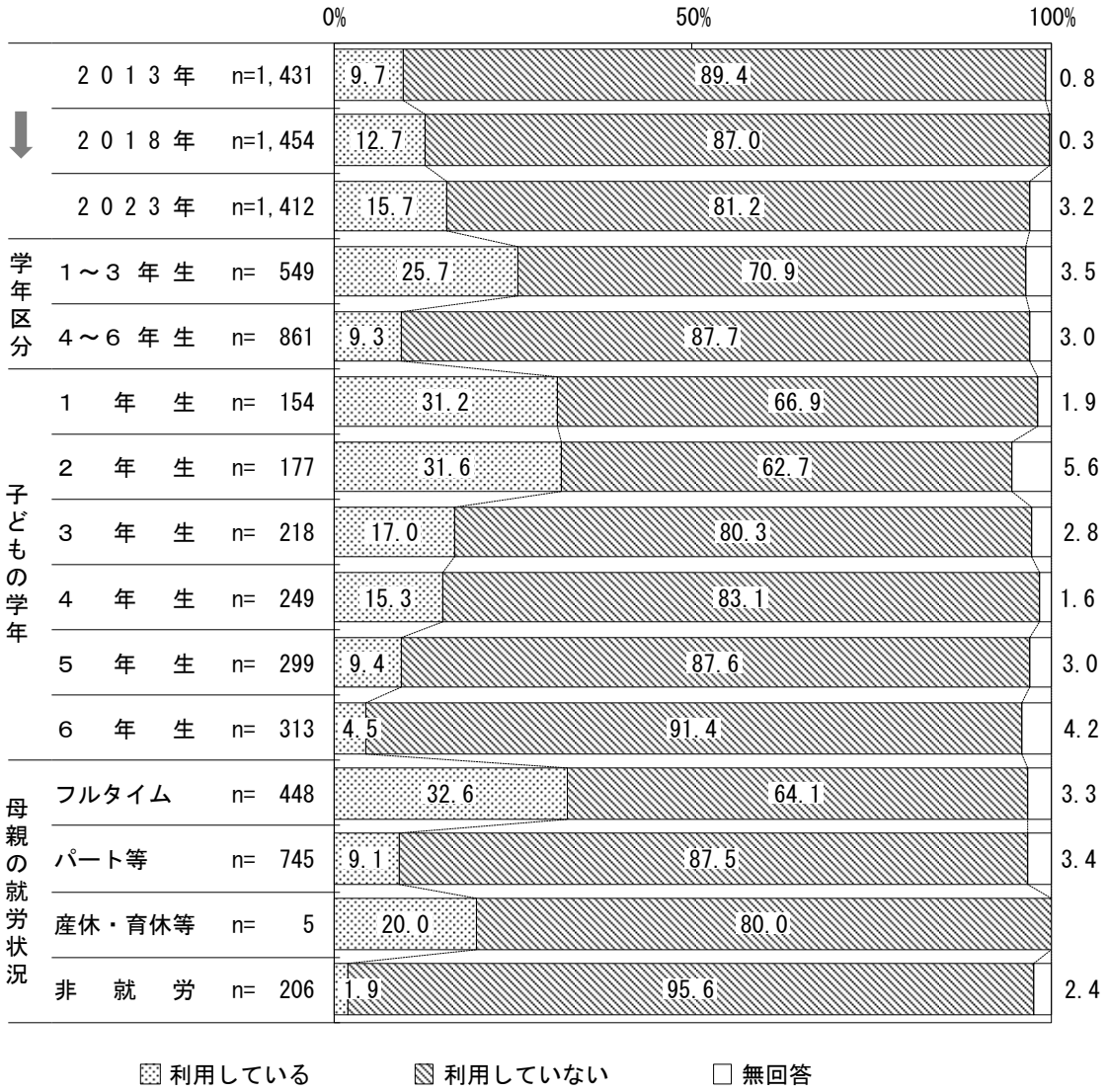
(2)　放課後児童クラブの利用状況［Q21］

放課後児童クラブを「利用している」は、全体で15.7%ですが、１～3年生に限ってみると25.7%です。4～６年生では「利用している」は9.3%となります。

過去の調査結果との比較では、「利用している」が上昇しています。

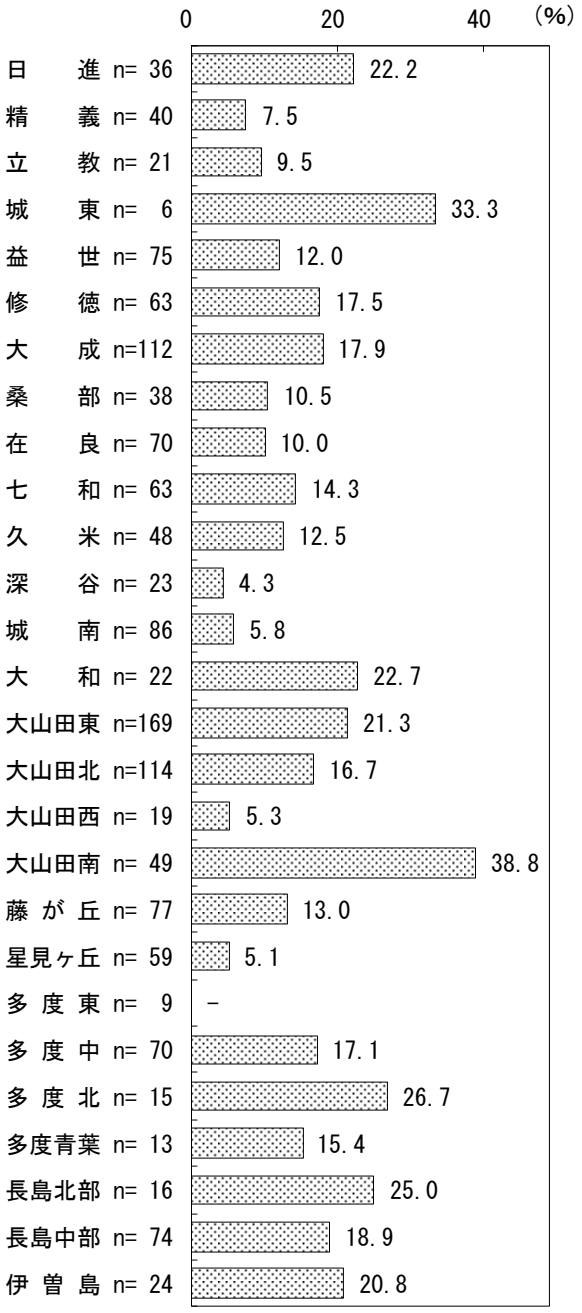
母親の就労状況別にみると、当然のことながら、フルタイムの「利用している」が高く、30%を超えています。

図表２－26　放課後児童クラブの利用状況

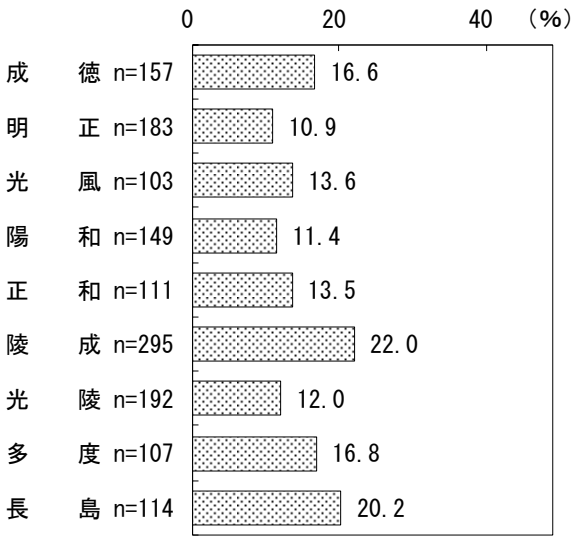


図表２－27　放課後児童クラブの校区・ブロック別利用率（「利用している」の割合）

＜小学校区別＞



＜中学校ブロック＞

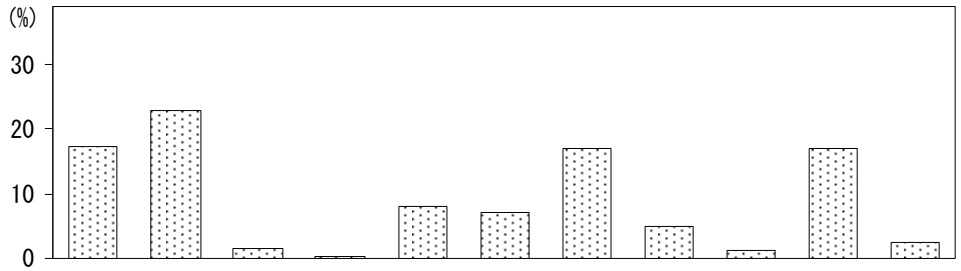


(3) 放課後児童クラブを利用していない理由［Q22］

放課後児童クラブを「利用していない」と回答した1,146人を対象に、利用していない理由をたずねたところ、「仕事をしているが、自宅に親族などがいるから」が22.9%と最も高く、次いで「現在仕事をしていない」が17.2%、「仕事をしているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思うから」および「その他」が17.1%となっています。

「その他」として、「仕事をしているが、子どもの帰宅時間には家にいる」が多数記載されていました。また、「子どもが行きたがらない」「放課後等デイサービスを利用している」「役員が回ってくるから」などの記載がありました。

図表２－28　放課後児童クラブを利用している主な理由（単数回答）単位：ｎは人、他は%



区分		n	現在仕事をしていないから	仕事をしているが、自宅に親族などがいるから	仕事をしているが、放課後児童クラブが近くにないから	仕事をしているが、放課後児童クラブに空きがないから	仕事をしているが、利用料がかかるから	仕事をしているが、子どもは放課後の習い事をしているから	仕事をしているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫と思うから	仕事をしているが、自宅で仕事をしているから	仕事をしているが、他の施設に預けているから	その他	無回答
全体		1,146	17.2	22.9	1.5	0.3	8.1	7.2	17.1	4.9	1.2	17.1	2.5
学年区分	１～３年生	389	19.0	22.4	2.6	0.5	12.9	4.4	8.7	5.7	2.6	18.5	2.8
	４～６年生	755	16.3	23.0	0.9	0.1	5.6	8.7	21.5	4.5	0.5	16.4	2.4
母親の就労状況別	フルタイム	287	0.3	24.4	4.2	0.3	5.6	9.1	27.2	6.3	1.0	19.5	2.1
	パート等	652	3.4	28.2	0.8	0.3	11.5	8.6	17.9	5.1	1.5	19.8	2.9
	産休・育休等	4	25.0	－	－	－	25.0	－	25.0	25.0	－	－	－
	非就労	197	87.3	2.5	－	－	－	0.5	－	1.5	0.5	5.6	2.0

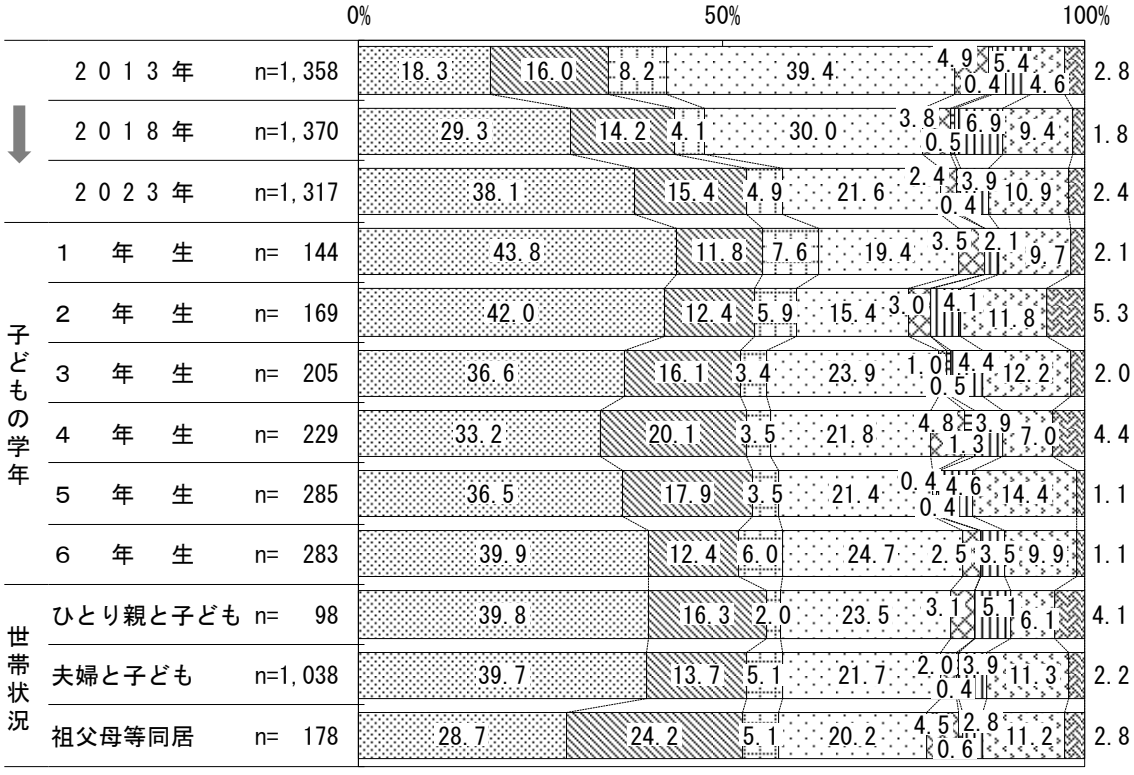
5 子どもが病気等の時の対応

(1) 子どもが休日・夜間に病気になった時の対応［Q23］

子どもが休日・夜間に病気になった時の対応としては、「本やインターネットで対処法などを調べて様子をみた」が38.1%と最も高く、次いで「桑名市応急診療所など市内の救急医療機関に連れて行った」が21.6%、「自分や配偶者の親など身近な人に対処法などを教えてもらい様子をみた」が15.4%などとなっています。

過去の調査結果との比較では、「家庭用の医学書やインターネットで対処法などを調べて様子をみた」が大幅に上昇する一方、「桑名市応急診療所など市内の救急医療機関に連れて行った」が低下しています。世帯状況別にみると、祖父母等同居では「自分や配偶者の親など身近な人に対処法などを教えてもらい様子をみた」が24.2%と比較的高くなっています。

図表２－29　子どもが休日・夜間に病気になった時の対応



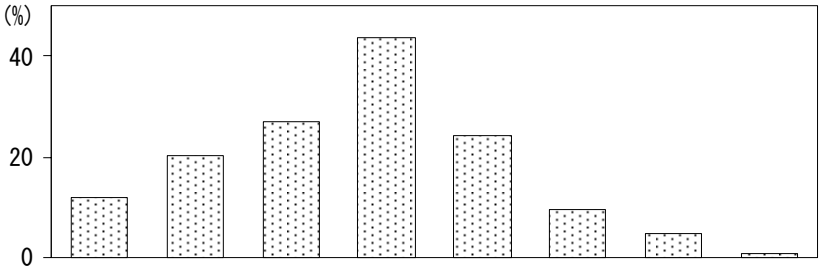
注：「今まで、子どもが休日や夜間に病気になったことがない」および無回答を除く。

(2) 学級閉鎖になった時の困りごと［Q24］

インフルエンザ等の感染症の拡大により学級閉鎖となった場合にどのようなことで困ったかをたずねたところ、「仕事を休んだことで、職場に迷惑がかかった」が43.6%と突出して高く、次いで「仕事を休んだことで、収入が減った」が27.0%、「子どもの預け先がなく、子どもだけで留守番させざるを得なかった」が20.1%などとなっています。「困ることはない」は24.1%です。

世帯状況別にみると､ひとり親と子どもの世帯では困りごとが全般的に高くなっています。「その他」として、「予定を変更せざるをえなかった」「昼食」などの記載がありました。

図表２－30　学級閉鎖になった時の困りごと（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



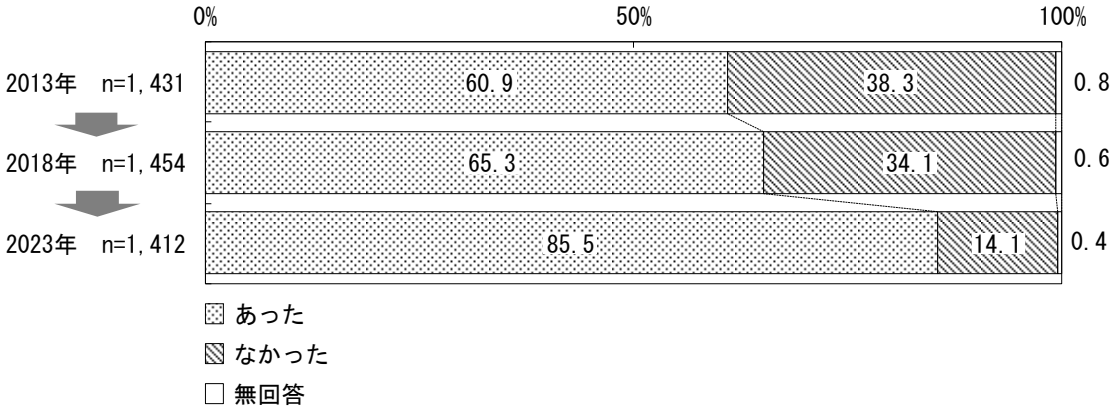
区分		n	子どもの預け先を探すのに苦労した	子どもの預け先がなく、子どもだけで留守番させざるを得なかった	仕事を休んだことで、収入が減った	仕事を休んだことで、職場に迷惑がかかった	困ることはない	学級閉鎖になったことはない	その他	無回答
全体		1,412	12.0	20.1	27.0	43.6	24.1	9.6	4.5	0.6
学年区分	１～３年生	549	16.0	13.7	32.6	50.8	20.2	10.2	4.2	0.5
	４～６年生	861	9.4	24.3	23.5	39.0	26.5	9.3	4.8	0.7
世帯状況	ひとり親と子ども	104	18.3	31.7	29.8	44.2	16.3	11.5	1.0	－
	夫婦と子ども	1,113	11.9	21.0	28.0	44.6	23.8	9.0	4.4	0.6
	祖父母等同居	192	8.9	8.3	19.3	38.0	29.7	12.5	7.3	1.0
母親の就労状況別	フルタイム	448	19.6	24.6	15.4	48.0	17.4	10.0	6.3	0.2
	パート等	745	10.3	22.4	40.1	52.2	16.4	8.7	1.9	0.3
	産休・育休等	5	－	20.0	60.0	20.0	－	－	20.0	－
	非就労	206	1.9	2.4	3.9	5.3	66.5	12.1	9.7	2.4

(3) 子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無［Q25］

この１年間に、子どもが病気やケガで学校を休まなければならなかったことがあるかをたずねたところ、「あった」が85.5%、「なかった」が14.1%となっています。

過去の調査結果との比較では、「あった」が大幅に上昇しています。

図表２－31　子どもが病気等で学校を休まなければならなかったことの有無



(4) 学校を休んだ時の対処法［Q26］

子どもが病気等で学校を休んだ時の対処法については、「母親が休んだ」が75.2%と突出して高く、次いで「親族・知人に預けた（同居者を含む）」が21.0%、「父親が休んだ」が18.7%、「仕事をしていない保護者がみた」が16.8%などの順となっています。

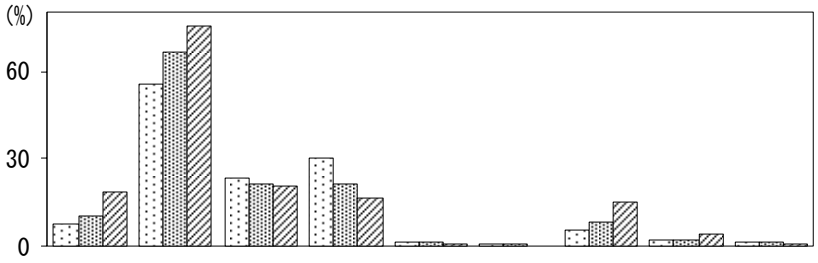
過去の調査結果との比較では、「母親が休んだ」「父親が休んだ」および「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」が上昇しているのに対し、「仕事をしていない保護者がみた」および「親族・知人に預けた（同居者を含む）」は低下しています。

世帯状況別にみると、夫婦と子どもの世帯では「父親が休んだ」が21.5%と比較的高率となっているのに対し、ひとり親と子どもの世帯および祖父母等同居では「親族・知人に預けた（同居者を含む）」が30%台となっています。

年間の対処が必要だった日数の平均は11.8日となっており、過去の調査結果に比べ大幅に増加しています。

図表２－32　子どもが病気等で学校を休まなければならなかった時の対処法（複数回答）

単位：ｎは人、他は%



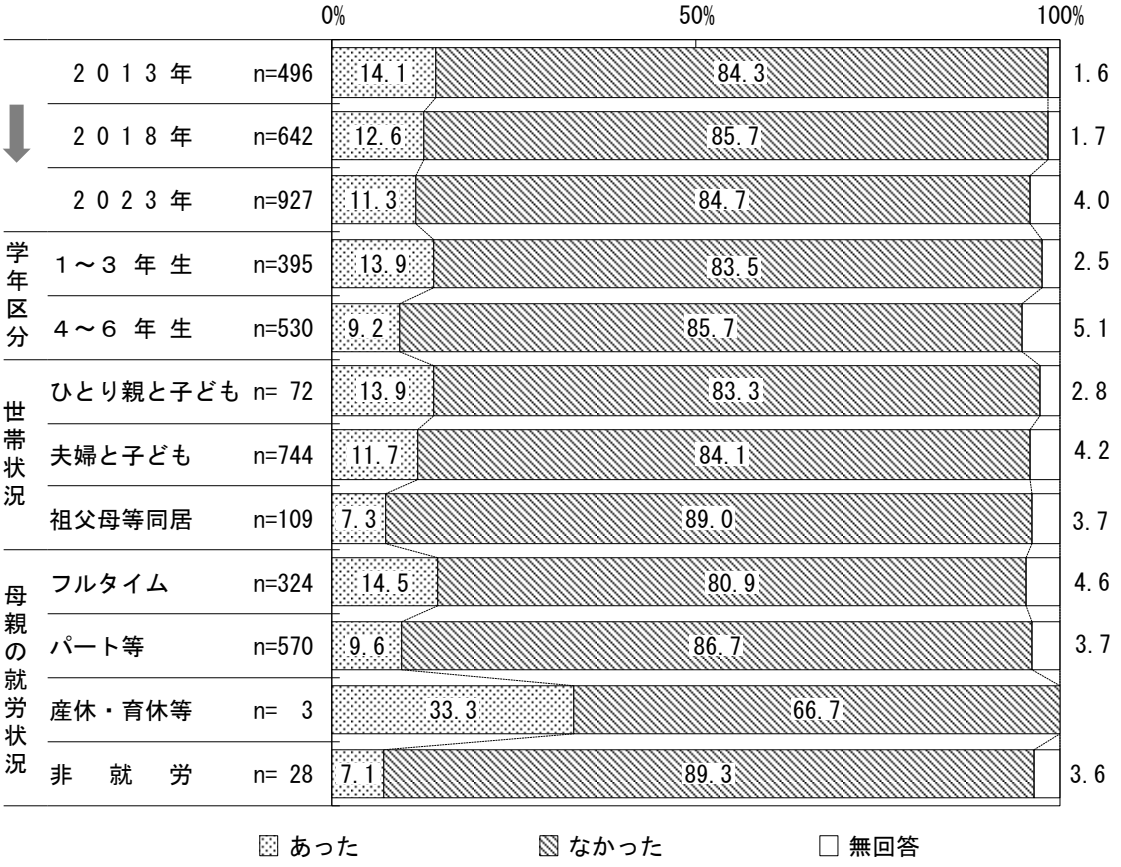
区分		ｎ	父親が休んだ	母親が休んだ	親族・知人に預けた（同居者を含む）	仕事をしていない保護者がみた	病児・病後児保育を利用した	ファミリーサポートセンターを利用した	仕方なく子どもだけで留守番をさせた	その他	無回答	年間の対処日数の平均（日／年）
▒	２０１３年	871	7.6	55.3	23.5	30.4	1.7	0.2	5.5	2.1	1.5	3.6
▒	２０１８年	949	10.4	66.5	21.7	21.4	1.8	0.4	8.5	2.4	1.3	4.8
▒	２０２３年	1,207	18.7	75.2	21.0	16.8	0.4	－	15.2	4.6	0.7	11.8
学年区分	１～３年生	486	22.2	79.6	24.7	15.4	－	－	8.6	4.7	1.0	10.3
	４～６年生	719	16.3	72.2	18.5	17.8	0.7	－	19.7	4.5	0.4	12.8
世帯状況	ひとり親と子ども	85	5.9	82.4	31.8	4.7	1.2	－	27.1	2.4	－	9.5
	夫婦と子ども	963	21.5	75.6	16.8	16.7	0.3	－	15.5	5.2	0.6	11.6
	祖父母等同居	156	9.0	69.2	39.7	24.4	0.6	－	7.7	1.9	1.3	14.6
母親の就労状況	フルタイム	379	31.4	83.9	40.4	4.0	1.1	－	22.7	6.6	0.3	12.4
	パート等	641	14.7	88.3	14.7	6.1	0.2	－	14.7	4.2	0.3	10.2
	産休・育休等	5	20.0	40.0	－	60.0	－	－	20.0	－	20.0	7.0
	非就労	175	5.7	12.6	1.7	82.9	－	－	1.1	1.7	1.1	14.4
年間の対処日数の平均（日／年）			3.7	7.6	7.2	15.0	2.0	－	6.1	16.1		

(5) 病児・病後児保育施設等の利用［Q27］

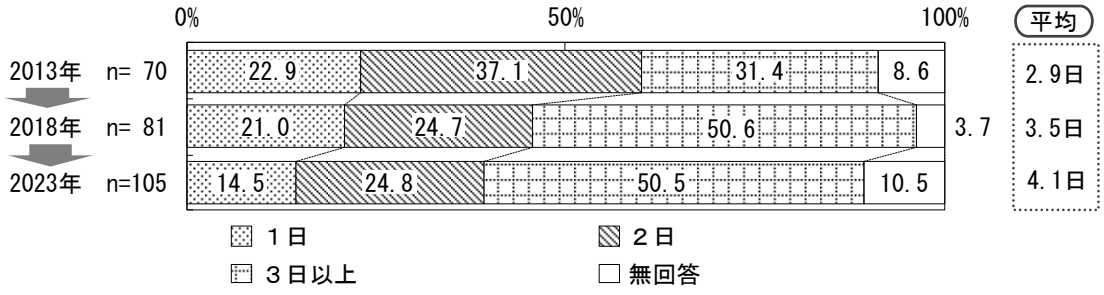
子どもが学校を休んだ時の対処法として、「父親が休んだ」または「母親が休んだ」と回答した927人の病児・病後児保育施設等の利用意向（病児・病後児のための保育施設を利用したいと思ったことが「あった」）は11.3%で、過去の調査結果に比べ低下しています（図表２－33）。

病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数は、「３日以上」が50.5%を占め、平均は4.1日となっています。過去の調査結果に比べ増加しています（図表２－34）。

図表２－33　病児・病後児保育施設等の利用意向



図表２－34　病児・病後児保育施設等の年間の利用希望日数

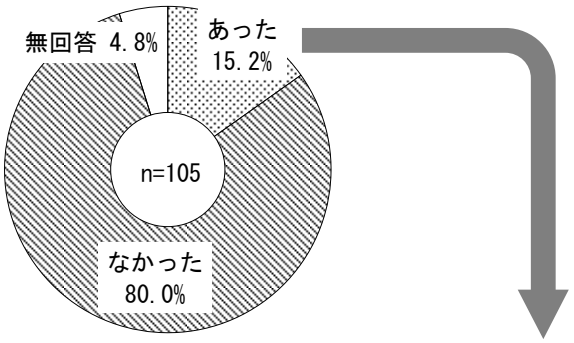


(6)　病児・病後児保育施が利用できなかったことの有無[Q28・29]

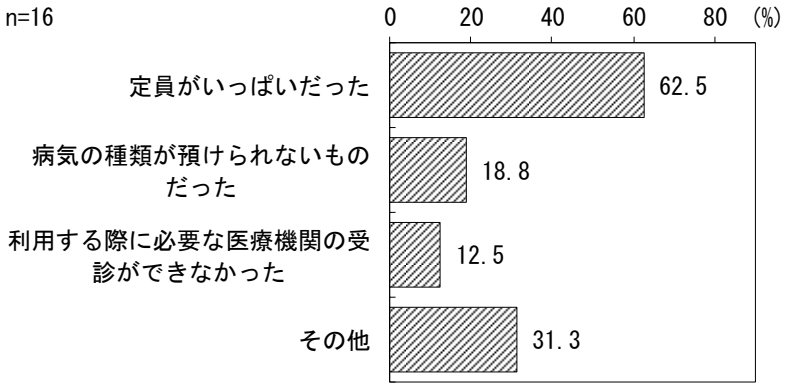
病児・病後児保育施設の利用意向があった人に、病児・病後児保育施設を利用できなかったことの有無についてたずねたところ、「あった」が15.2%、「なかった」が80.0%です（図表２－35）。

病児・病後児保育施設を利用できなかった理由としては、「定員がいっぱいだった」が62.5%と最も高く、次いで「病気の種類が預けられないものだった」が18.8%などとなっています。「その他」として「預けられる時間が合わなかった」「利用方法が分からなかった」「障がいがあり預けられなかった」「新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者だった」の記載がありました（図表２－36）。

図表２－35　病児・病後児保育施設が利用できなかったことの有無



図表２－36　病児・病後児保育施設等が利用できなかった理由（複数回答）



6 仕事と子育ての両立

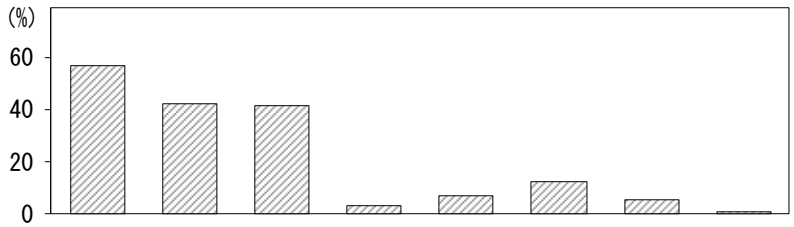
(1) 仕事と子育ての両立が難しいと感じたこと［Q30］

仕事と子育てを両立させる上で難しいと感じたことについてたずねたところ、「子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」が56.9%と最も高く、次いで「家族や職場の理解を得ること」が42.0%、「家事をしなければならないこと」が41.6%などとなっています。

世帯状況別にみると、祖父母等同居の世帯では「家族や職場の理解を得ること」が最も高くなっています。母親の就労状況別にみると、困難要因はフルタイムが他の状況に比べ全般的に高くなっています。

「その他」として、「子どもと接する時間の確保」「自分の時間がとれない」「夏休みなど子どもの長期休暇の対応」「習い事の送迎」「平日行事への対応」などの記載がありました。

図表２－37　仕事と子育てを両立させる上で難しいと感じたこと(複数回答)　単位：ｎは人、他は%



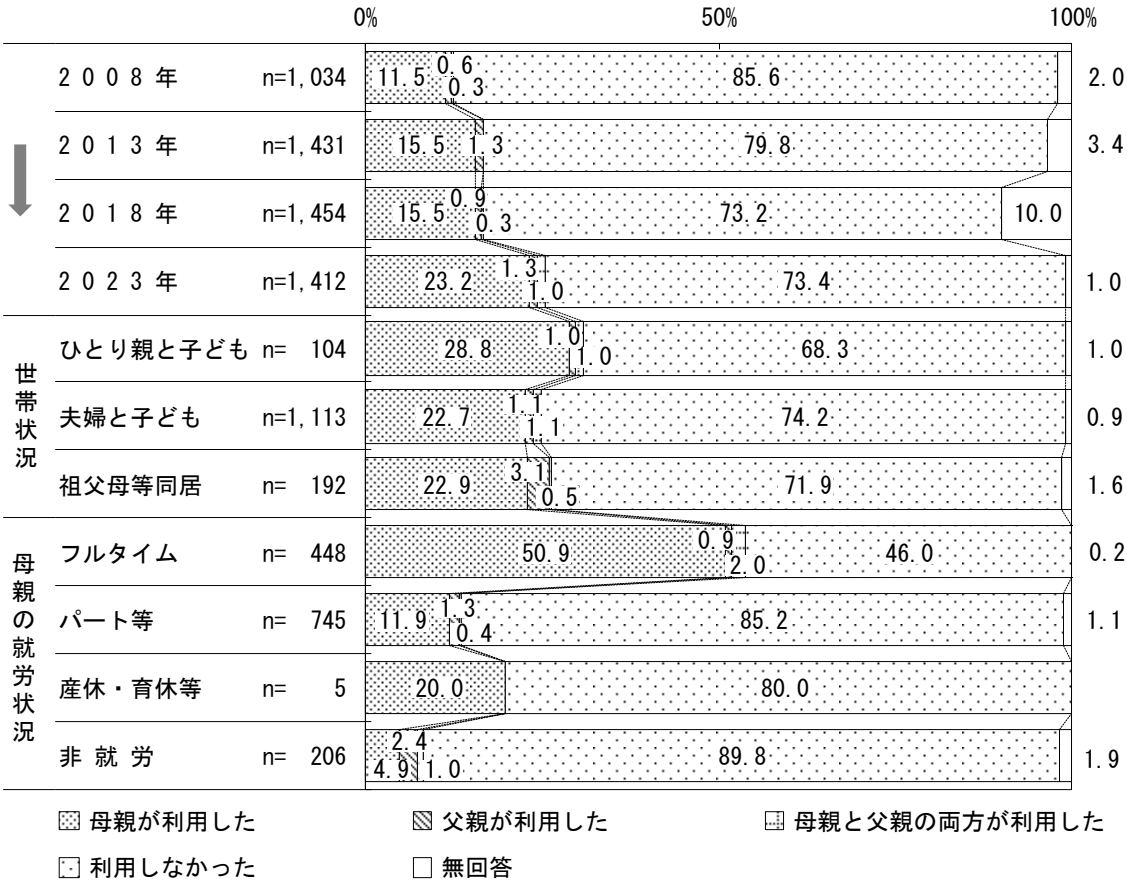
区分		n	子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない	家族や職場の理解を得ること	家事をしなければならないこと	子どもの面倒をみてくれる放課後児童クラブなどが見つからない	その他	特にない	子育てをしながら仕事をしたことがない	無回答
全体		1,412	56.9	42.0	41.6	3.0	7.2	12.7	5.7	0.4
学年区分	１～３年生	549	61.9	45.2	42.3	4.7	8.2	10.6	6.0	0.5
	４～６年生	861	53.7	40.1	41.2	2.0	6.5	13.9	5.6	0.3
世帯状況	ひとり親と子ども	104	70.2	37.5	39.4	6.7	8.7	8.7	2.9	－
	夫婦と子ども	1,113	58.8	41.8	42.0	2.8	7.0	12.6	6.2	0.4
	祖父母等同居	192	38.0	45.8	40.1	2.6	7.3	15.6	4.7	1.0
母親の就労状況別	フルタイム	448	60.7	45.8	45.1	3.8	10.7	10.3	－	－
	パート等	745	59.6	42.4	43.5	3.1	5.8	14.4	0.1	0.4
	産休・育休等	5	40.0	20.0	20.0	－	－	－	20.0	20.0
	非就労	206	40.8	32.0	28.2	1.5	4.4	11.7	38.3	0.5

(2) 育児休業制度の利用状況［Q31］

育児休業制度については、「利用しなかった」が73.4%を占めています。「母親が利用した」が23.2%、「父親が利用した」が1.3%、「母親と父親の両方が利用した」が1.0%となっており、これらの合計《利用した》は25.5%で、過去の調査結果に比べ大幅に上昇しています。

母親の就労状況別にみると、《利用した》はフルタイムで50%を超えています。

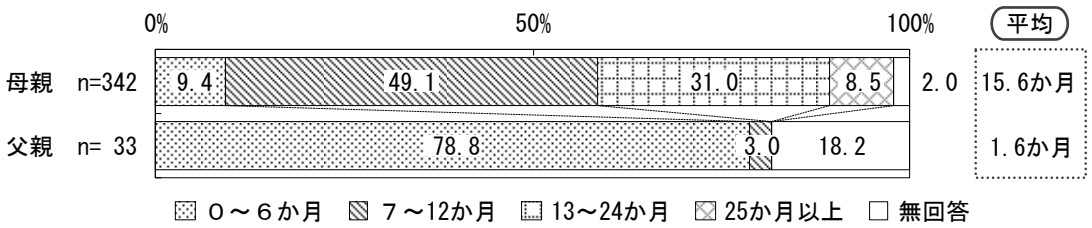
図表２－38　育児休業制度の利用状況



(3) 育児休業の期間［Q31－１］

育児休業制度を利用した人に、その期間をたずねたところ、母親は「７～12か月」が49.1%と最も高く、次いで「13～24か月」が31.0%となっており、平均は15.6か月です。一方、男性は「０～６か月」が78.8%を占めており、平均は1.6か月です。

図表２－39　育児休業の取得期間



7 子育てに対して感じていること

(1) 子育てに対して感じていること［Q32］

子育てに関する13の項目について、「そう思う」を４点、「思わない」を１点とした場合、最もあてはまる点数をつけてもらいました。

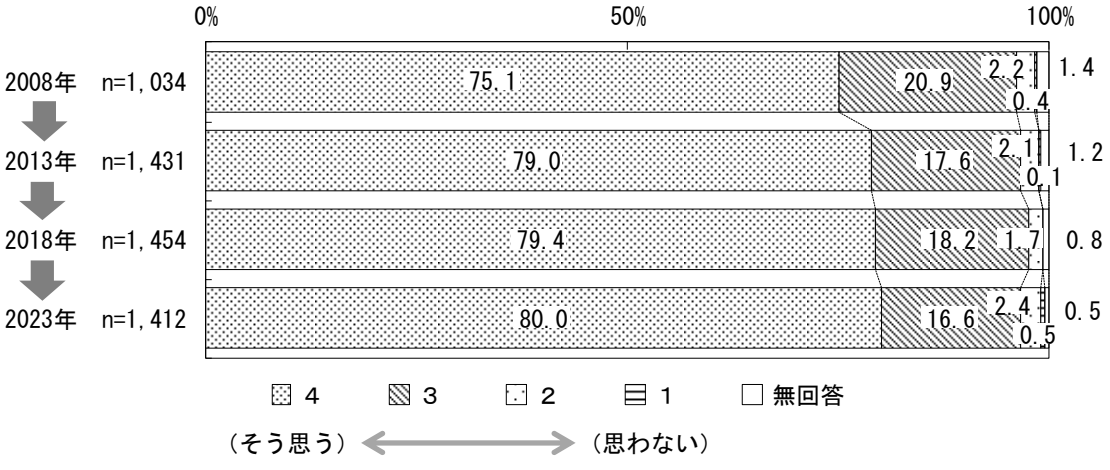
①～⑦の項目は、主に子育てに対する“思い”や“気持ち”に関する項目であり、⑧～⑬の項目は、子育てによる心身への負担に関する項目です。

① ①～⑦について

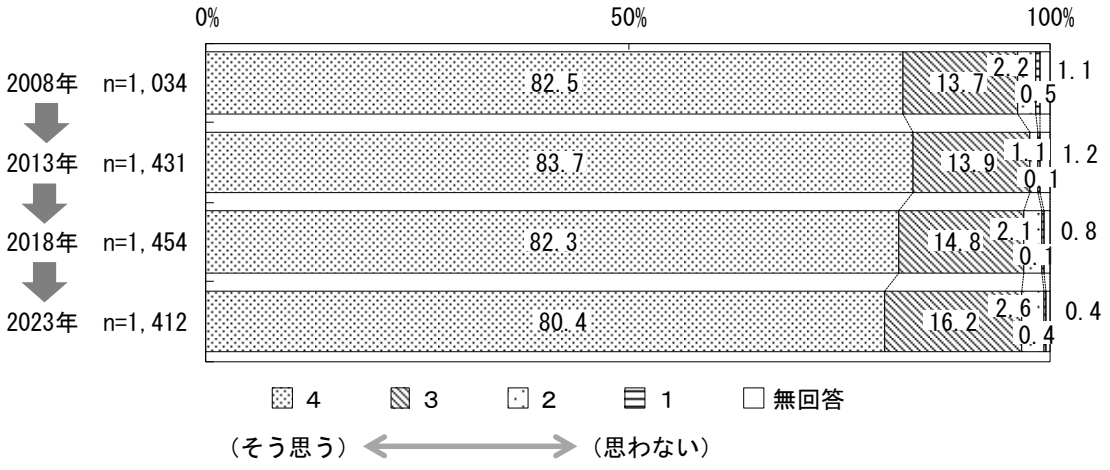
①～③の項目について「そう思う」（4点）が70%を超えており、子どもの存在が自分の人生や生活に対してプラスに働いていると感じている人が多いことがわかります。④～⑥のマイナス面の項目について過去の調査結果と比較すると、「そう思う」が上昇傾向にあります。また、「⑦子どもに強く当たったり、強い口調で言ってしまっている」は「そう思う」が2018年の調査結果に比べ低下していますが、20%を超える高い率となっています。

図表２－40　子育てに対して感じていること（①～⑦／過去の調査結果との比較）

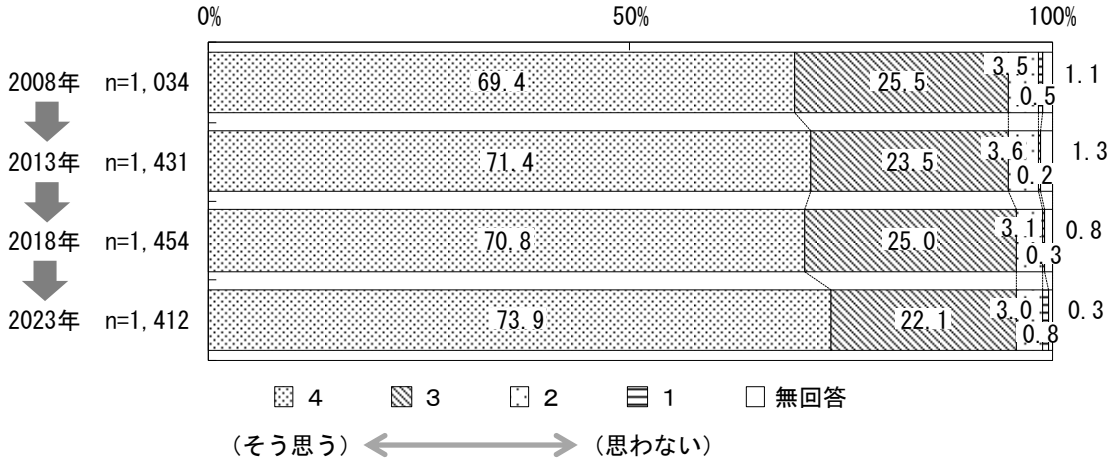
①子どもがいると生活が楽しい



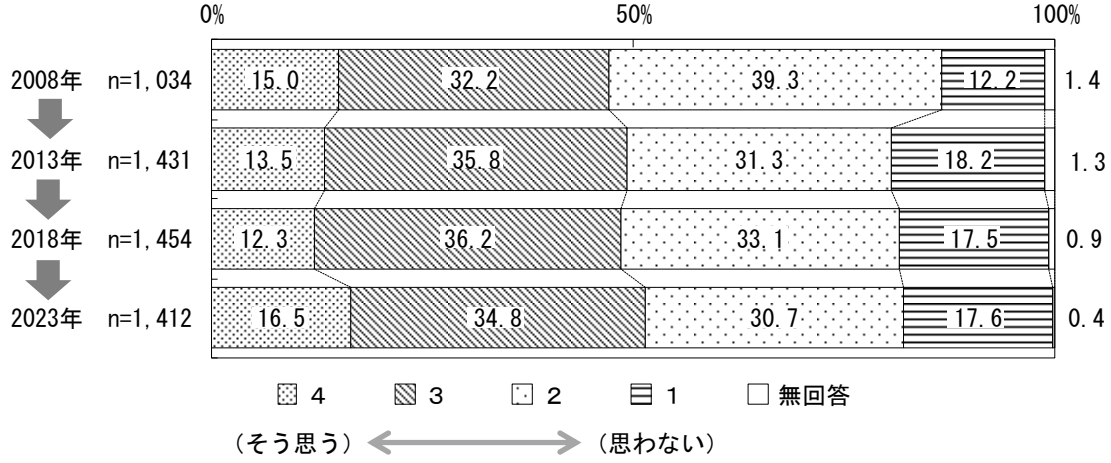
②子育てを通じて自分も成長すると思う



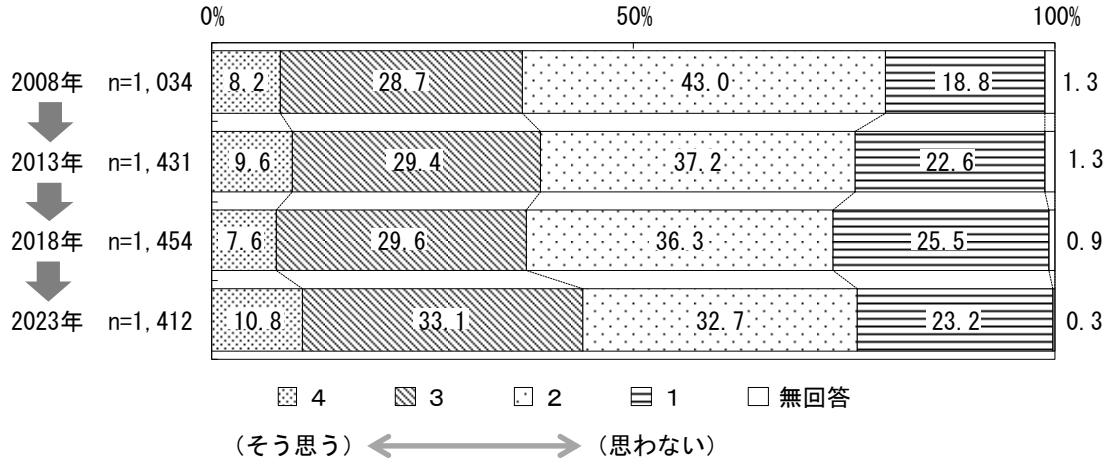
③子どもは心のやすらぎや生きがいを与えてくれると思う



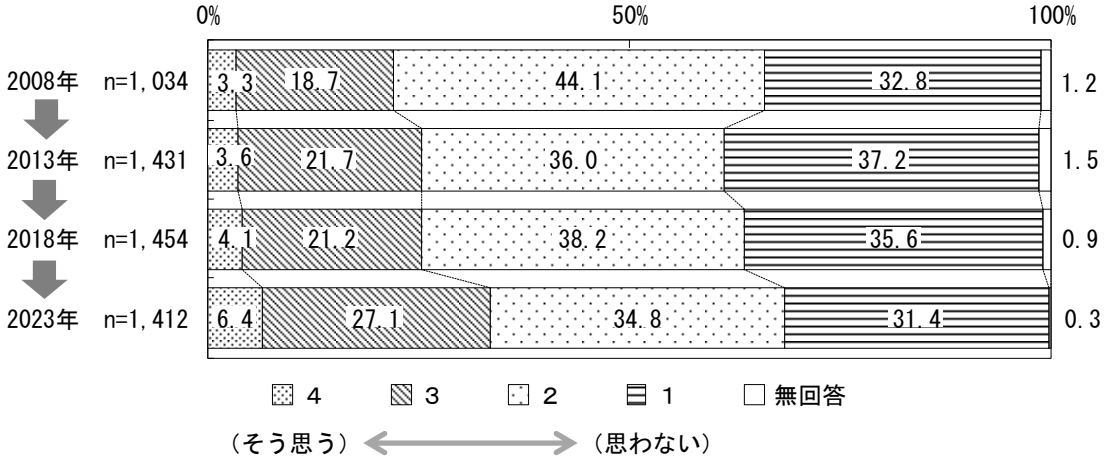
④子育てに対して不安を感じている



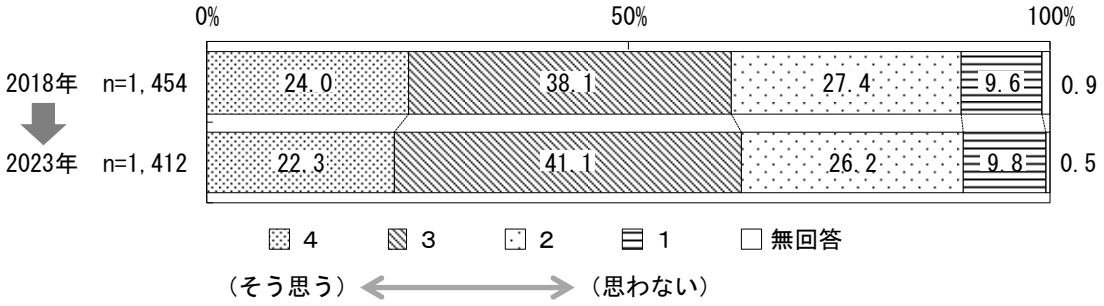
⑤仕事や自分のやりたいことができない



⑥子どもがいると生活や気持ちにゆとりがなくなる



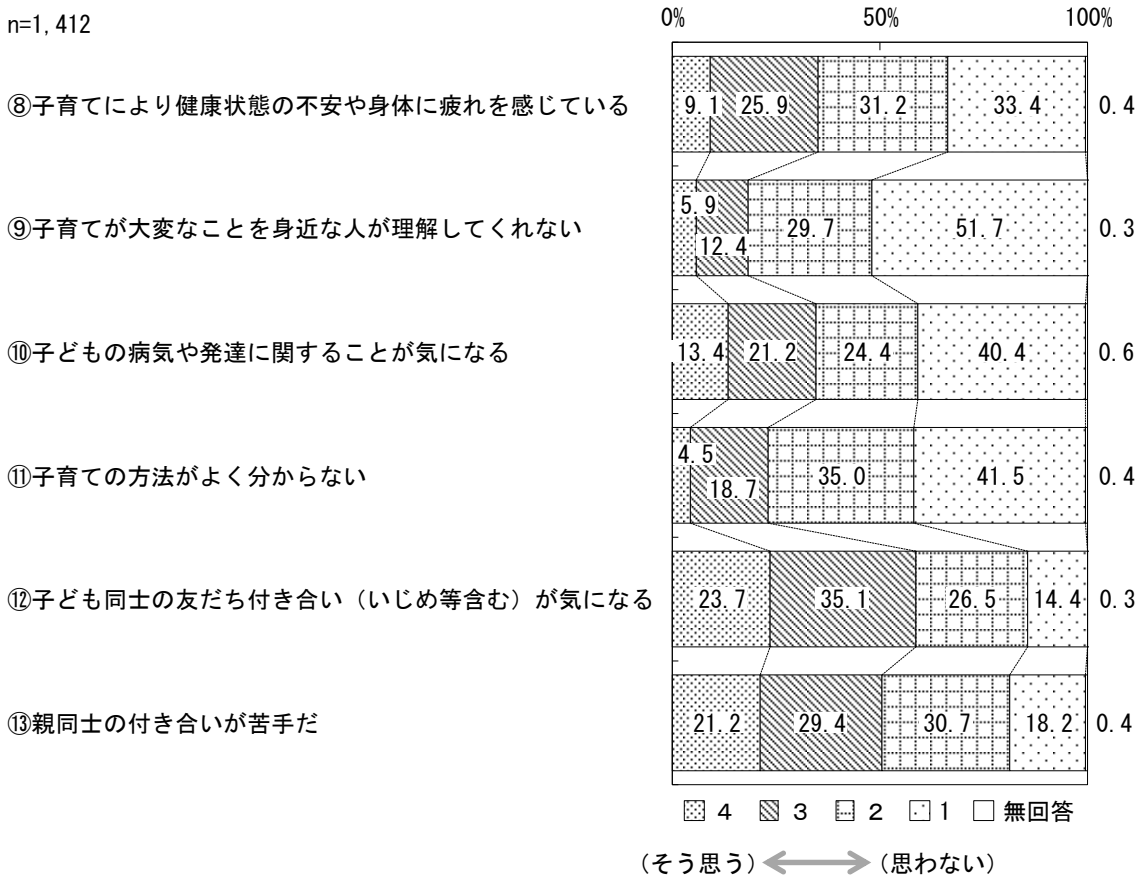
⑦子どもに強く当たったり、強い口調で言ってしまっている



② ⑧～⑬について

⑧～⑬の項目のうち、子ども同士や親同士の付き合いに関する「⑫子ども同士の友だち付き合い（いじめ等含む）が気になる」および「⑬親同士の付き合いが苦手だ」は「そう思う」（4点）が20%を超える比較的高い率を示しています。一方、周りの理解や子育ての方法に関する「⑨子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない」および「⑪子育ての方法がよく分からない」は５%前後の低い率となっています。

図表２－41　子育てに対して感じていること（⑧～⑬）



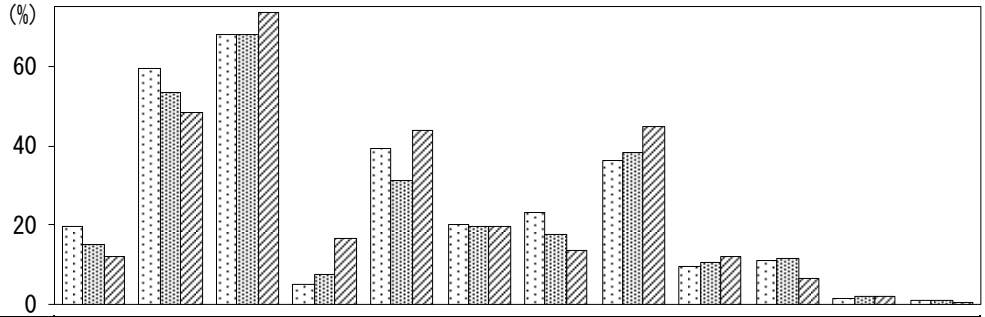
(2) 子どもを育てる環境として重要だと思うこと［Q33］

子どもを育てる環境として重要だと思うことについては、「治安がよく安全に生活できるまち」が73.7%と突出して高く、次いで「自由にのびのび遊べる場所」が48.4%、「充実した学校や教育施設」が45.0%、「医療機関の充実」が44.0%などとなっています。

過去の調査結果との比較では、「治安がよく安全に生活できるまち」「利便性のある居住環境」「医療機関の充実」「充実した学校や教育施設」や「充実した保育施設や放課後児童クラブ」が上昇した一方で、「豊かな自然」「自由にのびのび遊べる場所」「同年代の子どもの多いまち」「地域の人達とのつながり」などが低下しています。

「その他」として「経済的な支援」「不登校対策」「子育て支援の充実」などの記載がありました。

図表２－42　子どもを育てる環境として重要だと思うこと（複数回答・３つまで）単位：ｎは人、他は%



区分		n	豊かな自然	自由にのびのび遊べる場所	治安が良く安全に生活できるまち	利便性のある居住環境	医療機関の充実	同年代の子どもの多いまち	地域の人達とのつながり	充実した学校や教育施設	充実した保育施設や放課後児童クラブ	子育て支援センターや児童センターなど充実した公共施設	その他	無回答
	２０１３年	1,431	19.8	59.2	68.0	5.1	39.5	20.1	23.0	36.1	9.4	10.8	1.7	1.0
	２０１８年	1,454	15.3	53.2	68.2	7.5	31.4	19.7	17.7	38.1	10.7	11.5	2.0	1.0
	２０２３年	1,412	12.0	48.4	73.7	16.7	44.0	19.7	13.6	45.0	12.1	6.7	1.8	0.4
学年区分	１～３年生	549	11.7	49.9	73.2	14.2	46.1	19.7	13.3	41.5	14.9	7.1	2.6	0.4
	４～６年生	861	12.3	47.4	74.1	18.4	42.6	19.7	13.8	47.3	10.3	6.4	1.4	0.5
母親の就労状況別	フルタイム	448	10.9	47.3	69.0	17.0	41.5	18.8	14.7	43.3	20.8	5.8	2.2	0.9
	パート等	745	12.8	49.8	74.9	16.0	44.7	20.1	13.7	46.3	9.0	7.8	1.2	0.1
	産休・育休等	5	40.0	40.0	60.0	－	20.0	－	40.0	20.0	20.0	－	－	－
	非就労	206	11.2	46.1	80.1	19.4	47.6	20.9	8.3	45.6	3.9	4.9	3.4	0.5

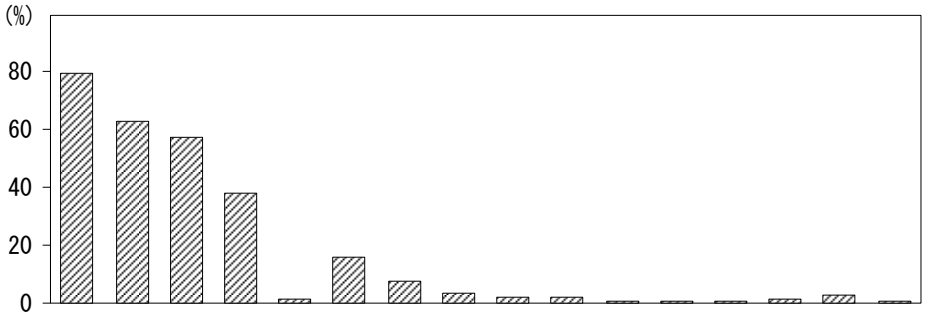
注：2013・2018年の選択肢では「医療機関の充実」は「地域医療の充実」、「子育て支援センターや児童センターなど充実した公共施設」は「児童館など充実した公共施設」

8 相談・情報提供

(1) 子育てに関する悩みや不安の相談相手［Q34］

身近な地域における子育てに関する悩みや不安の相談相手としては、「配偶者・パートナー」が79.5%と最も高く、次いで「その他の親族（親・兄弟姉妹など）」が62.8%、「地域の知人・友人」が57.2%、「職場の同僚」が37.8%、「小学校の先生」が15.9%などとなっています。「その他」として「スクールカウンセラー」「ＳＮＳ」「放課後等デイサービスの指導員」「学童の指導員」などの記載がありました。

図表２－43　子育てに関する悩みや不安の相談相手（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%

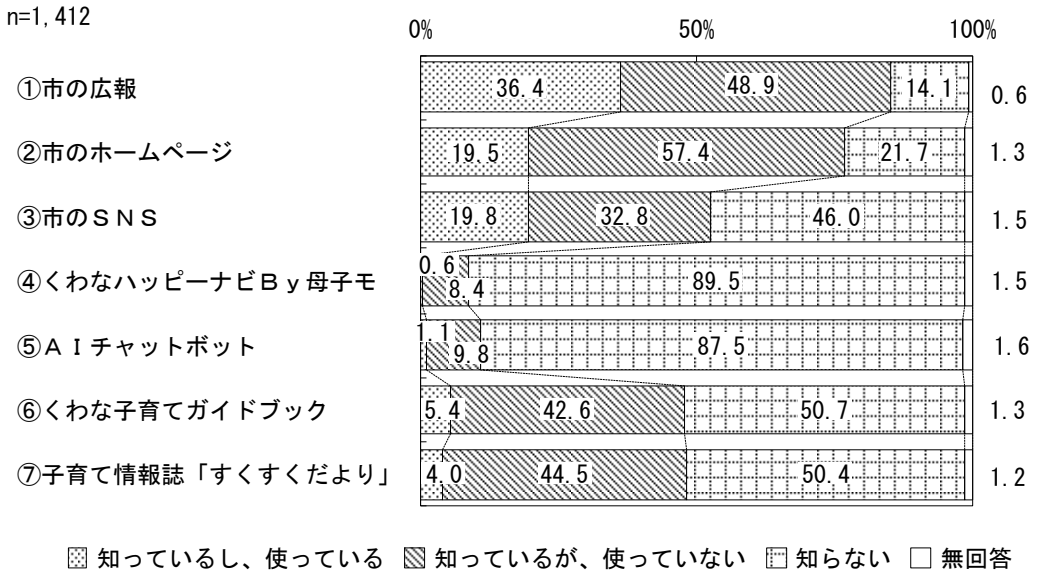


区分		n	配偶者・パートナー	その他の親族（親、兄弟姉妹など）	地域の知人・友人	職場の同僚	子育てサークルの仲間	小学校の先生	塾や習い事の先生	医療機関・保健所	子ども総合センター	子育て支援センター	子育てサロン等の地域のつどいの場	民生委員・児童委員、主任児童委員	ＮＰＯによる相談窓口・民間の電話相談	相談相手がいない	その他	無回答
全体		1,412	79.5	62.8	57.2	37.8	1.1	15.9	7.6	3.3	2.2	1.9	0.4	0.3	0.3	1.4	2.7	0.4
学年区分	１～３年生	549	80.0	66.1	60.7	36.6	1.1	17.9	6.0	3.8	2.6	2.6	0.2	0.2	0.4	1.5	3.6	0.4
	４～６年生	861	79.1	60.9	55.1	38.6	1.0	14.6	8.7	2.9	2.0	1.5	0.5	0.3	0.2	1.4	2.1	0.5
世帯状況	ひとり親と子ども	104	36.5	61.5	51.9	41.3	－	11.5	5.8	1.9	－	1.0	－	－	－	5.8	4.8	－
	夫婦と子ども	1,113	86.0	62.9	58.0	36.0	1.1	16.0	8.1	3.5	2.2	2.3	0.4	0.3	0.4	1.1	2.4	0.4
	祖父母等同居	192	65.1	62.5	55.7	46.9	1.6	17.7	6.3	2.6	3.6	－	－	0.5	－	1.0	3.1	1.0
母親の就労状況別	フルタイム	448	74.1	61.2	50.0	50.0	1.1	14.7	6.5	1.6	1.8	1.3	0.4	0.2	－	1.6	1.8	0.7
	パート等	745	82.0	63.2	61.9	40.3	0.8	15.6	8.5	3.1	2.0	1.7	0.3	0.4	0.4	1.2	3.0	0.1
	産休・育休等	5	80.0	80.0	80.0	20.0	20.0	40.0	20.0	－	20.0	－	－	－	－	－	－	－
	非就労	206	82.5	65.0	54.4	1.9	1.5	18.9	6.3	7.3	3.4	3.9	0.5	－	0.5	1.9	3.9	1.0

(2)　子育てに関する情報発信の認知度［Q35］

市の子育てに関する情報発信の認知度について、「知っているし、使っている」が最も高いのは、①市の広報で36.4%、次いで③市のＳＮＳが19.8%、②市のホームページが19.5%などとなっています。「ＡＩチャットボット」を活用した対話型の情報提供システムや母子手帳アプリ「くわなハッピーナビＢｙ母子モ」については、「知らない」が90%近くを占めています。

図表２－44　子育てに関する情報発信の認知度



9 子育てと地域との関わり

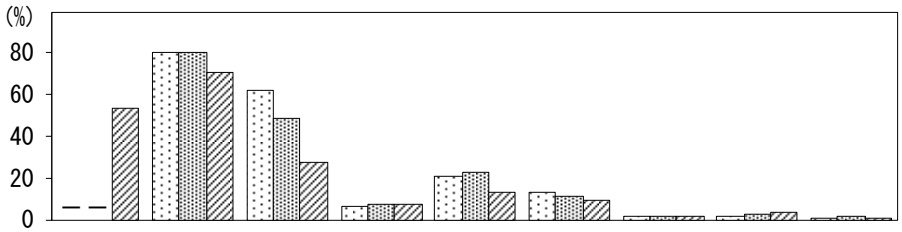
(1) 子育てに関して地域に望むこと［Q36］

子育てに関して地域に望むことについては、「子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること」が70.1%と最も高く、次いで「子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること」が53.4%、「子どもが危険なことや人に迷惑がかかることをしていたら、注意したりしかってくれること」が27.1%となっています。

過去の調査結果との比較では、今回、「子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること」という選択肢が設けられた影響も考えられますが、「子どもが危険なことや人に迷惑のかかることをしていたら、注意したりしかってくれること」などが大きく低下しています。

「その他」として、「こども食堂の充実」「居場所づくり」「障がい児の支援」などの記載がありました。

図表２－45　子育てに関して地域に望むこと（複数回答・２つまで）単位：ｎは人、他は%



区分		n	子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること	子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること	子どもが危険なことや人に迷惑のかかることをしていたら、注意したりしかってくれること	子育てについて相談にのってくれること	子どもに遊びや工作、スポーツなどの指導をしてくれること	緊急時に子どもを預かってくれること	その他	特にない	無回答
▒	２０１３年	1,431		79.4	61.7	6.2	20.3	12.8	1.3	1.1	0.8
▒	２０１８年	1,454		79.7	48.6	7.1	22.3	11.5	1.9	2.8	1.4
▒	２０２３年	1,412	53.4	70.1	27.1	7.2	12.5	9.1	1.1	3.0	0.2
学年区分	１～３年生	549	53.4	71.4	27.7	6.9	12.9	11.7	1.6	2.7	－
	４～６年生	861	53.4	69.2	26.7	7.2	12.3	7.5	0.7	3.3	0.3
母親の就労状況別	フルタイム	448	50.7	70.8	27.7	5.1	13.8	11.4	1.6	2.9	0.4
	パート等	745	54.4	69.5	29.1	8.3	11.8	8.5	0.5	2.8	－
	産休・育休等	5	60.0	60.0	20.0	－	20.0	－	－	20.0	－
	非就労	206	55.3	70.9	18.4	7.8	12.1	6.3	1.9	3.9	0.5

注：2013・2018年は「子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること」という選択肢はありませんでした。

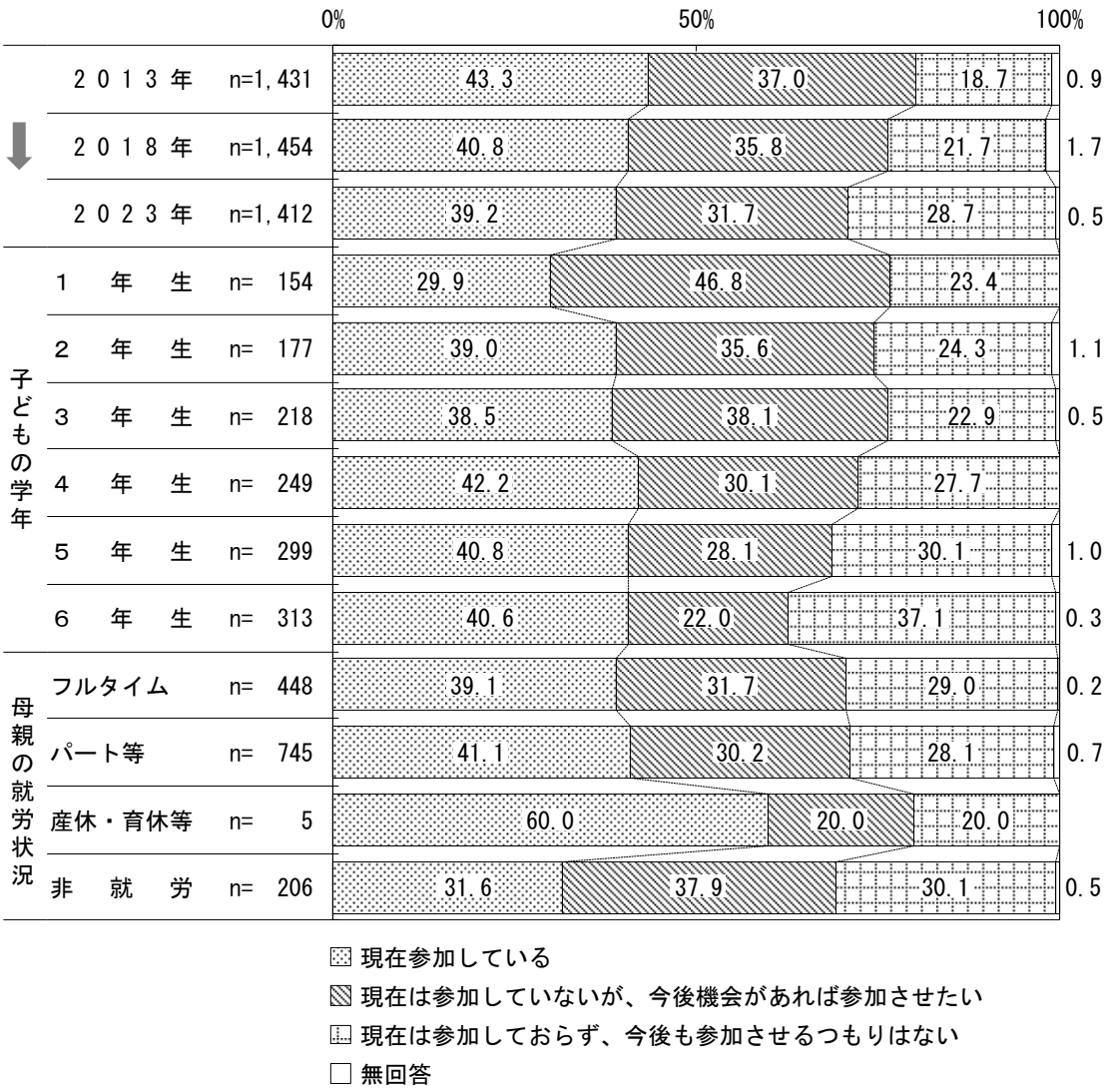
(2)　地域活動等への参加［Q37］

地域の活動やスポーツなどのグループ活動への参加については､｢現在参加している｣が39.2%と最も高くなっており、「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」の31.7%と合わせると、70%以上に参加意向があるといえます。

過去の調査結果との比較では、参加意向が低下しています。

子どもの学年別にみると、１年生では｢現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」が46.8%と最も高くなっています。

図表２－46　地域活動等への参加



(3) 子どもが参加している・参加させたい活動［Q38］

地域の活動やスポーツなどのグループ活動への参加について、「現在参加している」または「現在は参加していないが、今後機会があれば参加したい」と回答した1,000人に、子どもが参加している活動もしくは今後参加させたい活動をたずねたところ、「スポーツ活動」が77.3%と突出して高く、次いで「文化・音楽活動」が27.6%、「キャンプ等の野外活動」が19.4%、「子ども会活動」が18.8%などとなっています。

過去の調査結果との比較では、多くの項目が上昇している中、「子ども会活動」が低下しています。

「その他」として、「子どもが興味を持ったこと」「石取祭」「地域の人との交流」「自治会活動」などの記載がありました。

図表２－47　子どもが参加している・参加させたい活動（複数回答・2つまで）単位：ｎは人、他は%



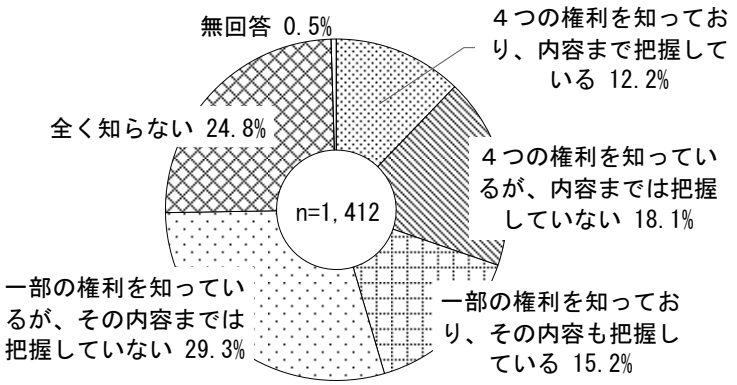
区分		ｎ	スポーツ活動	文化・音楽活動	キャンプ等の野外活動	高齢者訪問等の社会福祉活動	ホームステイ等の国際交流活動	子ども会活動	リサイクル活動等の環境分野での社会貢献活動	地域のボランティア活動	その他	無回答
▒	２０１３年	1,150	69.9	19.3	15.8	3.0	9.5	25.0	5.1	／	1.6	0.4
▒	２０１８年	1,114	75.8	25.7	20.7	5.8	12.6	21.5	9.2	15.8	2.1	1.3
▨	２０２３年	1,000	77.3	27.6	19.4	4.5	15.0	18.8	8.1	16.6	1.8	1.1
子どもの学年別	１年生	118	82.2	28.0	22.9	3.4	16.9	16.1	8.5	16.1	2.5	1.7
	２年生	132	71.2	29.5	20.5	4.5	17.4	24.2	5.3	11.4	1.5	1.5
	３年生	167	76.0	34.7	21.0	5.4	19.2	23.4	7.8	21.0	3.0	1.2
	４年生	180	76.1	25.6	21.1	4.4	13.3	16.1	7.2	17.8	2.2	0.6
	５年生	206	77.2	25.7	18.4	3.4	11.7	17.0	8.3	14.6	－	1.0
	６年生	196	81.1	24.0	14.8	5.6	13.8	17.3	10.7	17.9	2.0	0.5

10 子どもの権利について

(1) 子ども権利条約に基づく４つの権利の認知度［Q39］

子ども権利条約に定められている４つの権利※の認知度は、「一部の権利を知っているが、その内容までは把握していない」が29.3%、「全く知らない」が24.8%、「４つの権利を知っているが、内容までは把握していない」が18.1%、「一部の権利を知っており、その内容も把握している」が15.2%となっており、「４つの権利を知っており、内容まで把握している」は12.2%でした。

図表２－48　子ども権利条約に基づく４つの権利の認知度



※参考

① 生きる権利

住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなど、命が守られること

② 育つ権利

勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できること

③ 守られる権利

紛争に巻き込まれず、難民になったら保護され、また、あらゆる暴力や搾取、有害な労働、いじめや虐待など、苦しいことから守られること

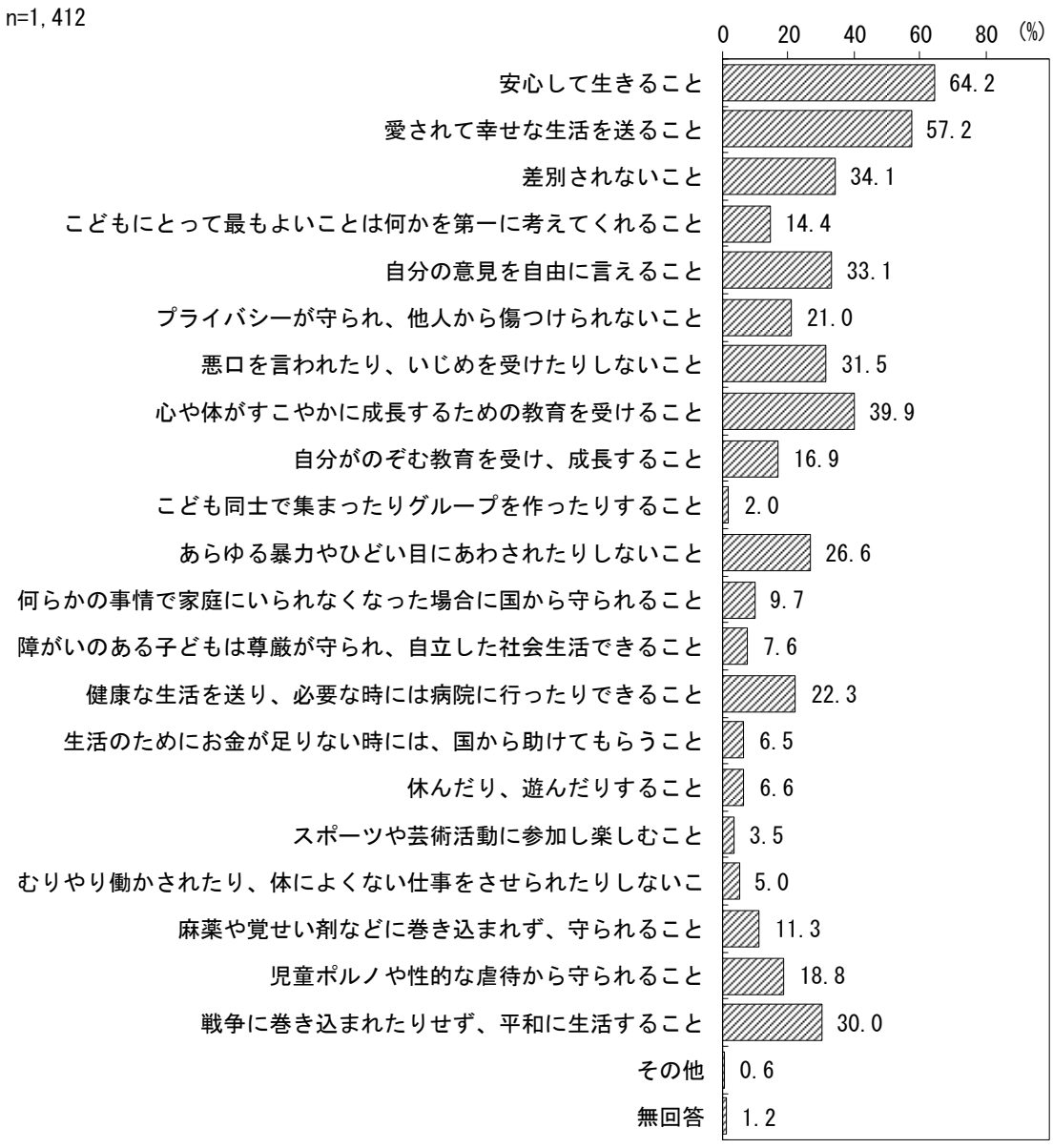
④ 参加する権利

自由に意見を表したり、団体を作ったりできること

(2)　特に大切にしなければならない権利［Q40］

特に大切にしなければならないと思う子どもの権利については、「安心して生きること」が64.2%と最も高く、次いで「愛されて幸せな生活を送ること」が57.2%と、＜生きる権利＞にかかる項目が高くなっています。さらに「心や体がすこやかに成長するための教育を受けること」（39.9%）「差別されないこと」（34.1%）「自分の意見を自由に言えること」（33.1%）「戦争に巻き込まれたりせず、平和に生活すること」（30.0%）などが続いており、子ども権利条約に定められている４つの権利はすべて重要であることがわかります。

図表２－49　特に大切にしなければならない権利（複数回答・５つまで）



第２部　子ども・若者の生活実態・意識調査

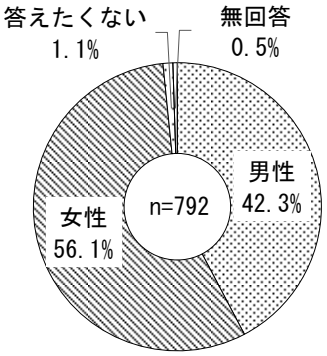
（13～29歳の市民）

1　本人の生活状況等

(1)　性別［問１］

回答者の性別をみると、女性が56.1%、男性が42.3%です。

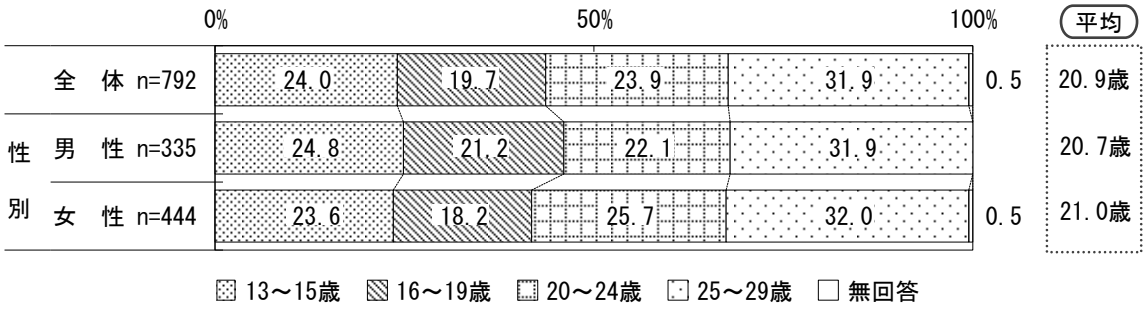
図表３－１　性別



(2)　年齢［問２］

回答者の年齢は、図表３－２のとおりです。

図表３－２　年齢



(3) 居住地区［問３］

回答者の居住地区は、図表３－３・４のとおりです。

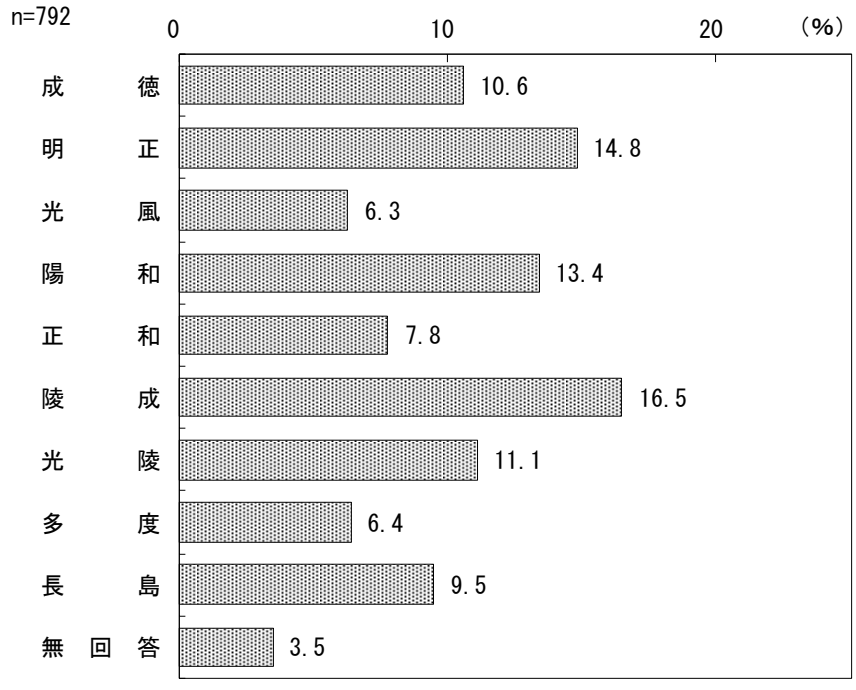
図表３－３　居住地区〈小学校区〉

地区	日進	精義	立教	城東	益世	修徳	大成	桑部	在良	七和	久米	深谷	城南
人	32	20	17	4	44	30	45	42	31	36	26	21	53
%	4.0	2.5	2.1	0.5	5.6	3.8	5.7	5.3	3.9	4.5	3.3	2.7	6.7

地区	大和	大山田東	大山田北	大山田西	大山田南	藤が丘	星見ヶ丘	多度東	多度中	多度北	多度青葉	長島北部	長島中部
人	18	76	30	13	16	39	45	7	38	2	4	17	42
%	2.3	9.6	3.8	1.6	2.0	4.9	5.7	0.9	4.8	0.3	0.5	2.1	5.3

地区	伊曽島	わからない・無回答	全体
人	16	28	792
%	2.0	3.6	100.0

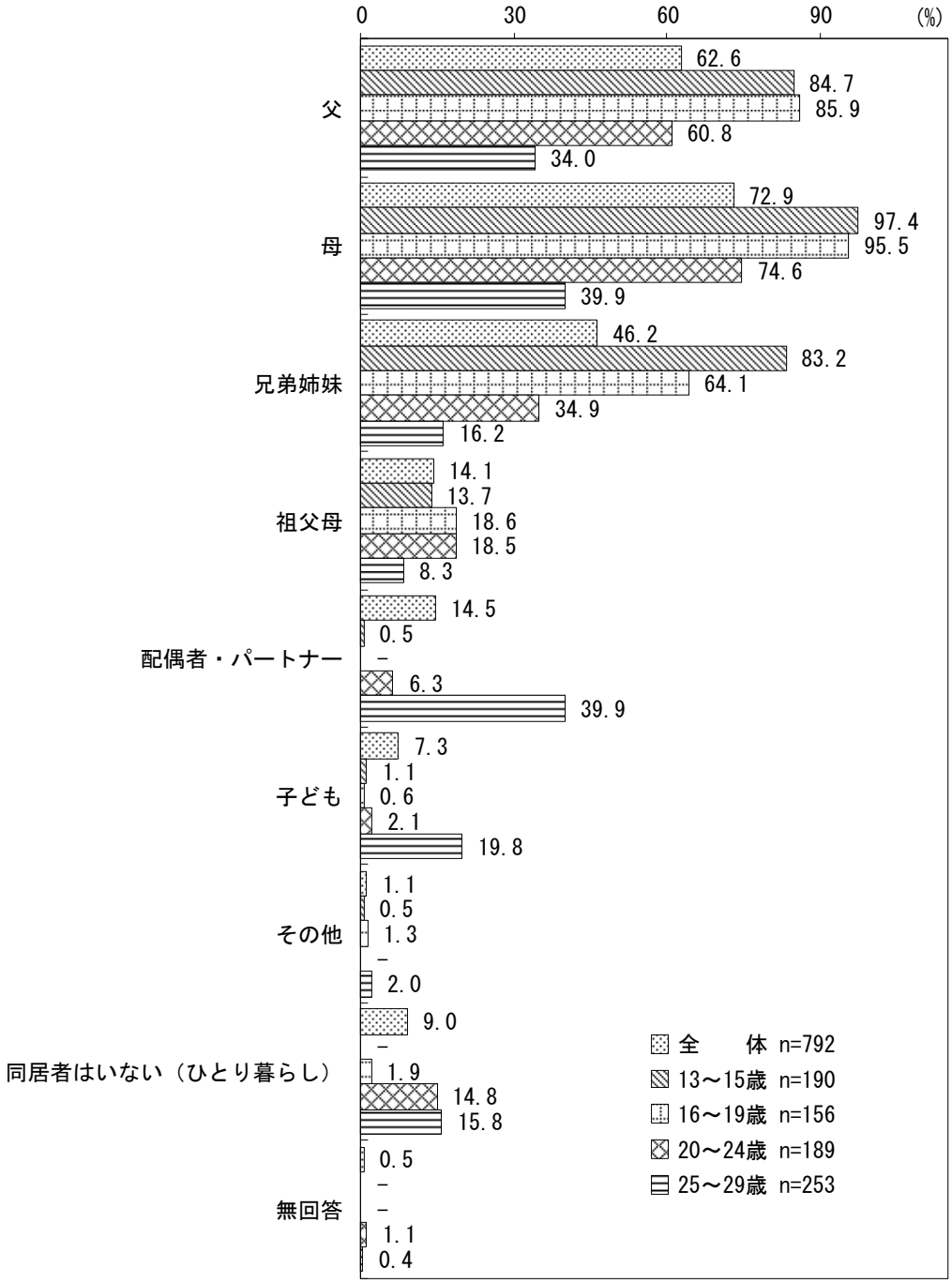
図表３－４　居住地区〈中学校ブロック〉



(4)　同居者［問４］

同居者をみると、10代では「父」「母」が80%を超える高い率となっていますが、20代では低下します。一方、「配偶者・パートナー」は25～29歳になると39.9%となり、「子ども」も19.8%となっています。

図表３－５　同居者（複数回答）

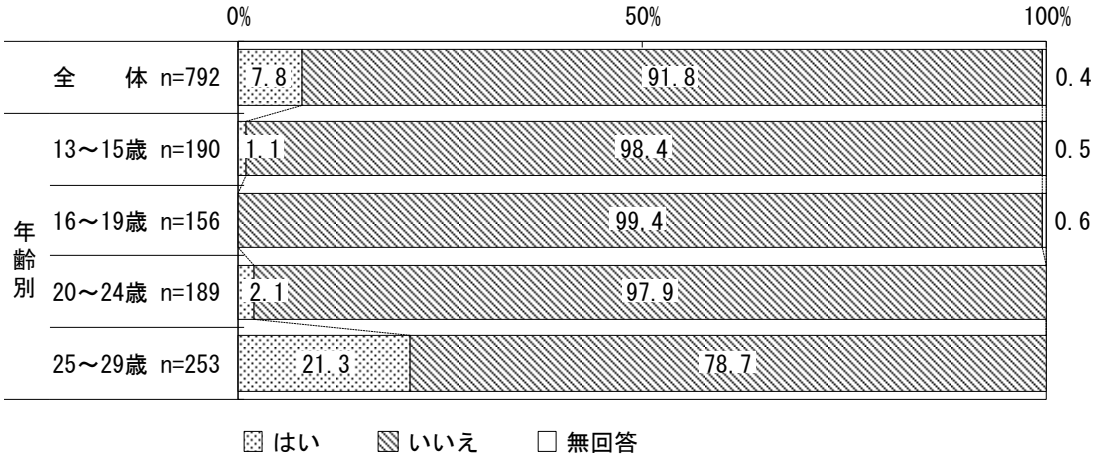


(5)　子育てをしているか［問５］

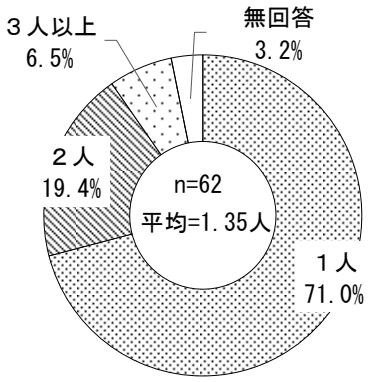
子育てをしているのは7.8%で、年齢別にみると、25～29歳では21.3%です。

また、育てている子どもの数は「１人」が71.0%、「２人」が19.4%、「３人以上」が6.5%で、平均は1.35人です。

図表３－６　子育てをしているか



図表３－７　育てている子ども数

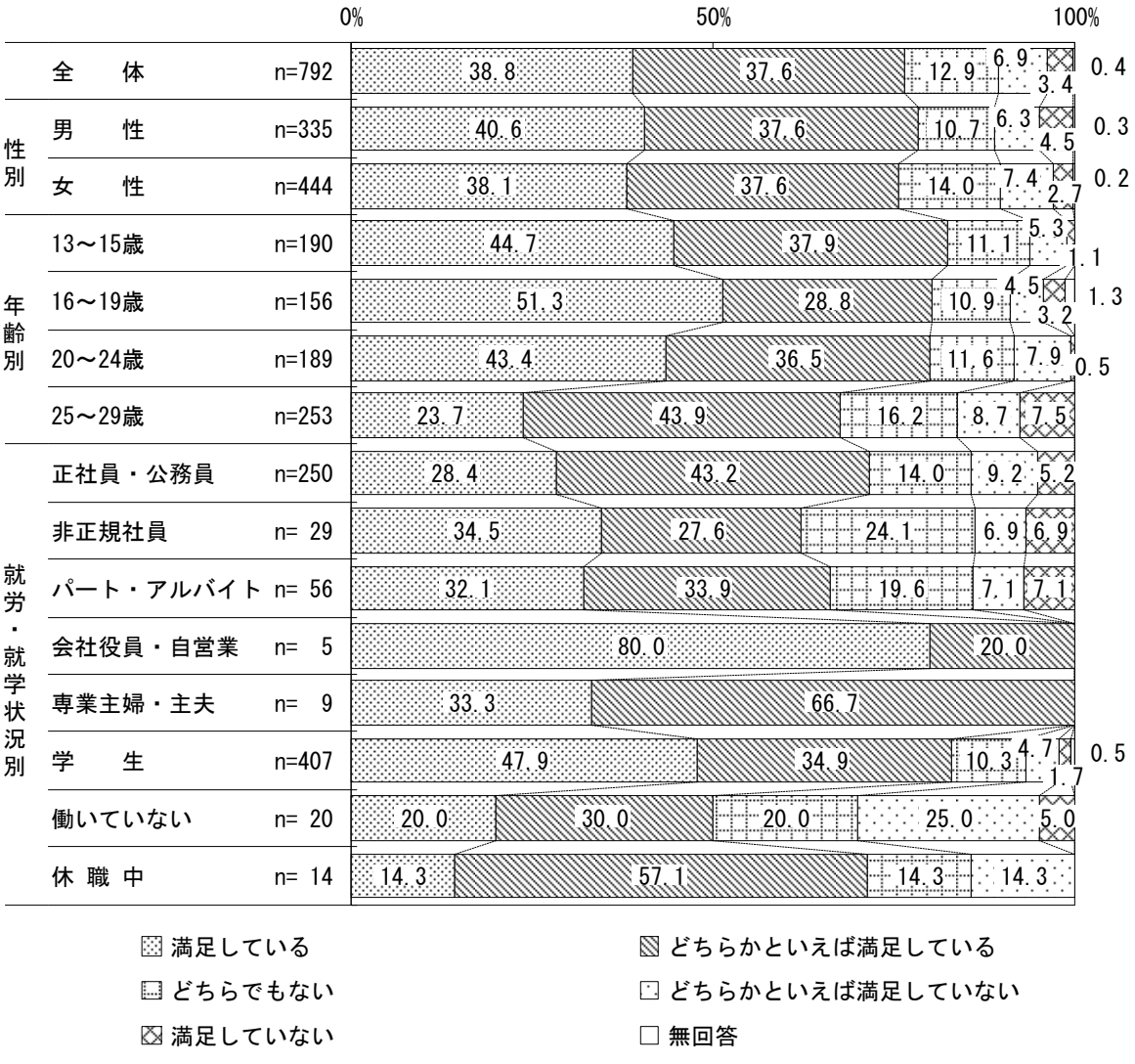


(6) 生活の満足度［問６］

現在の生活に満足しているかについては、「満足している」が 38.8%、「どちらかといえば満足している」が 37.6%となっており、これらの合計《満足》は 76.4%、「どちらかといえば満足していない」（6.9%）と「満足していない」（3.4%）の合計《不満》は 10.3%です。

24 歳未満では「満足している」が 40%を超えていますが、25～29 歳では 20%台となり、「満足していない」および「どちらかといえば満足していない」が他の年齢層に比べ高くなっています。

図表３－８　現在の生活に満足しているか

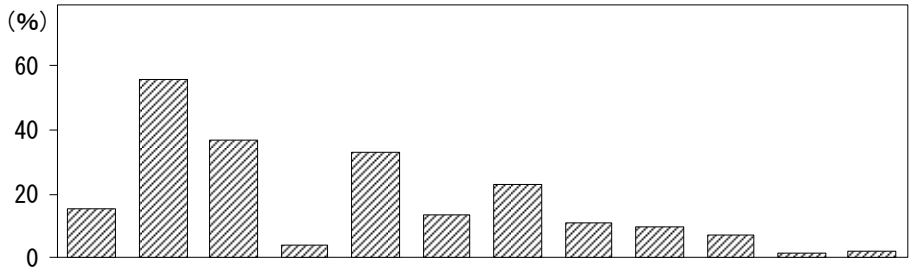


(7) 満足していること・不満に思っていること［問７］

① 満足していること

現在の生活で満足していることは、各年齢層とも「趣味のこと」が最も高く、次いで、13～15歳では「学校のこと」、16～19歳および25～29歳では「家庭のこと」、20～24歳では「人間関係のこと」が高くなっています。

図表３－９　満足していること（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%

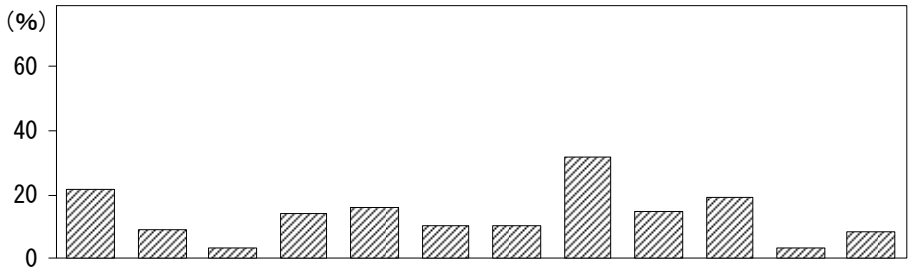


区分		n	仕事のこと	趣味のこと	家庭のこと	子育てのこと	人間関係のこと	勉強のこと	学校のこと	経済面のこと	進学・就職のこと	わからない	その他	無回答
全体		792	15.2	55.6	36.6	4.2	33.1	13.3	22.7	10.6	9.8	6.9	1.6	2.0
性別	男性	335	17.6	60.3	32.5	3.9	31.3	14.3	22.4	12.2	9.6	7.2	1.5	1.2
	女性	444	13.5	52.7	39.9	4.3	34.7	12.6	23.0	9.5	9.9	6.8	1.8	2.5
年齢別	13～15歳	190	－	65.3	34.7	1.1	40.0	22.6	47.4	5.3	8.4	6.3	3.2	1.1
	16～19歳	156	6.4	53.2	35.3	0.6	28.8	17.3	34.6	9.0	19.9	10.3	0.6	0.6
	20～24歳	189	18.5	58.7	32.8	2.6	34.9	14.3	16.9	14.3	12.2	6.3	1.1	2.1
	25～29歳	253	29.6	48.2	41.9	9.5	29.2	3.2	1.6	13.0	3.2	5.5	1.6	3.2
就労・就学状況別	正社員・公務員	250	31.2	55.6	37.2	4.0	31.2	4.0	0.4	13.2	0.8	5.2	1.6	0.4
	非正規社員	29	31.0	41.4	31.0	6.9	24.1	3.4	3.4	13.8	3.4	10.3	3.4	3.4
	パート・アルバイト	56	28.6	50.0	30.4	8.9	28.6	7.1	16.1	10.7	8.9	8.9	－	7.1
	会社役員・自営業	5	100.0	60.0	60.0	20.0	40.0	20.0	20.0	20.0	40.0	－	－	－
	専業主婦・主夫	9	－	11.1	88.9	33.3	11.1	－	－	－	－	11.1	－	－
	学生	407	2.2	60.4	34.6	0.7	36.4	21.6	40.5	9.3	16.7	7.4	2.0	1.0
	働いていない	20	－	35.0	40.0	10.0	30.0	－	10.0	10.0	－	10.0	－	20.0
	休職中	14	21.4	28.6	78.6	50.0	28.6	7.1	7.1	－	－	7.1	－	－

② 不満に思っていること

不満に思っていることは、10代では「人間関係のこと」および「進学・就職のこと」、20代では「経済面のこと」および「仕事のこと」が高くなっています。

図表３－10　不満に思っていること（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



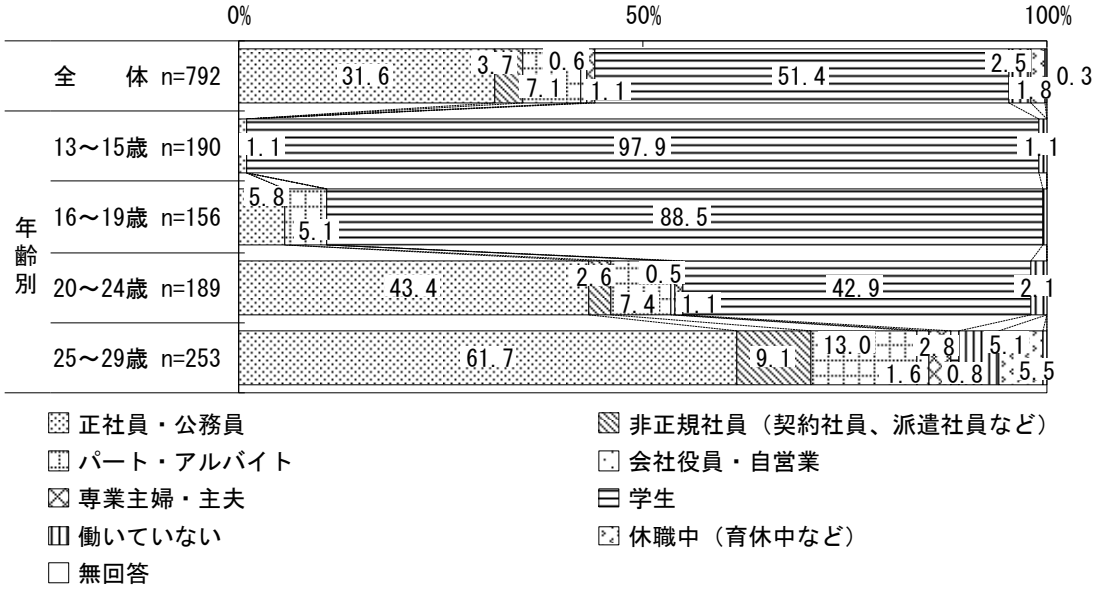
区分		n	仕事のこと	趣味のこと	家庭のこと	子育てのこと	人間関係のこと	勉強のこと	学校のこと	経済面のこと	進学・就職のこと	わからない	その他	無回答
全体		792	21.7	8.8	3.0	13.9	16.0	10.2	10.0	31.6	14.6	18.9	3.3	8.5
性別	男性	335	18.5	7.5	2.4	11.0	16.1	9.0	8.7	30.1	12.2	21.5	3.9	10.4
	女性	444	24.3	9.9	3.6	16.2	15.8	11.0	11.0	32.2	16.4	17.6	2.9	7.0
年齢別	13～15歳	190	1.6	8.9	－	13.7	37.4	21.1	9.5	7.9	21.6	22.6	2.1	10.5
	16～19歳	156	2.6	5.8	1.3	15.4	25.0	21.2	5.1	21.2	23.1	28.2	3.2	9.6
	20～24歳	189	30.7	9.5	2.1	13.8	6.3	2.1	10.1	38.1	15.9	19.6	3.7	6.9
	25～29歳	253	42.3	9.9	6.7	13.0	2.0	1.6	13.0	50.2	3.6	10.3	4.0	7.1
就労・就学状況別	正社員・公務員	250	42.4	7.2	3.6	14.4	1.6	0.8	11.2	44.4	1.2	12.8	4.0	4.4
	非正規社員	29	37.9	17.2	6.9	17.2	6.9	－	10.3	48.3	3.4	17.2	3.4	6.9
	パート・アルバイト	56	32.1	14.3	10.7	14.3	7.1	3.6	10.7	50.0	10.7	17.9	3.6	5.4
	会社役員・自営業	5	20.0	－	－	－	－	－	－	40.0	－	－	－	40.0
	専業主婦・主夫	9	22.2	－	11.1	－	－	11.1	－	44.4	－	11.1	－	22.2
	学生	407	4.2	8.6	0.5	14.0	28.7	18.7	8.8	17.7	24.3	23.8	2.7	10.3
	働いていない	20	40.0	20.0	－	20.0	－	－	30.0	55.0	35.0	15.0	10.0	5.0
	休職中	14	64.3	－	28.6	－	－	－	－	57.1	－	14.3	－	14.3

2 働くこと（仕事）について

(1) 就労・就学状況［問８］

就労・就学等の状況をみると、10代では「学生」が80%以上を占め、20～24歳では「正社員・公務員」および「学生」が40%台、25～29歳では「正社員・公務員」が60%以上を占めています。

図表３－11　就労・就学状況

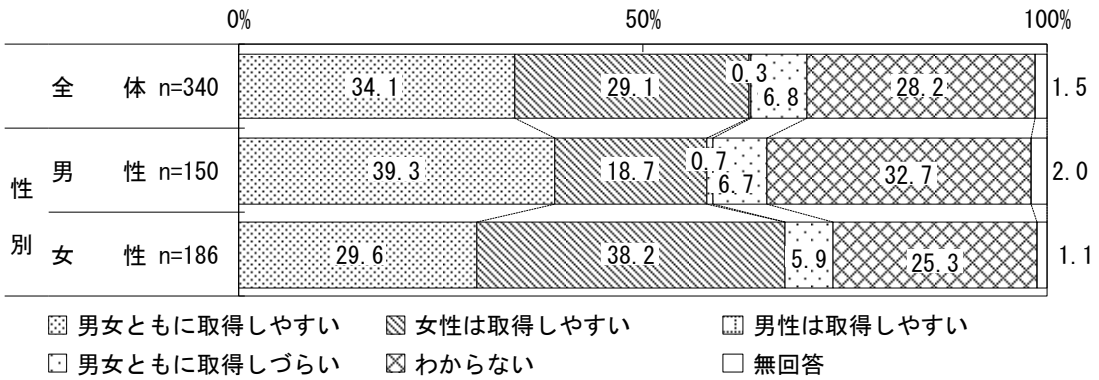


(2) 産休・育休を取得しやすいか［問９］

現在仕事をしている人に、職場は産前産後休業や育児休業を取得しやすいかお聞きしたところ、「男女ともに取得しやすい」が34.1%と最も高く、次いで「女性は取得しやすい」が29.1%、「わからない」が28.2%などとなっており、「男女ともに取得しづらい」は6.8%です。

性別にみると、男性は「男女ともに取得しやすい」が、女性は「女性は取得しやすい」が最も高くなっています。

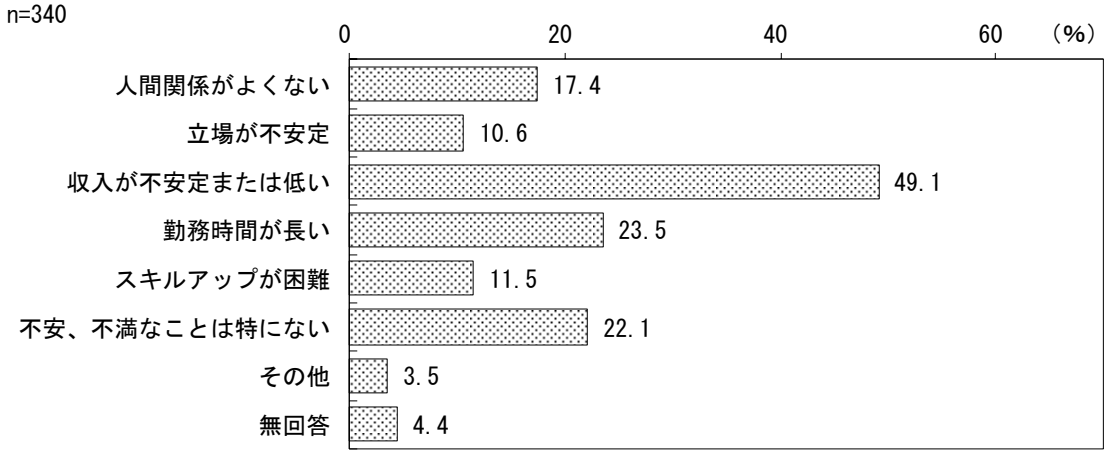
図表３－12　産休・育休を取得しやすいか



(3) 就労に関する不安・不満［問10］

現在仕事をしている人に、就労に関する不安・不満についてお聞きしたところ、「収入が不安定または低い」が49.1%と最も高くなっています。

図表３－13　就労に関する不安・不満（複数回答）

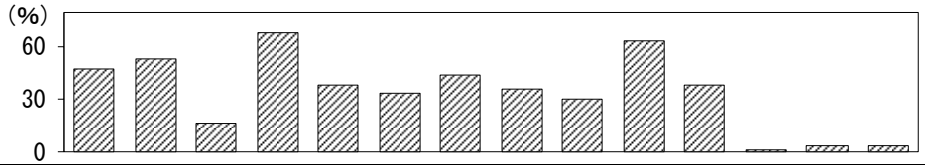


(4) 働く上で重要だと考えること［問11］

働く上で重要だと考えることとしては、「仕事が面白い・やりがいがあること」および「人間関係がよいこと」が高くなっています。

就労・就学状況別にみると、全般的に「仕事が面白い・やりがいがあること」または「人間関係がよいこと」が最も高くなっていますが、非正規社員では「失業の心配がなく安定していること」が最も高くなっています。

図表３－14　働く上で重要だと考えること（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



区　分		n	失業の心配がなく安定していること	高い収入が得られること	昇進制度があること	仕事が面白い・やりがいがあること	自分の知識や技能を活かせること	社会や人の役に立つこと	福利厚生が充実していること	残業時間が少ないこと	家から近いこと	人間関係がよいこと	健康であること	その他	わからない	無回答
全　体		792	47.6	53.2	16.4	68.3	37.8	33.0	43.2	35.1	30.3	63.0	38.1	0.8	3.3	3.0
就労・就学状況別	正社員・公務員	250	52.0	60.8	20.0	70.8	32.4	30.0	51.6	42.8	38.0	66.8	37.6	0.4	1.2	－
	非正規社員	29	62.1	51.7	17.2	51.7	37.9	24.1	44.8	31.0	31.0	41.4	44.8	3.4	－	3.4
	パート・アルバイト	56	42.9	37.5	16.1	64.3	33.9	33.9	48.2	33.9	41.1	76.8	44.6	－	5.4	－
	会社役員・自営業	5	60.0	40.0	20.0	100.0	60.0	40.0	20.0	40.0	40.0	40.0	40.0	－	－	－
	専業主婦・主夫	9	11.1	33.3	11.1	55.6	22.2	－	77.8	44.4	22.2	88.9	11.1	－	－	－
	学生	407	45.0	52.1	13.3	67.8	41.8	36.9	35.6	29.7	22.6	59.2	36.6	1.0	4.9	5.4
	働いていない	20	35.0	35.0	20.0	75.0	40.0	30.0	50.0	40.0	25.0	65.0	55.0	－	－	－
	休職中	14	78.6	64.3	42.9	78.6	35.7	14.3	71.4	57.1	78.6	85.7	42.9	－	－	－

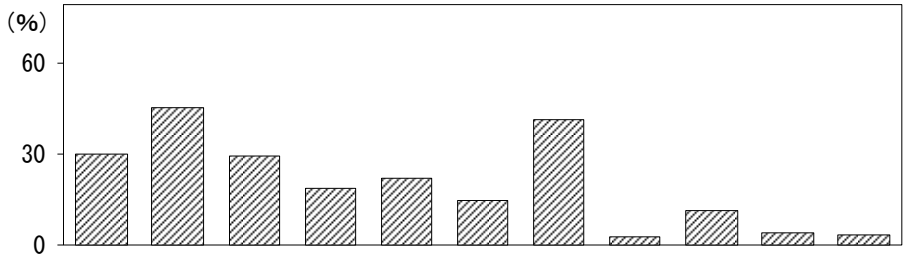
(5) 働くため（働き続けるため）に必要な支援［問12］

働くため（働き続けるため）に必要な支援については、「仕事に役立つ技能・資格の支援」および「資格取得のための経済的支援」が高くなっています。

就労・就学状況別にみると、正社員・公務員、非正規社員などでは「資格取得のための経済的支援」が、パート・アルバイト、学生などでは「仕事に役立つ技能・資格の支援」が最も高くなっています。

「その他」として、「子育てと仕事の両立支援」「働く人の生活環境やライフステージに寄り添った支援」などの記載がありました。

図表３－15　働く上で重要だと考えること（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



区　分		n	就職先を紹介する支援	仕事に役立つ技能・資格の支援	就職ができるまで指導やアドバイスをする支援	就労体験などの場の提供	カウンセリングなどの相談支援	就労支援をしている機関の情報提供	資格取得のための経済的支援	その他	わからない	特に必要ない	無回答
全体		792	30.1	45.3	29.0	18.8	22.2	14.9	41.3	2.5	11.4	4.3	3.2
就労・就学状況別	正社員・公務員	250	24.4	45.6	20.4	10.8	24.8	13.2	49.6	1.2	8.4	4.8	－
	非正規社員	29	27.6	37.9	24.1	17.2	31.0	17.2	58.6	6.9	－	10.3	3.4
	パート・アルバイト	56	35.7	39.3	28.6	12.5	17.9	23.2	33.9	5.4	12.5	3.6	3.6
	会社役員・自営業	5	20.0	60.0	40.0	20.0	40.0	20.0	60.0	－	20.0	20.0	－
	専業主婦・主夫	9	33.3	33.3	22.2	－	22.2	11.1	22.2	－	11.1	11.1	－
	学生	407	32.7	47.2	34.6	25.3	19.9	14.0	37.1	2.0	13.5	2.7	5.4
	働いていない	20	35.0	50.0	35.0	20.0	40.0	20.0	25.0	5.0	15.0	5.0	－
	休職中	14	28.6	21.4	21.4	7.1	14.3	21.4	35.7	14.3	14.3	21.4	－

3 将来について

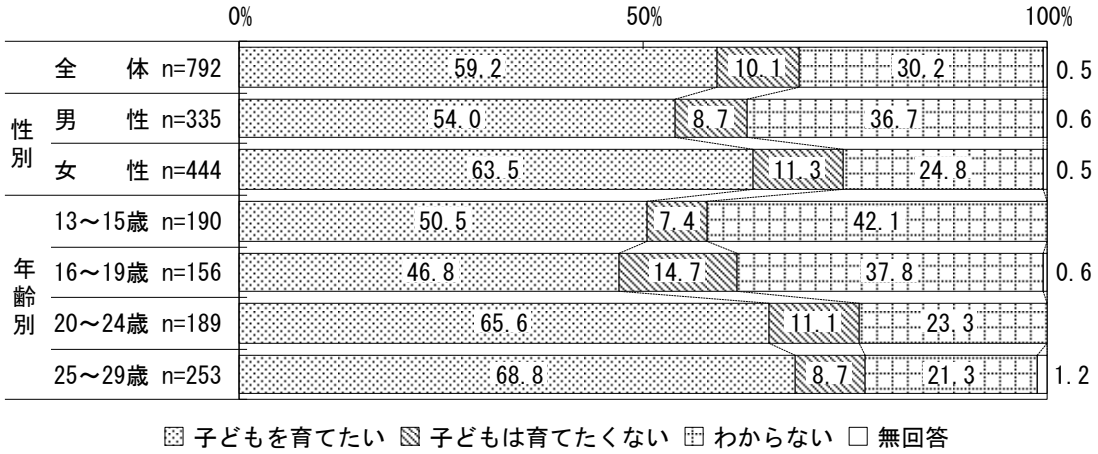
(1) 子どもを育てたいか［問13］

子どもを育てたいかについては、「子どもを育てたい」が59.2%を占めています。

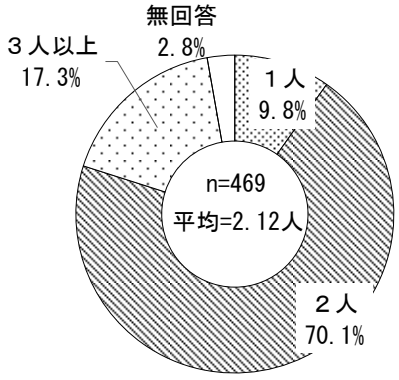
「子どもを育てたい」は男性より女性が高く、年齢別にみると、20代では65%を超えており、25～29歳では68.8%となります（図表３－16）。

また、育てたい子どもの数は、「２人」が70.1%を占めており、次いで「３人以上」が17.3%、「1人」が9.8%となっています。平均人数は2.12人です（図表３－17）。

図表３－16　子どもを育てたいか



図表３－17　育てたい子どもの数

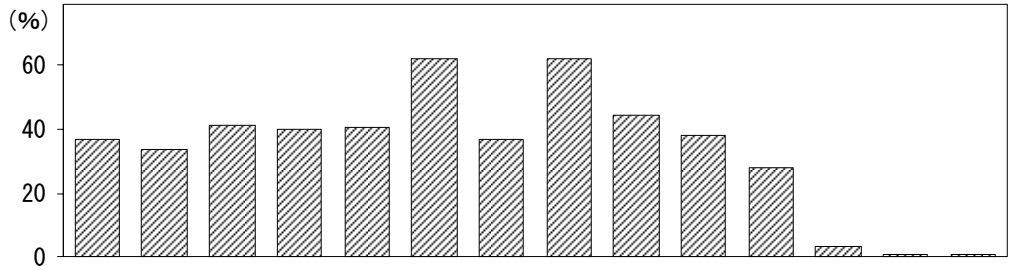


(2) 子育てに関するイメージ［問14］

子育てに関するイメージについては、「大変そう」および「お金がかかる」が高くなっています。

プラスイメージ、マイナスイメージにかかわらず、ほとんどの項目で男性に比べ女性が高くなっています。

図表３－18　子育てに関するイメージ（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



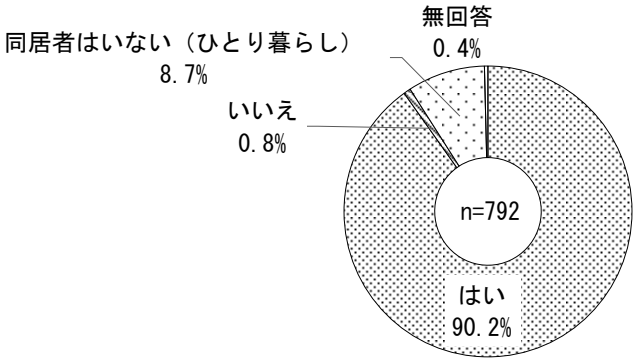
区分		n	楽しい	日々が充実する	親も成長できる	家族の絆が深まる	生きがいを与えてくれる	お金がかかる	自分の時間がとれない	大変そう	親としての責任や重圧を感じる	仕事と子育ての両立が難しい	気持ちにゆとりがなくなる	特にない	その他	無回答
全体		792	37.0	33.3	41.3	40.0	40.5	61.9	36.7	62.0	44.1	38.0	27.8	3.0	0.9	0.5
性別	男性	335	33.7	31.9	37.6	37.6	40.9	54.9	32.5	60.3	40.6	28.1	17.6	5.4	－	0.9
	女性	444	39.9	34.5	44.1	41.9	40.5	66.9	39.9	62.8	47.1	45.9	35.8	1.4	1.6	0.2
年齢別	13～15歳	190	37.9	30.0	30.5	43.2	30.5	54.2	22.6	66.3	33.2	26.3	14.2	5.3	1.6	－
	16～19歳	156	34.6	25.0	32.1	31.4	28.2	59.6	33.3	67.9	35.3	29.5	26.9	5.1	1.3	1.3
	20～24歳	189	30.7	33.3	48.1	39.7	44.4	68.3	41.8	66.1	54.5	42.3	36.0	2.1	－	－
	25～29歳	253	42.7	40.7	49.8	43.5	52.6	64.4	45.5	52.6	50.2	48.6	32.0	0.8	0.8	0.8

4 人とのかかわりについて

(1) 同居者とコミュニケーションをとっているか［問15］

同居者のコミュニケーションについては、90.2%が「はい」（とっている）と回答しています。「いいえ」は0.8%（６人）でした。

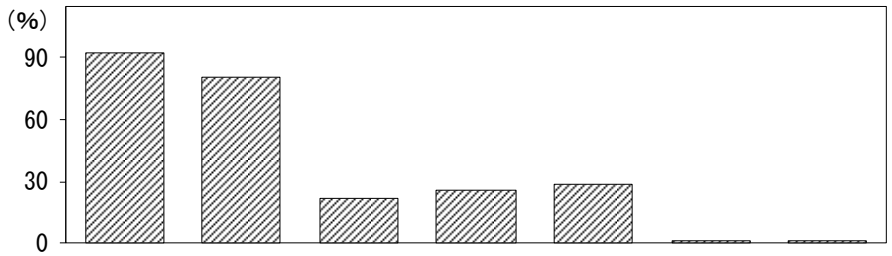
図表３－19　同居者とコミュニケーションをとっているか



(2) コミュニケーションをとっている相手［問16］

普段、誰とコミュニケーションをとっているかについては、「家族」が92.3%、「友人」が80.9%と、この２項目が突出して高くなっています。年齢別にみると、「友人」および「学校、習いごと、塾の先生」は年齢が高くなるにしたがい低くなるのに対し、「職場の同僚」は高くなります。

図表３－20　同居者とコミュニケーションをとっているか（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



区分		n	家族	友人	SNSやインターネット上の友人	学校、習いごと、塾の先生	職場の同僚	その他	無回答
全体		792	92.3	80.9	21.6	25.9	29.0	1.6	0.4
年齢別	13～15歳	190	98.9	94.2	16.3	65.3	－	0.5	－
	16～19歳	156	92.9	85.3	28.8	32.1	9.0	－	0.6
	20～24歳	189	89.4	81.0	22.2	11.6	37.0	2.6	－
	25～29歳	253	89.3	69.2	20.2	3.2	57.7	2.8	0.8

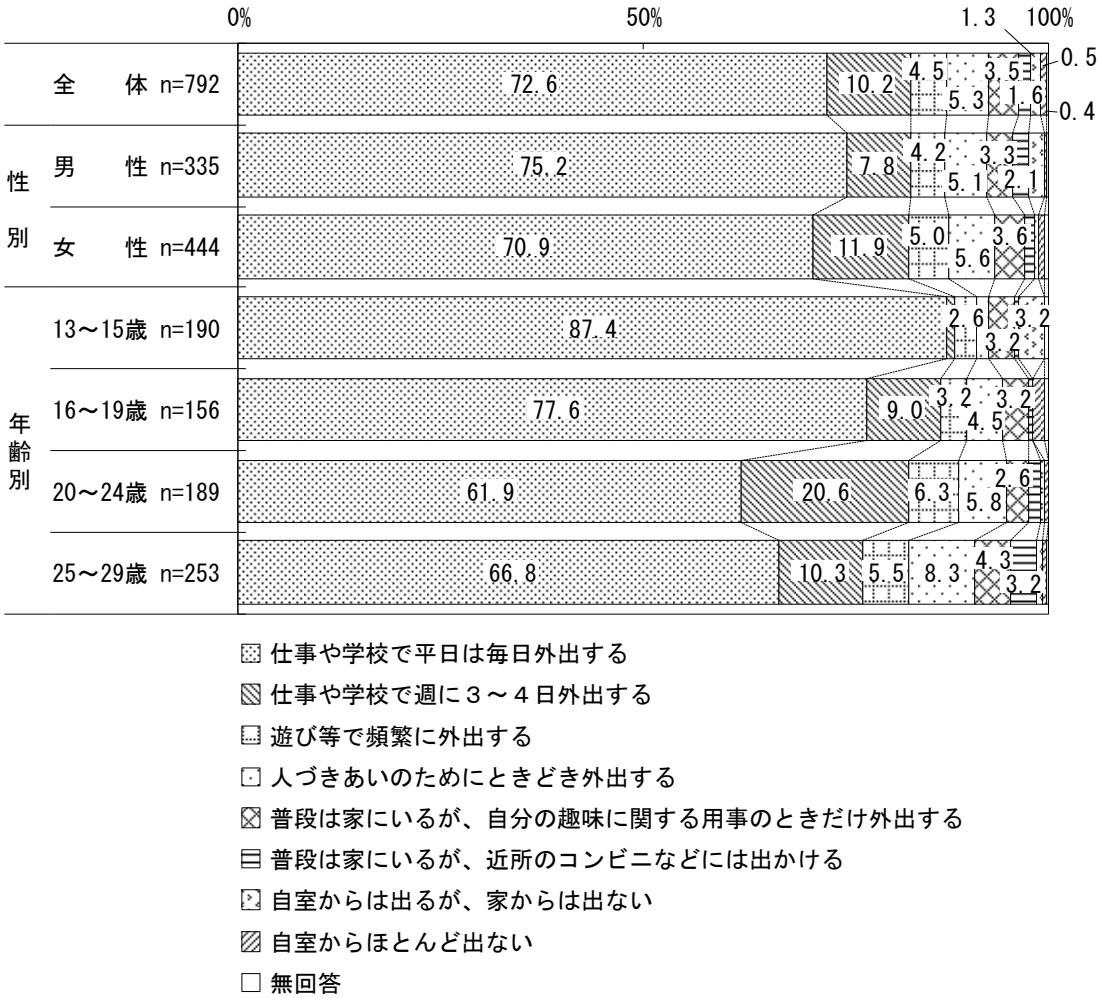
(3) 外出

① 頻度［問17］

普段、どのくらい外出しているかについては、「仕事や学校で平日は毎日外出する」が72.6%を占めていますが、「普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」（3.5%）「普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける」（1.6%）「自室からは出るが、家からは出ない」（1.3%）および「自室からほとんど出ない」（0.5%）の合計《外出しない》が6.9%あります。

年齢別にみると、《外出しない》が最も高い年齢層は25～29歳で8.7%となっています。

図表３－21　外出の頻度



注：全体以外は２%以下の数値の表記を省略

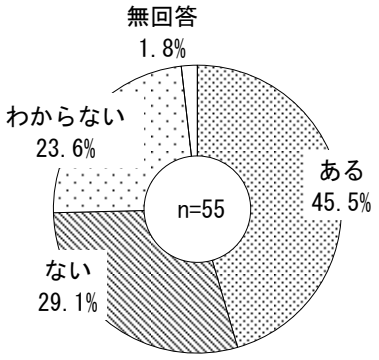
② 外出しなくなったきっかけ［問18－1・2］

①で、《外出しない》と回答した55人にきっかけの有無をたずねたところ、「ある」が45.5%、「ない」が29.1%、「わからない」が23.6%でした（図表３－22）。

さらに、「ある」と回答した25人にきっかけが何かをたずねたところ、「妊娠・出産・子育てのこと」「対人関係のこと」「自分の健康のこと」および「その他」が各５人、「家で過ごすことが快適だと気づいたこと」「インターネットで用事が済むようになったこと」および「勉強（受験）のこと」が各４人などとなっています（図表３－23）。

「その他」として、「経済的理由」「障がいがあるため」「ゲームをしている方が楽しい」などの記載がありました。

図表３－22　外出しなくなったきっかけの有無



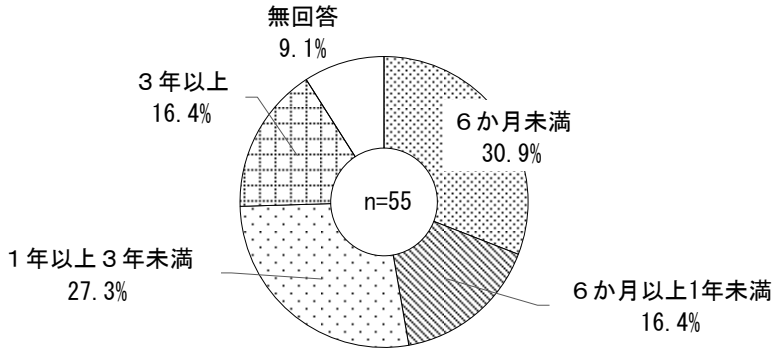
図表３－23　外出しなくなったきっかけは何か（複数回答）　　単位：人

区　分		n	妊娠・出産・子育てのこと	在宅勤務になったこと	家で過ごすことが快適だと気づいたこと	インターネットで用事が済むようになったこと	対人関係のこと	勉強（受験）のこと	仕事のこと	恋愛のこと	自分の健康のこと	家族の健康のこと	その他
全　体		25	5	1	4	4	5	4	1	－	5	－	5
性別	男　性	11	1	1	4	3	2	3	－	－	1	－	－
	女　性	12	4	－	－	1	3	－	1	－	4	－	4
年齢別	13～15歳	5	－	－	－	－	2	1	－	－	3	－	1
	16～19歳	4	－	－	1	2	1	2	－	－	1	－	－
	20～24歳	3	－	－	2	1	－	－	－	－	－	－	1
	25～29歳	11	5	1	1	1	2	－	1	－	1	－	2

③　外出しなくなってからの期間［問18－3］

①で、《外出しない》と回答した55人に、外出しなくなってどのくらい経つかをたずねたところ、「６か月未満」が30.9%、「１年以上３年未満」が27.3%、「６か月以上１年未満」および「３年以上」が16.4%でした。

図表３－24　外出しなくなってからの期間



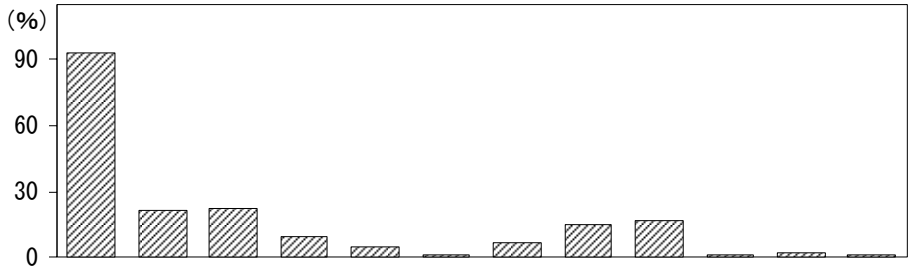
5 居場所について

(1) 「ここに居たい」と感じる場所（居場所）[問19]

普段、「ここに居たい」と感じる居場所としては、「家（普段生活する場所）」が93.3%と圧倒的に高くなっています。次いで、「祖父母、友人、知り合いの家」(22.2%)、「学校（授業や部活動）」（21.1%）に続き「オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）」が16.4%となっています。

「その他」として、「自然のある場所」「カフェなどお気に入りの飲食店」「自分の部屋」「旅先」などの記載がありました。

図表３－25　「ここに居たい」と感じる場所（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%

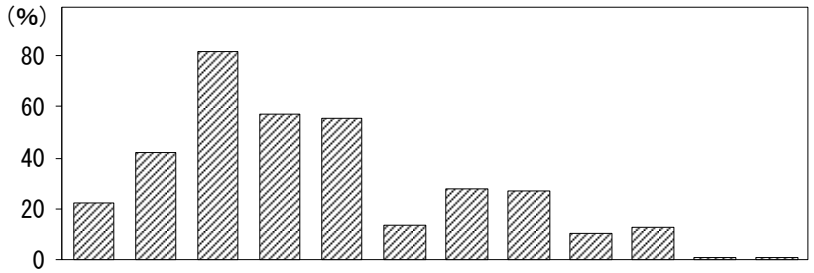


区分		n	家（普段生活をする場所）	学校（授業や部活動）	祖父母、友人、知り合いの家	職場、アルバイト先	習いごとや塾などの場所	子ども食堂	図書館などの施設	ショッピングセンター	オンライン空間（ＳＮＳ、オンラインゲームなど）	そのような場所はない	その他	無回答
全体		792	93.3	21.1	22.2	9.0	4.4	0.1	6.8	14.9	16.4	0.8	2.5	0.5
性別	男性	335	94.0	19.4	17.3	10.1	3.9	－	7.5	10.4	17.3	－	3.3	0.3
	女性	444	93.0	22.3	25.9	7.9	5.0	0.2	6.3	18.2	15.8	1.4	2.0	0.7
年齢別	13～15 歳	190	93.2	45.8	35.8	0.5	11.1	－	11.1	17.9	22.6	0.5	2.1	0.5
	16～19 歳	156	91.7	28.2	17.9	8.3	6.4	0.6	8.3	13.5	17.9	1.3	2.6	0.6
	20～24 歳	189	93.7	16.4	20.1	12.7	1.1	－	6.3	12.2	14.3	0.5	3.2	0.5
	25～29 歳	253	94.5	2.0	16.2	12.6	0.8	－	3.2	15.8	12.3	0.8	2.4	0.4
就労・就学状況別	正社員・公務員	250	95.6	2.0	16.4	9.6	0.8	－	3.6	13.2	11.2	－	2.4	－
	非正規社員	29	93.1	3.4	10.3	13.8	－	－	6.9	6.9	13.8	3.4	3.4	－
	パート・アルバイト	56	91.1	7.1	21.4	23.2	3.6	－	3.6	19.6	14.3	－	1.8	－
	会社役員・自営業	5	100.0	－	40.0	20.0	－	－	－	20.0	20.0	－	－	－
	専業主婦・主夫	9	88.9	－	44.4	－	－	－	－	－	－	－	－	11.1
	学生	407	92.6	38.1	25.8	6.4	7.1	0.2	9.8	15.5	20.1	0.7	2.0	0.7
	働いていない	20	80.0	10.0	20.0	－	10.0	－	5.0	25.0	20.0	10.0	20.0	－
	休職中	14	100.0	－	28.6	21.4	－	－	－	21.4	14.3	－	－	－

(2)　「ここに居たい」と感じる場所（居場所）を選んだ理由[問20]

(1)の居場所を選んだ理由としては、いずれの居場所も「安心して自由に過ごせる」が最も高くなっています。次いで、「ありのままの自分でいられる」「自分のやりたいことができる」「長い時間を過ごせる」なども比較的高い率となっています。

図表３－26 「ここに居たい」と感じる場所を選んだ理由（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



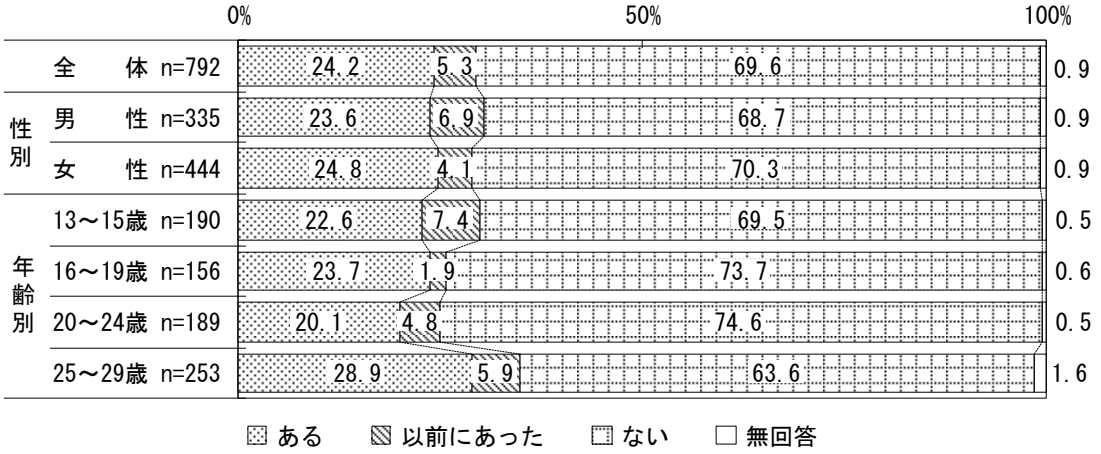
区　分		n	行きたい時に行ける	長い時間を過ごせる	安心して自由に過ごせる	ありのままの自分でいられる	自分のやりたいことができる	悩みごとの相談にのったり、サポートをしてもらえる	友人と一緒に過ごせる	話を聞いてくれたり、一緒に遊んでくれる人がいる	いろいろな人と出会える、友人ができる	お金がかからない	その他	無回答
全　体		792	22.6	42.3	81.4	57.2	55.3	14.0	28.0	27.0	10.7	12.8	0.8	1.3
「ここに居たい」と感じる場所（居場所）	家（普段生活をする場所）	739	23.1	43.3	84.6	58.3	55.6	13.9	27.5	26.5	10.6	13.1	0.7	0.3
	学校（授業や部活動）	167	33.5	51.5	83.2	61.7	65.3	20.4	67.1	51.5	22.8	8.4	0.6	－
	祖父母、友人、知り合いの家	176	46.6	50.6	90.9	69.3	63.6	33.5	58.0	61.9	22.2	11.4	1.1	－
	職場、アルバイト先	71	35.2	35.2	71.8	57.7	59.2	25.4	33.8	36.6	31.0	14.1	－	－
	習いごとや塾などの場所	35	25.7	45.7	88.6	65.7	77.1	34.3	68.6	57.1	37.1	11.4	－	－
	子ども食堂	1	－	－	100.0	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－
	図書館などの施設	54	42.6	57.4	77.8	40.7	68.5	18.5	55.6	44.4	25.9	20.4	－	－
	ショッピングセンター	118	58.5	60.2	75.4	56.8	71.2	17.8	61.9	53.4	23.7	12.7	－	－
	オンライン空間（ＳＮＳ、オンラインゲームなど）	130	31.5	50.0	79.2	64.6	66.9	19.2	48.5	43.1	20.0	13.1	－	－
	そのような場所はない	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	16.7	83.3
	その他	20	35.0	35.0	80.0	80.0	75.0	35.0	20.0	30.0	25.0	5.0	10.0	－

6 家族のケア

(1) 家族のケア・家事[問21]

頻繁に家族のお世話や、大人に代わって家事等をすることがあるかについては、「ある」が24.2%、「以前にあった」が5.3%となっています。

図表３－27　頻繁に家族のお世話や、大人に代わって家事等をすることがあるか

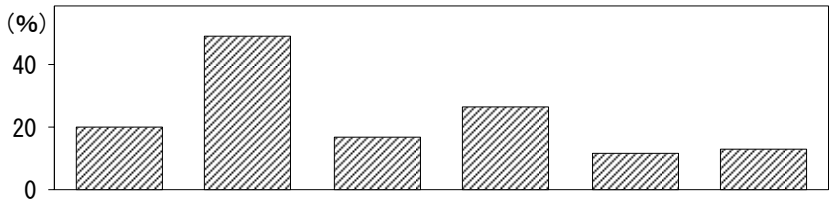


(2) 誰をお世話しているか[問22－１]

(1)について、家族の中の誰を頻繁にお世話しているかは、「母」が49.6%、「兄弟姉妹」が26.5%などとなっています。

「その他」として、「子ども（乳幼児）」「配偶者」「ペット」などの記載がありました。

図表３－28　家族の中の誰を頻繁にお世話しているか（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



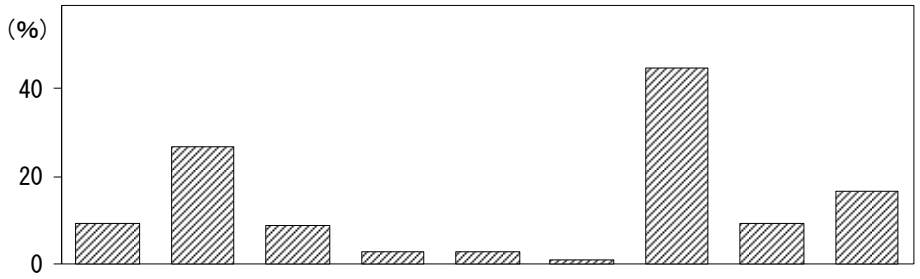
区　分		n	父	母	祖父母	兄弟姉妹	その他	無回答
全　体		234	20.5	49.6	17.1	26.5	12.0	13.2
性別	男　性	102	20.6	44.1	18.6	25.5	11.8	15.7
	女　性	128	20.3	54.7	16.4	27.3	11.7	10.9
年齢別	13～15 歳	57	19.3	45.6	8.8	33.3	8.8	15.8
	16～19 歳	40	25.0	65.0	5.0	32.5	10.0	7.5
	20～24 歳	47	14.9	53.2	14.9	27.7	6.4	10.6
	25～29 歳	88	22.7	44.3	29.5	18.2	17.0	15.9

(3)　お世話が必要な理由[問22－２]

(2)について、お世話が必要な理由は、「大人がお世話や家事等をしているが、自分も一緒にやっている」が44.9%と最も高く、次いで「仕事等で多忙」が26.9%などとなっています。

「その他」として、「育児」「認知症」「旅行」などの記載がありました。

図表３－29　お世話が必要な理由（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



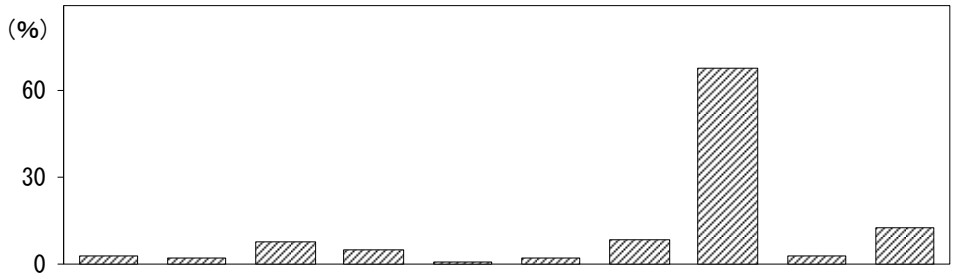
区　分		n	病気	仕事等で多忙	高齢者で介護が必要	障がいにより介護が必要	こころの病気（うつ病など）	通訳が必要	大人がお世話や家事等をしているが、自分も一緒にやっている	その他	無回答
全　体		234	9.0	26.9	8.5	2.6	2.6	0.9	44.9	9.0	16.7
お世話が必要な人	父	48	14.6	39.6	12.5	6.3	2.1	2.1	62.5	4.2	－
	母	116	12.9	43.1	6.9	4.3	4.3	0.9	51.7	3.4	3.4
	祖父母	40	32.5	22.5	40.0	5.0	2.5	2.5	47.5	12.5	5.0
	兄弟姉妹	62	3.2	25.8	6.5	6.5	4.8	1.6	75.8	4.8	－
	その他	28	3.6	14.3	3.6	－	－	－	25.0	50.0	14.3

(4)　お世話や家事をすることによる生活への支障[問22－３]

頻繁に家族のお世話や家事等をすることでの生活への支障については、「特にない」が67.1%を占めていますが、「友だちと遊ぶ時間が減った」が8.5%、「睡眠時間が削られる」が7.7%、「勉強する時間が減った、できない」が4.7%などとなっています。

「その他」として、「心身の不調」「趣味や自由に使える時間が減った」「金銭的負担」などの記載がありました。

図表３－30　お世話や家事をすることによる生活への支障（複数回答）　　単位：ｎは人、他は%



区分		n	学校や仕事に行けない	学校や仕事を遅刻・早退してしまう	睡眠時間が削られる	勉強する時間が減った、できない	部活や塾、習いごとに行けない（辞めてしまった）	進路の変更をした（しようと思っている）	友達と遊ぶ時間が減った	特にない	その他	無回答
全体		234	3.0	2.1	7.7	4.7	0.4	2.1	8.5	67.1	2.6	12.4
性別	男性	102	4.9	1.0	5.9	4.9	－	3.9	7.8	66.7	2.9	10.8
	女性	128	1.6	3.1	9.4	4.7	－	0.8	9.4	68.0	2.3	13.3
年齢別	13～15歳	57	－	－	5.3	12.3	－	－	8.8	66.7	5.3	14.0
	16～19歳	40	－	5.0	2.5	－	－	5.0	7.5	82.5	－	5.0
	20～24歳	47	2.1	－	8.5	－	－	－	6.4	76.6	－	10.6
	25～29歳	88	6.8	3.4	11.4	4.5	－	3.4	10.2	55.7	3.4	15.9

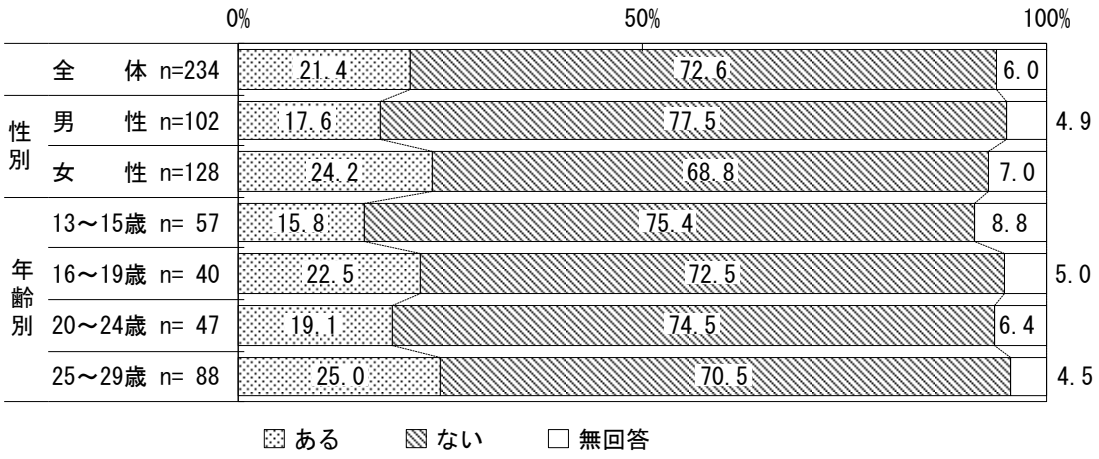
(5) 家族のケア等に関する相談

① 誰かに相談したことがあるか[問22－４]

お世話を必要としている家族のことや、悩みや辛いと思っていることを誰かに相談したことがあるかについては、「ない」が72.6%を占めており、「ある」は21.4%です。

性別にみると、「ある」は女性が24.2%と男性を6.6ポイント上回っています。

図表３－31　誰かに相談したことがあるか

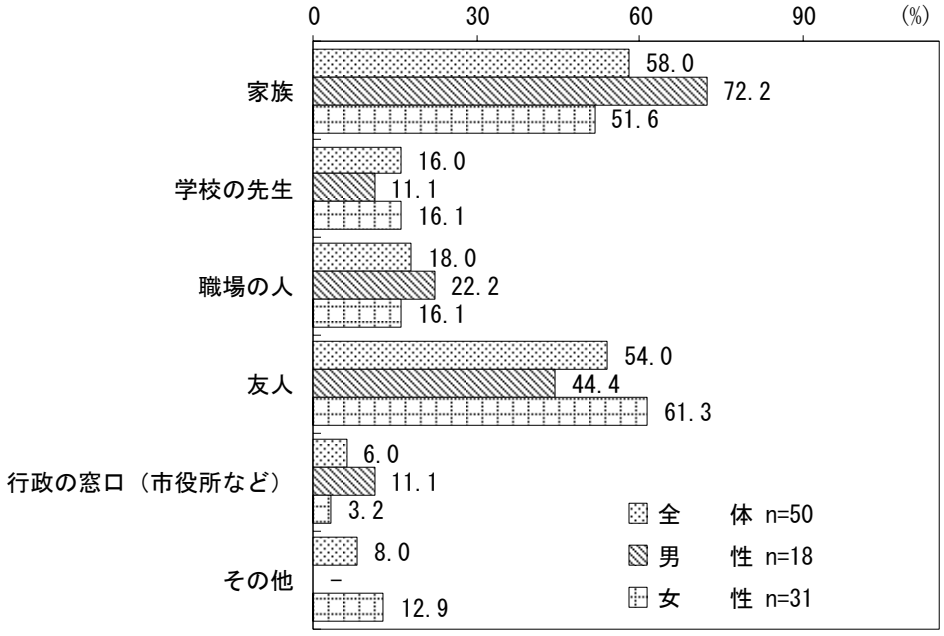


② 誰に相談したか[問22－５]

①の相談を誰にしたことがあるかについては、「家族」が58.0%と最も高く、次いで「友人」が54.0%となっています。「行政の窓口（市役所など）」は6.0%です。

性別にみると、男性は「家族」、女性は「友人」が最も高くなっています。

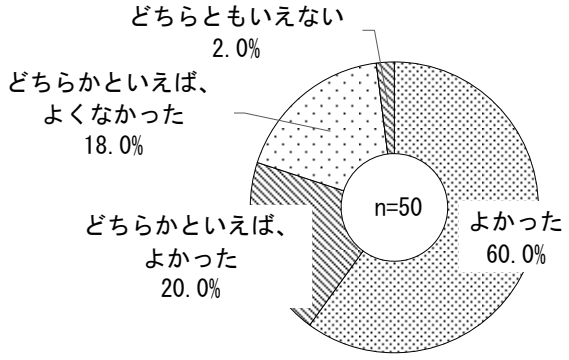
図表３－32　誰に相談したか（複数回答）



③　相談してよかったか[問22－６]

①の相談をしてよかったかについては、60.0%が「よかった」、20.0%が「どちらかといえば、よかった」と回答しています。

図表３－33　相談してよかったか



7 子どもの権利について

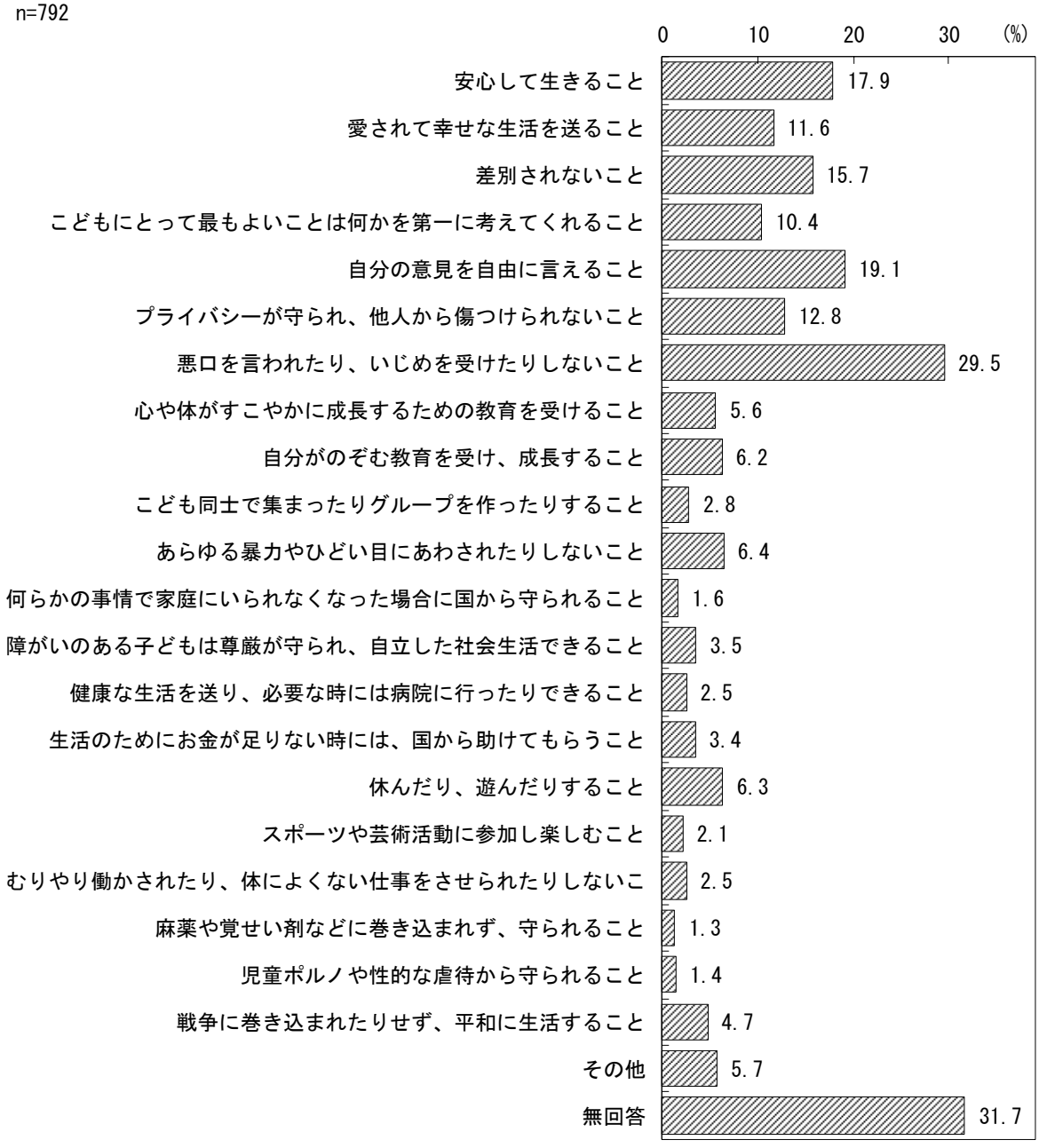
(1) 過去に侵害された権利［問23］

自身が過去に侵害されたと思う権利については、「悪口を言われたり、いじめを受けたりしないこと」が29.5%と最も高く、次いで「自分の意見を自由に言えること」が19.1%、「安心して生きること」が17.9%、「差別されないこと」が15.7%などとなっています。

なお、「その他」が5.7%ありますが、「特にない」が多数となっています。

図表３－34　過去に侵害された権利（複数回答・５つまで）

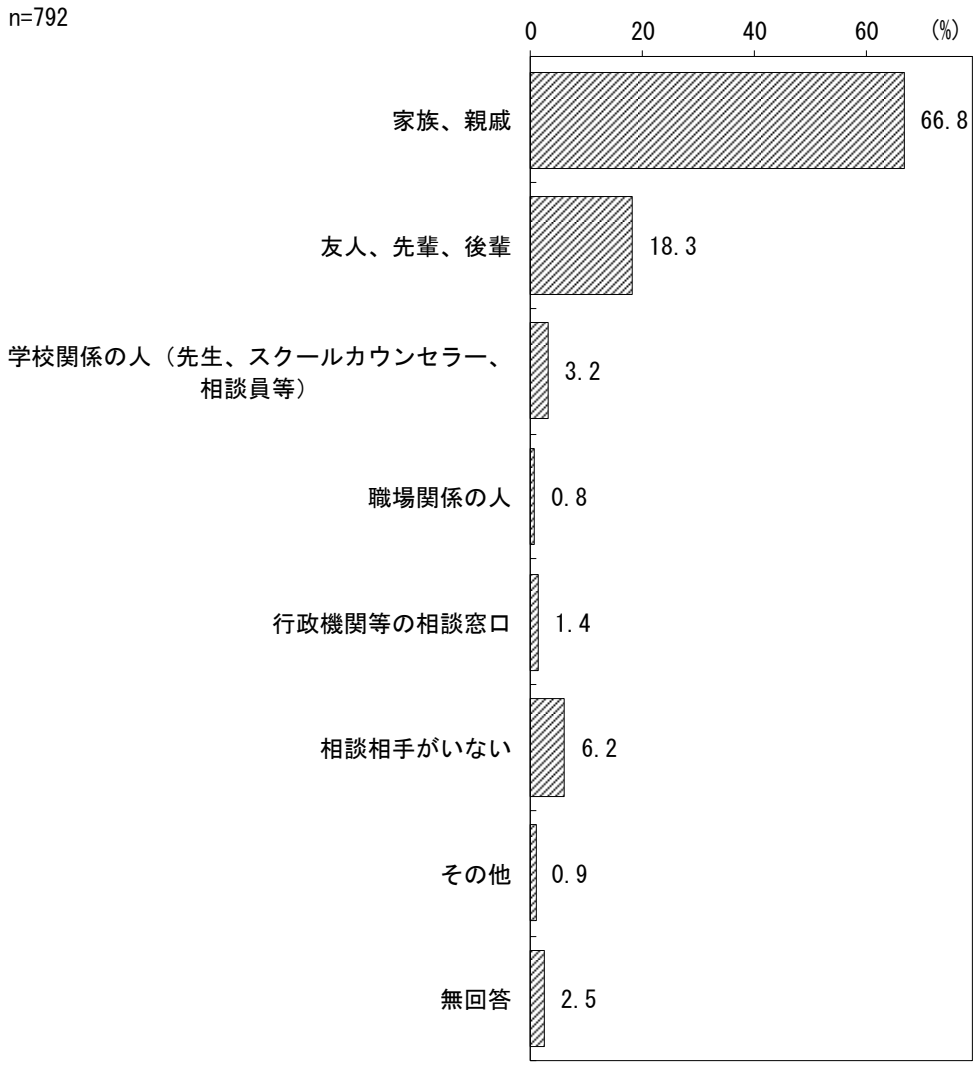
n=792



(2)　権利が侵害された場合、相談しやすい人［問24］

子どもの権利が侵害されるようなことが起きた場合に最も相談しやすい相手としては、「家族、親戚」が66.8%と突出して高く、次いで「友人、先輩、後輩」が18.3%となっています。「相談相手がいない」は6.2%あります。

図表３－35　権利が侵害された場合、相談しやすい人



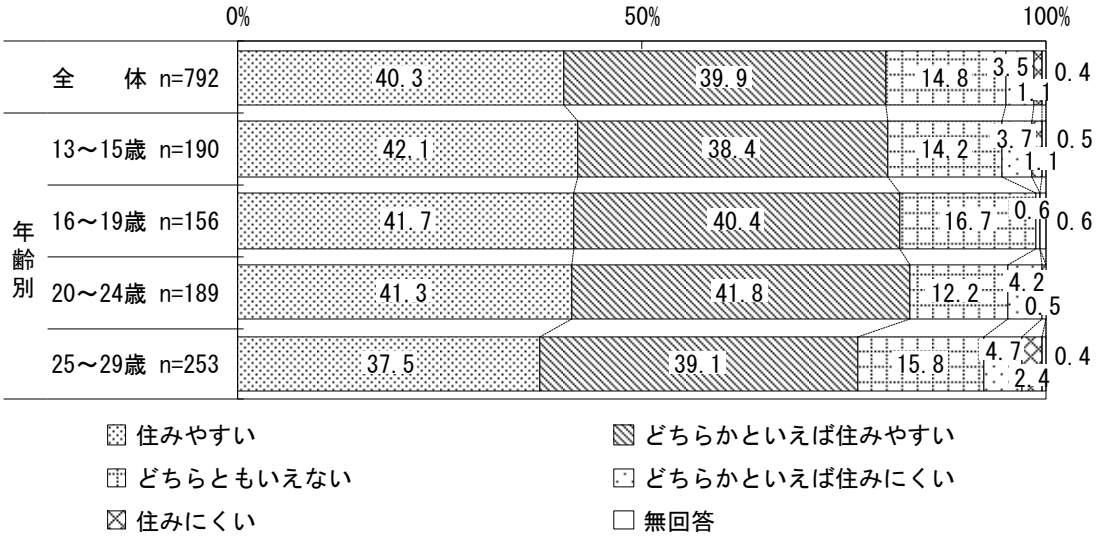
8 住みやすい町について

(1) 桑名市は住みやすいと思うか［問25］

桑名市は住みやすいと思うかについては、「住みやすい」が40.3%と最も高く、「どちらかといえば住みやすい」（39.9%）との合計《住みやすい》は80.2%となります。

年齢別にみると、25～29歳では《住みやすい》が他の年齢層に比べ低くなっています。

図表３－36　桑名市は住みやすいと思うか

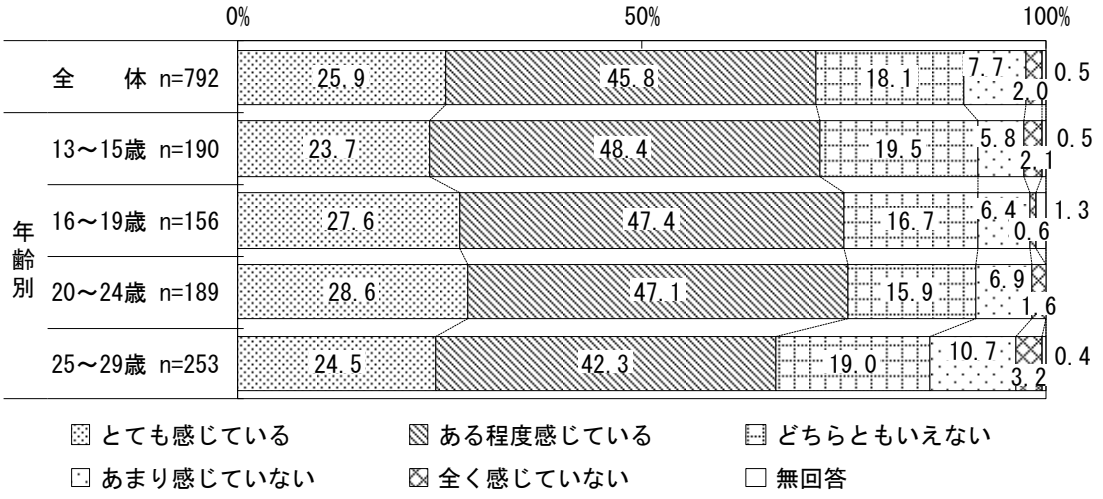


(2) 桑名市に愛着や親しみを感じているか［問26・27］

桑名市に愛着や親しみを感じているかについては、「ある程度感じている」が45.8%と最も高く、「とても感じている」（25.9%）との合計《感じている》は71.7%となります。

年齢別にみると、25～29歳では《感じている》が他の年齢層に比べ低くなっています。

図表３－37　桑名市に愛着や親しみを感じているか



桑名市に愛着や親しみを感じている（または感じていない）理由については、図表３－38のとおりです。

図表３－38　桑名市に愛着や親しみを感じている（感じていない）理由

＜とても感じている＞

・生まれ育ったところだから（39人）
・生まれたときから住んでいて、居心地がいいから（４人）
・生まれ故郷で思い出がたくさんあるから
・長年過ごしていたので思い出が多いことや、便利かつ空気が汚くないことが理由である
・安全で安心して生活できている（６人）
・楽しい日々が過ごせているから（２人）
・ある程度暮らしに満足しているから
・便利で住みやすい（15人）
・遊園地やスーパー、飲食店などの施設が豊富なため（11人）
・住み心地がいい。何をするにも便利。人が暖かい
・夜は静かで過ごしやすいけれど、ショッピングモールや観光スポットがたくさんあり、とても良いところだと思う
・医療機関・スーパー等が充実していて、人も優しい方が多いので安心します
・桑名市は住みやすいし、会社が多いので仕事もいっぱいあります。スーパーもいっぱいだから買い物も安くできる
・祭りもあって、駅が近いし、便利だから
・桑名内の施設は不満がないくらい充実しているし、近隣に都市も田舎もあって暮らしやすいから
・自然、温泉もあり商業施設も充実している。名古屋に近い
・桑名市の祭りや行事が好きだから（４人）
・美味しいお店が多くあり、観光業が盛んで活気があるから
・文化的な場所がそれなりにあるから
・いろんなイベントや歴史がある
・七里の渡しや六華苑等の歴史ある観光地があるだけでなく、このようなアンケートにより若年層の意見も取り入れながら更なる発展を遂げようとしているから
・交通の便が良いから（５人）
・交通が便利で町が綺麗
・自然豊かで美しいから（４人）
・都会すぎず、田舎すぎないところ（３人）
・大きな建物とかがなく圧迫感が感じないから
・自転車に乗っていても、危険を感じたことがない
・家族や友人と楽しく過ごせるから（７人）
・人が優しく、親切（７人）
・周りの人との距離感が近く、地域のネットワークが豊か（２人）
・心に余裕がある人が多いから
・静かでみんなが優しい
・私が住んでいる近くの人々はとてもフレンドリーです。交通の便が良いです
・自然豊かで居心地が良い、近所の人が挨拶してくれる、みんな優しい、安全
・誇れる施設や食材があり、歩いていると知り合いでなくても温かく声をかけてくれる地域の方々がいる
・近所の方々が情報共有や挨拶が取れており、協力し合って過ごしている
・町中で、挨拶をする人が多い
・桑名市が好きだから（５人）
・長年住んでいると、桑名市の魅力に気付け、それを発信することの楽しさを感じたから
・学校で桑名市の歴史を学び、興味を持っていろいろと自分でも調べたり、訪れたりしてより好きになった。幼稚園から中学校まで友だちが長く付き合いが続いていて皆仲良しだから
・大規模な遊園地や植物園、桑名のはまぐりがテレビにでてくると嬉しいから
・子ども手当等きちんとしている
・静か
・すばらしい市長がいるから等
・いろいろあります
・理由は特にない（２人）

＜ある程度感じている＞

・生まれ育ったところだから（81人）
・長期間住んでいるから（４人）
・そこで過ごした思い出があるから（３人）
・実家があるから
・昔から自分と関わりがある町であるため
・物心ついた時から住んでいる土地なので、ある程度の愛着はあるが、ここでなければいけない理由もないから
・住みやすく、過ごしやすい町だから（８人）
・自分が住んでいる町だから（２人）
・楽しいから（２人）
・いろいろとバランスがとれている（２人）
・現状に満足しているから
・桑名市にしか住んだことはないが、他の市に住みたいと考えたことがないから
・懐かしい感じがするから
・近くにスーパーや飲食店、医療機関等の施設が充実していて暮らしやすい（16人）
・利便性（６人）
・遊べる場所が多くあるから（３人）
・それなりに便利で、美味しいものもあるし、遊ぶ場所があるから
・公園が多く子育てしやすい
・名古屋へも行きやすく、スーパー等の必要な施設が多いので生活しやすい
・程よく田舎だが商業施設もあり住みやすいと感じるため。生まれも育ちも桑名であるため
・県内の他市町村や県外へのアクセスがよい（16人）
・交通の便がいい（６人）
・交通機関が充実しており車を持ってなくても移動しやすい
・交通便利、商業施設に行きやすい、生活しやすい
・駅が近い
・都会すぎず、田舎すぎないところ（11人）
・静かで落ち着いており、のどか（２人）
・空気がきれいだから
・静かで落ち着いた雰囲気。四日市、名古屋に行きやすい
・名古屋にも近く、自然もあるので住みやすい
・近所付き合いが大変ではない。犯罪が少ない。都会すぎず、田舎すぎない
・親切な人が多いから（９人）
・家族や友だちがいるから（３人）
・挨拶をすると、返してくれること
・周りに自分を慕ってくれる人が、年齢関係なくいるから
・東京や大阪など、大都市での暮らしの経験から、家族や友人（子ども時代からの）の存在が支えになっていたことを強く感じたから。すぐに会える距離は大事。車が所有しやすく、大型ショッピングセンターも充実しているので、効率良く動くことができとても便利
・親切な人が多く、娯楽を楽しめる施設もあり住みやすいと思うから
・人が温かい、実家が田舎暮らしで、その環境と似ているため
・人が優しい、祭り等伝統もあるし自然も豊かである
・地域でスポーツ推進会に参加している
・歴史や文化のある町だから（５人）
・いろんな祭りやイベントがあるから（４人）
・はまぐりや和菓子などの食べ物がおいしいから（３人）
・14年間の人生の中で桑名市に住んでいる年数が長くそのために桑名市の伝統に触れることも多くそのため桑名市の産業や工業等に興味や関心を抱いているからです
・桑名市の伝統の祭である石取祭に毎年参加しているため、桑名でしか感じることのできない楽しさを体験できているため、桑名市に住んでいてよかったと思わせられます。しかし桑名市に住んでいるにもかかわらず、桑名市について知らないことがまだまだあるため、もっと知る必要があると感じている
・普段は落ち着いた町ですが、祭がある時には活気があるところ。どちらも好きです
・住んでいて不便を感じない。また歴史的にも興味深い場所であるから
・いろんな名所があり、家族とのお出かけのときや校外学習のときなどに何度も行きたくなるような魅力があったり、近場で気軽に学べたりすることができるところがあるという点。自然がいっぱいある点。ゆめはまちゃんが可愛い点
・都会より安全で、治安がいい（５人）

・学校やいろんなお店がそろっていて、静かで、治安がいいから
・自分が小中学生の頃と変わらず、治安も良く、スーパーや医療機関も充実していて、安心して住むことができているからです
・引っ越してまだ一年経っていないが産後ケアや育児相談等利用させてもらい、さまざまな人に助けられて子育てできているから感謝とともに親しみを感じる
・安永餅が有名等、桑名市のことについて詳しいから
・子どもが産まれたから
・自由でいられるから
・就職は名古屋がよいと思う。交通の便がよくない、車必須だし
・ショッピングセンターやご飯屋さん等揃っているが、車がないと困るくらい車社会なところ
・空気がキレイでさわやか、電車の本数が少ない
・バスが少ない
・駅が遠い
・交通費が少し高い
・歩道が少ないとも感じる
・道がガタガタで自転車のとき危ない
・いい市だと思うが、道が狭い。子ども達が安全に暮らせるため改善してもいいと思った。車も中に入ると基本すれ違いができないところが多い。岐阜に住んでいたのもあるが狭い
・ほとんど困ることがない。桑名市は上り坂が多いので、自転車だと大変だと思う
・桑名市内はドラッグストア、コンビニが多すぎて、もっといろんな商業施設が来てほしい
・カラオケが少ない
・あまり大きなことがなく普段の生活を遅れていること。もう少しショッピングセンターや中高生でも遊べる場所を増やしてほしい
・長島町に集まれる場所がない
・名古屋へアクセスしやすいし、自然豊かで良い。その反面、自分の住んでいる陽だまりの丘にも多度体育センターのような一般開放で気軽に利用できる体育施設がもっと充実してほしいと感じる
・地元なのである程度愛着はあるが、桑名市の観光地として大規模な遊園地や多度大社等、過去桑名郡から合併した町頼みな所を感じるため、新たな観光名所ができるともっと愛着が湧く気がする
・商店町が多く、交通機関が便利だが、バイクの暴走族がうるさい
・今住んでいる場所が、ある程度どこでも行きやすい場所だから、ここに引っ越してよかったと思う反面、夜中には車かバイクか知らないが、ブンブン、バリバリと音を立てられるのが非常に迷惑
・土地の値段が高い
・保育士、子育てへの支援金等が他に比べて少ないため
・生まれも育ちも桑名なので桑名という場所に対してはかなり愛着や想いがあるが、最近は保育園の虐待等で桑名が話題になったりもしているので子育てをしている身としては少し不安な部分がある
・桑名市は子どもたちの教育にもっとお金をかけてほしい。保育園、幼稚園、小学校等古すぎる。いなべ市を見習ってほしい
・まだ引っ越して２年程度。まだ愛着が感じるほどではないですが、過ごしやすく安心感があります。もう少し生活援助等あるとありがたいです。（病院勤務、住宅手当なし）
・行事（桜祭りや石取り祭等）以外の日は、人通りが少なく、ゆったりと過ごせるのが魅力に感じます。都心に比べ、公園や緑が豊かなところもよい。ＡＩ技術や最先端の物事に取り組むことはいいことですが、道路舗装や地域事の悩みの解決にもう少し力を入れてくれると嬉しいです
・桑名市の市街地では再開発されていたりと栄えているが、長島町内を見るとボロボロの場所もあるので直してほしいところも度々ある。また冬場の長島駅周辺もシーズンになれば人でごった返すことがあるので、桑名市の対応の悪さにはあまり愛着は感じない
・市役所や市の人との関わりはあまり感じない
・桑名市しか住んだことがないから比べられない（５人）
・まだ住み始めて間もないから（３人）
・すごく好きで「ここに来てよかったー！」って思えることはあるけど「桑名と言えば」と言われると少ししか答えることができず、まだ知らないことが多いと思ったから
・中学から県外に進学し、地元との繋がりが少なめだから
・大好きかと言われるとそこまでの愛着は湧いていない
・日本に来てもう３年間過ごしました。その２年間は桑名で過ごしました。日本語を勉強して桑名についていろんなことを学びました。自分の意見なんですけど、桑名のせいで早く日本語を習うことになりました。もっと田舎の方にありますけど、とてもいいと思います。昔の家は田舎の方にあって結構好きだった。涼しい風があったり、山が近かったり、川が近かったり、そんなものが好きだから
・特にない、わからない（８人）

＜どちらともいえない＞

・桑名の特徴やよいところを見つけられていないから（８人）
・魅力が少ない（２人）
・交通の便が悪いから（３人）
・電車の本数を増やしてほしい
・横断歩道で車が譲ってくれることが少ない
・交通ルールを守らない人がいるから
・お店や遊ぶところなどの施設が少ないから（３人）
・家の周りにスーパーや病院等がないから不便、道が狭い、道に穴が空いて危ない(転ぶ)
・学校によってテストの範囲がバラバラ。もっとたくさん学童を増やしてほしい
・学校が古くて雨漏りするから、綺麗な学校がいい
・学校まで遠い
・お祭りがとにかくうるさくて迷惑。お祭りのあと、道路や草むらにゴミが多すぎる
・ゴミがそのへんにたくさん落ちている
・治安が悪い
・ほとんどのため池がつり禁止でいろんな場所でもっと自然を楽しみたい
・給付金や援助が少ない（２人）
・公立幼稚園の閉園の危機、入園希望の人には柔軟に対応してほしい
・保育園に入れにくい
・福祉が弱い
・税金が高い、遊ぶ場所が少ない
・住民税が高い。昨今の水汚染を市民が知らず、公表が遅れ、また、損害による補償が無いこと
・市政の長島町に対するやる気が無さすぎるから
・お金がかかる
・高校から桑名に転入したので知り合いが少ない
・良くも悪くも古いまち。新しいものが根付かず、循環が悪いと感じる。ひとり暮らしを始める際、単身者向けの新しい物件が少なく、市外に出ることも考えました。駅前は綺麗になりましたが、ただ綺麗になっただけで、結局何もないためもったいないと思います
・交通が便利だから
・ほどよく田舎だから
・ある程度人の温かさを感じられる
・愛着や親しみを感じている理由：石取り祭りや水郷花火大会等行事があって楽しい
・桑名に対する愛着を今まで特に意識したことがなかった。でも多度祭やちょうちん祭りは楽しいから好きです
・引っ越してきてまだ間もないので現段階では判断できない（12人）
・桑名の活動や取り組みなどをあまり知らないから（３人）
・特に桑名市に対して思い入れがあるわけではないから（２人）
・住みやすく、生活しやすく、自然もあるいい場所だと思うが、他のところに住んだことがないというのと個人的に桑名市は挨拶が少ないなと思ったためどちらともいえないを選択した
・親しみを感じているが愛着は感じていないため
・ほとんど地域との関わりがないため
・他の土地で生まれ、なんとなく生活しているから
・住みやすいとは思うが、あまり市のことについて深く考えたことがないから
・小さい頃から住んでいるが、都会への憧れがある
・何かしてもらったわけでも無いから
・感心が高くない
・特にない、わからない（８人）

＜あまり感じていない＞

・桑名市に魅力を感じない、知らない（４人）
・不便だから（２人）
・いい思い出が少ないため、特に愛着を持つ出来事が桑名市には無い
・お店や遊ぶ場所が少ない（４人）
・ファミリーマートが多くて、他のコンビニエンスストアが少ないから（ファミマ以外の店舗で買えるものがある）
・交通の便が悪い（２人）
・交通の便が悪い。お店が早く閉まる

・特に何もないから。坂が多かったり、交通が不便と感じる。乱暴な人が多い。道路がでこぼこし過ぎている
・ゴミの分別が面倒。道路のつくりが悪い
・知り合いが少なく、土地勘がないため
・コミュニティや催し物等が少なく、地域の関わりが薄いと感じるため
・伝統的な文化や習慣があまりないし、交通の便が悪いから
・田舎で高齢者が多く、閉鎖的であるため
・少し治安が悪いと感じるところが、親しみを持てない理由です
・公共の場で働いている人の対応が塩対応であること。公共の場でのマナーの悪い人が多く、ポイ捨てなどで環境が悪化するなどが理由です
・税金はどこに使われているのか。道路の舗装は全然されない。街灯は少なく、男女・大人・子ども関係なく、夜歩くのが危ない。車がないと不便。桑名駅もリニューアルした割に栄えていないし、迎えの車の駐車スペースが少なすぎて、待ちの車が多かったり、路駐が多かったり危ない
・支援制度の金額が低いこと、桑名市で行こうと思う大きい病院がない
・子育て支援が少なく子育てがしにくい点と土地もないため家を購入したくても選択肢が限られている
・子どもは保育園と幼稚園に預けたいけれど、いつもできませんでした。１年に２回は申し込みました。私の仕事は夜間です。夜は全然寝ないです。朝は子どもを預けなければ寝ることもできない。本当に疲れました。その上、子どもは保育園と幼稚園に預けられなくて、友だちがいないので日本語も上手じゃないです。私は桑名市といっぱい話しましたけど、いつもできないです
・市民税が高すぎる
・桑名市が何に力を入れているか分からない
・引っ越してきたばかりだから（８人）
・普通と感じるから（２人）
・勤務地の都合で転入しており、転入前の居住地に親しみを感じていたため
・地元ではないから
・どこに住んでいても同じだから
・桑名市のことをあまり知らないから
・特にない、分からない（６人）

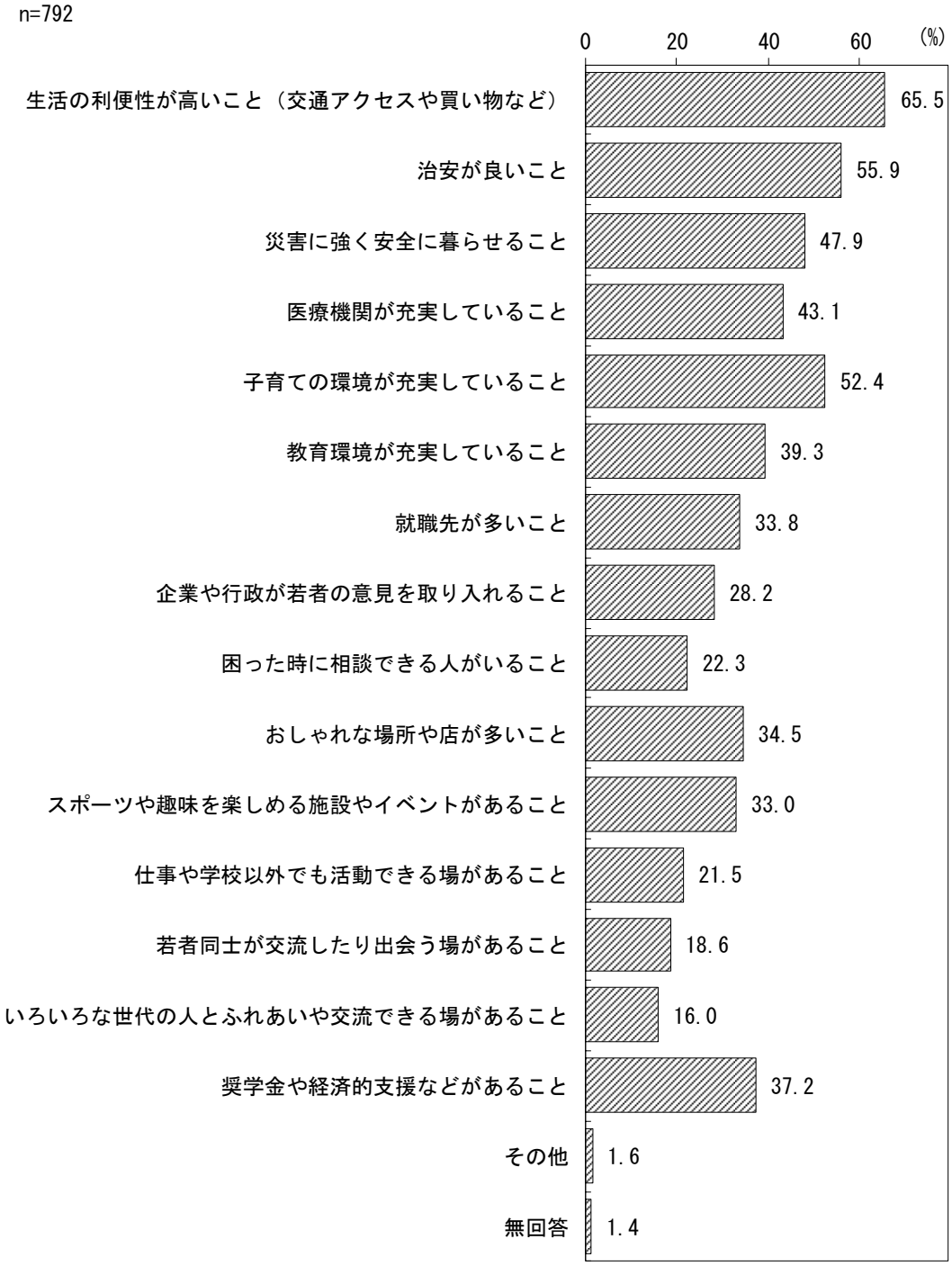
＜全く感じていない＞

・つまらない（２人）
・何もないから
・桑名市で生活しても特にメリットや他の市に比べて市民に恩恵を感じない
・車社会で、自転車や歩行者がいても譲ろうとするまともな方が少ない違法地域。星川のドンキやかっぱ寿司、ガソリンスタンドのあるあの道路は特にそれがひどい
・交通の便が悪い。おもしろい場所がない。どこ行っても渋滞している。運転マナーが悪すぎる
・何をするにも遠い
・お金が少ないから
・合併してから親しみを感じなくなりました。長島町のときは町民運動会など行事ごとがありましたが、合併してからは桑名市にお金がないので、行事ごとなどの予算が削られたからです。家が兼業農家なので、農業についての予算をもっと増やしてほしい。市長や議員の給料が高いと思う。ＩＲなどを誘致したら治安が今より悪くなると感じます
・平坦な道が少ないので、山を登って降りて、また登って降りて、帰りは登って降りて…と車がないと体力的に大変な立地。ただ健康面では運動をしているのに含まれるので、生活のための買い物をするために嫌でも運動せざるを得ない環境というのはポジティブな評価
・仕事のために桑名に来たから（２人）
・特に思い入れ等がなく地元でも無いため（２人）
・転居して日が浅いため
・自分が家族と住めるならどこでもいいから

(3)　子どもや若い世代が暮らしやすく、夢がもてるには何が必要か［問28］

子どもや若い世代が暮らしやすく、夢がもてるようになるために必要だと思うことは、「生活の利便性が高いこと（交通アクセスや買い物など）」が65.5%と最も高く、次いで「治安が良いこと」が55.9%、「子育ての環境が充実していること」が52.4%などとなっています。

図表３－39　子どもや若い世代が暮らしやすく、夢がもてるには何が必要か（複数回答）



第３部　調査票

1　子ども・子育て支援に関するニーズ調査

○　就学前の子どもの保護者用

Ａ　お住まいの地区についてお聞きします。

Ｑ１　お住まいの地区（小学校区）は次のどちらですか。わからない場合は自治会名を書いてください。（○は１つだけ）

１．日進	２．精義	３．立教	４．城東
５．益世	６．修徳	７．大成	８．桑部
９．在良	10．七和	11．久米	12．深谷
13．城南	14．大和	15．大山田東	16．大山田北
17．大山田西	18．大山田南	19．藤が丘	20．星見ヶ丘
21．多度東	22．多度中	23．多度北	24．多度青葉
25．長島北部	26．長島中部	27．伊曽島	28．わからない

（自治会名＿＿＿＿＿＿）

Ｂ　あて名のお子さんとご家族の状況についてお聞きします。

Ｑ２　あて名のお子さんの生年月をご記入ください。

西暦 ＿＿＿＿ 年 ＿＿＿＿ 月　生まれ

Ｑ３　あて名のお子さんを含め、お子さんは何人いらっしゃいますか。

＿＿＿＿ 人

Ｑ４　このアンケートに回答されるのは、あて名のお子さんからみてどなたですか。（○は１つだけ）

１．父親　　２．母親　　３．祖父母　　４．その他（　　）

Ｑ５　このアンケートに回答される方には、配偶者はいらっしゃいますか。（○は１つだけ）

１．いる　　２．いない

Ｑ６　あて名のお子さんと同居されている方すべてに○をつけてください。続柄はあて名のお子さんからみた関係です。（○はいくつでも）

１．父親　２．母親　３．兄弟姉妹　４．祖父　５．祖母　６．その他（　　）

Ｑ７　あて名のお子さんの子育て（教育を含む）を主にしている方はどなたですか。続柄はあて名のお子さんからみた関係です。（○は１つだけ）

１．父母ともに　２．主に父親　３．主に母親　４．主に祖父母　５．その他（　　）

Ｑ８　日頃、あて名のお子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。（○はいくつでも）

１．日常的に祖父母等の親族にみてもらえる
２．緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる
３．日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる
４．緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる
５．いずれもいない

C　母親の仕事の状況についてお聞きします。（父子家庭の方は記入不要です）

Q９　母親の仕事の状況について、あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

１．フルタイム（週５日程度・１日８時間程度の就労）
２．フルタイムで仕事をしているが、産休・育休・介護休業中等
３．パート・アルバイト等
４．パート・アルバイト等で仕事をしているが、産休・育休・介護休業中等
　　→ Q10へ

５．以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない
６．これまでに仕事をしたことがない
　　→ Q12へ

Q10　Ｑ９で「１．～４．」（就労している）に○をつけた方にお聞きします。週当たりの「就労日数」、１日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字で記入）

１週当たり［　　］日　　１日当たり［　　］時間

Q11　Ｑ９で「３．」「４．」（パート・アルバイト等）と答えた方にお聞きします。フルタイムへの転換希望はありますか。（○は１つだけ）

１．フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
２．フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
３．パート・アルバイト等の仕事を続けることを希望
４．パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

Q12　Ｑ９で「５．以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」または「６．これまでに仕事をしたことがない」と答えた方にお聞きします。仕事をしたいという希望はありますか。あてはまる番号に１つだけ○をつけ、あわせて枠内の数字もご記入ください。（○は１つだけ）

１．子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）
２．１年より先、一番下の子どもが［　　］歳になった頃に仕事をしたい
３．すぐにでも、もしくは１年以内に仕事をしたい

→ **希望する仕事の形態は**

１．フルタイム
２．パートタイム・アルバイト等

→ １週あたり［　　］日　　就労時間：１日あたり［　　］時間

D　父親の仕事の状況についてお聞きします。（母子家庭の方は記入不要です）

Q13　父親の仕事の状況について、あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

１．フルタイム（週５日程度・１日８時間程度の就労）
２．フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中等
３．パート・アルバイト等
４．パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中等
　　→ Q14へ

５．以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない
６．これまでに仕事をしたことがない
　　→ Q16へ

Q14　Q13で「１．～４．」（就労している）に○をつけた方にお聞きします。週当たりの「就労日数」、１日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字で記入）

１週当たり［　　］日　　１日当たり［　　］時間

Q15　Q13で「３．」「４．」（パート・アルバイト等）と答えた方にお聞きします。フルタイムへの転換希望はありますか。（○は１つだけ）

１．フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
２．フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
３．パート・アルバイト等の仕事を続けることを希望
４．パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

Q16　Q13で「５．以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」または「６．これまでに仕事をしたことがない」と答えた方にお聞きします。仕事をしたいという希望はありますか。あてはまる番号に１つだけ○をつけ、あわせて枠内の数字もご記入ください。（○は１つだけ）

１．子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）
２．１年より先、一番下の子どもが［　　］歳になった頃に仕事をしたい
３．すぐにでも、もしくは１年以内に仕事をしたい

　→ **希望する仕事の形態は**

　　１．フルタイム
　　２．パートタイム・アルバイト等
　　　→ １週あたり［　　］日　　就労時間：１日あたり［　　］時間

Ｅ　幼稚園や保育所・保育園・認定こども園等の利用についてお聞きします。

Q17　あて名のお子さんについて、現在、平日に幼稚園や保育所・保育園・認定こども園等を利用していますか。（○は１つだけ）

１．利用している ⟶ **Q18へ**　　２．利用していない ⟶ **Q19へ**

Q18　Q17で「１．利用している」と答えた方にお聞きします。

Q18－１　平日にどのようなところを利用していますか。年間を通じて定期的に利用している事業をお答えください。（○はいくつでも）

１．幼稚園
２．幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）
３．保育所・保育園（国の最低基準に適合した施設で県の認可を受けた定員20人以上のもの）
４．認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持った施設）
５．小規模保育施設（国の最低基準に適合した施設で市の認可を受けた定員概ね6～19人のもの）
６．事業所内保育施設等（病院等が従業員のために運営する施設や企業主導型保育所等）
７．一時保育（保育所等を利用していない子どもを対象に月に数回仕事や私用等がある際に一時的に子どもを保育する事業）
８．その他認可外の保育施設
９．ファミリーサポートセンター（地域住民による子どもの預かり事業）
10．その他（　　）

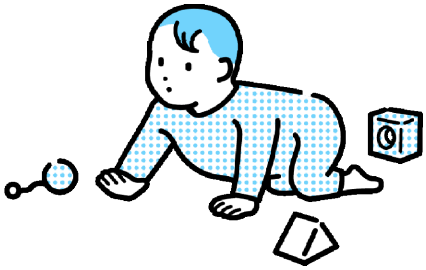
Q18－２　Q18－１の施設等について、〈現在〉どのくらい利用していますか。また、〈希望〉としてはどのくらい利用したいですか。時間は24時間制でご記入下さい。

(1)　〈現在〉

１週あたり □ 日　　１日あたり □ 時間　（□ 時～ □ 時）

(2)　〈希望〉

１週あたり □ 日　　１日あたり □ 時間　（□ 時～ □ 時）



Q19　Q17で「２．利用していない」と答えた方にお聞きします。利用していない主な理由は何ですか。（○は１つだけ）

１．（子どもの教育や発達のため、親が就労していないなどの理由で）利用する必要がない
２．子どもの祖父母や親戚の人がみている
３．近所の人や父母の友人・知人がみている
４．利用したいが、保育・教育の事業に空きがない
５．利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない
６．利用したいが、延長・夜間等の時間帯の条件が合わない
７．利用したいが、事業の質や場所など、納得できる事業がない
８．子どもがまだ小さいため → [　　] 歳くらいになったら預けようと考えている。
９．その他（　　）

Q20　現在、利用している、利用していないにかかわらず、あて名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。（○はいくつでも）

１．幼稚園
２．幼稚園の預かり保育（通常の就園時間を延長して預かる事業のうち定期的な利用のみ）
３．保育所・保育園（国の最低基準に適合した施設で県の認可を受けた定員20人以上のもの）
４．認定こども園（幼稚園と保育施設の機能を併せ持った施設）
５．小規模保育施設（国の最低基準に適合した施設で市の認可を受けた定員概ね６～19人のもの）
６．家庭的保育（保育者の家庭等で５人以下の子どもを保育する事業。現在の桑名市にはありません）
７．事業所内保育施設等（病院等が従業員のために運営する施設や企業主導型保育所等）
８．その他の認可外の保育施設（具体的に＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）
９．居宅訪問型保育（保育者が子どもの家庭で保育する事業。現在、桑名市にはありません）
10．ファミリーサポートセンター（地域住民による子どもの預かり事業）
11．その他（　　）
12．特にない

Q20－１　Q20で「１．幼稚園」または「２.幼稚園の預かり保育」に○をつけ、かつ「３.」～「11.」にも○をつけた方にお聞きします（該当しない方は、Q21へ）。特に「幼稚園」（幼稚園の預かり保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望しますか。（○は１つだけ）

１．はい
２．いいえ

F　桑名市の子育て支援事業についてお聞きします。

Q21　親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする子育て支援センターなどについてお聞きします。

Q21－１　あて名のお子さんは、現在、子育て支援センターなどを利用していますか。次の中から、利用されているものに○をつけてください。また、おおよその利用回数（頻度）をご記入ください。

１．市内８か所で実施している子育て支援センター

→ １週あたり □ 回　もしくは　１か月あたり □ 回

２．その他、本市で実施している以下の類似した事業

→ １週あたり □ 回　もしくは　１か月あたり □ 回

→ **（利用されているものに○をつけてください。（○はいくつでも））**

１．あおぞら出前保育

２．保育所・保育園や幼稚園の園庭等の開放

３．子育てサロン事業（キッズサロン）［七和、城南、スター21］

４．子育てサロンひだまり［深谷保育所内］

５．その他（具体名：　　）

３．利用していない

Q21－２　今は利用していないが、<u>できれば利用したい</u>、あるいは、<u>利用回数を増やしたい</u>と思いますか。希望がある方はあてはまる番号に１つだけ○をつけ、合わせて枠内の数字もご記入ください。

１．今は利用していないが、今後利用したい

→ １週あたり □ 回　もしくは　１か月あたり □ 回

２．すでに利用しているが、利用回数を増やしたい

→ １週あたり　さらに □ 回　もしくは　１か月あたり　さらに □ 回

３．新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない

Q22　下記の就学前の子どもの事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、また、今後、利用したいと思うものはありますか。事業ごとに、Ａ～Ｃのそれぞれについて、○をつけてください。

事業の種類	A 知っている	B これまでに利用したことがある	C 今後利用したい
①子育て支援センターの講座・相談等	はい ・ いいえ	はい ・ いいえ	はい ・ いいえ・わからない
②中央保健センター（子ども総合センター）の教室・相談等	はい ・ いいえ	はい ・ いいえ	はい ・ いいえ・わからない
③赤ちゃん訪問	はい ・ いいえ	はい ・ いいえ	はい ・ いいえ・わからない
④子ども安心・安全見守り訪問	はい ・ いいえ	はい ・ いいえ	はい ・ いいえ・わからない

※子育て支援センターの講座・相談等…子育てに関する情報の提供や子育て講座・相談等の事業を行っています。

※中央保健センター（子ども総合センター）の教室・相談等…母子健康手帳交付やすくすく離乳食教室の実施等を行っています。

※赤ちゃん訪問…赤ちゃんのいるご家庭に助産師や保健師が訪問して、育児や産後のお母さんの健康についての相談等を行っています。

※子ども安心・安全見守り訪問…赤ちゃん訪問の際に同意のあったご家庭に、民生委員・児童委員あるいは主任児童委員が訪問し、地域の子育て情報の提供等を行っています。



G　土曜・休日や長期休暇中の幼稚園・保育園・認定こども園等の利用希望についてお聞きします。

Q23　あて名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、幼稚園・保育園・認定こども園等の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。希望がある場合は、利用したい時間帯を24時間制でご記入ください。施設の利用には、一定の利用者負担が発生します。

(1)　土曜日

１．利用希望・利用する必要はない
２．ほぼ毎週利用したい
３．月に１～２回は利用したい

⇒ 利用したい時間帯をご記入ください。
□ 時から □ 時まで

(2)　日曜日・祝日

１．利用希望・利用する必要はない
２．ほぼ毎週利用したい
３．月に１～２回は利用したい

⇒ 利用したい時間帯をご記入ください。
□ 時から □ 時まで

Q24　<u>「幼稚園」を利用されている方</u>にお聞きします。あて名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の幼稚園・保育園・認定こども園等の利用を希望しますか。希望がある場合は、利用したい時間帯を24時間制でご記入ください。施設の利用には、一定の利用者負担が発生します。

１．利用する必要はない
２．休みの期間中、ほぼ毎日利用したい
３．休みの期間中、週に数日は利用したい

⇒ 利用したい時間帯をご記入ください。
□ 時から □ 時まで

H　あて名のお子さんの病気などの時の対応についてお聞きします。

Q25　あて名のお子さんが休日や夜間に病気になった時、あなたは、最初に、どうしましたか。（○は１つだけ）

1．本やインターネットで対処法などを調べて様子をみた

2．自分や配偶者の親など身近な人に対処法などを教えてもらい様子をみた

3．かかりつけ医など医療機関に対処法などを問い合わせた

4．桑名市応急診療所など市内の救急医療機関に連れて行った

5．市外の救急医療機関に連れて行った

6．救急車を呼んだ

7．「くわな健康・医療相談ダイヤル24」に電話した

8．「みえ子ども医療ダイヤル」（＃8000）に電話した

9．今まで、子どもが休日や夜間に病気になったことがない

10．その他（　　）

Q26　平日の幼稚園や保育所・保育園・認定こども園等を利用している保護者の方（Q17で「１．」に○をつけた方）にお聞きします。この１年間に、あて名のお子さんが病気やケガで幼稚園や保育所・保育園・認定こども園等が利用できなかったことはありますか。（○は１つだけ）

1．はい　→　Q27へ

2．いいえ　→　Q31へ



Q27　Q26で「１．はい」と答えた方にお聞きします。病気やケガで普段利用している幼稚園や保育所・保育園・認定こども園等が利用できなかった場合の対処方法としてあてはまるものすべてに○をつけ、それぞれ、この１年間の日数をご記入ください（半日程度についても１日としてカウントしてください）。

１．父親が休んだ		日
２．母親が休んだ		日
３．親族・知人に預けた（同居者を含む）		日
４．仕事をしていない保護者がみた		日
５．病児・病後児保育を利用した		日
６．ベビーシッターを利用した		日
７．ファミリーサポートセンターを利用した		日
８．仕方なく子どもだけで留守番をさせた		日
９．その他（　　）		日

Q28　Q27で「１.」「２.」と答えた方にお聞きします。その際、できれば病児・病後児のための保育施設を利用したいと思ったことはありましたか。なお、病児・病後児のための施設の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

１．はい → この1年間に [　　] 日ぐらい → Q29へ

２．いいえ → Q31へ

Q29　Q28で「１．はい」と答えた方にお聞きします。利用を希望しても、利用できなかったことはありますか。（○は１つだけ）

１．はい → Q30へ

２．いいえ → Q31へ

Q30　Q29で「１．はい」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。（○はいくつでも）

１．定員がいっぱいだった

２．病気の種類が預けられないものだった

３．利用する際に必要な医療機関の受診ができなかった

４．その他（　　）

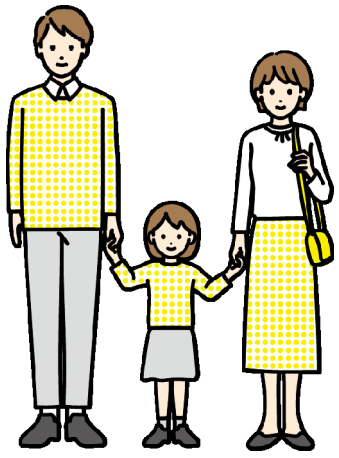
Ⅰ　あて名のお子さんの不定期な教育・保育事業等の利用についてお聞きします。

Q31　あて名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。ある場合は、あてはまる番号すべてに○をつけ、１年間の利用日数（おおよそ）もご記入ください。

１．一時預かり保育 （保育所等を利用していない子どもを対象に月に数回仕事や私用等ができた際に一時的に子どもを預かる事業）		日
２．幼稚園の預かり保育 （通常の就園時間を延長して預かる事業のうち不定期的な利用のみ）		日
３．ファミリーサポートセンター （地域住民による子どもの預かり事業）		日
４．ベビーシッター		日
５．その他（　　）		日
６．利用していない		

Q32　Q31で「６．利用していない」と答えた方にお聞きします。現在、利用していない理由は何ですか。（○はいくつでも）

１．特に利用する必要がない
２．利用したい事業が地域にない
３．地域の事業の質に不安がある
４．地域の事業の利便性（立地や利用可能時間・日数など）がよくない
５．利用料がかかる・高い
６．利用料がわからない
７．自分が事業の対象者になるのかどうかわからない
８．事業の利用方法（手続き等）がわからない
９．その他（　　）



Q33　あて名のお子さんについて、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で、年間何日くらい不定期な教育・保育事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無についてあてはまる番号すべてに○をつけ、必要な日数をご記入ください（利用したい日数の合計と、目的別の内訳の日数を□内に数字でご記入ください。）。なお、事業の利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

１．利用したい → 年間 [　　] 日

（理由別）

１．私用（買い物、習い事等）、リフレッシュ	[　　]	日
２．冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の病気	[　　]	日
３．不定期の就労	[　　]	日
４．その他（　　）	[　　]	日

２．利用する必要はない

Q34　あて名のお子さんについて、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族(兄弟姉妹含む)の育児疲れや育児不安、病気など）により、泊りがけで年間何日くらい家族以外に預ける必要があると思いますか。

短期入所生活援助事業（ショートステイ）※の利用希望の有無について当てはまる番号・記号すべてに○をつけ、必要な日数を数字でご記入ください。なお、事業の利用に当たっては、一定の利用料がかかります。

	利　用　目　的	日数（年間）
１．利用したい	ア．冠婚葬祭	日
	イ．保護者や家族の育児疲れ・不安	日
	ウ．保護者や家族の病気	日
	エ．その他（　　）	日
２．利用する必要はない		

※「短期入所生活援助事業（ショートステイ）」…児童養護施設等で一定期間、子どもを保護する事業です。

J　小学校就学後の放課後の過ごし方についてお聞きします。

Q35　あて名のお子さんが５歳以上の方にお聞きします。

あて名のお子さんが、小学生になったら、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたい（利用したい）と思いますか。低学年（１～３年生）のうちと、高学年（４～６年生）になってからについて、あてはまる番号すべてに○をつけ、それぞれ希望する週当たり日数を数字でご記入ください。また、「放課後児童クラブ」の場合には、利用を希望する時間もご記入ください。

	低学年（１～３年生）	高学年（４～６年生）
１．自宅	週［　］日くらい	週［　］日くらい
２．祖父母宅や友人・知人宅	週［　］日くらい	週［　］日くらい
３．習い事（音楽教室、スポーツクラブ、塾など）	週［　］日くらい	週［　］日くらい
４．放課後児童クラブ〔学童保育〕・ 放課後子ども教室	週［　］日くらい →下校時から［　］時まで	週［　］日くらい →下校時から［　］時まで
６．児童センター	週［　］日くらい	週［　］日くらい
７．ファミリーサポートセンター	週［　］日くらい	週［　］日くらい
８．その他（図書館、公園など）	週［　］日くらい	週［　］日くらい

※放課後児童クラブ…地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

※放課後子ども教室…地域の方々の協力を得て、放課後や週末に小学校（一部の地域のみ）で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取組です。保護者の就労の有無に関わらず、小学生が利用できます。

※児童センター…子どもの健康づくりやこころを豊かにすることを目的として、安全かつ健全な遊びを提供する屋内型の施設です。スポーツ創作活動、その他季節行事や地域との交流活動等、異年齢での交流も深めつつ、様々な活動を行っています。

※ファミリーサポートセンター…〈子育ての手助けをしてほしい人〉と〈子育てのお手伝いをしたい人〉がお互いに会員となり、助け合いながら活動する組織です。保育所や学校・放課後児童クラブ（学童保育）への送迎および一時的な預かりなどの支援を行う事業です。

K　仕事と子育ての両立についてお聞きします。

Q36　仕事と子育てを両立させる上で難しいと感じたことは何ですか。（○はいくつでも）

1．子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない
2．家族や職場の理解を得ること
3．家事をしなければならないこと
4．子どもの面倒をみてくれる保育所・保育園などが見つからない
5．その他（　　）
6．特にない
7．子育てをしながら仕事をしたことがない

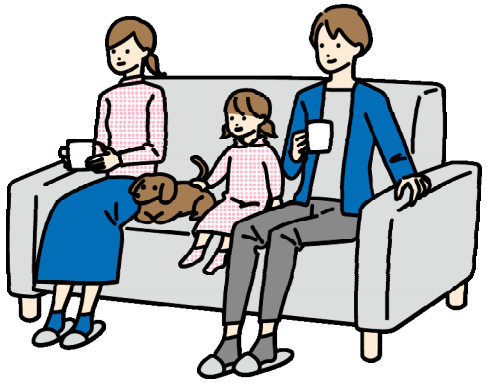
L　保護者の方のお勤め先の育児休業制度の利用についてお聞きします。

Q37　あて名のお子さんについて、母親または父親が育児休業制度を利用されましたか。また、その期間はどれくらいでしたか。（○は１つだけ）

1．母親が利用した→（　　年　　か月　）
2．父親が利用した→（　　年　　か月　）
3．母親と父親の両方が利用した　→母親（　　年　　か月）→父親（　　年　　か月　）
4．利用しなかった　→ **Q39へ**

Q38　<u>Q37で「１．」～「３．」と答えた方</u>にお聞きします。育児休業明けに、保育事業等を利用して子どもを預けましたか。（○は１つだけ）

1．保育園・幼稚園・認定こども園等を利用した
2．子どもの祖父母をはじめとする親族などに預けた
3．勤務先の保育事業を利用した
4．育児休業明けに仕事を辞めた
5．その他（　　）



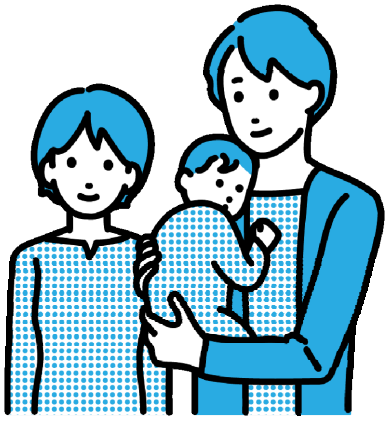
Q39　Q37で「４．利用しなかった」と答えた方にお聞きします。利用しなかった理由は何ですか。（○はいくつでも）

１．子育てに専念するため退職したから
２．祖父母をはじめとする親族などにみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった
３．保育所・保育園等に預けることができた
４．職場・仕事のことで取得できなかった（育児休業が取りにくい雰囲気だった、忙しかった、昇給・昇進に影響する可能性があった等）
５．経済的なことで取得できなかった（収入減となり、生活が苦しくなる）
６．育児休業の制度を知らなかった・取得方法がわからなかった
７．その他（　　）

M　相談・情報提供についてお聞きします。

Q40　身近な地域で、子育てに関する悩みや不安をどなたに相談していらっしゃいますか。（○はいくつでも）

１．配偶者・パートナー
２．その他の親族(親、兄弟姉妹など)
３．地域の知人・友人
４．職場の同僚
５．子育てサークルの仲間
６．保育士、幼稚園の先生
７．医療機関・保健所
８．子ども総合センター
９．子育て支援センター
10．福祉なんでも相談センター
11. 子育てサロン等の地域のつどいの場
12．民生委員・児童委員、主任児童委員
13．ＮＰＯによる相談窓口・民間の電話相談
14．相談相手がいない
15．その他（　　）



Q41　市の子育てに関する情報発信について、知っているものや使っているものはありますか。
①～⑦についてそれぞれ○をつけてください。

情報発信の種類	1 知っているし、 使っている	2 知っているが、 使っていない	3 知らない
①市の広報	1	2	3
②市のホームページ	1	2	3
③市のＳＮＳ（ＬＩＮＥ・Ｘ（旧Ｔｗｉｔｔｅｒ）など）	1	2	3
④くわなハッピーナビＢｙ母子モ	1	2	3
⑤ＡＩチャットボット	1	2	3
⑥くわな子育てガイドブック	1	2	3
⑦子育て情報誌「すくすくだより」	1	2	3

※くわなハッピーナビＢｙ母子モ・・・妊娠から出産、育児までの子育てを応援するための母子手帳アプリです。
※ＡＩチャットボット・・・ＡＩチャットボットを活用し、忙しい子育て世代の方が24時間365日いつでも子育てに関する知りたいことや疑問を解決するためのツールです。
※くわな子育てガイドブック・・・桑名市の子育てに関する事業・施設等の情報がまとめて掲載されている電子版のガイドブックです。
※子育て情報誌「すくすくだより」・・・市内の子育て支援関連施設の行事スケジュールや子育てに関する情報を掲載した、月1回発行する情報誌です。

N　子育てに対して感じていることついてお聞きします。

Q42　子育てに関して普段感じていることについて、それぞれの項目で、「そう思う」を４点、「思わない」を１点とした場合、最もあてはまる点数を１つ選んで○をつけてください。

項　　目	そう思う ◀――――――▶ 思わない
①子どもがいると生活が楽しい	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
②子育てを通じて自分も成長すると思う	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
③子どもは心のやすらぎや生きがいを与えてくれると思う	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
④子育てに対して不安を感じている	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑤仕事や自分のやりたいことができない	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑥子どもがいると生活や気持ちにゆとりがなくなる	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑦子どもに強く当たったり、強い口調で言ってしまっているのではないかと思う	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑧子育てにより健康状態の不安や身体に疲れを感じている	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑨子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑩子どもの病気や発達に関することが気になる	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑪子育ての方法がよく分からない	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑫子ども同士の友だち付き合い（いじめ等含む）が気になる	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑬親同士の付き合いが苦手だ	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1

Q43　子どもを育てる環境として何が重要だと思いますか。（○は３つまで）

1．豊かな自然
2．自由にのびのび遊べる場所
3．治安が良く安全に生活できるまち
4．利便性のある居住環境
5．医療機関の充実
6．同年代の子どもの多いまち
7．地域の人達とのつながり
8．充実した学校（幼稚園、小学校等）や教育施設
9．充実した保育施設や放課後児童クラブ
10．子育て支援センターや児童センターなど充実した公共施設
11．その他（　　）

O　子育てと地域の関わりや自主的な活動についてお聞きします。

Q44　あなたは子育てに関して地域に何を望みますか。（○は２つまで）

1．子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること
2．子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること
3．子どもが危険なことや人に迷惑がかかることをしていたら、注意したりしかってくれること
4．子育てについて相談にのってくれること
5．子どもに遊びや工作、スポーツなどの指導をしてくれること
6．緊急時に子どもを預かってくれること
7．その他（　　）
8．特にない

P　子どもの権利についてお聞きします。

※　Q45・Q46は、子どもの権利条例制定に向けてお聞きします。

Q45　「子どもの権利条約」は国連で採択され、日本も批准しています。その中で大きく以下の４つの権利が定められていますが、この４つの権利を知っていますか。（○は１つだけ）

・生きる権利（住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなど、命が守られること）
・育つ権利（勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できること）
・守られる権利（紛争に巻き込まれず、難民になったら保護され、また、あらゆる暴力や搾取、有害な労働、いじめや虐待など、苦しいことから守られること）
・参加する権利（自由に意見を表したり、団体を作ったりできること）

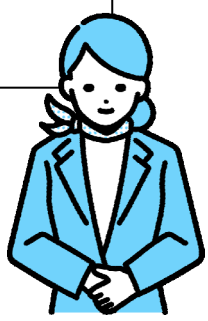
1．４つの権利を知っており、内容まで把握している
2．４つの権利を知っているが、内容までは把握していない
3．一部の権利を知っており、その内容も把握している
4．一部の権利を知っているが、その内容までは把握していない
5．全く知らない

Q46　「子どもの権利条約」で定められている４つの子どもの権利を具体化すると、以下のとおりとなります。以下のうち、特に大切にしなければならないと思う権利は何ですか。（○は５つまで）

1．安心して生きること
2．愛されて幸せな生活を送ること
3．差別されないこと
4．こどもにとって最もよいことは何かを第一に考えてくれること
5．自分の意見を自由に言えること
6．プライバシーが守られ、他人から傷つけられないこと
7．悪口を言われたり、いじめを受けたりしないこと
8．心や体がすこやかに成長するための教育を受けること
9．自分がのぞむ教育を受け、成長すること
10．いっしょに何かをするために、こども同士で集まったりグループを作ったりすること
11．あらゆる暴力やひどい目にあわされたりしないこと
12．何らかの事情で家庭にいられなくなった場合に国から守られること
13．障がいのある子どもは尊厳が守られ、自立した社会生活できること
14．健康な生活を送り、必要な時には病院に行ったりできること
15．生活のためにお金が足りない時には、国から助けてもらうこと
16．休んだり、遊んだりすること
17．スポーツや芸術活動に参加し楽しむこと
18．むりやり働かされたり、体によくない仕事をさせられたりしないこと
19．麻薬や覚せい剤などに巻き込まれず、守られること
20．児童ポルノなどに利用されたり、性的な虐待を受けたりすることから守られること
21．戦争に巻き込まれたりせず、平和に生活すること
22．その他（　　）

■本市の子育て支援等について、感じていることがありましたら、ご自由にお書きください。

最後までお答えいただきありがとうございました！



○ 小学生の保護者用

Ａ　お住まいの地区についてお聞きします。

Ｑ１　お住まいの地区（小学校区）は次のどちらですか。わからない場合は自治会名を書いてください。（○は１つだけ）

１．日進	２．精義	３．立教	４．城東
５．益世	６．修徳	７．大成	８．桑部
９．在良	10．七和	11．久米	12．深谷
13．城南	14．大和	15．大山田東	16．大山田北
17．大山田西	18．大山田南	19．藤が丘	20．星見ヶ丘
21．多度東	22．多度中	23．多度北	24．多度青葉
25．長島北部	26．長島中部	27．伊曽島	28．わからない

（自治会名　　）

Ｂ　あて名のお子さんとご家族の状況についてお聞きします。

Ｑ２　あて名のお子さんは何年生ですか。

１．１年生　　２．２年生　　３．３年生　　４．４年生　　５．５年生　　６．６年生

Ｑ３　あて名のお子さんを含め、お子さんは何人いらっしゃいますか。

□ 人

Ｑ４　このアンケートに回答されるのは、封筒のあて名のお子さんからみてどなたですか。（○は１つだけ）

１．父親　　２．母親　　３．祖父母　　４．その他（　　）

Ｑ５　このアンケートに回答される方には、配偶者はいらっしゃいますか。（○は１つだけ）

１．いる　　２．いない

Ｑ６　あて名のお子さんと同居されている方すべてに○をつけてください。続柄はあて名のお子さんからみた関係です。（○はいくつでも）

１．父親	２．母親
３．兄弟姉妹	４．祖父
５．祖母	６．その他（　　）

Ｑ７　あて名のお子さんの子育て（教育を含む）を主にしている方はどなたですか。続柄はあて名のお子さんからみた関係です。（○は１つだけ）

１．主に父親
２．主に母親
３．主に祖父母
４．その他（　　）

Ｑ８　日頃、お子さんをみてもらえる親族・知人はいますか。（○はいくつでも）

１．日常的に祖父母等の親族にみてもらえる
２．緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる
３．日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる
４．緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる
５．いずれもいない

Ｃ　あて名のお子さんの生活状況についてお聞きします。

Ｑ９　お子さんは、ふだん朝食をとっていますか。（○は１つだけ）

１．毎日食べている
２．食べない日もある
３．ほとんど食べない
４．全く食べない

Q10　Ｑ９で「３．ほとんど食べない」と答えた方にお聞きします。お子さんが朝食をとらない理由で一番近いものは何ですか。（○は１つだけ）

１．子どもが朝食をとる時間がない
２．子どもが食べたがらない
３．食事の用意をする時間がない
４．子どもがダイエット中
５．朝食をとる習慣がない
６．その他（　　）

Q11　お子さんは、ふだん夜何時ごろ寝ますか。（○は１つだけ）

１．20時より前
２．20時～21時
３．21時～22時
４．22時～23時
５．23時以降
６．決まっていない



D　母親の仕事の状況についてお聞きします。（父子家庭の方は記入不要です）

Q12　母親の仕事の状況について、あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

１．フルタイム（週５日程度・１日８時間程度の就労）
２．フルタイムで仕事をしているが、産休・育休・介護休業中等
３．パート・アルバイト等
４．パート・アルバイト等で仕事をしているが、産休・育休・介護休業中等
→ Q13へ

５．以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない
６．これまでに仕事をしたことがない
→ Q15へ

Q13　Q12で「１．～４．」（就労している）に○をつけた方にお聞きします。週当たりの「就労日数」、１日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字で記入）

１週当たり［　　］日　　１日当たり［　　］時間

Q14　Q12で「３．」「４．」（パート・アルバイト等）と答えた方にお聞きします。フルタイムへの転換希望はありますか。（○は１つだけ）

１．フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
２．フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
３．パート・アルバイト等の仕事を続けることを希望
４．パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

Q15　Q12で「５．以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」または「６．これまでに仕事をしたことがない」と答えた方にお聞きします。仕事をしたいという希望はありますか。あてはまる番号に１つだけ○をつけ、あわせて枠内の数字もご記入ください。（○は１つだけ）

１．子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）
２．１年より先、一番下の子どもが［　　］歳になった頃に仕事をしたい
３．すぐにでも、もしくは１年以内の仕事をしたい

→ **希望する仕事の形態は**

１．フルタイム
２．パートタイム・アルバイト等

→ １週あたり［　　］日　　就労時間：１日あたり［　　］時間

E　父親の仕事の状況についてお聞きします。（母子家庭の方は記入不要です）

Q16　父親の仕事の状況について、あてはまる番号に１つだけ○をつけてください。

１．フルタイム（週５日程度・１日８時間程度の就労）
２．フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中等
３．パート・アルバイト等
４．パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中等
　　→ Q17へ

５．以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない
６．これまでに仕事をしたことがない
　　→ Q19へ

Q17　Q16で「１．～４．」（就労している）に○をつけた方にお聞きします。週当たりの「就労日数」、１日当たりの「就労時間（残業時間を含む）」をお答えください。就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。（数字で記入）

１週当たり［　　］日　　１日当たり［　　］時間

Q18　Q16で「３．」「４．」（パート・アルバイト等）と答えた方にお聞きします。フルタイムへの転換希望はありますか。（○は１つだけ）

１．フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある
２．フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない
３．パート・アルバイト等の仕事を続けることを希望
４．パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい

Q19　Q16で「５．以前は仕事をしていたが、現在は仕事をしていない」または「６．これまでに仕事をしたことがない」と答えた方にお聞きします。仕事をしたいという希望はありますか。あてはまる番号に１つだけ○をつけ、あわせて枠内の数字もご記入ください。（○は１つだけ）

１．子育てや家事に専念したい（仕事をする予定はない）
２．１年より先、一番下の子どもが［　　］歳になった頃に仕事をしたい
３．すぐにでも、もしくは１年以内の仕事をしたい

→ **希望する仕事の形態は**

１．フルタイム
２．パートタイム・アルバイト等

→ １週あたり［　　］日　　就労時間：１日あたり［　　］時間

F　放課後の子どもの居場所についてお聞きします。

Q20　平日の放課後のお子さんの過ごし方（過ごす場所）で多いものについて、時間帯ごとにあてはまるものを点線枠内からそれぞれ選んで下の表に番号をご記入ください。（○はいくつでも）

＜時間帯ごとに番号を表の中に記入＞

1．放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした
2．放課後子ども教室で過ごした
3．放課後等デイサービスで過ごした（利用した）
4．家で保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした
5．家で兄妹姉妹などと子どもたちだけで過ごした
6．家でひとりで過ごした
7．友だちの家で過ごした
8．公園や学校などで友だちと遊んで過ごした
9．児童館（児童センター）などの公共の施設で過ごした
　→（施設名：　　）
10．スポーツ活動をして過ごした
11．学習塾や習いごとに行って過ごした
12．その他（　　）

下校後～18時	
18時以降	

※放課後児童クラブ･･･地域によって学童保育などと呼ばれています。保護者が就労等により昼間家庭にいない場合などに、指導員の下、子どもの生活の場を提供するものです。利用にあたっては、一定の利用料がかかります。

※放課後子ども教室･･･地域の方々の協力を得て、放課後や週末に小学校（一部の地域のみ）で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取組です。保護者の就労の有無に関わらず、小学生が利用できます。

※放課後等デイサービス･･･学校に通学中の障害児が、放課後や夏休み等の長期休暇中において利用できる福祉サービスです。自立した日常生活に必要な訓練や創作的活動、地域交流の機会などを提供するものです。利用にあたっては、原則として１割が自己負担となります。

※児童センター･･･子どもの健康づくりやこころを豊かにすることを目的として、安全かつ健全な遊びを提供する屋内型の施設です。スポーツ創作活動、その他季節行事や地域との交流活動等、異年齢での交流も深めつつ、様々な活動を行っています。

G　放課後児童クラブの利用についてお聞きします。

Q21　あて名のお子さんは、現在、放課後児童クラブを利用していますか。（○は１つだけ）

1．利用している　→ Q23へ

2．利用していない → Q22へ

Q22　Q21で「２．利用していない」と答えた方にお聞きします。放課後児童クラブを利用していない主な理由は何ですか。（○は１つだけ）

1．現在仕事をしていないから

2．仕事をしているが、自宅に親族などがいるから

3．仕事をしているが、放課後児童クラブが近くにないから

4．仕事をしているが、放課後児童クラブに空きがないから

5．仕事をしているが、利用料がかかるから

6．仕事をしているが、子どもは放課後の習い事をしているから

7．仕事をしているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思うから

8．仕事をしているが、自宅で仕事をしているから

9．仕事をしているが、他の施設に預けているから

10．その他（　　）

H　あて名のお子さんの病気などの時の対応についてお聞きします。

Q23　あて名のお子さんが休日や夜間に病気になった時、あなたは、最初に、どうしましたか。（○は１つだけ）

1．本やインターネットで対処法などを調べて様子をみた

2．自分や配偶者の親など身近な人に対処法などを教えてもらい様子をみた

3．かかりつけ医など医療機関に対処法などを問い合わせた

4．桑名市応急診療所など市内の救急医療機関に連れて行った

5．市外の救急医療機関に連れて行った

6．救急車を呼んだ

7．「くわな健康・医療相談ダイヤル24」に電話した

8．「みえ子ども医療ダイヤル」（＃8000）に電話した

9．今まで、子どもが休日や夜間に病気になったことがない

10．その他（　　）



Q24　あて名のお子さんが通う学校がインフルエンザ等感染症の広がりにより学級閉鎖となった場合、どのようなことで困りましたか。（○はいくつでも）

１．子どもの預け先を探すのに苦労した
２．子どもの預け先がなく、子どもだけで留守番させざるを得なかった
３．仕事を休んだことで、収入が減った
４．仕事を休んだことで、職場に迷惑がかかった
５．困ることはない
６．学級閉鎖になったことはない
７．その他（　　）

Q25　この１年間に、あて名のお子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことはありますか。（○は１つだけ）

１．あった → **Q26へ**　　２．なかった → **Q30へ**

Q26　Q25で「１．あった」と答えた方にお聞きします。お子さんが病気で学校を休んだり、放課後児童クラブなどの預かり事業が利用できなかった場合の対処方法としてあてはまるものすべてに○をつけ、それぞれ、この１年間の日数をご記入ください（半日程度についても１日としてカウントしてください）。

１．父親が休んだ		日
２．母親が休んだ		日
３．親族・知人に預けた（同居者を含む）		日
４．仕事をしていない保護者がみた		日
５．病児・病後児保育を利用した		日
６．ファミリーサポートセンターを利用した		日
７．仕方なく子どもだけで留守番をさせた		日
８．その他（　　）		日

Q27　Q26で「１.」「２.」と答えた方にお聞きします。その際、できれば病児・病後児のための施設を利用したいと思われたことがありましたか。なお、病児・病後児のための施設の利用には、一定の利用料がかかり、利用前にかかりつけ医の受診が必要となります。

１．あった → この1年間に［　　］日ぐらい → **Q28へ**
２．なかった → **Q30へ**

Q28　Q27で「１．あった」と答えた方にお聞きします。利用を希望しても、利用できなかったことはありますか。（○は１つだけ）

１．あった　　２．なかった　→ Q30へ

Q29　Q28で「１．あった」と答えた方にお聞きします。その理由は何ですか。（○はいくつでも）

１．定員がいっぱいだった　　２．病気の種類が預けられないものだった
３．利用する際に必要な医療機関の受診ができなかった
４．その他（　　）

Ⅰ　仕事と子育てについてお聞きします。

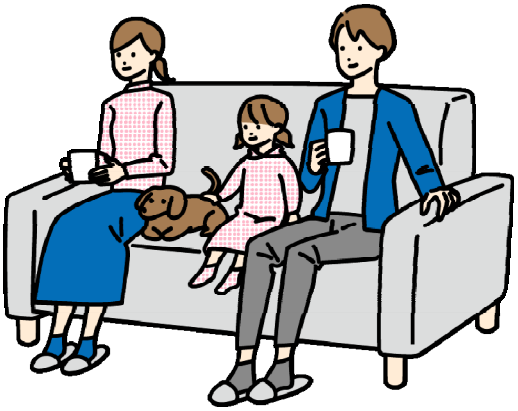
Q30　仕事と子育てを両立させるうえで難しいと感じることは何ですか。（○はいくつでも）

１．子どもが急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない
２．家族や職場の理解を得ること
３．家事をしなければならないこと
４．子どもの面倒をみてくれる放課後児童クラブなどが見つからない
５．その他（　　）
６．特にない
７．子育てをしながら仕事をしたことがない

Q31　あて名のお子さんについて、母親または父親が育児休業制度を利用されましたか。

（○は１つだけ）

１．母親が利用した→（　　年　　か月　）
２．父親が利用した→（　　年　　か月　）
３．母親と父親の両方が利用した　→母親（　　年　　か月）→父親（　　年　　か月　）
４．利用しなかった



J　子育てに対して感じていることついてお聞きします。

Q32　子育てに関して普段感じていることについて、それぞれの項目で、「そう思う」を４点、「思わない」を１点とした場合、最もあてはまる点数を１つ選んで○をつけてください。

項　　目	そう思う ◀――――――▶ 思わない
①子どもがいると生活が楽しい	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
②子育てを通じて自分も成長すると思う	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
③子どもは心のやすらぎや生きがいを与えてくれると思う	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
④子育てに対して不安を感じている	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑤仕事や自分のやりたいことができない	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑥子どもがいると生活や気持ちにゆとりがなくなる	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑦子どもに強く当たったり、強い口調で言ってしまっているのではないかと思う	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑧子育てにより健康状態の不安や身体に疲れを感じている	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑨子育てが大変なことを身近な人が理解してくれない	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑩子どもの病気や発達に関することが気になる	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑪子育ての方法がよく分からない	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑫子ども同士の友だち付き合い（いじめ等含む）が気になる	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1
⑬親同士の付き合いが苦手だ	4＿＿＿3＿＿＿2＿＿＿1

Q33　子どもを育てる環境として何が重要だと思いますか。（○は３つまで）

1．豊かな自然
2．自由にのびのび遊べる場所
3．治安が良く安全に生活できるまち
4．利便性のある居住環境
5．医療機関の充実
6．同年代の子どもの多いまち
7．地域の人達とのつながり
8．充実した学校（幼稚園、小学校等）や教育施設
9．充実した保育施設や放課後児童クラブ
10．子育て支援センターや児童センターなど充実した公共施設
11．その他（　　）

K　相談・情報提供についてお聞きします。

Q34　身近な地域で、子育てに関する悩みや不安をどなたに相談していらっしゃいますか。
（〇はいくつでも）

1．配偶者・パートナー　　2．その他の親族(親、兄弟姉妹など)
3．地域の知人・友人　　4．職場の同僚
5．子育てサークルの仲間　　6．小学校の先生
7．塾や習い事の先生　　8．医療機関・保健所
9．子ども総合センター　　10．子育て支援センター
11．子育てサロン等の地域のつどいの場　　12．民生委員・児童委員、主任児童委員
13．ＮＰＯによる相談窓口・民間の電話相談
14．相談相手がいない　　15．その他（　　）

Q35　市の子育てに関する情報発信について、知っているものや使っているものはありますか。
①～⑦についてそれぞれ〇をつけてください。

情報発信の種類	1 知っているし、 使っている	2 知っているが、 使っていない	3 知らない
①市の広報	1	2	3
②市のホームページ	1	2	3
③市のＳＮＳ（ＬＩＮＥ・Ｘ（旧Ｔｗｉｔｔｅｒ）など）	1	2	3
④くわなハッピーナビＢｙ母子モ	1	2	3
⑤ＡＩチャットボット	1	2	3
⑥くわな子育てガイドブック	1	2	3
⑦子育て情報誌「すくすくだより」	1	2	3

※【くわなハッピーナビＢｙ母子モ】妊娠から出産、育児までの子育てを応援するための母子手帳アプリです。

※【ＡＩチャットボット】ＡＩチャットボットを活用し、忙しい子育て世代の方が24時間365日いつでも子育てに関する知りたいことや疑問を解決するためのツールです。

※【くわな子育てガイドブック】桑名市の子育てに関する事業・施設等の情報がまとめて掲載されている電子版のガイドブックです。

※【子育て情報誌「すくすくだより」】市内の子育て支援関連施設の行事スケジュールや子育てに関する情報を掲載した、月1回発行する情報誌です。

Ｌ　子育てと地域の関わりや子どもの地域活動についてお聞きします。

Q36　あなたは子育てに関して地域に何を望みますか。（○は２つまで）

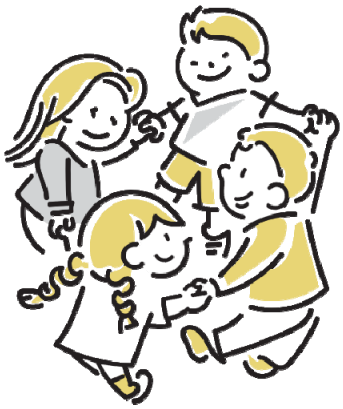
１．子どもや子育て家庭をあたたかく見守り、受け入れてくれること
２．子どもが事故や事件に巻き込まれないよう見守ってくれること
３．子どもが危険なことや人に迷惑がかかることをしていたら、注意したりしかってくれること
４．子育てについて相談にのってくれること
５．子どもに遊びや工作、スポーツなどの指導をしてくれること
６．緊急時に子どもを預かってくれること
７．その他（　　）
８．特にない

Q37　あて名のお子さんは、地域の活動やスポーツなどのグループ活動に参加していますか。（○は１つだけ）

１．現在参加している
２．現在は参加していないが、今後機会があれば参加させたい
３．現在は参加しておらず、今後も参加させるつもりはない

Q38　Q37で「１．」または「２．」と答えた方にお聞きします。お子さんが参加している活動もしくは今後参加させたい活動は何ですか。（○はいくつでも）

１．スポーツ活動
２．文化・音楽活動
３．キャンプ等の野外活動
４．高齢者訪問等の社会福祉活動
５．ホームステイ等の国際交流活動
６．子ども会活動
７．リサイクル活動等の環境分野での社会貢献活動
８．地域のボランティア活動
９．その他（　　）



Ｍ　子どもの権利についてお聞きします。

※　Q39・Q40は、子どもの権利条例制定に向けてお聞きします。

Q39　「子どもの権利条約」は国連で採択され、日本も批准しています。その中で大きく以下の４つの権利が定められていますが、この４つの権利を知っていますか。（○は１つだけ）

・生きる権利（住む場所や食べ物があり、医療を受けられるなど、命が守られること）
・育つ権利（勉強したり遊んだりして、もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できること）
・守られる権利（紛争に巻き込まれず、難民になったら保護され、また、あらゆる暴力や搾取、有害な労働、いじめや虐待など、苦しいことから守られること）
・参加する権利（自由に意見を表したり、団体を作ったりできること）

１．４つの権利を知っており、内容まで把握している
２．４つの権利を知っているが、内容までは把握していない
３．一部の権利を知っており、その内容も把握している
４．一部の権利を知っているが、その内容までは把握していない
５．全く知らない



Q40　「子どもの権利条約」で定められている４つの子どもの権利を具体化すると、以下のとおりとなります。以下のうち、特に大切にしなければならないと思う権利は何ですか。（○は５つまで）

1．安心して生きること
2．愛されて幸せな生活を送ること
3．差別されないこと
4．こどもにとって最もよいことは何かを第一に考えてくれること
5．自分の意見を自由に言えること
6．プライバシーが守られ、他人から傷つけられないこと
7．悪口を言われたり、いじめを受けたりしないこと
8．心や体がすこやかに成長するための教育を受けること
9．自分がのぞむ教育を受け、成長すること
10．いっしょに何かをするために、こども同士で集まったりグループを作ったりすること
11．あらゆる暴力やひどい目にあわされたりしないこと
12．何らかの事情で家庭にいられなくなった場合に国から守られること
13．障がいのある子どもは尊厳が守られ、自立した社会生活できること
14．健康な生活を送り、必要な時には病院に行ったりできること
15．生活のためにお金が足りない時には、国から助けてもらうこと
16．休んだり、遊んだりすること
17．スポーツや芸術活動に参加し楽しむこと
18．むりやり働かされたり、体によくない仕事をさせられたりしないこと
19．麻薬や覚せい剤などに巻き込まれず、守られること
20．児童ポルノなどに利用されたり、性的な虐待を受けたりすることから守られること
21．戦争に巻き込まれたりせず、平和に生活すること
22．その他（　　）

■本市の子育て支援等について、感じていることがありましたら、ご自由にお書きください。

最後までお答えいただきありがとうございました！



2　子ども・若者の生活実態・意識調査

1　あなた自身のことについて

問１　あなたの性別をお答えください。（○は１つだけ）

１．男性	２．女性	３．答えたくない

問２　年齢をお答えください。（令和６年２月１日現在）

［　　］歳

問３　お住まいの地区は次のどれですか。わからない場合は自治会名を書いてください。（○は１つだけ）

１．日進	２．精義	３．立教	４．城東
５．益世	６．修徳	７．大成	８．桑部
９．在良	10．七和	11．久米	12．深谷
13．城南	14．大和	15．大山田東	16．大山田北
17．大山田西	18．大山田南	19．藤が丘	20．星見ヶ丘
21．多度東	22．多度中	23．多度北	24．多度青葉
25．長島北部	26．長島中部	27．伊曽島	28．わからない

（自治会名　　）

問４　現在、あなたと同居している方をお答えください。（○はいくつでも）

１．父	２．母	３．兄弟姉妹
４．祖父母	５．配偶者・パートナー	
６．子ども	７．その他（　　）	
８．同居者はいない（ひとり暮らし）		

問５　現在、あなたは子育てをしていますか。（○は１つだけ）

１．はい　（　　）人	2．いいえ

問６　あなたは現在の生活に満足をしていますか。（○は１つだけ）

１．満足している	２．どちらかといえば満足している
３．どちらでもない	４．どちらかといえば満足していない
５．満足していない	

問７　あなたが現在の生活で満足していること・不満に思っていることをそれぞれ教えてください。（それぞれ○はいくつでも）

〈満足していること〉

１．仕事のこと	２．趣味のこと	３．家庭のこと
４．子育てのこと	５．人間関係のこと	６．勉強のこと
７．学校のこと	８．経済面のこと	９．進学・就職のこと
10．わからない	11．その他（　　）	

〈不満に思っていること〉

１．仕事のこと	２．家庭のこと	３．子育てのこと
４．人間関係のこと	５．勉強のこと	６．学校のこと
７．健康のこと	８．経済面のこと	９．進学・就職のこと
10．わからない	11．その他（　　）	

2　働くこと（仕事）について

問８　あなたの現在の状況を教えてください。（主なもの１つだけ○）

１．正社員・公務員	２．非正規社員（契約社員、派遣社員など）
３．パート・アルバイト	４．会社役員・自営業
５．専業主婦・主夫	６．学生
７．働いていない	８．休職中（育休中など）

問９　現在仕事をしている人にお聞きします。あなたの職場は産前産後休業や育児休業を取得しやすいですか。（○は１つだけ）

１．男女ともに取得しやすい

２．女性は取得しやすい

３．男性は取得しやすい

４．男女ともに取得しづらい

５．わからない



問10　現在仕事をしている人にお聞きします。現在の就労状況に不安、不満はありますか。（○はいくつでも）

1．人間関係がよくない
2．立場が不安定
3．収入が不安定または低い
4．勤務時間が長い
5．スキルアップが困難
6．不安、不満なことは特にない
7．その他（　　）

問11　働く上で重要だと考えることは何ですか。（○はいくつでも）

1．失業の心配がなく安定していること
2．高い収入が得られること
3．昇進制度があること
4．仕事が面白い・やりがいがあること
5．自分の知識や技能を活かせること
6．社会や人の役に立つこと
7．福利厚生が充実していること
8．残業時間が少ないこと
9．家から近いこと
10．人間関係がよいこと
11．健康であること
12．その他（　　）
13．わからない

問12　あなたが働くため（働き続けるため）に必要な支援は何だと思いますか。（○はいくつでも）

1．就職先を紹介する支援
2．仕事に役立つ技能・資格の支援
3．就職ができるまで指導やアドバイスをする支援
4．就労体験などの場の提供
5．カウンセリングなどの相談支援
6．就労支援をしている機関の情報提供
7．資格取得のための経済的支援
8．その他（　　）
9．わからない
10．特に必要ない



3　将来について

問13　あなたは子どもを育てたいですか。また、現在のお子さんの有無にかかわらず、育てたい子どもの人数をご記入ください。（○は１つだけ）

１．子どもを育てたい（　　）人
２．子どもは育てたくない
３．わからない

問14　あなたは、子育てに関してどのようなイメージがありますか。（○はいくつでも）

１．楽しい
２．日々が充実する
３．親も成長できる
４．家族の絆が深まる
５．生きがいを与えてくれる
６．お金がかかる
７．自分の時間がとれない
８．大変そう
９．親としての責任や重圧を感じる
10．仕事と子育ての両立が難しい
11．気持ちにゆとりがなくなる
12．特にない
13．その他（　　）

4　人とのかかわりについて

問15　あなたは、同居している人とコミュニケーションをとっていますか。（○はひとつだけ）

１．はい　　２．いいえ　　３．同居者はいない（ひとり暮らし）

問16　あなたは普段、誰とコミュニケーションをとっていますか。（○はいくつでも）

１．家族
２．友人
３．SNSやインターネット上の友人
４．学校、習いごと、塾の先生
５．職場の同僚
６．その他（　　）



問17　あなたは普段どのくらい外出しますか。自身に一番近いものに○をつけてください。（○は１つだけ）

１．仕事や学校で平日は毎日外出する
２．仕事や学校で週に3～4日外出する
３．遊び等で頻繁に外出する
４．人づきあいのためにときどき外出する

問19へ

５．普段は家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する
６．普段は家にいるが、近所のコンビニなどには出かける
７．自室からは出るが、家からは出ない
８．自室からほとんど出ない

問18　<u>問17で「５．」～「８．」と答えた方にお聞きします。</u>

問18－１　普段から外出をしなくなったきっかけはありますか。（○はひとつだけ）

１．ある　　２．ない　　３．わからない

問18－２　<u>問18－1で「１．ある」と答えた方にお聞きします。</u>普段から外出をしなくなったきっかけは何ですか。（○はいくつでも）

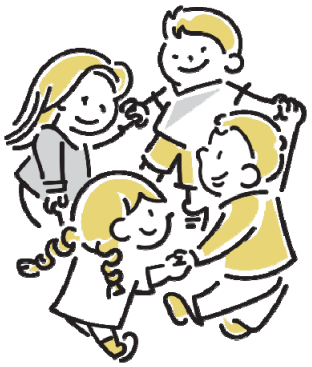
１．妊娠・出産・子育てのこと
２．在宅勤務になったこと
３．家で過ごすことが快適だと気づいたこと
４．インターネットで用事が済むようになったこと
５．対人関係のこと
６．勉強（受験）のこと
７．仕事のこと
８．恋愛のこと
９．自分の健康のこと
10．家族の健康のこと
11．その他　（　　）

問18－３　普段から外出をしなくなってどのくらい経ちますか。（○はひとつだけ）

１．６か月未満　　２．６か月以上1年未満
３．１年以上３年未満　　４．３年以上

5　居場所について

問19　あなたが普段、「ここに居たい」と感じる場所（居場所）はどこですか。（○はいくつでも）



1．家（普段生活をする場所）
2．学校（授業や部活動）
3．祖父母、友人、知り合いの家
4．職場、アルバイト先
5．習いごとや塾などの場所
6．子ども食堂
7．図書館などの施設
8．ショッピングセンター
9．オンライン空間（SNS、オンラインゲームなど）
10．そのような場所はない
11.その他（　　）

問20　問19を選んだ理由は何ですか。（○はいくつでも）

1．行きたい時に行ける
2．長い時間を過ごせる
3．安心して自由に過ごせる
4．ありのままの自分でいられる
5．自分のやりたいことができる
6．悩みごとの相談にのったり、サポートをしてもらえる
7．友人と一緒に過ごせる
8．話を聞いてくれたり、一緒に遊んでくれる人がいる
9．いろいろな人と出会える、友人ができる
10．お金がかからない
11.その他（　　）



6　家族のケアについて

問21　あなたは頻繁に家族のお世話や、大人に代わって家事等をすることはありますか。（○はひとつだけ）

1．ある
2．以前にあった
3．ない　→　**問23へ**

問22　問21で「1．ある」または「2．以前にあった」と答えた方にお聞きします。

問22－1　あなたは家族の中の誰を頻繁にお世話していますか。（○はいくつでも）

1．父	2．母	3．祖父母
4．兄弟姉妹	5．その他（　　）	

問22－2　問22－1で○を付けた人が、お世話が必要な理由は何ですか。（○はいくつでも）

1．病気
2．仕事等で多忙
3．高齢者で介護が必要
4．障がいにより介護が必要
5．こころの病気（うつ病など）
6．通訳が必要
7．大人がお世話や家事等をしているが、自分も一緒にやっている
8．その他（　　）

問22－3　頻繁にお世話や家事等をすることによって、生活への支障はありますか。（○はいくつでも）

1．学校や仕事に行けない	2．学校や仕事を遅刻・早退してしまう
3．睡眠時間が削られる	4．勉強する時間が減った、できない
5．部活や塾、習いごとに行けない（辞めてしまった）	
6．進路の変更をした（しようと思っている）	
7．友達と遊ぶ時間が減った	
8．特にない	
9．その他（　　）	

問22－４　お世話を必要としている家族のことや、悩みや辛いと思っていることを誰かに相談したことはありますか。（○はひとつだけ）

１．ある
２．ない　→　**問23へ**

問22－５　問22－４で「１．ある」と答えた方にお聞きします。それは誰ですか。（○はいくつでも）

１．家族
２．学校の先生
３．職場の人
４．友人
５．行政の窓口（市役所など）
６．その他（　　）

問22－６　問22－４で「１．ある」と答えた方にお聞きします。相談してよかったと思いましたか。（○はひとつだけ）

１．よかった
２．どちらかといえば、よかった
５．どちらともいえない
３．どちらかといえば、よくなかった
４．よくなかった





7　子どもの権利について

※　問23・問24は、子どもの権利条例制定に向けてお聞きします。

問23　「子どもの権利条約」は国連で採択され、日本も批准しています。その中で、下記のような子どもの権利が定められていますが、あなた自身が過去に侵害されたと思う権利はありますか。（○は５つまで）

※批准…国家間において、条約を正式に承認すること、許可すること

1．安心して生きること
2．愛されて幸せな生活を送ること
3．差別されないこと
4．こどもにとって最もよいことは何かを第一に考えてくれること
5．自分の意見を自由に言えること
6．プライバシーが守られ、他人から傷つけられないこと
7．悪口を言われたり、いじめを受けたりしないこと
8．心や体がすこやかに成長するための教育を受けること
9．自分がのぞむ教育を受け、成長すること
10．いっしょに何かをするために、こども同士で集まったりグループを作ったりすること
11．あらゆる暴力やひどい目にあわされたりしないこと
12．何らかの事情で家庭にいられなくなった場合に国から守られること
13．障がいのある子どもは尊厳が守られ、自立した社会生活できること
14．健康な生活を送り、必要な時には病院に行ったりできること
15．生活のためにお金が足りない時には、国から助けてもらうこと
16．休んだり、遊んだりすること
17．スポーツや芸術活動に参加し楽しむこと
18．むりやり働かされたり、体によくない仕事をさせられたりしないこと
19．麻薬や覚せい剤などに巻き込まれず、守られること
20．児童ポルノなどに利用されたり、性的な虐待を受けたりすることから守られること
21．戦争に巻き込まれたりせず、平和に生活すること
22．その他（　　）

問24　問23のような子どもの権利が侵害されるようなことが起きた場合、あなたが最も相談しやすい人は誰ですか。（○はひとつだけ）

1．家族、親戚
2．友人、先輩、後輩
3．学校関係の人（先生、スクールカウンセラー、相談員等）
4．職場関係の人
5．行政機関等の相談窓口
6．相談相手がいない
7．その他（　　）

8　住みやすいまちについて

問25　あなたは、桑名市は住みやすいと思いますか。（○は1つだけ）

1．住みやすい　　2．どちらかといえば住みやすい
3．どちらともいえない　　4．どちらかといえば住みにくい
5．住みにくい

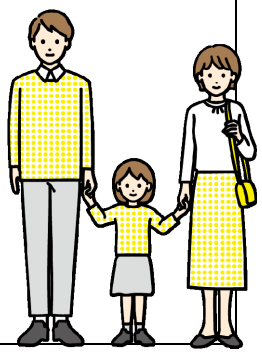
問26　あなたは、桑名市に愛着や親しみを感じていますか。（○は1つだけ）

1．とても感じている　　2．ある程度感じている
3．どちらともいえない　　4．あまり感じていない
5．全く感じていない

問27　問26の理由を教えてください。

問28　子どもや若い世代が暮らしやすく、夢がもてるようになるには、桑名市でどのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

1．生活の利便性が高いこと（交通アクセスや買い物など）
2．治安が良いこと
3．災害に強く安全に暮らせること
4．医療機関が充実していること
5．子育ての環境が充実していること
6．教育環境が充実していること
7．就職先が多いこと
8．企業や行政が若者の意見を取り入れること
9．困った時に相談できる人がいること
10．おしゃれな場所や店が多いこと
11．スポーツや趣味を楽しめる施設やイベントがあること
12．仕事や学校以外でも活動できる場があること
13．若者同士が交流したり出会う場があること
14．いろいろな世代の人とふれあいや交流できる場があること
15．奨学金や経済的支援などがあること
16．その他（　　）



問29　桑名市にあるとよい取組、住みやすいまちにするためのアイディアなど、ご自由にお書きください。

〈不安や悩みがある方は、一人で悩まずに下記へ相談してください。〉
■子ども総合センター　電話：0594-24-1298　メール：hokensm@city.kuwana.lg.jp

お忙しい中、ご回答いただきありがとうございました。
同封の返信用封筒に入れて、切手を貼らずに、２月29日（木）までに投函してください

桑名市

「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」

「子ども・若者の生活実態・意識調査」

結果報告書

令和６（2024）年７月

発行：桑名市

編集：子ども未来部 子ども未来課

〒511-8601
桑名市中央町二丁目37番地
Ｔ Ｅ Ｌ 0594-24-1172
Ｆ Ａ Ｘ 0594-24-1393
E-mail ksienm@city.kuwana.lg.jp